

職業訓練基準の分野別見直しに係る基礎研究
(普通課程) ー平成24年度 建築・土木分野ー

(資料編)

(資料編)

1. 第9次職業能力開発基本計画・抜粋（職業訓練関連部分） （平成23年発表、厚生労働省）	……	125
2. 職業能力開発促進法・抜粋（職業訓練基準関連部分）	……	135
(1) 職業能力開発促進法（抜粋）	……	137
(2) 職業能力開発促進法施行規則	……	138
(3) 職業能力開発促進法施行規則 別表（抜粋）	……	139
3. 各訓練科の現行の「カリキュラム表」（普通課程）	……	141
4. 各訓練科の現行の「設備の細目表」（普通課程）	……	171
5. 各訓練科の現行の「技能照査の基準の細目表」（普通課程）	……	191
6. 建築・土木分野の訓練科の設置状況一覧	……	207
(1) 対象訓練科の設置数一覧	……	209
(2) 対象訓練科の設置施設一覧	……	210
7. 現行訓練科の「カリキュラム」の見直し提案表	……	219
8. 現行訓練科の「設備の細目」の見直し提案表	……	239
9. 現行訓練科の「技能照査の基準の細目」見直し提案表	……	259
10. アンケート調査 「訓練基準見直しアンケート調査表」	……	271
11. モデルカリキュラム	……	277
12. 参考文献	……	343

1. 第9次職業能力開発基本計画

(職業訓練関連部分)

(平成23年、厚生労働省)

「第9次職業能力開発基本計画」から

(職業訓練関連部分の要点抜粋)

(平成23年、厚生労働省)

第1部 総 説

1 計画のねらい

……このような労働市場をめぐる環境や企業の経営環境が著しく変化する中では、今後は、世界レベルの技術革新に対応できる高度な能力開発を進めるため、成長が見込まれる分野を中心として必要とされる人材育成を図るとともに、我が国の基幹産業であり国際競争力を有するものづくり分野における人材育成を図ることが喫緊の課題となっている。……

……以上のような取組を効率的かつ効果的に推進するためには、国、地方公共団体、民間教育訓練機関、企業等の多様な主体が適切に役割分担する中で、企業や地域のニーズを踏まえた職業訓練を実施することが必要である。そのためには、国は、成長が見込まれる分野やものづくり分野を含む、我が国全体の職業能力開発についてのビジョンを策定するとともに、訓練カリキュラムや職業能力評価システム等の職業能力開発のインフラ整備を行うプロデュース機能（総合調整機能）を戦略的に強化することが必要である。

(5) 本計画は、前述のとおり新成長戦略との整合性を図りつつ、今後の職業能力開発に関する中期的な基本方針を定めるものである。……

2 計画の期間

本計画の対象期間は、平成23年度から平成27年度までの5年間とする。

第2部 職業能力開発をめぐる経済社会の現状

1 労働市場の現状と変化

近年、少子高齢化や産業構造の変化、グローバル化等の社会経済環境の変化や、市場競争の激化や消費者行動の変化に対応した企業行動の変化等を背景に、労働力の需給両面にわたる構造的な変化が著しく進行している。労働力供給の減少、産業別・年齢別等の就業構造の変化が進む中で、雇用システムにも変化が現れ、非正規労働者の増加や賃金格差の拡大等の職業能力開発をめぐる様々な問題が顕在化してきている。

2 労働力の供給面の変化

……我が国は、合計特殊出生率が1.37（平成21年）と低迷し少子化が進行する中で、人口は平成16年に1億2779万人とピークを迎えた後、減少局面に入っている。平成42年には、1億1522万人となり、高齢化率は31.8%になると推計されている。

このような急速な少子高齢化の進展の下においては、我が国の就業者数も平成32年には平

成 21 年と比較して 433 万人減少することが見込まれている。

若年者の雇用失業情勢については、完全失業率が、年齢計に比べて相対的に高い水準で推移しており、平成 22 年においては、年齢計の失業率が 5.1%であるのに対し、15 歳から 19 歳までの完全失業率は 9.8%、20 歳から 24 歳までの完全失業率は 9.1%となっている。また、平成 22 年 3 月卒業の高校新卒者の就職内定率は 93.9%と前年同期を 1.7 ポイント下回っており、大学新卒者の就職内定率も 91.8%と前年同期を 3.9 ポイント下回る等、若年者の雇用失業情勢は非常に厳しい状況にある。……

3 労働力の需要面の変化

(1) 産業別に雇用者数の変化を見てみると、平成 12 年から平成 22 年までの 10 年間に、建設業は 539 万人から 405 万人と 134 万人減、製造業は 1205 万人から 996 万人と 209 万人減となっている。これとは対照的に、サービス業では雇用者数の増加が顕著であり、特に医療・福祉分野では、平成 14 年から平成 22 年までの間に、雇用者数は 440 万人から 620 万人へと 180 万人増加している。第一次、第二次産業から第三次産業へと産業構造が転換する中で、建設業、製造業の雇用が縮小する一方、医療・福祉分野等今後の成長が見込まれる産業での雇用の拡大が著しく増加している。……

(3) 企業の職業能力開発に対する意識・行動については、能力開発のための制度が労働生産性の向上に役立つとする企業の数は、役立たないとする企業の数を上回っている。

このような中、企業の労働費用に占める教育訓練費の割合は、平成 17 年において、大企業は 0.42%、中小企業は 0.18%となっている。また、OFF-JT（業務の遂行の過程外において行う職業訓練）に企業が支出した費用の労働者一人当たり平均額は、平成 19 年度は 2.5 万円である一方、平成 20 年度及び平成 21 年度は 1.3 万円となっており、平成 19 年度の約半額にとどまっている。

第 3 部 職業能力開発の実施目標

1 成長が見込まれる分野・ものづくり分野における人材育成の推進

産業構造が変化し、国際競争が激化する中、製造業や建設業における雇用が縮小する一方で、介護・福祉、医療等の分野での雇用が拡大している。我が国の経済社会が持続的な発展を続けるとともに、雇用を確保していくためには、こうした介護・福祉、医療、子育て、情報通信、観光、環境等、新成長戦略で盛り込まれている分野を始めとした今後成長が見込まれる分野の発展を確実なものとしていくことが重要である。そのためには、これらの分野において必要とされる人材を確保できるよう、これらの分野における人材育成について戦略的に進めていくことが必要である。

一方、我が国の経済社会が持続的な発展を続けるためには、我が国の基幹産業であり国際競争力を有するものづくり分野を支える人材育成も依然として重要である。その際、ものづくり分野の人材育成について、産業ニーズに即したものとしていく必要がある。

第4部 職業能力開発の基本的施策

1 成長が見込まれる分野・ものづくり分野における人材育成の推進

(1) 成長が見込まれる分野における人材育成の推進

産業構造の変化への対応や国際競争力の強化のために、国は、新成長戦略で盛り込まれている分野を始めとした成長が見込まれる介護・福祉、医療、子育て、情報通信、観光、環境等の分野において必要とされる人材育成を戦略的に進める必要がある。

このため、国は、産学官の有識者の参集を求め、新分野における企業に対して、企業が労働者を採用する際に求める職業能力や自社内のOJTでは養成しがたい職業能力等の人材に関するニーズ調査等を行いながら、新分野の各業種における詳細な人材ニーズの把握と、職務内容や必要となる能力分析に必要な基礎研究に取り組んでいくことが必要である。

基礎研究が終了した分野については、具体的な訓練カリキュラムや指導技法の研究開発を行い、開発した訓練カリキュラム等については、国の職業能力開発施設のみならず、全国の都道府県立職業能力開発施設、民間教育訓練機関、企業等において活用できるインフラとし、その普及を図る必要がある。また、開発した訓練カリキュラム等については、PDCA サイクルにより不断に見直していく必要がある。

成長が見込まれる分野の職業訓練については、これまでも介護分野等の職業訓練について民間教育訓練機関への委託訓練により一定の成果が上がってきているところであり、その創意工夫やノウハウを活用することが期待できることから、職業訓練の実施機関として民間教育訓練機関の更なる活用を図ることが重要である。

また、民間教育訓練機関等の実施する職業訓練の品質を維持・向上させるため、非公式教育・訓練における学習サービスに係る国際規格である ISO29990 の発行を踏まえ、公的職業訓練の質の保証及び向上、民間教育訓練機関の質の保証及び向上の支援、民間教育訓練機関を委託訓練や今後創設が予定される求職者支援制度における訓練の実施機関として活用する場合の質の保証及び向上等のツールとしてガイドラインを早期に策定し、その普及・促進を図っていく。

さらに、後述のハイレベル訓練（仮称）やスキルアップ訓練（仮称）により、民間教育訓練機関、企業等において訓練を担う指導員の育成や指導技法の向上を図る必要がある。

加えて、成長が見込まれる分野における職業訓練については大学、専修学校等との連携を深め、大学、専修学校等において取り組んでいる専門教育分野を活かしつつ、効果的なカリキュラムを開発していくことも必要である。また、昨今の厳しい雇用失業情勢の下で労働者が失業することは、技能の維持向上やキャリア形成の観点からも望ましいことではないことから、労働者の失業の予防の観点からも、企業が在職者のスキルアップを行う場として、専門教育機関が役割を果たすことが期待される。……

(2) ものづくり分野における職業訓練の推進

今後、我が国の経済社会が持続的な発展を続けるためには、成長が見込まれる分野の人材育成が重要である一方、我が国の基幹産業であり国際競争力を有するものづくり分野を支え

る人材育成が不可欠であることは言うまでもない。

その際は、高度な施設・設備や訓練指導員等を必要とするというものづくり分野の職業訓練の特性に鑑みれば、個々の企業、特に中小企業では実施が困難であり、民間教育訓練機関において訓練の担い手となることは困難であることから、引き続き国自らが訓練を実施する等の取組が必要である。新成長戦略の「雇用・人材戦略」においても、平成32年までに公共職業訓練受講者の就職率を、施設内訓練については80%とすることを目標としている。

また、国と都道府県の役割分担として、国は、高度な施設・設備や訓練指導員等を要し、スケールメリットを活かすことで実施可能となるものづくり分野における先導的な職業訓練を含め、高度な職業訓練を実施し、都道府県は、地域産業の人材ニーズに密着した、主に基礎的な技術・技能を習得させる訓練を実施する必要がある。

ものづくり分野における人材育成を推進していく際にも、最先端の技術革新にも対応しうる人材を育成するため、訓練カリキュラム等の訓練のインフラ整備が重要であり、訓練が時代のニーズに応じたものとなるよう、PDCA サイクルによって訓練カリキュラム等を不断に見直していく必要がある。

また、ものづくり分野の訓練として、従来の製造業等の分野のみならず、例えば太陽光発電システムの構築等、環境・エネルギー分野等の新しい分野の訓練を拡充させることも検討する。

さらに、ものづくり分野における人材育成においては、最先端の技術革新に対応しうる人材育成のための職業訓練のみならず、ものづくりの基本となる技能を習得するための職業訓練も、引き続き重視していく。

加えて、生産現場における即戦力となる技能者を育成する職業能力開発大学校・短期大学校と、技術者や研究者を育成するための理論面の知識習得を主眼とした工科系大学や体験重視型の専門教育を特色とした高等専門学校等との連携を深め、相互の教員・訓練指導員の派遣等により、それぞれの特長を活かした弾力的・効果的な教育訓練を実施する。

ものづくり分野においても、グローバル化の進展の下では、相手国と我が国の両方の文化・慣習に通じた人材、海外で技術的な指導ができる人材の育成が必要であることから、企業による人材育成や労働者個人による能力開発を国が支援するため、キャリア形成促進助成金や教育訓練給付、認定職業訓練制度の活用促進等を図っていく。

2 非正規労働者等に対する雇用のセーフティネットとしての能力開発の強化

(1) 雇用のセーフティネットとしての職業訓練の役割と機能強化

雇用失業情勢の変化に的確に対応するためには、雇用のセーフティネットとしての離職者に対する公共職業訓練を必要に応じて迅速に実施するとともに、雇用保険を受給できない求職者等に対しても、新たなセーフティネットとして、職業訓練により新たな職業能力や技術を身につけるための支援を行っていく必要がある。

また、国全体で実施される公共職業訓練及び新たなセーフティネットとしての職業訓練の調整を図るため、中央と地方に設置された協議会を活用して、職業訓練を実施する分野や規

模等に関する年間計画を策定し、職業訓練が企業・地域・求職者のニーズにあったものとしていくことが必要である。

これら職業訓練の実施に当たっては、企業・求職者の訓練のニーズを把握するとともに、PDCA サイクルによって訓練カリキュラム等を不断に見直していく必要がある。……

5 技能の振興

……若年者の技能離れが見られる中、技能の振興や技能労働者の地位の向上を図るには、技能検定制度の着実な実施、特に若年者に対する積極的な受検勧奨に加え、技能五輪全国大会等各種技能競技大会の実施や技能五輪国際大会への選手派遣支援、技能者に対する各種表彰により、技能の魅力や重要性の啓発を図ることが必要である。

ものづくり分野を中心とした熟練技能の重要性についての国民各層の理解を深め、技能の受け皿となる若年人材の継続的な確保を図るため、熟練技能者の派遣等による技能講習の実施や、技能者による技能の実演を通じた技能者との交流等を行っていく。

また、児童・生徒やその親に対しては、技能やものづくりの関心を深めるため、職業能力開発施設や業界団体、教育機関等関係機関との連携により、ものづくりの現場を見学できる機会を増やすなど、技能やものづくりの魅力に触れる機会を作る必要がある。

加えて、高等学校教育段階の生徒に対しては、ものづくり産業の職場体験（インターンシップ）の機会を拡大する。また、工業高校においては、デュアルシステム等長期の就業体験の充実や、実習等における産業現場の外部人材の活用を図る。

8 我が国全体の職業能力開発のプロデュース機能（総合調整機能）の強化

（1）国のプロデュース機能（総合調整機能）の強化の必要性

イ 新成長戦略で盛り込まれている今後成長が見込まれる介護・福祉、医療、子育て、情報通信、観光、環境等の分野の発展を確実なものとしていくには、これらの分野における求人ニーズに即した人材を多様な担い手によって供給することが重要である。

また、雇用失業情勢の変化に的確に対応するため、雇用のセーフティネットとしての離職者に対する公共職業訓練を実施するとともに、雇用保険を受給できない求職者等に対しても、新たなセーフティネットとして、職業訓練により新たな職業能力や技術を身につけるための支援を行っていく必要がある。

さらに、我が国の経済社会が持続的な発展を続けるためには、我が国の基幹産業であり国際競争力を有するものづくり分野を支える人材育成も重要である。

ロ OECD の報告書によると、我が国の GDP に占める職業訓練等への公的支出の比率は、OECD 諸国の平均より低くなっている。これは、従前、我が国においては、他の OECD 諸国と比して失業率が低い傾向にあり、公共職業訓練等に従事するスタッフの数も少ないことに加え、長期雇用制度の下で人材育成において企業が果たす役割が大きかったことなど、様々な背景が考えられる。人材育成において企業が果たす役割の重要性に変わりはないが、成長が見込まれる分野の人材育成や雇用のセーフティネットの強化等、職業能力開発に対するニーズの高まりに応じていくためには、多様な訓練の担い手を活用しつつ、

今後とも職業能力開発施策の質と量の両面にわたる充実を図っていく必要がある。

一方で、我が国の財政状況が厳しいことを踏まえると、職業訓練に係る政策資源（ヒト（訓練指導員）、カネ（予算）、モノ（施設））については、選択と集中が必要であり、職業訓練の実施に際しては、効率的かつ効果的に行う必要がある。

このため、国は、我が国全体の職業能力開発の質及び量の両面にわたる確保を図るため、我が国全体の職業能力開発のビジョンを策定し、職業訓練のインフラ整備を行う「プロデュース機能（総合調整機能）」を戦略的に強化する必要がある。

具体的には、我が国全体の職業能力開発のビジョンを策定するとともに、職業能力開発のインフラ整備のため、①国全体や地域の訓練ニーズの把握や、訓練分野・規模の決定等を可能とする仕組みの構築、②訓練カリキュラム・指導技法・就職支援技法の開発・普及、③訓練に係る情報の提供、品質の確保、④訓練指導員等の育成・確保、⑤職業能力の評価システムの整備、⑥職業訓練の実施体制の整備を行う必要がある。

(2) 職業能力開発のビジョン・訓練計画の策定

国は、我が国全体の職業能力開発の総合調整のため、職業能力開発基本計画において、今後における公共・民間部門の役割分担や、ものづくり分野・サービス分野等を含む我が国全体の職業能力開発の方向性を定める中期的なビジョンを提示することが重要である。

また、国は、中央及び地域レベルの協議機関を通じて毎年度の訓練計画を策定する必要があり、具体的には、中央レベルについては、厚生労働省、関係府省、教育訓練機関、労使団体、学識経験者、独立行政法人雇用・能力開発機構等により構成される中央訓練協議会において、職業訓練のユーザーである労使等のニーズを踏まえた毎年度の我が国全体の職業訓練の実施分野、実施規模等を決定することが求められている。

さらに、地方レベルについても、都道府県労働局、都道府県、教育訓練機関、労使団体、学識経験者、独立行政法人雇用・能力開発機構等によって構成される地域訓練協議会において、職業訓練のユーザーである労使等のニーズを踏まえた毎年度の各地域の職業訓練の実施分野、実施規模等を決定することが求められている。

(3) 職業訓練のインフラの構築

イ 訓練カリキュラム・指導技法等の開発

国、都道府県、民間教育訓練機関、企業等を含む我が国全体の職業訓練の質と量の維持・向上を図っていくためには、職業訓練の実施に必要な不可欠な訓練カリキュラム等を、広く利用できる政策資源として整備していく必要がある。

具体的には、国は、求職者支援制度が創設される中で成長が見込まれる分野における新たな訓練を適切に実施するため、また、ものづくり分野における技術革新等に対応した訓練を適切に実施するため、産学官の有識者の参集を求め、これらの分野における職務内容や必要となる能力分析に必要な基礎研究に取り組んでいく。

また、基礎研究が終了した分野については、これまでものづくり分野等において蓄積のある職業能力開発総合大学校等を活用して、具体的な訓練カリキュラム等の研究開発を行

う必要がある。職業能力開発総合大学校においては、開発した訓練カリキュラム等を、PDCAサイクルを通じて不断に見直すことが必要である。

さらに、訓練受講者の早期かつ円滑な再就職を促進するためには、訓練受講前、受講中、受講後のそれぞれの段階において適切にキャリア・コンサルティング等を行うことが重要であり、そのためには、キャリア・コンサルティング等の就職支援技法の開発と、その普及をこれまで以上に強化する必要がある。

加えて、国は、開発した訓練カリキュラム等が、独立行政法人雇用・能力開発機構のみならず、全国の都道府県立職業能力開発校、民間教育訓練機関、企業等において一層活用されるように、訓練カリキュラム等の普及・活用促進を図る必要がある。

ロ 職業訓練に係る情報の提供・品質の確保

職業訓練受講者が、自らに適した職業訓練を選択・受講し、早期かつ円滑に就職することを可能とするため、職業訓練の受講者の選択に資する情報提供の仕組みの構築や、職業訓練自体の品質の確保を行うことが求められている。その際には、訓練実施機関、訓練内容、就職実績や、応募・選考手続、受講要件等の情報を適切に提供する必要がある。また、職業能力開発施策についての国民一般の理解を深めるため、インターネット等を活用して、国は職業能力開発施策のメニューや活用の方法等についての情報発信に努めていく。

なお、民間教育訓練機関等の実施する職業訓練の品質を維持・向上させること等を目的とした非公式教育・訓練における学習サービスに係る国際規格 ISO29990 が平成 22 年 9 月に発行されたところであり、当該規格においても、訓練実施機関が訓練内容等について訓練受講者及び利用者に対して確実に情報開示するよう求めているところである。当該規格には、訓練内容等の情報開示のほか、①訓練ニーズの把握、適切なカリキュラムの策定、指導者の質の確保、訓練効果の評価等の訓練サービスに係る要求事項や、②訓練サービス事業者の経営管理体制の整備、事業計画の作成・記録、財務管理、内部監査等のマネジメントに係る要求事項等が示されている。このため、当該規格を踏まえ、公的職業訓練の質の保証及び向上、民間教育訓練機関の自発的な質の保証及び向上に対する支援、民間教育訓練機関を委託訓練や今後創設される求職者支援制度における訓練の実施機関として活用する場合の質の保証及び確保等のツールとなるガイドラインを早期に策定し、その普及・促進を図っていく。

ホ 職業訓練の実施体制の整備

① 独立行政法人雇用・能力開発機構、都道府県、民間教育訓練機関、企業等多様な主体により国全体として必要な職業訓練が着実に実施されるよう、職業訓練の実施体制を整備することが、職業訓練のインフラ整備として極めて重要である。

その中で国は、高度な施設・設備や訓練指導員等を要し、スケールメリットを活かすことで実施可能となる高度なものづくり分野における職業訓練や、雇用のセーフティネットとしての一端としての訓練を担うという役割分担の下、引き続き国の責任において訓練を担っていくことが求められている。

また、雇用する労働者に対して自らスキルアップのための訓練を行うことが困難な中小企業に対する支援として、国及び都道府県において在職者に対する訓練を実施することが引き続き重要である。

さらに、国は都道府県とともに、各地域において必要とされる職業訓練受講機会が確保されるよう努めていく必要がある。……

- ③ 国は、我が国全体としての職業能力開発の実施体制を整備するに当たり、中央訓練協議会や地方訓練協議会において、教育機関や関係行政機関と連携しつつ、労使団体・業界団体等からの訓練ニーズを把握し、職業訓練のユーザーである労使等のニーズをこれまで以上に踏まえた職業訓練とするとともに、職業訓練の実施機関の調整等を行うことで、訓練の質と量を確保する必要がある。また、産業構造の変化や技術革新に対応して企業のニーズに合った人材を確保するため、公共職業訓練の訓練基準の見直しを進め、PDCA サイクルにより、訓練科目の改廃、訓練カリキュラムの不断の見直しを行う必要がある。

2. 職業能力開發促進法・抜粋

(職業訓練基準関連部分)

(1) 職業能力開發促進法 (抜粋)

(2) 職業能力開發促進法施行規則 (抜粋)

(3) 職業能力開發促進法施行規則 別表 (抜粋)

職業能力開発促進法・抜粋（職業訓練基準関連部分）

（１）職業能力開発促進法（抜粋）

●公共職業訓練の位置づけ

（国及び都道府県が行う職業訓練等）

第十五条の六 国及び都道府県は、労働者が段階的かつ体系的に職業に必要な技能及びこれに関する知識を習得することができるように、次の各号に掲げる施設を次条に定めるところにより設置して、当該施設の区分に応じ当該各号に規定する職業訓練を行うものとする。ただし、当該職業訓練のうち主として知識を習得するために行われるもので厚生労働省令で定めるものについては、当該施設以外の施設においても適切と認められる方法により行うことができる。

- 一 職業能力開発校（略）
 - 二 職業能力開発短期大学校（略）
 - 三 職業能力開発大学校（略）
 - 四 職業能力開発促進センター（略）
 - 五 障害者職業能力開発校（略）
- （以下、略）

（公共職業能力開発施設）

- 第十六条** 国は、職業能力開発短期大学校、職業能力開発大学校、職業能力開発促進センター及び障害者職業能力開発校を設置し、都道府県は、職業能力開発校を設置する。
- 2 前項に定めるもののほか、都道府県は職業能力開発短期大学校、職業能力開発大学校、職業能力開発促進センター又は障害者職業能力開発校（次項において「職業能力開発短期大学校等」という。）を、市町村は職業能力開発校を設置することができる。
- 3 前項の規定により都道府県が職業能力開発短期大学校等を、市町村が職業能力開発校を設置しようとするときは、あらかじめ、厚生労働大臣に協議し、その同意を得なければならない。
- 4 公共職業能力開発施設の位置、名称その他運営について必要な事項は、国が設置する公共職業能力開発施設については厚生労働省令で、都道府県又は市町村が設置する公共職業能力開発施設については条例で定める。
- 5 国は、第一項の規定により設置した障害者職業能力開発校のうち、厚生労働省令で定めるものの運営を独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構に行わせるものとし、当該厚生労働省令で定めるもの以外の障害者職業能力開発校の運営を都道府県に委託することができる。
- 6 公共職業能力開発施設の長は、職業訓練に関し高い識見を有する者でなければならない。

●職業訓練基準、教材の位置づけ

（職業訓練の基準）

- 第十九条** 公共職業能力開発施設は、職業訓練の水準の維持向上のための基準として当該職業訓練の訓練課程ごとに教科、訓練時間、設備その他の厚生労働省令で定める事項に関し厚生労働省令で定める基準に従い、普通職業訓練又は高度職業訓練を行うものとする。
- 2 前項の訓練課程の区分は、厚生労働省令で定める。

（教材）

第二十条 公共職業能力開発施設が行う普通職業訓練又は高度職業訓練（以下「公共職業訓練」という。）においては、厚生労働大臣の認定を受けた教科書その他の教材を使用するように努めなければならない。

●認定職業訓練の位置づけ

（認定職業訓練の実施）

第十三条 事業主、事業主の団体若しくはその連合団体、職業訓練法人若しくは中央職業能力開発協会若しくは都道府県職業能力開発協会又は民法（明治二十九年法律第八十九号）第三十四条の規定により設立された法人、法人である労働組合その他の営利を目的としない法人で、職業訓練を行い、若しくは行おうとするもの（以下「事業主等」と総称する。）は、第四節及び第六節に定めるところにより、当該事業主等の行う職業訓練が職業訓練の水準の維持向上のための基準に適合するものであることの認定を受けて、当該職業訓練を実施することができる。

（都道府県知事による職業訓練の認定）

第二十四条 都道府県知事は、事業主等の申請に基づき、当該事業主等の行う職業訓練について、第十九条第一項の厚生労働省令で定める基準に適合するものであることの認定をすることができる。ただし、当該事業主

- 等が当該職業訓練を的確に実施することができる能力を有しないと認めるときは、この限りでない。
- 2 都道府県知事は、前項の認定をしようとする場合において、当該職業訓練を受ける労働者が労働基準法第七十条の規定に基づく厚生労働省令又は労働安全衛生法（昭和四十七年法律第五十七号）第六十一条第四項の規定に基づく厚生労働省令の適用を受けるべきものであるときは、厚生労働省令で定める場合を除き、都道府県労働局長の意見を聴くものとする。
 - 3 都道府県知事は、第一項の認定に係る職業訓練（以下「認定職業訓練」という。）が第十九条第一項の厚生労働省令で定める基準に適合しなくなつたと認めるとき、又は事業主等が当該認定職業訓練を行わなくなつたとき、若しくは当該認定職業訓練を的確に実施することができる能力を有しなくなつたと認めるときは、当該認定を取り消すことができる。
 - 4 都道府県知事は、第一項の認定（高度職業訓練に係る認定に限る。）をしようとするとき又は当該認定の取消しをしようとするときは、あらかじめ、厚生労働大臣に協議し、その同意を得なければならない。

（２）職業能力開発促進法施行規則（抜粋）

●訓練課程の種類

(訓練課程)

第九条 職業訓練の訓練課程は、次の表の上欄に掲げる職業訓練の種類に応じ、長期間の訓練課程にあつては同表の中欄に、短期間の訓練課程にあつては同表の下欄にそれぞれ定めるとおりとする。

職業訓練の種類	長期間の訓練課程	短期間の訓練課程
普通職業訓練	普通課程	短期課程
高度職業訓練	専門課程 応用課程	専門短期課程 応用短期課程

●普通職業訓練の訓練基準

- (普通課程の訓練基準)
- 第十条** 普通課程の普通職業訓練に係る法第十九条第一項の厚生労働省令で定める事項は、次の各号に掲げるとおりとし、同項の厚生労働省令で定める基準は、それぞれ当該各号に定めるとおりとする。
- 一 訓練の対象者 学校教育法（昭和二十二年法律第二十六号）による中学校を卒業した者（以下「中学校卒業生」という。）若しくは同法による中等教育学校の前期課程を修了した者（以下「中等教育学校前期課程修了者」という。）若しくはこれらと同等以上の学力を有すると認められる者であること又は同法による高等学校を卒業した者（以下「高等学校卒業生」という。）若しくは同法による中等教育学校を卒業した者（以下「中等教育学校卒業生」という。）若しくはこれらと同等以上の学力を有すると認められる者であること。
 - 二 教科 その科目が将来多様な技能及びこれに関する知識を有する労働者となるために必要な基礎的な技能及びこれに関する知識を習得させるために適切と認められるものであること。
 - 三 訓練の実施方法 通信の方法によつても行うことができること。この場合には、適切と認められる方法により添削指導及び面接指導を行うこと。
 - 四 訓練期間 中学校卒業生若しくは中等教育学校前期課程修了者又はこれらと同等以上の学力を有すると認められる者（以下この項において「中学校卒業生等」という。）を対象とする場合にあつては二年、高等学校卒業生若しくは中等教育学校卒業生又はこれらと同等以上の学力を有すると認められる者（以下この項において「高等学校卒業生等」という。）を対象とする場合にあつては一年であること。ただし、訓練の対象となる技能及びこれに関する知識の内容、訓練の実施体制等によりこれにより難しい場合には、中学校卒業生等を対象とするときにあつては二年以上四年以下、高等学校卒業生等を対象とするときにあつては一年以上四年以下の期間内で当該訓練を適切に行うことができると認められる期間とすることができる。
 - 五 訓練時間 一年につきおおむね千四百時間であり、かつ、教科の科目ごとの訓練時間を合計した時間（以下「総訓練時間」という。）が中学校卒業生等を対象とする場合にあつては二千八百時間以上、高等学校卒業生等を対象とする場合にあつては千四百時間以上であること。ただし、訓練の実施体制等によりこれにより難しい場合には、一年につきおおむね七百時間とすることができる。
 - 六 設備 教科の科目に応じ当該科目の訓練を適切に行うことができると認められるものであること。
 - 七 訓練生の数 訓練を行う一単位につき五十人以下であること。
 - 八 職業訓練指導員 訓練生の数、訓練の実施に伴う危険の程度及び指導の難易に応じた適切な数であること。
 - 九 試験 学科試験及び実技試験に区分し、訓練期間一年以内ごとに一回行うこと。ただし、最終の回の試験は、法第二十一条第一項（法第二十六条の二において準用する場合を含む。）の規定による技能照査（以下「技能照査」という。）をもつて代えることができる。
 - 2 別表第二の訓練科の欄に定める訓練科に係る訓練については、前項各号に定めるところによるほか、同表に定めるところにより行われるものを標準とする。

(短期課程の訓練基準)

第十一条 短期課程の普通職業訓練に係る法第十九条第一項の厚生労働省令で定める事項は、次の各号に掲げるとおりとし、同項の厚生労働省令で定める基準は、それぞれ当該各号に定めるとおりとする。

- 一 訓練の対象者 職業に必要な技能（高度の技能を除く。）及びこれに関する知識を習得しようとする者であること。
 - 二 教科 その科目が職業に必要な技能（高度の技能を除く。）及びこれに関する知識を習得させるために適切と認められるものであること。
 - 三 訓練の実施方法 通信の方法によつても行うことができること。この場合には、適切と認められる方法により添削指導を行うほか、必要に応じて面接指導を行うこと。
 - 四 訓練期間 六月（訓練の対象となる技能及びこれに関する知識の内容、訓練の実施体制等によりこれにより難い場合にあつては、一年）以下の適切な期間であること。
 - 五 訓練時間 総訓練時間が十二時間（別表第三の訓練科の欄に掲げる訓練科に係る訓練にあつては、十時間）以上であること。
 - 六 設備 教科の科目に応じ当該科目の訓練を適切に行うことができると認められるものであること。
- 2 別表第三の訓練科の欄に掲げる訓練科又は別表第四の訓練科の欄に掲げる訓練科に係る訓練については、前項各号に定めるところによるほか、別表第三又は別表第四に定めるところにより行われるものを標準とする。
 - 3 前二項の規定にかかわらず、短期課程の普通職業訓練のうち第六十五条の規定による技能検定の試験の免除に係るものに係る法第十九条第一項の厚生労働省令で定める事項は、第一項各号に掲げるもの及び試験とし、当該訓練に係る法第十九条第一項の厚生労働省令で定める基準は、別表第五に定めるとおりとする。

(3) 職業能力開発促進法施行規則 別表（抜粋）

●別表第2（第十条関係）（普通課程の普通職業訓練）

別表2 普通課程の普通職業訓練の訓練基準

一 教科

- 1 訓練科（次の表の訓練科の欄に定める訓練系及び専攻科からなる訓練科をいう。）ごとの教科について最低限必要とする科目は、次の表の教科の欄に定める系基礎学科、系基礎実技、専攻学科及び専攻実技の科目とする。
- 2 中学校卒業若しくは中等教育学校前期課程修了者又はこれらと同等以上の学力を有すると認められる者（以下この表において「中学校卒業等」という。）を対象とする訓練の訓練科については、1に定めるもののほか、社会、体育、数学、物理、化学、実用外国語、国語等普通学科の科目のうちそれぞれの訓練科ごとに必要なものを追加するものとする。
- 3 1及び2に定めるもののほか、必要に応じ、それぞれの訓練科ごとに適切な科目を追加することができる。

二 訓練期間

- 1 訓練科ごとに最低限必要とする訓練期間は、次の表の訓練期間及び訓練時間の欄に定めるとおりとする。ただし、中学校卒業等を対象とする訓練の訓練科ごとに最低限必要とする訓練期間については、それぞれ次の表の訓練期間及び訓練時間の欄に定める訓練期間に一年を加えて得た期間とする。
- 2 1に定める訓練期間は、一年（中学校卒業等を対象とする訓練であつて、1に定めるところによる訓練期間が二年となるものにあつては、二年）を超えて延長することはできない。
- 3 中学校卒業等を対象とする訓練であつて、1に定めるところによる訓練期間が四年となるものについては、2にかかわらず、当該訓練期間を延長することはできない。

三 訓練時間

- 1 通信制訓練以外の訓練の訓練科ごとに最低限必要とする総時間及び教科ごとに最低限必要とする訓練時間は、次の表の訓練期間及び訓練時間の欄に定めるとおりとする。ただし、二1のただし書に定める訓練科ごとに最低限必要とする総時間は、同表の訓練期間及び訓練時間の欄に定める総時間に千四百時間を加えて得た時間とする。
- 2 一2の普通学科について最低限必要とする訓練時間は、二百時間とする。
- 3 通信制訓練の面接指導のために最低限必要とする訓練時間は、次の表の訓練期間及び訓練時間の欄に定める系基礎学科及び専攻学科の訓練時間並びに2に定める普通学科の訓練時間のそれぞれ二十パーセントに相当する時間とする。

四 設備

- 1 訓練科ごとに最低限必要とする設備は、次の表の設備の欄に定めるとおりとする。
- 2 1に定めるもののほか、公共職業能力開発施設の詳細は、労働大臣が別に定めるとおりとする。

(例、木造建築科の別表第2)

訓練科		訓練の対象となる技能及びこれに関する知識の範囲	教科	訓練期間及び訓練時間(単位は時間とする。)	設備	
訓練系	専攻科				種別	名称
三十一 建築施工系	木造建築科			訓練期間 一年 訓練時間 総時間 一、四〇〇	建物その他の 工作物	教室 実習場
		中小規模建築物における建築一般、設計製図、施工管理及び建築施工における基礎的な技能及びこれに関する知識	一 系基礎			
			1 学科	二五〇	その他	器具類 計測器類 製図器及び製図用具類 教材類
			① 建築概論 ② 構造力学概論 ③ 建築構造概論 ④ 建築計画概論 ⑤ 建築生産概論 ⑥ 建築設備 ⑦ 測量 ⑧ 建築製図 ⑨ 安全衛生 ⑩ 関係法規			
2 実技	一五〇					
木造建築物の建築施工及び施工管理における技能及びこれに関する知識	二 専攻					
	1 学科	一五〇				
	① 木質構造 ② 材料 ③ 規く術 ④ 工作法 ⑤ 木造建築施工法 ⑥ 仕様及び積算					
2 実技	三〇〇					
		① 器具類 ② 工作実習 ③ 木造建築施工実習				

3. 各訓練科の現行の「カリキュラム表」 (普通課程)

普通課程 現行の「カリキュラム表」(別表2+教科の細目表)

系	31 建築施工系	科名	75 木造建築科
		訓練期間	1年
		総時間	1400H

一 系基礎科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	中小規模建築物における建築一般、設計製図、施工管理及び建築施工における基礎的な技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 系基礎学科	250	
① 建築概論	10	建築の概要、建築物の種類、建築史
② 構造力学概論	30	力の釣合い、荷重と外力、断面の性質、基礎と地盤
③ 建築構造概論	60	木造建築、プレハブ建築、枠組壁建築、鉄筋コンクリート造建築、鉄骨造建築
④ 建築計画概論	40	全体計画、各部の計画、計画の進め方
⑤ 建築生産概論	20	機械、工程管理、資材管理、生産管理、契約事務
⑥ 建築設備	20	給排水設備、電気設備、空調設備、その他の設備
⑦ 測量	10	測量一般、測量機器、敷地測量、図面及び計算
⑧ 建築製図	20	製図用具及び用紙、製図通則、建築物製図の概要
⑨ 安全衛生	20	安全衛生管理、安全衛生関係法規、安全作業法
⑩ 関係法規	20	建築基準法、建設業法、建築士法
2 系基礎実技	150	
① 機械操作基本実習	70	建築機械使用実習、CAD操作、OA機器操作
② 測量基本実習	50	平板測量、水準測量、トランシット測量、測量図
③ 安全衛生作業法	30	安全作業法、衛生作業法

二 専攻科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	木造建築物の建築施工及び施工管理における技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 専攻学科	150	
① 木質構造	20	デザインと構造、荷重と構造計画、木質構造用材料、木質構造の接合部、各部構造の設計
② 材料	20	金属系材料、木質系材料、セメント系材料、プラスチック系材料、その他の材料
③ 規く術	30	図板・尺杖等の作成方法、さしがね目盛り、勾配、勾・玄等の名称及び長さの計算、四方転び、棒隅
④ 工作法	30	構造材の墨付け及び切組、内部造作材の木ごしらえ及び取付け、外部造作材の木ごしらえ及び取付け
⑤ 木造建築施工法	30	墨付け、仕口と継ぎ手、造作、防腐及び断熱、結露防止、防音
⑥ 仕様及び積算	20	仕様書、積算
2 専攻実技	300	
① 器工具使用法	50	木工機械の取扱い、電動工具の取扱い、木材加工用手工工具の使用法
② 工作実習	100	木工機械及び手工工具による加工実習
③ 木造建築施工実習	150	木造建築物の施工、詳細図、施工図等作成

計 850
 教科設定時間の割合 60.7%

普通課程

現行の「カリキュラム表」(別表2+教科の細目表)

系	31 建築施工系	科名	76 枠組壁建築科
		訓練期間	1年
		総時間	1400H

一 系基礎科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	中小規模建築物における建築一般、設計製図、施工管理及び建築施工における基礎的な技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 系基礎学科	250	
① 建築概論	10	建築の概要、建築物の種類、建築史
② 構造力学概論	30	力の釣合い、荷量と外力、断面の性質、基礎と地盤
③ 建築構造概論	60	木造建築、プレハブ建築、枠組壁建築、鉄筋コンクリート造建築、鉄骨造建築
④ 建築計画概論	40	全体計画、各部の計画、計画の進め方
⑤ 建築生産概論	20	機械、工程管理、資材管理、生産管理、契約事務
⑥ 建築設備	20	給排水設備、電気設備、空調設備、その他の設備
⑦ 測量	10	測量一般、測量機器、敷地測量、図面及び計算
⑧ 建築製図	20	製図用具及び用紙、製図通則、建築物製図の概要
⑨ 安全衛生	20	安全衛生管理、安全衛生関係法規、安全作業法
⑩ 関係法規	20	建築基準法、建設業法、建築士法
2 系基礎実技	150	
① 機械操作基本実習	70	建築機械使用実習、CAD操作、OA機器操作
② 測量基本実習	50	平板測量、水準測量、トランシット測量、測量図
③ 安全衛生作業法	30	安全作業法、衛生作業法

二 専攻科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	枠組壁建築物の施工及び施工管理における技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 専攻学科	150	
① 枠組壁工法	20	北米等の木造構造、枠組壁工法の定義、各部の構造、各部の構造計画
② 材料	30	枠組材、面材、造作材、金物と釘、接着剤、建築材料一般
③ 規く術	30	さしがね目盛り、勾配、勾・玄等の名称及び長さの計算法、四方転び、棒隅
④ 枠組壁建築施工法	50	躯体の構成、工作の特性と工程、工法と基準、施工法
⑤ 仕様及び積算	20	仕様書、積算
2 専攻実技	300	
① 器工具使用法	50	機械の取扱い、電動工具の取扱い、木材加工用手工具の使用法、研磨、調整
② 部材加工実習	100	機械及び手工具による加工法
③ 枠組壁建築施工実	150	枠組壁建築物の施工

計 850
教科設定時間の割合 60.7%

普通課程

現行の「カリキュラム表」(別表2+教科の細目表)

系	31 建築施工系	科名	77 とび科
		訓練期間	1年
		総時間	1400H

一 系基礎科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	中小規模建築物における建築一般、設計製図、施工管理及び建築施工における基礎的な技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 系基礎学科	250	
① 建築概論	10	建築の概要、建築物の種類、建築史
② 構造力学概論	30	力の釣合い、荷重と外力、断面の性質、基礎と地盤
③ 建築構造概論	60	木造建築、プレハブ建築、枠組壁建築、鉄筋コンクリート造建築、鉄骨造建築
④ 建築計画概論	40	全体計画、各部の計画、計画の進め方
⑤ 建築生産概論	20	機械、工程管理、資材管理、生産管理、契約事務
⑥ 建築設備	20	給排水設備、電気設備、空調設備、その他の設備
⑦ 測量	10	測量一般、測量機器、敷地測量、図面及び計算
⑧ 建築製図	20	製図用具及び用紙、製図通則、建築物製図の概要
⑨ 安全衛生	20	安全衛生管理、安全衛生関係法規、安全作業法
⑩ 関係法規	20	建築基準法、建設業法、建築士法
2 系基礎実技	150	
① 機械操作基本実	70	建築機械使用実習、CAD操作、OA機器操作
② 測量基本実習	50	平板測量、水準測量、トランシット測量、測量図
③ 安全衛生作業法	30	安全作業法、衛生作業法

二 専攻科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	建築物のく体施工、仮設物の組立て及び解体における技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 専攻学科	150	
① 材料及び器工具	20	とび工事用器工具、仮設材、木質系材料、金属系材料、コンクリート系材料、その他の材料
② とび施工法	40	工事用機械及び設備、施工計画及び管理、木工事(建方・引き方等)、鉄骨工事(建方・接合等)、コンクリート工事、建物解体工事
③ 仮設工事施工法	40	仮設建物の組立て・解体、足場の組立て・解体
④ 土工事施工法	30	掘削工事、排水工事、山止め工事、杭・地業工事
⑤ 仕様及び積算	20	仕様書、積算
2 専攻実技	300	
① 器工具使用法	40	とび工事用器工具の使用法
② 玉掛揚重実習	30	玉掛作業、揚重、運搬
③ 仮設工事実習	100	仮設建物の組立て・解体、足場の組立て・解体
④ 鉄骨工事実習	100	鉄骨建方実習、木造建方実習、コンクリート工事実習、建物解体実習
⑤ 土工事実習	30	掘削工事実習、排水工事実習、山止め工事実習、杭地業工事実習

計 850
教科設定時間の割合 60.7%

普通課程

現行の「カリキュラム表」（別表2＋教科の細目表）

系	31 建築施工系	科名	78 鉄筋コンクリート施工科
		訓練期間	1年
		総時間	1400H

一 系基礎科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	中小規模建築物における建築一般、設計製図、施工管理及び建築施工における基礎的な技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 系基礎学科	250	
① 建築概論	10	建築の概要、建築物の種類、建築史
② 構造力学概論	30	力の釣合い、荷量と外力、断面の性質、基礎と地盤
③ 建築構造概論	60	木造建築、プレハブ建築、枠組壁建築、鉄筋コンクリート造建築、鉄骨造建築
④ 建築計画概論	40	全体計画、各部の計画、計画の進め方
⑤ 建築生産概論	20	機械、工程管理、資材管理、生産管理、契約事務
⑥ 建築設備	20	給排水設備、電気設備、空調設備、その他の設備
⑦ 測量	10	測量一般、測量機器、敷地測量、図面及び計算
⑧ 建築製図	20	製図用具及び用紙、製図通則、建築物製図の概要
⑨ 安全衛生	20	安全衛生管理、安全衛生関係法規、安全作業法
⑩ 関係法規	20	建築基準法、建設業法、建築士法
2 系基礎実技	150	
① 機械操作基本実	70	建築機械使用実習、CAD操作、OA機器操作
② 測量基本実習	50	平板測量、水準測量、トランシット測量、測量図
③ 安全衛生作業法	30	安全作業法、衛生作業法

二 専攻科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	鉄筋コンクリート造建築物の施工及び施工管理における技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 専攻学科	150	
① 建築施工計画	20	建築施工の定義・歴史・特性、施工業務、総合施工計画、鉄筋コンクリート工事計画
② 材料	40	金属系材料、木質系材料、セメント系材料、プラスチック系材料、その他の材料
③ 仮設工事	30	施工設備工事の計画、共通仮設工事、足場、揚重・運搬設備
④ 鉄筋コンクリート施工法	40	基礎工事、鉄筋工事、型枠工事、コンクリート工事、仕上工事、その他の工事
⑤ 仕様及び積算	20	仕様書、積算
2 専攻実技	300	
① 器工具使用法	40	型枠、鉄筋コンクリート施工用器工具、ガス溶接、アーク溶接
② 墨出し実習	30	型枠墨出し、仮設物墨出し
③ 仮設工事实習	50	仮設物組立て
④ 型枠工事实習	60	型枠組立て・解体
⑤ 鉄筋工事实習	60	鉄筋の加工・組立て
⑥ コンクリート工事实習	60	コンクリートの打設・養生

計 850
教科設定時間の割合 60.7%

普通課程 現行の「カリキュラム表」（別表2+教科の細目表）

系	31 建築施工系	科名	79 プレハブ建築科
		訓練期間	1年
		総時間	1400H

一 系基礎科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	中小規模建築物における建築一般、設計製図、施工管理及び建築施工における基礎的な技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 系基礎学科	250	
① 建築概論	10	建築の概要、建築物の種類、建築史
② 構造力学概論	30	力の釣合い、荷量と外力、断面の性質、基礎と地盤
③ 建築構造概論	60	木造建築、プレハブ建築、枠組壁建築、鉄筋コンクリート造建築、鉄骨造建築
④ 建築計画概論	40	全体計画、各部の計画、計画の進め方
⑤ 建築生産概論	20	機械、工程管理、資材管理、生産管理、契約事務
⑥ 建築設備	20	給排水設備、電気設備、空調設備、その他の設備
⑦ 測量	10	測量一般、測量機器、敷地測量、図面及び計算
⑧ 建築製図	20	製図用具及び用紙、製図通則、建築物製図の概要
⑨ 安全衛生	20	安全衛生管理、安全衛生関係法規、安全作業法
⑩ 関係法規	20	建築基準法、建設業法、建築士法
2 系基礎実技	150	
① 機械操作基本実習	70	建築機械使用実習、CAD操作、OA機器操作
② 測量基本実習	50	平板測量、水準測量、トランシット測量、測量図
③ 安全衛生作業法	30	安全作業法、衛生作業法

二 専攻科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	プレハブ建築物の施工及び施工管理における技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 専攻学科	150	
① プレハブ構法	30	プレハブ構法の分類・主要構成材別構法、主要構造部品別構法、各種プレハブ構法の設計計画
② 材料	40	仮設材、構造材、下地材、造作材、仕上げ材
③ プレハブ建築施工法	60	木質系・鉄鋼系・コンクリート系建築物の構造・組立法・造作
④ 仕様及び積算	20	仕様書、積算
2 専攻実技	300	
① 器工具使用法	50	プレハブ建築用機械の取扱い、電動工具の取扱い、木材加工用手工具の使用法
② 部材加工実習	100	プレハブ建築用機械及び手工具による加工法
③ プレハブ建築施工実習	150	プレハブ建築物の施工法

計 850
教科設定時間の割合 60.7%

普通課程

現行の「カリキュラム表」(別表2+教科の細目表)

系	31 建築施工系	科名	80 建築設計科
		訓練期間	1年
		総時間	1400H

一 系基礎科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	中小規模建築物における建築一般、設計製図、施工管理及び建築施工における基礎的な技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 系基礎学科	250	
① 建築概論	10	建築の概要、建築物の種類、建築史
② 構造力学概論	30	力の釣合い、荷量と外力、断面の性質、基礎と地盤
③ 建築構造概論	60	木造建築、プレハブ建築、枠組壁建築、鉄筋コンクリート造建築、鉄骨造建築
④ 建築計画概論	40	全体計画、各部の計画、計画の進め方
⑤ 建築生産概論	20	機械、工程管理、資材管理、生産管理、契約事務
⑥ 建築設備	20	給排水設備、電気設備、空調設備、その他の設備
⑦ 測量	10	測量一般、測量機器、敷地測量、図面及び計算
⑧ 建築製図	20	製図用具及び用紙、製図通則、建築物製図の概要
⑨ 安全衛生	20	安全衛生管理、安全衛生関係法規、安全作業法
⑩ 関係法規	20	建築基準法、建設業法、建築士法
2 系基礎実技	150	
① 機械操作基本実習	70	建築機械使用実習、CAD操作、OA機器操作
② 測量基本実習	50	平板測量、水準測量、トランシット測量、測量図
③ 安全衛生作業法	30	安全作業法、衛生作業法

二 専攻科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	建築物の製図、写図及び簡単な設計における技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 専攻学科	300	
① 構造力学	50	静定構造物、不静定構造物、応用と変形、構造物の変形
② 建築構造	90	鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造、木構造、プレキャスト構造、組積造
③ 建築計画	50	建築計画の進め方、建築環境調整、各種建築物の建築計画
④ 建築設計	50	建築製図の表現、設計図の目的、建築設計図・設備関係図の種類及び内容、CAD操作
⑤ 建築施工法	60	仮設工事、土工事、鉄筋コンクリート工事、鉄骨工事、仕上げ工事
2 専攻実技	300	
① 木造建築設計実習	130	木造建築物の設計・製図
② 鉄骨造建築設計実習	70	鉄骨造建築物の設計・製図
③ 鉄筋コンクリート造建築設計実習	100	鉄筋コンクリート造建築物の設計・製図

計 1000
教科設定時間の割合 71.4%

普通課程

現行の「カリキュラム表」(別表2+教科の細目表)

系	32 建築外装系	科名	81 屋根施工科
		訓練期間	1年
		総時間	1400H

一 系基礎科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	建築外装施工における基礎的な技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 系基礎学科	250	
① 建築概論	20	建築の概要、建築物の種類、建築史
② 建築生産概論	30	建築生産の特徴、建築施工計画、建築施工法、機械、工具管理、資材管理、契約事務
③ 建築構造	60	木質構造、鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造、鉄骨・鉄筋コンクリート構造、特殊構造
④ 建築設備	30	給排水設備、電気設備、空調設備、その他の設備
⑤ 建築計画	20	全体計画、各部の計画、計画の進め方、各種建物の計画
⑥ 建築製図	50	製図用具及び用紙、製図通則、建築物製図の概要
⑦ 安全衛生	20	安全衛生管理、安全衛生関係法規、安全作業法
⑧ 関係法規	20	建築基準法、建設業法、その他関係法令
2 系基礎実技	150	
① 測量及び測定基本実習	40	平板測量、水準測量、トランシット測量
② 機械操作基本実習	30	外装施工用機械の取扱い及び整備
③ 足場実習	50	足場の組立て・解体、登りさん橋
④ 安全衛生作業法	30	安全作業法、衛生作業法

二 専攻科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	瓦ふき屋根等の屋根ふきにおける技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 専攻学科	150	
① 材料	30	屋根ふき材料、関連工事材料
② 屋根施工法	90	割付け、下地施工法、屋根施工
③ 仕様及び積算	30	仕様書、積算
2 専攻実技	350	
① 器工具使用法	30	屋根施工用器工具の使用実習
② 割付け実習	30	墨出し、割付け、合わせ
③ 下地施工実習	30	屋根材料の選定、材料準備、下地施工
④ 屋根施工実習	230	吹上げ、屋根仕舞、各種屋根の屋根ふき、施工
⑤ 養生	30	養生材料の取扱い、養生

計 900
 教科設定時間の割合 64.3%

普通課程

現行の「カリキュラム表」(別表2+教科の細目表)

系	32 建築外装系	科名	82 スレート施工科
		訓練期間	1年
		総時間	1400H

一 系基礎科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	建築外装施工における基礎的な技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 系基礎学科	250	
① 建築概論	20	建築の概要、建築物の種類、建築史
② 建築生産概論	30	建築生産の特徴、建築施工計画、建築施工法、機械、工具管理、資材管理、契約事務
③ 建築構造	60	木質構造、鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造、鉄骨・鉄筋コンクリート構造、特殊構造
④ 建築設備	30	給排水設備、電気設備、空調設備、その他の設備
⑤ 建築計画	20	全体計画、各部の計画、計画の進め方、各種建物の計画
⑥ 建築製図	50	製図用具及び用紙、製図通則、建築物製図の概要
⑦ 安全衛生	20	安全衛生管理、安全衛生関係法規、安全作業法
⑧ 関係法規	20	建築基準法、建設業法、その他関係法令
2 系基礎実技	150	
① 測量及び測定基本実習	40	平板測量、水準測量、トランシット測量
② 機械操作基本実習	30	外装施工用機械の取扱い及び整備
③ 足場実習	50	足場の組立て・解体、登りさん橋
④ 安全衛生作業法	30	安全作業法、衛生作業法

二 専攻科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲		
教科	訓練時間	教科の細目
1 専攻学科	150	※注意) 教科の細目を定めていないため、空白。
① 材料		
② 屋根施工法		
③ 仕様及び積算		
2 専攻実技	350	※注意) 教科の細目を定めていないため、空白。
① 器工具使用法		
② 割付け実習		
③ 下地施工実習		
④ 屋根施工実習		
⑤ 養生		

計 900
 教科設定時間の割合 64.3%

普通課程

現行の「カリキュラム表」(別表2+教科の細目表)

系	32 建築外装系	科名	83 建築板金科
		訓練期間	1年
		総時間	1400H

一 系基礎科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲		建築外装施工における基礎的な技能及びこれに関する知識	
教科		訓練時間	教科の細目
1 系基礎学科		250	
①	建築概論	20	建築の概要、建築物の種類、建築史
②	建築生産概論	30	建築生産の特徴、建築施工計画、建築施工法、機械、工具管理、資材管理、契約事務
③	建築構造	60	木質構造、鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造、鉄骨・鉄筋コンクリート構造、特殊構造
④	建築設備	30	給排水設備、電気設備、空調設備、その他の設備
⑤	建築計画	20	全体計画、各部の計画、計画の進め方、各種建物の計画
⑥	建築製図	50	製図用具及び用紙、製図通則、建築物製図の概要
⑦	安全衛生	20	安全衛生管理、安全衛生関係法規、安全作業法
⑧	関係法規	20	建築基準法、建設業法、その他関係法令
2 系基礎実技		150	
①	測量及び測定基本実習	40	平板測量、水準測量、トランシット測量
②	機械操作基本実習	30	外装施工用機械の取扱い及び整備
③	足場実習	50	足場の組立て・解体、登りさん橋
④	安全衛生作業法	30	安全作業法、衛生作業法

二 専攻科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲		建築板金の加工及び施工における技能及びこれに関する知識	
教科		訓練時間	教科の細目
1 専攻学科		150	
①	材料	30	各種鋼板、金属板、合成樹脂材、断熱材、防音材、シーリング材、接着剤
②	板金加工法	30	板金機械、曲げ加工法、接合法、絞り加工法、切断加工法
③	板金施工法	60	施工用機械、外壁施工、屋根施工、雨どい施工、ダクト施工
④	仕様及び積算	30	仕様書、積算
2 専攻実技		350	
①	器工具使用法	30	板金加工及び施工用器工具の使用実習
②	板金加工実習	90	曲げ加工、接合、絞り加工、切断加工
③	板金施工実習	200	外壁施工、屋根施工、雨どい施工、ダクト施工
④	養生	30	養生材料の取扱い、養生

計 900
教科設定時間の割合 64.3%

普通課程

現行の「カリキュラム表」（別表2＋教科の細目表）

系	32 建築外装系	科名	84 防水施工科
		訓練期間	1年
		総時間	1400H

一 系基礎科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	建築外装施工における基礎的な技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 系基礎学科	250	
① 建築概論	20	建築の概要、建築物の種類、建築史
② 建築生産概論	30	建築生産の特徴、建築施工計画、建築施工法、機械、工具管理、資材管理、契約事務
③ 建築構造	60	木質構造、鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造、鉄骨・鉄筋コンクリート構造、特殊構造
④ 建築設備	30	給排水設備、電気設備、空調設備、その他の設備
⑤ 建築計画	20	全体計画、各部の計画、計画の進め方、各種建物の計画
⑥ 建築製図	50	製図用具及び用紙、製図通則、建築物製図の概要
⑦ 安全衛生	20	安全衛生管理、安全衛生関係法規、安全作業法
⑧ 関係法規	20	建築基準法、建設業法、その他関係法令
2 系基礎実技	150	
① 測量及び測定基本実習	40	平板測量、水準測量、トランシット測量
② 機械操作基本実習	30	外装施工用機械の取扱い及び整備
③ 足場実習	50	足場の組立て・解体、登りさん橋
④ 安全衛生作業法	30	安全作業法、衛生作業法

二 専攻科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	防水施工における技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 専攻学科	150	
① 材料	30	各種防水材料の特性及び選定法、付属材料
② 防水施工法	90	シート防水法、塗膜防水法、アスファルト防水法、金属防水法、シーリング防水法
③ 仕様及び積算	30	仕様書、積算
2 専攻実技	350	
① 器工具使用法	50	防水施工用器工具使用法
② 防水施工実習	270	墨出し、下地施工、各種方式による防水施工、仕上げ
③ 養生	30	養生材料の取扱い、養生

計 900
教科設定時間の割合 64.3%

普通課程

現行の「カリキュラム表」（別表2＋教科の細目表）

系	32 建築外装系	科名	85 サッシ・ガラス施工科
		訓練期間	1年
		総時間	1400H

一 系基礎科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	建築外装施工における基礎的な技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 系基礎学科	250	
① 建築概論	20	建築の概要、建築物の種類、建築史
② 建築生産概論	30	建築生産の特徴、建築施工計画、建築施工法、機械、工具管理、資材管理、契約事務
③ 建築構造	60	木質構造、鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造、鉄骨・鉄筋コンクリート構造、特殊構造
④ 建築設備	30	給排水設備、電気設備、空調設備、その他の設備
⑤ 建築計画	20	全体計画、各部の計画、計画の進め方、各種建物の計画
⑥ 建築製図	50	製図用具及び用紙、製図通則、建築物製図の概要
⑦ 安全衛生	20	安全衛生管理、安全衛生関係法規、安全作業法
⑧ 関係法規	20	建築基準法、建設業法、その他関係法令
2 系基礎実技	150	
① 測量及び測定基本実習	40	平板測量、水準測量、トランシット測量
② 機械操作基本実習	30	外装施工用機械の取扱い及び整備
③ 足場実習	50	足場の組立て・解体、登りさん橋
④ 安全衛生作業法	30	安全作業法、衛生作業法

二 専攻科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	サッシ施工及びガラス施工における技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 専攻学科	150	
① 材料	50	鉄鋼材料、非鉄材料、サッシと規格、ガラスと規格
② サッシ施工法	40	アーク溶接法、ガス溶接法、サッシの組立法、附属材の取付け法
③ ガラス施工法	30	ガラス加工法、ガラスの取扱い法、附属品の取付法
④ 仕様及び積算	30	仕様書、積算
2 専攻実技	350	
① 器工具使用法	30	サッシ施工用及びガラス施工用器工具の使用実習
② 溶接実習	80	アーク溶接、ガス溶接
③ サッシ施工実習	120	カーテンウォール取付け、サッシの加工・組立て・取付け、附属材の取付け
④ ガラス施工実習	90	ガラス加工、ガラスの取付け、附属材の取付け
⑤ 養生	30	養生材料の取扱い、養生

計 900
教科設定時間の割合 64.3%

普通課程

現行の「カリキュラム表」(別表2+教科の細目表)

系	33 建築内装系	科名	86 畳科
		訓練期間	1年
		総時間	1400H

一 系基礎科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	建築物の内装施工における基礎的な技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 系基礎学科	200	
① 建築概論	30	建築の概要、建築物の種類、建築史
② 室内装飾概論	40	室内環境、色彩概論、内装の分類、インテリア史
③ 建築生産概論	20	工程管理、資材管理、生産管理
④ 建築構造	40	木構造、内装構造、その他の構造、構造力学
⑤ 建築製図	30	製図用機械、JIS製図通則、建築物製図
⑥ 安全衛生	20	安全衛生管理、安全衛生関係法規、安全作業法
⑦ 関係法規	20	建築基準法、消防法、消費者保護・物品等関係法規
2 系基礎実技	120	
① 測定基本実習	30	角度の測定、水準測定、距離及び長さの測定、引通し及び表示
② 機械操作基本実習	35	建築内装用機械の取扱い及び整備
③ 製図基本実習	35	製図一般、図法、建築製図
④ 安全衛生作業法	20	安全衛生作業法

二 専攻科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	畳の製作、敷込み及び修理における技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 専攻学科	150	
① 材料	30	材料取扱い、畳表、畳床、畳縁、縁下紙、かしら板、防中紙、化学畳床各種、その他
② 畳工作法	100	畳工作法、畳床製造法、畳敷込み法、製畳機、縫着機
③ 仕様見積算	20	畳仕様書の読み方、概算見積り、清算見積り
2 専攻実技	350	
① 器工具使用法	40	汎用木工機械、畳工作用機械
② 適寸割出し実習	130	敷込み立案設計、敷込み製図、割付け、測定
③ 刺付け実習	150	新畳刺付け、裏返し畳替えの刺付け
④ 敷込み実習	30	畳の敷込み

計 820
教科設定時間の割合 58.6%

普通課程

現行の「カリキュラム表」(別表2+教科の細目表)

系	33 建築内装系	科名	87 インテリア・サービス科
		訓練期間	1年
		総時間	1400H

一 系基礎科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	建築物の内装施工における基礎的な技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 系基礎学科	200	
① 建築概論	30	建築の概要、建築物の種類、建築史
② 室内装飾概論	40	室内環境、色彩概論、内装の分類、インテリア史
③ 建築生産概論	20	工程管理、資材管理、生産管理
④ 建築構造	40	木構造、内装構造、その他の構造、構造力学
⑤ 建築製図	30	製図用機械、JIS製図通則、建築物製図
⑥ 安全衛生	20	安全衛生管理、安全衛生関係法規、安全作業法
⑦ 関係法規	20	建築基準法、消防法、消費者保護・物品等関係法規
2 系基礎実技	120	
① 測定基本実習	30	角度の測定、水準測定、距離及び長さの測定、引通し及び表示
② 機械操作基本実習	35	建築内装用機械の取扱い及び整備
③ 製図基本実習	35	製図一般、図法、建築製図
④ 安全衛生作業法	20	安全衛生作業法

二 専攻科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	建築物の内装計画、内装施工、プレゼンテーション等における技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 専攻学科	120	
① インテリア計画	20	インテリアの歴史と様式、色彩計画、寸法計画、室内計画、設備計画
② 材料	30	部位別材料、内装施工用材料
③ 施工法	50	床・壁・天井等の仕上げと施工法
④ 仕様及び積算	20	仕様書、積算
2 専攻実技	380	
① 器工具使用法	40	木工機械、金工用電動工具、インテリア加工用器工具の取扱い及び調整法
② インテリア製図実習	80	各室の製図、建具・家具製図、プレゼンテーション
③ 施工実習	260	床仕上げ、壁仕上げ、天井仕上げ、各種取付工事

計 820
 教科設定時間の割合 58.6%

普通課程

現行の「カリキュラム表」（別表2+教科の細目表）

系	33 建築内装系	科名	88 床仕上げ施工科
		訓練期間	1年
		総時間	1400H

一 系基礎科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	建築物の内装施工における基礎的な技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 系基礎学科	200	
① 建築概論	30	建築の概要、建築物の種類、建築史
② 室内装飾概論	40	室内環境、色彩概論、内装の分類、インテリア史
③ 建築生産概論	20	工程管理、資材管理、生産管理
④ 建築構造	40	木構造、内装構造、その他の構造、構造力学
⑤ 建築製図	30	製図用機械、JIS製図通則、建築物製図
⑥ 安全衛生	20	安全衛生管理、安全衛生関係法規、安全作業法
⑦ 関係法規	20	建築基準法、消防法、消費者保護・物品等関係法規
2 系基礎実技	120	
① 測定基本実習	30	角度の測定、水準測定、距離及び長さの測定、引通し及び表示
② 機械操作基本実習	35	建築内装用機械の取扱い及び整備
③ 製図基本実習	35	製図一般、図法、建築製図
④ 安全衛生作業法	20	安全衛生作業法

二 専攻科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	室内装飾品の選定、内装施工等における技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 専攻学科	150	
① 材料		(注意) 教科の細目を定めていないため、空白。
② 施工法		
③ 仕様及び積算		
2 専攻実技	350	
① 器工具使用法		(注意) 教科の細目を定めていないため、空白。
② カーペット施工実習		
③ 床施工実習		
④ プラスチック系床施工実習		

計 820
教科設定時間の割合 58.6%

普通課程

現行の「カリキュラム表」(別表2+教科の細目表)

系	33 建築内装系	科名	89 表具科
		訓練期間	1年
		総時間	1400H

一 系基礎科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	建築物の内装施工における基礎的な技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 系基礎学科	200	
① 建築概論	30	建築の概要、建築物の種類、建築史
② 室内装飾概論	40	室内環境、色彩概論、内装の分類、インテリア史
③ 建築生産概論	20	工程管理、資材管理、生産管理
④ 建築構造	40	木構造、内装構造、その他の構造、構造力学
⑤ 建築製図	30	製図用機械、JIS製図通則、建築物製図
⑥ 安全衛生	20	安全衛生管理、安全衛生関係法規、安全作業法
⑦ 関係法規	20	建築基準法、消防法、消費者保護・物品等関係法規
2 系基礎実技	120	
① 測定基本実習	30	角度の測定、水準測定、距離及び長さの測定、引通し及び表示
② 機械操作基本実習	35	建築内装用機械の取扱い及び整備
③ 製図基本実習	35	製図一般、図法、建築製図
④ 安全衛生作業法	20	安全衛生作業法

二 専攻科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	ふすまの仕上げ、掛け軸等表具の製作及び壁装における技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 専攻学科	150	
① 表装概論	30	表具の沿革、目的及び効用、表具と建築物との関連
② 美術工芸史	10	表具美術の沿革、関連美術、工芸史
③ 材料	40	紙系材料、布系材料、金具類、壁紙材料、下地調整剤、糊と接着剤
④ 表装施工法	50	ふすま・掛け軸・屏風の施工法、壁及び天井の施工法
⑤ 仕様及び積算	20	仕様書の読み方、概算見積り、清算見積り
2 専攻実技	350	
① 器工具使用法	40	表装用器工具使用法
② 表具製作実習	140	掛け軸の製作、屏風の製作、額の製作
③ ふすま仕上げ実習	130	骨組組立て、骨下地・下張り、削付け、上張り、縁打ち、金具取付け
④ 壁装実習	40	下地調整、下張り作業、上張り作業

計 820
 教科設定時間の割合 58.6%

普通課程

現行の「カリキュラム表」（別表2＋教科の細目表）

系	34 建築仕上系	科名	90 左官・タイル施工科
		訓練期間	1年
		総時間	1400H

一 系基礎科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	建築物の仕上げにおける基礎的な技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 系基礎学科	200	
① 建築生産概論	20	建築史、建築の概要、建築物の種類
② 建築構造	20	木構造、RC構造、SRC構造、補強ブロック構造
③ 建築設備	20	給排水設備、電気設備、空調設備
④ 建築製図	30	JIS製図通則、建築物の製図
⑤ 建築仕上法	70	コンクリートブロック施工法、左官施工法、タイル施工法
⑥ 安全衛生	20	産業安全、労働衛生、安全衛生管理の実際、具体的災害防止対策
⑦ 関係法規	20	建築基準法、建設業法、その他関係法規
2 系基礎実技	150	
① 機械操作基本実習	50	左官・タイル、ブロック工事用機械
② 調合実習	50	調合、モルタル及びコンクリートの混練
③ 足場実習	30	足場の組立て及び解体、登りさん橋
④ 安全衛生作業法	20	安全衛生作業法

二 専攻科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	下地、土壁、モルタル、プラスタ、しつくい、人造石及びタイル施工における技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 専攻学科	150	
① 造型	20	意匠図案、彫刻
② 材料	20	左官材料、タイル材料
③ 左官施工法	40	作業の段取り、下地調整、施工法
④ タイル施工法	40	作業の段取り、内装施工、外装施工、圧着工法、接着工法
⑤ 仕様及び積算	30	仕様書の目的、設計書との関係、見積りの方法、積算法
2 専攻実技	350	
① 測定及び墨出し実習	50	下地調整、割付け、墨出し
② 下地施工実習	60	コンクリート下地施工、木質下地施工、その他の下地施工
③ 左官施工実習	110	材料別塗工法、技法別塗工法
④ タイル施工実習	110	タイル加工、積上げ張り、圧着張り、接着張り、目地仕上げ
⑤ 養生	20	養生材料の取扱い、養生

計 850
教科設定時間の割合 60.7%

普通課程 現行の「カリキュラム表」（別表2＋教科の細目表）

系	34 建築仕上系	科名	91 築炉科
		訓練期間	1年
		総時間	1400H

一 系基礎科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	建築物の仕上げにおける基礎的な技能及びこれに関する知識		
教科	訓練時間	教科の細目	
1 系基礎学科	200		
① 建築生産概論	20	建築史、建築の概要、建築物の種類	
② 建築構造	20	木構造、RC構造、SRC構造、補強ブロック構造	
③ 建築設備	20	給排水設備、電気設備、空調設備	
④ 建築製図	30	JIS製図通則、建築物の製図	
⑤ 建築仕上法	70	コンクリートブロック施工法、左官施工法、タイル施工法	
⑥ 安全衛生	20	産業安全、労働衛生、安全衛生管理の実際、具体的災害防止対策	
⑦ 関係法規	20	建築基準法、建設業法、その他関係法規	
2 系基礎実技	150		
① 機械操作基本実習	50	左官・タイル、ブロック工事用機械	
② 調合実習	50	調合、モルタル及びコンクリートの混練	
③ 足場実習	30	足場の組立て及び解体、登りさん橋	
④ 安全衛生作業法	20	安全衛生作業法	

二 専攻科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	金属、ガラス等の溶解炉及び加熱炉、窯業用窯の築造及び修理における技能及びこれに関する知識		
教科	訓練時間	教科の細目	
1 専攻学科	150		
① 窯炉	30	窯炉一般、鉄鋼製造用窯炉、非鉄金属精錬用窯炉、その他の工業窯炉	
② 材料	30	耐火物一般、耐火物の物性、耐火物の損傷の原因と防止法、定型耐火物、不定形耐火物、耐火モルタル、断熱材と保温材	
③ 燃料及び燃焼	10	燃料、燃焼、燃焼装置等、伝熱	
④ 築炉法	80	築炉一般、機械及び器工具、築炉作業法、モルタル及びコンクリート、煉瓦の加工法、不定形耐火物の施工法、墨出しとやり方、仮設設備、各炉の築炉法、仕上げ損傷の原因と修理法、保全、関連他工事、施工計画	
2 専攻実技	350		
① れんがの加工及び切断実習	100	機械及び器工具の取扱い、加工墨の割出しと墨打ち、れんがの加工及び切断	
② モルタル混練り実習	30	機械及び器工具の取扱い、調合、混練、圧送	
③ 不定形耐火物施工実習	100	機械及び器工具の取扱い、キャストブル耐火物の施工、プラスチック耐火物の施工、リング耐火物の施工、ガン耐火物の施工	
④ 築炉実習	120	築炉用器工具使用及び機械の機能と用途、築炉の段取り、築炉の施工法及び施工計画、築炉の損傷と修理	

計 850
 教科設定時間の割合 60.7%

普通課程

現行の「カリキュラム表」（別表2＋教科の細目表）

系	34 建築仕上系	科名	92 ブロック施工科
		訓練期間	1年
		総時間	1400H

一 系基礎科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲		建築物の仕上げにおける基礎的な技能及びこれに関する知識	
教科		訓練時間	教科の細目
1 系基礎学科		200	
①	建築生産概論	20	建築史、建築の概要、建築物の種類
②	建築構造	20	木構造、RC構造、SRC構造、補強ブロック構造
③	建築設備	20	給排水設備、電気設備、空調設備
④	建築製図	30	JIS製図通則、建築物の製図
⑤	建築仕上法	70	コンクリートブロック施工法、左官施工法、タイル施工法
⑥	安全衛生	20	産業安全、労働衛生、安全衛生管理の実際、具体的災害防止対策
⑦	関係法規	20	建築基準法、建設業法、その他関係法規
2 系基礎実技		150	
①	機械操作基本実習	50	左官・タイル、ブロック工事用機械
②	調合実習	50	調合、モルタル及びコンクリートの混練
③	足場実習	30	足場の組立て及び解体、登りさん橋
④	安全衛生作業法	20	安全衛生作業法

二 専攻科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲		ブロック建築物の施工における技能及びこれに関する知識	
教科		訓練時間	教科の細目
1 専攻学科		120	
①	ブロック構造	30	補強ブロック構造、型枠ブロック構造、帳壁構造、ブロック塀
②	測量	10	平板測量、レベル測量、トランシット測量
③	材料	30	ブロック用材料、建築施工用材料、混和剤
④	ブロック施工法	30	作業の段取り、鉄筋工事、組積方法、まぐさ、がりょう、スラブ
⑤	仕様及び積算	20	仕様書の目的、設計書との関係、見積もりの方法、積算法
2 専攻実技		350	
①	下地施工実習	30	土工事、基礎工事、型枠工事
②	切断及び加工実習	20	ブロック及び鉄筋の切断、ブロックの欠きとり・くり抜き
③	鉄筋工作及びブロック組積実習	200	特殊加工、鉄筋施工、ブロック組積、仕上げ
④	コンクリート施工実習	40	調合、ミキシング、打設
⑤	仮設工事実習	40	水もりやりかた、たてやりかた
⑥	養生	20	養生材料の取扱い、養生

計 820
教科設定時間の割合 58.6%

普通課程

現行の「カリキュラム表」(別表2+教科の細目表)

系	34 建築仕上系	科名	93 熱絶縁施工科
		訓練期間	1年
		総時間	1400H

一 系基礎科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	建築物の仕上げにおける基礎的な技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 系基礎学科	200	
① 建築生産概論	20	建築史、建築の概要、建築物の種類
② 建築構造	20	木構造、RC構造、SRC構造、補強ブロック構造
③ 建築設備	20	給排水設備、電気設備、空調設備
④ 建築製図	30	JIS製図通則、建築物の製図
⑤ 建築仕上法	70	コンクリートブロック施工法、左官施工法、タイル施工法
⑥ 安全衛生	20	産業安全、労働衛生、安全衛生管理の実際、具体的災害防止対策
⑦ 関係法規	20	建築基準法、建設業法、その他関係法規
2 系基礎実技	150	
① 機械操作基本実習	50	左官・タイル、ブロック工事用機械
② 調合実習	50	調合、モルタル及びコンクリートの混練
③ 足場実習	30	足場の組立て及び解体、登りさん橋
④ 安全衛生作業法	20	安全衛生作業法

二 専攻科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲		
教科	訓練時間	教科の細目
1 専攻学科	150	
① 保温工学概論		(注意) 教科の細目を定めていないため、空白。
② 材料		
③ 熱絶縁施工法		
④ 仕様及び積算		
2 専攻実技	350	
① 材料取扱実習		(注意) 教科の細目を定めていないため、空白。
② 熱絶縁施工実習		
③ 検査実習		
④ 養生		

計 820
 教科設定時間の割合 58.6%

普通課程

現行の「カリキュラム表」（別表2＋教科の細目表）

系	35 設備施工系	科名	94 冷凍空調設備科
		訓練期間	1年
		総時間	1400H

一 系基礎科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	中小規模建築物の建築設備の施工における基礎的な技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 系基礎学科	270	
① 機械工学概論	40	機械要素、機構と運動、原動機及び一般機器、材料力学
② 電気工学概論	40	直流及び交流回路、電流の磁気作用、電気機器、各種の電気応用
③ 建築設備及び機器概論	40	給排水設備、排水通気設備、衛生器具、給湯設備、上下水道施設、ガス設備、消火設備、空気調和設備、換気設備、集じん装置、火災報知設備、排煙設備
④ 環境工学概論	20	地球環境問題、大気、水質、土壌、廃棄物、臭気、騒音、光、環境関連法規
⑤ 生産工学概論	20	品質管理、工程管理、機械・工具・資材管理、コスト管理、環境管理
⑥ 建築構造	20	土工事及び基礎工事、木構造、組積構造、鉄骨構造、鉄筋コンクリート構造、鉄骨及び鉄筋コンクリート構造
⑦ 建築製図	30	製図用機械、JIS製図通則、建築製図法
⑧ 溶接法	20	ガス溶接法、アーク溶接法、ろう付け法
⑨ 安全衛生	20	安全衛生管理、安全衛生関係法規、安全作業法
⑩ 仕様及び積算	20	仕様書、積算
2 系基礎実技	200	
① 器工具使用法	60	ボール盤作業、グラインダ作業、はつり作業、断熱・防露作業
② 溶接及びろう付け基本実習	60	ガス溶接、アーク溶接、ろう付け
③ 配管基本実習	60	鋼管、樹脂管、銅管、ステンレス管、特殊管
④ 安全衛生作業法	20	安全衛生作業法

二 専攻科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	冷凍、冷却及び空気調和設備の施工及び調整における技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 専攻学科	200	
① 自動制御	30	制御理論、制御機器の種類と用途、各種回路
② 冷凍空調設備	50	冷凍機、冷凍装置、空調装置、空調機器、機器の選定
③ 設備製図	40	空調設備の設計及び製図
④ 冷凍空調法	50	冷凍サイクル、冷媒、空調計画、負荷計算
⑤ 施工法	30	冷媒配管施工法、冷凍空調装置据付法、配管施工法、冷媒回収
2 専攻実技	300	
① 冷凍配管実習	50	管加工、配管、漏れ検査、断熱
② 制御配線実習	60	配線工事、シーケンス配線、機器回路配線
③ 設備施工実習	60	各種冷凍空調装置の据付け、配管、配線
④ 運転及び調整実習	40	計測器の使用法、各種冷凍空調装置の運転、調整及び修理
⑤ 整備実習	40	各種冷凍空調装置の分解、組立て、ポンプ・送風機の分解、組立て、冷媒回収
⑥ 検査実習	50	冷凍空調装置の工事検査

計 950
教科設定時間の割合 67.9%

普通課程

現行の「カリキュラム表」（別表2＋教科の細目表）

系	35 設備施工系	科名	95 配管科
		訓練期間	1年
		総時間	1400H

一 系基礎科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	中小規模建築物の建築設備の施工における基礎的な技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 系基礎学科	250	
① 機械工学概論	40	機械要素、機構と運動、原動機及び一般機器、材料力学
② 電気工学概論	40	直流及び交流回路、電流の磁気作用、電気機器、各種の電気応用
③ 建築設備及び機器概論	40	給排水設備、排水通気設備、衛生器具、給湯設備、上下水道施設、ガス設備、消火設備、空気調和設備、換気設備、集じん装置、
④ 環境工学概論	20	地球環境問題、大気、水質、土壌、廃棄物、臭気、騒音、光、環境関連法規
⑤ 生産工学概論	20	品質管理、工程管理、機械・工具・資材管理、コスト管理、環境管理
⑥ 建築構造	20	土工事及び基礎工事、木構造、組積構造、鉄骨構造、鉄筋コンクリート構造、鉄骨及び鉄筋コンクリート構造
⑦ 建築製図	30	製図用機械、JIS製図通則、建築製図法
⑧ 溶接法	20	ガス溶接法、アーク溶接法、ろう付け法
⑨ 安全衛生	20	安全衛生管理、安全衛生関係法規、安全作業法
⑩ 仕様及び積算	20	仕様書、積算
2 系基礎実技	200	
① 器工具使用法	60	ボール盤作業、グラインダ作業、はつり作業、断熱・防露作業
② 溶接及びろう付け	60	ガス溶接、アーク溶接、ろう付け
③ 配管基本実習	60	鋼管、樹脂管、銅管、ステンレス管、特殊管
④ 安全衛生作業法	20	安全衛生作業法
訓練の対象となる技能及び知識の範囲	空調、給排水設備等の管工事及び設備の取付けにおける技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 専攻学科	200	
① 配管概論	50	水力学、熱力学、配管用工作機械、管仕上げ及び組立法、管の接合法、試験法、管組立法
② 給排水設備	30	給水装置、給水法、使用水量、給水管の管径、ポンプ、排水装置、排水トラップと通気管、便器洗浄、給水方式、衛生陶器、合併処理浄化槽
③ 空調設備	30	暖房設備の概要、各種暖房方式、各種暖房方式の比較、放熱器、ボイラー、冷房設備の概要、冷房方式、空気調和装置、空気調和装置用機器、冷凍機設備の概要、冷凍機用付属機器、ヒートポンプ
④ 設備製図	30	給排水設備製図、空調設備製図、配管製図
⑤ 配管施工法	60	給・排水設備の配管施工法、通気及び衛生設備の配管施工法、給湯設備の配管施工法、ガス設備の配管施工法、冷暖房設備の配管施工法、管の被覆・防露施工法
2 専攻実技	300	
① 配管施工実習	250	給・排水設備の配管施工、通気及び衛生設備の配管施工、給湯設備の配管施工、ガス設備の配管施工、冷暖房設備の配管施工、管の被覆・防露施工
② 検査実習	50	水圧検査、水張り検査、気圧検査

計 950
教科設定時間の割合 67.9%

普通課程

現行の「カリキュラム表」(別表2+教科の細目表)

系	35 設備施工系	科名	96 住宅設備機器科
		訓練期間	1年
		総時間	1400H

一 系基礎科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	中小規模建築物の建築設備の施工における基礎的な技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 系基礎学科	250	
① 機械工学概論	40	機械要素、機構と運動、原動機及び一般機器、材料力学
② 電気工学概論	40	直流及び交流回路、電流の磁気作用、電気機器、各種の電気応用
③ 建築設備及び機器概論	40	給排水設備、排水通気設備、衛生器具、給湯設備、上下水道施設、ガス設備、消火設備、空気調和設備、換気設備、集じん装置
④ 環境工学概論	20	地球環境問題、大気、水質、土壌、廃棄物、臭気、騒音、光、環境品質管理、工程管理、機械・工具・資材管理、コスト管理、環境管理
⑤ 生産工学概論	20	
⑥ 建築構造	20	土工事及び基礎工事、木構造、組積構造、鉄骨構造、鉄筋コンクリート構造、鉄骨及び鉄筋コンクリート構造
⑦ 建築製図	30	製図用機械、JIS製図通則、建築製図法
⑧ 溶接法	20	ガス溶接法、アーク溶接法、ろう付け法
⑨ 安全衛生	20	安全衛生管理、安全衛生関係法規、安全作業法
⑩ 仕様及び積算	20	仕様書、積算
2 系基礎実技	200	
① 器工具使用法	60	ボール盤作業、グラインダ作業、はつり作業、断熱・防露作業
② 溶接及びろう付け	60	ガス溶接、アーク溶接、ろう付け
③ 配管基本実習	60	鋼管、樹脂管、銅管、ステンレス管、特殊管
④ 安全衛生作業法	20	安全衛生作業法
訓練の対象となる技能及び知識の範囲	一般住宅の浴槽設備、給湯設備及び厨房設備等の施工における技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 専攻学科	200	
① 燃焼化学概論	30	燃料の種類、エネルギー計算、燃焼理論
② 換気概論	30	換気の必要性、換気方式のと換気設備、換気量計算
③ 住宅設備及び機器	50	各種設備及び機器の特性、選び方、機器制御の基礎、保守管理及び修理法
④ 設備製図	40	住宅設備の設計及び製図
⑤ 施工法	50	機械・工具と使用法、浴槽の据付け、各種厨房機器の据付け
2 専攻実技	300	
① 設備施工実習	150	各種住宅設備の据付け、配管、タイル施工、換気・排煙工事
② 整備実習	150	住宅設備の保守管理、故障探究及び修理
計	950	
教科設定時間の割合	67.9%	

普通課程

現行の「カリキュラム表」（別表2＋教科の細目表）

系	36 土木系	科名	97 さく井科
		訓練期間	1年
		総時間	1400H

一 系基礎科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	一般的な土木工事及び土木施工のための測量における基礎的な技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 系基礎学科	250	
① 土木工学概論	50	土木工学について、国土の開発、水工、道路及びその構造、都市と環境
② 測量学概論	60	距離及び角の測定、多角測量、水準測量、平板測量、スタジア測量、その他の測量
③ 建築生産概論	40	建設の生産プロセス、施工管理
④ 応用力学及び土質工学	60	土質の構造・性質、応用力学、水理学
⑤ 製図	20	土木製図の基礎、土木設計図
⑥ 安全衛生	20	安全衛生管理、安全作業法、安全衛生関係法規
2 系基礎実技	150	
① 測量基本実習	130	距離及び角の測定、多角測量、水準測量、平板測量、スタジア測量
② 安全衛生作業法	20	安全衛生作業

二 専攻科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	さく井及び水文地質調査における掘削、検層、仕上げ及び揚水等における技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 専攻学科	200	
① 水理学概論		
② 機械及び電気		(注意) 教科の細目を定めていないため、空白。
③ 材料		
④ 検層法		
⑤ 溶接法		
⑥ 施工法		
2 専攻実技	300	
① さく井機械操作実習		(注意) 教科の細目を定めていないため、空白。
② 溶接実習		
③ さく井施工実習		
④ 揚水試験実習		

計 900
教科設定時間の割合 64.3%

普通課程

現行の「カリキュラム表」(別表2+教科の細目表)

系	36 土木系	科名	98 土木施工科
		訓練期間	1年
		総時間	1400H

一 系基礎科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲		一般的な土木工事及び土木施工のための測量における基礎的な技能及びこれに関する知識	
教科		訓練時間	教科の細目
1 系基礎学科		250	
①	土木工学概論	50	土木工学について、国土の開発、水工、道路及びその構造、都市と環境
②	測量学概論	60	距離及び角の測定、多角測量、水準測量、平板測量、スタジア測量、その他の測量
③	建築生産概論	40	建設の生産プロセス、施工管理
④	応用力学及び土質工学	60	土質の構造・性質、応用力学、水理学
⑤	製図	20	土木製図の基礎、土木設計図
⑥	安全衛生	20	安全衛生管理、安全作業法、安全衛生関係法規
2 系基礎実技		150	
①	測量基本実習	130	距離及び角の測定、多角測量、水準測量、平板測量、スタジア測量
②	安全衛生作業法	20	安全衛生作業

二 専攻科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲		土木工事の施工計画の立案及び施工管理における技能及びこれに関する知識	
教科		訓練時間	教科の細目
1 専攻学科		200	
①	機械及び電気	20	土木機械の種類及び機能、主要部の構造及び操作法、土木機械操作法、土木機械の管理、電気の基礎工事現場における電気設備
②	土木設計	70	土木構造物の設計、土木設計図及び施工図
③	材料	20	土木材料の種類、性質及び用途、材料試験
④	土木施工法	80	土工事、基礎工事、コンクリート工事、鉄筋工事、仮設工事、土木工事の計画及び施工法
⑤	関係法規	10	建設公害対策、その他関係法規
2 専攻実技		300	
①	測量実習	130	基準点測量、地形測量
②	土木施工実習	170	土工事、基礎工事、コンクリート工事、鉄筋工事、仮設工事、土木工事の計画及び施工、工事の事前調査、施工計画の作成、作業の段取り及び実施、機械の運営管理、施工管理

計 900
 教科設定時間の割合 64.3%

普通課程

現行の「カリキュラム表」（別表2＋教科の細目表）

系	36 土木系	科名	99 測量・設計科
		訓練期間	1年
		総時間	1400H

一 系基礎科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	一般的な土木工事及び土木施工のための測量における基礎的な技能及びこれに関する知識		
教科	訓練時間	教科の細目	
1 系基礎学科	250		
① 土工学概論	50	土工学について、国土の開発、水工、道路及びその構造、都市と環境	
② 測量学概論	60	距離及び角の測定、多角測量、水準測量、平板測量、スタジア測量、その他の測量	
③ 建築生産概論	40	建設の生産プロセス、施工管理	
④ 応用力学及び土質工学	60	土質の構造・性質、応用力学、水理学	
⑤ 製図	20	土木製図の基礎、土木設計図	
⑥ 安全衛生	20	安全衛生管理、安全作業法、安全衛生関係法規	
2 系基礎実技	150		
① 測量基本実習	130	距離及び角の測定、多角測量、水準測量、平板測量、スタジア測量	
② 安全衛生作業法	20	安全衛生作業	

二 専攻科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	各種の測量方法及び土木設計における技能及びこれに関する知識		
教科	訓練時間	教科の細目	
1 専攻学科	200		
① 基準点測量	50	測量学概論、測量機械概論、三角測量方式、多角測量方式、水準測量	
② 地形測量	40	平板測量、写真測量、地図編集	
③ 応用測量	50	路線測量、河川測量、土地区画整理測量	
④ 土木設計	60	土木構造物の設計、構造計算	
2 専攻実技	300		
① 基準点測量実習	60	多角測量方式、水準測量	
② 地形測量実習	40	平板測量、写真測量	
③ 応用測量実習	100	路線測量、河川測量、土地区画整理測量	
④ 土木設計実習	100	土木設計図の作成	

計 900
 教科設定時間の割合 64.3%

普通課程

現行の「カリキュラム表」（別表2＋教科の細目表）

系	37 設備管理・運 転系	科名	100 ビル管理科
		訓練期間	1年
		総時間	1400H

一 系基礎科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	ビル、工場等の附帯設備、ボイラー等の操作又は運転及び保守管理における基礎的な技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 系基礎学科	280	
① 生産工学概論	40	工程管理、品質管理
② 自動制御	60	制御理論、制御機器の種類と用途、各種回路
③ 熱源設備	70	ボイラー・冷凍機・吸収式冷温水機等の種類・構造・機能
④ 熱管理	70	熱勘定、燃焼方法、熱量計算
⑤ 安全衛生	40	安全衛生管理、安全衛生関係法規、安全作業法
2 系基礎実技	150	
① 熱源設備の保守管理実習	110	熱源設備の保守・運転・管理作業
② 安全衛生作業法	40	安全衛生作業法

二 専攻科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	ビル、工場等の空気調和設備、給排水・衛生設備及び電気設備の保守管理における技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 専攻学科	270	
① ビル管理概論	40	建築構造の概要、建築設備の種類、中央監視システム
② 給排水・衛生設備	50	給水方式の種類と構造、排水の種類と設備機器の構造・機能、配管方式、配管図、消防設備
③ 空気調和設備	50	熱負荷、空調方式、機器の種類と構造
④ 電気設備	80	電気理論、電灯、動力、受変電設備等の種類と機能、配線図
⑤ 設備図面	30	各種建築図面の読み方、設備図面の読み方
⑥ 関係法規	20	ビル衛生管理関係法令、高圧ガス取締法、消防法、給排水関係法、ボイラー及び圧力容器安全規則
2 専攻実技	300	
① 給排水・衛生設備保守管理実習	60	給排水・衛生設備の点検・調整・保守・記録、管工作、水質測定
② 空気調和設備保守管理実習	80	空気調和機及び付帯設備の保守・運転・管理作業
③ 電気設備保守管理実習	80	電灯・受変電設備・動力・非常用電源設備の点検・保守・記録、電気工事
④ 自動制御機器保守管理実習	80	自動制御機器の点検・保守

計 1000
教科設定時間の割合 71.4%

普通課程

現行の「カリキュラム表」（別表2＋教科の細目表）

系	37 設備管理・運転系	科名	101 ボイラー運転科
		訓練期間	1年
		総時間	1400H

一 系基礎科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲		ビル、工場等の附帯設備、ボイラー等の操作又は運転及び保守管理における基礎的な技能及びこれに関する知識	
教科		訓練時間	教科の細目
1 系基礎学科		280	
①	生産工学概論	40	工程管理、品質管理
②	自動制御	60	制御理論、制御機器の種類と用途、各種回路
③	熱源設備	70	ボイラー・冷凍機・吸収式冷温水機等の種類・構造・機能
④	熱管理	70	熱勘定、燃焼方法、熱量計算
⑤	安全衛生	40	安全衛生管理、安全衛生関係法規、安全作業法
2 系基礎実技		150	
①	熱源設備の保守管理実習	110	熱源設備の保守・運転・管理作業
②	安全衛生作業法	40	安全衛生作業法

二 専攻科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲		ボイラー及びボイラー附属装置の運転及び保守における技能及びこれに関する知識	
教科		訓練時間	教科の細目
1 専攻学科		250	
①	ボイラーの構造	50	ボイラーの種類及び型式、主要部分の構造及び強度、材料、工作、据付け、付属設備及び付属品の構造、自動制御装置
②	ボイラーの取扱い	100	点火、使用中の留意事項、埋火、付属設備及び付属品の取扱い、ボイラー用水及びその処理、吹出し損傷及びその防止方法
③	燃料及び燃焼	50	燃料の種類、燃焼理論、燃焼方式及び燃焼装置、通風及び通風装置
④	保守及び整備法	30	機械的清浄作業、化学洗浄作業、付属設備及び付属品の設備、清浄作業に使用する器工具
⑤	関係法規	20	労働安全衛生法、労働安全衛生規則、ボイラー及び圧力容器安全規則、ボイラー構造規格
2 専攻実技		500	
①	ボイラー運転実習	300	点火、燃焼の調整、付属設備及び付属品の取扱い
②	水処理実習	50	水処理、吹出し
③	点検及び保守実習	150	損傷の防止及び措置、使用後の措置、清浄作業、点検及び異常時の処置

計 1180
 教科設定時間の割合 84.3%

4. 各訓練科の現行の「設備の細目表」 (普通課程)

建築施工系木造建築科

種別	名称	摘要	高等学校卒業者等		中学校卒業者等	
			訓練単位 30人	訓練単位 50人	訓練単位 30人	訓練単位 50人
建物その他の 工作物	教室		60㎡	100㎡	60㎡	100㎡
	製図室		135㎡	220㎡	135㎡	220㎡
	実習場		330㎡	480㎡	480㎡	600㎡
	工具室		7㎡	10㎡	15㎡	25㎡
	更衣室		15㎡	22㎡	25㎡	38㎡
	倉庫		50㎡	83㎡	83㎡	100㎡
	局所排気装置	木工機械用(フード、ダクト、サイクロン、ファン、モータ、焼却装置等を含む。)	1式	1式	1式	1式
	とぎ場	給・排水設備を含む。	1式	1式	1式	1式
機械	手押しかな盤	加工幅300mm安全装置付き。	1台	1台	1台	1台
	自動一面かな盤	加工幅300mm	1台	1台	1台	1台
	自動多面かな盤	加工幅30～150mm三面以上	1台	1台	1台	1台
	超仕上げかな盤	加工幅300～450mm	1台	1台	1台	1台
	丸のこ盤	のこ車径400mm	1台	1台	1台	1台
	角のみ盤	のみ寸法30mm	1台	2台	1台	2台
	昇降傾斜盤	のこ径400～450mm	1台	1台	1台	1台
	ほぞ取り盤	加工最大長さ100mm	1台	1台	1台	1台
	パネルソー	切断可能寸法約2,000mm	1台	1台	1台	1台
	リップソー	最大厚さ120mm	1台	1台	1台	1台
	ジグソー	0.2～0.4kW	1台	1台	1台	1台
	携帯用電気かな	0.4～1.2kW	5台	8台	10台	15台
	携帯用電気みぞかな	0.4～1.5kW	5台	8台	5台	8台
	携帯用電気丸のこ	0.4～1.5kW	6台	10台	6台	10台
	携帯用電気角のみ	0.4～1.5kW	5台	8台	5台	8台
	携帯用ルータ	0.4～1.5kW	2台	3台	2台	3台
	携帯用自動かな	1.5kW	1台	1台	1台	1台
	集じん機	可搬形	1台	1台	1台	1台
	大入れ加工機	移動式	2台	3台	2台	3台
	電気ドリル	0.2～0.4kW	5台	8台	5台	8台
	くぎ打ち機	エア式	2台	3台	2台	3台
	両頭グラインダ	といし車径200～300mm	1台	1台	2台	2台
	刃物研削盤	研削長さ600mm	1台	1台	1台	1台
	コンクリートミキサ	0.06～0.12m³	1台	1台	1台	1台
	ランマ	重量50～60kg	1台	1台	1台	1台
	自動製図機械(CAD)	2次元	3台	5台	3台	5台
	トランシット	標準形	3台	5台	3台	5台
	レベル	標準形	2台	3台	2台	3台
	平板測量器	中測板、アリダードの曲率半径1.0～1.5m	3台	5台	3台	5台
	万能試験機	標準形	1台	1台	1台	1台
空気圧縮機	1.5～2.2kW	1台	2台	1台	2台	
運搬用小形自動車	1～2 t	1台	1台	1台	1台	
その他	(工具及び用具類)					
	作業用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数
	木工用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数
	測量用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数
	(計測器類)					
	計測器類		必要数	必要数	必要数	必要数
	(製図用具類)					
	製図器及び製図用具類		必要数	必要数	必要数	必要数
(教材類)						
模型、掛図等		必要数	必要数	必要数	必要数	

建築施工系枠組壁建築科

種別	名称	摘要	高等学校卒業業者等		中学校卒業業者等	
			訓練単位 30人	訓練単位 50人	訓練単位 30人	訓練単位 50人
建物その他の 工作物	教室		60 m ²	100 m ²	60 m ²	100 m ²
	製図室		135 m ²	220 m ²	135 m ²	220 m ²
	実習場		300 m ²	430 m ²	450 m ²	550 m ²
	工具室		7 m ²	10 m ²	15 m ²	25 m ²
	更衣室		15 m ²	22 m ²	25 m ²	38 m ²
	倉庫		50 m ²	83 m ²	83 m ²	100 m ²
	局所排気装置	木工機械用(フード、ダクト、サイクロン、ファン、モータ、焼却装置等を含む。)	1 式	1 式	1 式	1 式
	とぎ場	給・排水設備を含む。	1 式	1 式	1 式	1 式
機械	手押しかな盤	加工幅300mm、安全自動送り装置付き。	2 台	3 台	2 台	3 台
	自動一面かな盤	加工幅600mm	1 台	2 台	1 台	2 台
	昇降傾斜盤	のこ径400～450mm	1 台	1 台	1 台	1 台
	ジグソー	0.2～0.5kW	5 台	8 台	10 台	15 台
	携帯用電気かな盤	0.4～1.2kW	5 台	8 台	10 台	15 台
	携帯用電気丸のこ	0.4～1.5kW	15 台	25 台	30 台	50 台
	携帯用ルータ	0.4～1.5kW	2 台	3 台	2 台	3 台
	携帯用自動かな盤	1.5kW	1 台	1 台	1 台	1 台
	集じん機	可搬形	1 台	1 台	1 台	1 台
	電気ドリル	0.2～0.4kW	5 台	8 台	5 台	8 台
	くぎ打ち機	エア式	5 台	8 台	5 台	8 台
	両頭グラインダ	といし車径200～300mm 集じん機付き。	1 台	1 台	2 台	2 台
	刃物研削盤	研削長さ600mm	1 台	1 台	1 台	1 台
	自動製図機械(CAD)	2次元	3 台	5 台	3 台	5 台
	トランシット	標準形	3 台	5 台	3 台	5 台
	レベル	標準形	2 台	3 台	2 台	3 台
	平板測量器	中測板、アリダードの曲率半径1.0～1.5m	3 台	5 台	3 台	5 台
	空気圧縮機	1.5～2.2kW	3 台	4 台	3 台	4 台
運搬用小形自動車	1～2 t	1 台	1 台	1 台	1 台	
その他	(工具及び用具類)					
	作業用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数
	木工用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数
	測量用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数
	(計測器類)					
	計測器類		必要数	必要数	必要数	必要数
	(製図用具類)					
	製図器及び製図用具類		必要数	必要数	必要数	必要数
(教材類)						
継ぎ手、仕口、建物等の模型、掛図等		必要数	必要数	必要数	必要数	

建築施工系とび科

種別	名称	摘要	高等学校卒業業者等		中学校卒業業者等	
			訓練単位 30人	訓練単位 50人	訓練単位 30人	訓練単位 50人
建物その他の の工作物	教室		60 m ²	100 m ²	60 m ²	100 m ²
	製図室		120 m ²	200 m ²	120 m ²	200 m ²
	実習場		300 m ²	500 m ²	550 m ²	600 m ²
	工具室		10 m ²	17 m ²	20 m ²	25 m ²
	更衣室		15 m ²	22 m ²	25 m ²	38 m ²
	倉庫		120 m ²	150 m ²	150 m ²	180 m ²
機械	工事用リフト	積載荷重100～200kg	1 台	2 台	2 台	2 台
	コンクリートミキサ	0.06～0.12m ³	1 台	2 台	2 台	2 台
	ランマ	重量50～60kg	1 台	2 台	2 台	2 台
	パイプレータ	振動部径25～28mm	2 台	3 台	2 台	3 台
	鉄筋切断機	切断能力径25～32mm	2 台	3 台	3 台	5 台
	鉄筋曲げ機	曲げ能力径25～32mm	2 台	3 台	3 台	5 台
	ガス圧接機	圧接能力径25～32mm	1 台	1 台	1 台	1 台
	携帯用電気丸のこ	0.4～0.6kW	3 台	5 台	3 台	5 台
	電気ドリル	0.2～0.4kW	2 台	3 台	2 台	3 台
	両頭グラインダ	といし車径200～300mm 集じん機付き。	1 台	1 台	1 台	1 台
	交流アーク溶接機	12～20kVA(電撃防止器、安全ホルダー、ヘルメット、その他付属品を含む。)	2 台	3 台	2 台	3 台
	溶接棒乾燥器	50～100kg	1 台	1 台	1 台	1 台
	トランシット	標準形	2 台	3 台	3 台	5 台
	レベル	標準形	2 台	3 台	3 台	5 台
	平板測量器	中測板、アリダードの曲率半径1.0～1.5m	10 台	15 台	15 台	25 台
	電動ハンマ	950～2,100打撃/分	1 台	1 台	1 台	1 台
	運搬用小形自動車	1～2 t	1 台	1 台	1 台	1 台
小形式移動クレーン		1 台	1 台	1 台	1 台	
パワーショベル	0.05～0.1m ³	1 台	1 台	1 台	1 台	
ジブクレーン	3 t	1 台	1 台	1 台	1 台	
その他	(工具及び用具類)					
	作業用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数
	とび作業用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数
	(計測器類)					
	計測器類		必要数	必要数	必要数	必要数
	(製図用具類)					
	製図器及び製図用具類		必要数	必要数	必要数	必要数
	(教材類)					
模型、掛図等		必要数	必要数	必要数	必要数	

建築施工系鉄筋コンクリート施工科

種別	名称	摘要	高等学校卒業業者等		中学校卒業業者等	
			訓練単位 30人	訓練単位 50人	訓練単位 30人	訓練単位 50人
建物その他の 工作物	教室		60 m ²	100 m ²	60 m ²	100 m ²
	製図室		135 m ²	220 m ²	135 m ²	220 m ²
	実習場		300 m ²	500 m ²	550 m ²	600 m ²
	工具室		10 m ²	17 m ²	20 m ²	25 m ²
	更衣室		15 m ²	22 m ²	25 m ²	38 m ²
	倉庫		33 m ²	50 m ²	50 m ²	65 m ²
機械	工事用リフト	積載荷重100～200kg	1台	2台	2台	2台
	コンクリート品質試験器具	一式(スランブ試験、空気量試験、フロー試験)	2台	3台	2台	3台
	コンクリートミキサ		1台	2台	2台	2台
	ランマ	重量50～60kg	3台	5台	3台	5台
	パイプレータ	振動部径25～28mm	3台	5台	3台	5台
	鉄筋切断機	切断能力径25～32mm	3台	5台	3台	5台
	鉄筋曲げ機	曲げ能力径25～32mm	3台	5台	3台	5台
	ガス圧接機	圧接能力径25～32mm	3台	5台	3台	5台
	携帯用電気丸のこ	0.4～0.6kW	5台	8台	5台	8台
	携帯用電気かんな	0.4～0.6kW	3台	5台	3台	5台
	電気ドリル	0.2～0.4kW	5台	8台	5台	8台
	両頭グラインダ	といし車径200～300mm 集じん機付き。	1台	1台	1台	1台
	交流アーク溶接機	12～20kVA(電撃防止器、安全ホルダー、ヘルメット、その他付属品を含む。)	3台	5台	3台	5台
	溶接棒乾燥機	50～100kg	1台	1台	1台	1台
	自動製図機械(CAD)	2次元	3台	5台	3台	5台
	空気圧縮機	1.5～2.2kW	1台	1台	1台	1台
	シヨベル	各種アタッチメント付き	1台	1台	1台	1台
	トランシット	標準形	3台	5台	3台	5台
	レベル	標準形	3台	5台	3台	5台
	平板測量器	中測板、アリダードの曲率半径1.0～1.5m	10台	15台	15台	25台
電気ハンマ	950～2,100打撃/分	1台	1台	1台	1台	
運搬用小形自動車	1～2 t	1台	1台	1台	1台	
その他	(工具及び用具類)					
	作業用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数
	木工用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数
	鉄筋工作用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数
	溶接用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数
	(計測器類)					
	計測器類		必要数	必要数	必要数	必要数
	(製図用具類)					
	製図器及び製図用具類		必要数	必要数	必要数	必要数
	(教材類)					
模型、掛図等		必要数	必要数	必要数	必要数	

建築施工系プレハブ建築科

種別	名称	摘要	高等学校卒業者等		中学校卒業者等	
			訓練単位 30人	訓練単位 50人	訓練単位 30人	訓練単位 50人
建物その他の 工作物	教室		60 m ²	100 m ²	60 m ²	100 m ²
	製図室		135 m ²	220 m ²	135 m ²	220 m ²
	実習室		500 m ²	600 m ²	600 m ²	750 m ²
	工具室		7 m ²	10 m ²	15 m ²	25 m ²
	更衣室		15 m ²	22 m ²	25 m ²	38 m ²
	倉庫		50 m ²	83 m ²	83 m ²	100 m ²
	危険物貯蔵庫	消防法の条件を備えること。	10 m ²	10 m ²	10 m ²	10 m ²
	とぎ場	給・排水設備を含む。	1 式	1 式	1 式	1 式
	局所排気装置	フード、ダクト、サイクロン、ファン、モータ、焼却装置等を含む。	1 式	1 式	1 式	1 式
	ぎょう鉄設備	炉、定盤等	1 式	1 式	1 式	1 式
機械	手押しかな盤	加工幅300mm、安全自動送り装置付き。	1 台	2 台	1 台	2 台
	自動かな盤	加工幅600mm	1 台	1 台	1 台	1 台
	帯のこ盤	のこ車径500mm～750mm	1 台	1 台	1 台	1 台
	丸のこ盤	のこ径400mm、安全自動送り装置付き。	1 台	1 台	1 台	1 台
	昇降傾斜盤	のこ径400～450mm	1 台	1 台	1 台	1 台
	角のみ盤	のみ寸法30mm	1 台	1 台	1 台	1 台
	ほぞ取り盤	加工最大ほぞ長さ100mm	1 台	1 台	1 台	1 台
	ダブルソー	最大切断幅3,000mm	1 台	1 台	1 台	1 台
	ランニングソー	標準形	1 台	1 台	1 台	1 台
	携帯用電気かな	0.4kW	5 台	8 台	8 台	12 台
	携帯用電気みぞかな	0.4～0.6kW	3 台	5 台	5 台	8 台
	携帯用電気丸のこ	0.4～0.6kW	5 台	8 台	5 台	8 台
	携帯用電気角のみ	0.4～0.6kW	3 台	5 台	5 台	8 台
	接着用油圧プレス	定盤1,000×3,000mm	1 台	1 台	1 台	1 台
	万能刃物研削盤	研削長さ600mm	1 台	1 台	1 台	1 台
	両頭グラインダ	といし車径200～300mm 集じん機付き。	1 台	1 台	1 台	1 台
	エアネイラ	標準形	3 台	5 台	5 台	8 台
	交流アーク溶接機	12～30kVA(電撃防止器、安全ホルダー、ヘルメット、その他付属品を含む。)	2 台	3 台	3 台	5 台
	エンジンウエルダ	40～250A	1 台	1 台	1 台	1 台
	溶接棒乾燥器	乾燥量50kg	1 台	1 台	1 台	1 台
	直立ボール盤	振り400～550mm	1 台	1 台	1 台	1 台
	卓上ボール盤	穴あけ能力13mm	2 台	3 台	3 台	5 台
	高速度といし切断機	2.2kW	1 台	1 台	1 台	1 台
	ディスクグラインダ	0.2～0.4kW	3 台	5 台	5 台	8 台
	ポータブルサンダ	0.2～0.4kW	3 台	5 台	5 台	8 台
	電気ドリル	0.2～0.4kW	3 台	5 台	5 台	8 台
	インパクトレンチ	締付けボルト径 10～20mm	2 台	3 台	3 台	5 台
	携帯用電気シャー	0.2～0.4kW	1 台	1 台	1 台	1 台
	スケヤシャー	切断能力6mm	1 台	1 台	1 台	1 台
	レバーシャー	6×200mm	1 台	1 台	1 台	1 台
	万能折曲げ機	折曲げ長さ3,000mm	1 台	1 台	1 台	1 台
	鉄筋切断機	標準形	1 台	2 台	1 台	2 台
	鉄筋曲げ機	標準形	1 台	2 台	1 台	2 台
	オイルジャッキ	3～5 t	2 台	2 台	2 台	2 台
	空気圧縮機	0.75～1.5kW	2 台	2 台	2 台	2 台
	コンクリートミキサ	0.06～0.12m ³	1 台	1 台	1 台	1 台
	モルタルミキサ	0.03～0.09m ³	1 台	1 台	1 台	1 台
	ランマ	重量50～60kg	1 台	1 台	1 台	1 台
	自動製図機械(CAD)	2次元	3 台	5 台	3 台	5 台
	トランシット	標準形	2 台	3 台	2 台	3 台
レベル	標準形	2 台	3 台	2 台	3 台	
平板測量器	中測板、アリダードの曲率半径1.0～1.5m	3 台	5 台	5 台	8 台	
小形デリック	2 t、ブーム長さ6m	1 台	1 台	1 台	1 台	
運搬用小形自動車	1～2 t	1 台	1 台	1 台	1 台	

その他	(工具及び用具類)				
	作業用工具類		必要数	必要数	必要数
	木工用工具類		必要数	必要数	必要数
	鉄筋工作用工具類		必要数	必要数	必要数
	(計測器類)				
	計測器類		必要数	必要数	必要数
	(製図用具類)				
	製図器及び製図用具類		必要数	必要数	必要数
(教材類)					
模型、掛図等		必要数	必要数	必要数	

建築施工系建築設計科

種別	名称	摘要	高等学校卒業業者等		中学校卒業業者等	
			訓練単位 30人	訓練単位 50人	訓練単位 30人	訓練単位 50人
建物その他の 工作物	教室		60 m ²	100 m ²	60 m ²	100 m ²
	製図室		205 m ²	330 m ²	335 m ²	550 m ²
	更衣室		15 m ²	22 m ²	25 m ²	38 m ²
	倉庫		15 m ²	20 m ²	20 m ²	33 m ²
機械	製図機械	A0判用	30 台	50 台	60 台	100 台
	自動製図機械(CAD)	2次元、パーソナルコンピュータを含む。	15 台	25 台	15 台	25 台
	X-Yプロッタ	A0判	1 台	2 台	1 台	2 台
	超音波洗浄機		1 台	1 台	1 台	1 台
	複写機	複写幅500～1,000mm	2 台	2 台	2 台	2 台
	トランシット	標準形	5 台	8 台	8 台	15 台
	レベル	標準形	5 台	8 台	8 台	15 台
	平板測量器	中測板、アリダードの曲率半径1.0～1.5m	10 台	15 台	15 台	30 台
黒板用製図機械	標準形	1 台	1 台	2 台	2 台	
その他	(工具及び用具類)					
	器工具類		必要数	必要数	必要数	必要数
	(計測器類)					
	計測器類		必要数	必要数	必要数	必要数
	(製図用具類)					
	製図器及び製図用具類		必要数	必要数	必要数	必要数
	(教材類)					
家屋、各種継ぎ手、仕口等の模型、掛図等		必要数	必要数	必要数	必要数	

建築外装系サッシ・ガラス施工科

種別	名称	摘要	高等学校卒業業者等		中学校卒業業者等	
			訓練単位 30人	訓練単位 50人	訓練単位 30人	訓練単位 50人
建物その他の 工作物	教室		60 m ²	100 m ²	60 m ²	10 m ²
	実習室		290 m ²	350 m ²	350 m ²	450 m ²
	工具室		7 m ²	10 m ²	15 m ²	25 m ²
	更衣室		15 m ²	22 m ²	25 m ²	38 m ²
	倉庫		50 m ²	60 m ²	60 m ²	80 m ²
	局所排気装置	フード、ダクト、サイクロン、ファン、モータ等を含む。	1 式	1 式	1 式	1 式
	モノレール	0.5～1 t ホイスト付き。	1 式	1 式	1 式	1 式
	鉄塔	カーテンウォール取付け用	1 式	1 式	1 式	1 式
機械	交流アーク溶接機	12～30kVA	5 台	8 台	8 台	10 台
	ロータリープレス	サッシ、網戸加工用	10 台	17 台	10 台	17 台
	携帯用電気ドリル	0.2～0.4kW	15 台	25 台	15 台	25 台
	ポータブルサンダ	0.2～0.4kW	2 台	3 台	2 台	3 台
	卓上丸のこ盤	材料切断用	1 台	2 台	1 台	2 台
	ジグソー	0.2～0.5kW	2 台	3 台	2 台	3 台
	トランシット	標準形	3 台	5 台	3 台	5 台
	レベル	標準形	3 台	5 台	3 台	5 台
	平板測量器	中測板、アリダードの曲率半径1.0～1.5m	3 台	5 台	3 台	5 台
	空気圧縮機	0.4～1.5kW	4 台	6 台	4 台	6 台
その他	(工具及び用具類)					
	作業用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数
	サッシ加工用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数
	金属製建具取付け用 工具類		必要数	必要数	必要数	必要数
	カーテンウォール取付 け用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数
	ガラス装着用工具類又 はガラスブロック組積 用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数
	溶接用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数
	玉掛け用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数
	合図用具類		必要数	必要数	必要数	必要数
	(計測器類)					
	計測器類		必要数	必要数	必要数	必要数
	(製図用具類)					
	製図器及び製図用具 類		必要数	必要数	必要数	必要数
	(教材類)					
掛図等		必要数	必要数	必要数	必要数	

建築内装系インテリア・サービス科

種別	名称	摘要	高等学校卒業者等		中学校卒業者等	
			訓練単位 30人	訓練単位 50人	訓練単位 30人	訓練単位 50人
建物その他の の工作物	教室		60 m ²	100 m ²	60 m ²	100 m ²
	実習場		300 m ²	350 m ²	350 m ²	400 m ²
	機械実習場		200 m ²	250 m ²	250 m ²	300 m ²
	塗装場		7 m ²	7 m ²	7 m ²	7 m ²
	工具室		20 m ²	30 m ²	30 m ²	45 m ²
	更衣室		15 m ²	22 m ²	25 m ²	38 m ²
	倉庫		50 m ²	80 m ²	80 m ²	100 m ²
	危険物貯蔵倉庫	消防法の条件を備えること。	10 m ²	10 m ²	10 m ²	10 m ²
	木工機械用局所排気装置	フード、ダクト、サイクロン、ファン、モータ等を含む。	1 式	1 式	1 式	1 式
	塗装用局所排気装置	フード又はブース、ダクト、サイクロン、ファン、モータ等を含む。	1 式	1 式	1 式	1 式
	とぎ場	給・排水設備を含む。	1 式	1 式	1 式	1 式
	実習用和室		30 m ²	30 m ²	30 m ²	30 m ²
	実習用洋室		30 m ²	30 m ²	30 m ²	30 m ²
機械	手押しかな盤	加工幅200～400mm、安全自動送り装置付き。	2 台	2 台	2 台	2 台
	自動一面かな盤	加工幅300～600mm	1 台	1 台	1 台	1 台
	超仕上げかな盤	加工幅250～350mm	1 台	1 台	1 台	1 台
	昇降傾斜盤	のこ径300～400mm	2 台	2 台	2 台	2 台
	角のみ盤	のみ寸法5～25mm	2 台	2 台	2 台	3 台
	単軸面取り盤	加工高さ75～125mm、安全自動送り装置付き。	1 台	1 台	1 台	1 台
	高速ルータ	1.5～2.2kW	1 台	2 台	2 台	2 台
	木工旋盤	心間距離1,000～1,300mm	1 台	1 台	1 台	1 台
	木工プレス	20～100 t	1 台	1 台	1 台	1 台
	横びき丸のこ盤	のこ径300～400mm	1 台	1 台	1 台	1 台
	丸のこ盤	のこ径300～400mm、安全自動装置付き。	1 台	1 台	1 台	1 台
	糸のこ盤	0.75kW	1 台	2 台	2 台	3 台
	ベルトサンダ	加工幅300～600mm	1 台	1 台	1 台	1 台
	パネルソー	切断可能寸法約2,000mm	1 台	1 台	1 台	1 台
	携帯用電気かな	0.4kW	3 台	5 台	3 台	5 台
	携帯用電気ルータ	0.8～1.0kW	2 台	2 台	2 台	3 台
	携帯用電気丸のこ	0.4～0.6kW	2 台	2 台	2 台	4 台
	携帯用電気みぞかな	0.4～0.6kW	2 台	2 台	2 台	3 台
	携帯用電気角のみ	0.5～0.7kW	2 台	2 台	2 台	3 台
	携帯用ハンマドリル	0.8～1.2kW	2 台	2 台	2 台	3 台
	携帯用電気スクリュードライバ	0.2～0.5kW	2 台	2 台	2 台	4 台
	携帯用電気ポリリシャ	0.2～0.6kW	2 台	2 台	2 台	3 台
	携帯用電気ドリル	0.2～0.4kW	3 台	3 台	3 台	4 台
	携帯用電気サンダ	0.2～0.6kW	2 台	2 台	2 台	4 台
	携帯用ジグソー	0.2～0.6kW	2 台	2 台	2 台	2 台
	ディスクグラインダ		2 台	2 台	2 台	4 台
	エアレススプレ	ホット形又はコールド形	1 台	1 台	1 台	1 台
	赤外線乾燥スタンド	250W×12球	2 台	2 台	2 台	2 台
	管曲げ機	手動式	1 台	1 台	1 台	1 台
	万能折曲げ機	板厚1.6mm、長さ1,280mm	1 台	2 台	2 台	2 台
	エアタツカ	標準形	1 台	1 台	1 台	1 台
	ボード切断機	標準形	1 台	2 台	2 台	2 台
	プラスチック曲げ機	標準形	1 台	1 台	1 台	1 台
	ポリエステル研削盤	0.75kW、集じん機付き。	1 台	2 台	2 台	2 台
	交流アーク溶接機	12～35kVA(電撃防止器、安全ホルダー、ヘルメット、その他付属品を含む。)	1 台	1 台	1 台	1 台
	シート溶接機	0.6kW	1 台	1 台	1 台	1 台
卓上ボール盤	穴あけ能力13mm	1 台	2 台	2 台	2 台	
両頭グラインダ	といし車径200～300mm 集じん機付き。	1 台	2 台	2 台	2 台	

	工業用ミシン	TA形	2 台	3 台	2 台	3 台
	オーバーロックミシン		1 台	1 台	1 台	1 台
	床用研磨機	フリージングバケツ用	1 台	1 台	1 台	1 台
	マスヒータ	標準形	1 台	1 台	1 台	1 台
	モルタル用ミキサ	0.03～0.06m ³	1 台	1 台	1 台	1 台
	のこ刃研削盤	帯のこ、丸のこ兼用	1 台	1 台	1 台	1 台
	万能刃物研削盤	研削長さ600mm	1 台	1 台	1 台	1 台
	木材万能試験機	10 t	1 台	1 台	1 台	1 台
	塗膜折曲げ試験機	曲げ半径2～10mm	1 台	1 台	1 台	1 台
	乾燥時間測定機	標準形	1 台	1 台	1 台	1 台
	水分測定機	標準形	1 台	1 台	1 台	1 台
	パーソナルコンピュータ	本体、ディスプレイ、プリンタ等を含む。	3 台	4 台	3 台	4 台
	トランシット	標準形	1 台	1 台	1 台	1 台
	レベル	標準形	1 台	1 台	1 台	1 台
	のり付け機	自動式	1 台	1 台	1 台	1 台
	床材はがし機	0.4kW	1 台	1 台	1 式	1 台
	クロス断台機		1 台	1 台	1 台	1 台
	空気圧縮機	0.75～1.5kW	2 台	2 台	2 台	2 台
その他	(工具及び用具類)					
	作業用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数
	木工用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数
	塗装用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数
	床仕上げ用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数
	表具用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数
	(計測器類)					
	計測器類		必要数	必要数	必要数	必要数
	(製図用具類)					
	製図器及び製図用具類		必要数	必要数	必要数	必要数
	(教材類)					
	模型、掛図等		必要数	必要数	必要数	必要数

建築内装系表具科

種別	名称	摘要	高等学校卒業者等		中学校卒業者等	
			訓練単位 30人	訓練単位 50人	訓練単位 30人	訓練単位 50人
建物その他の 工作物	教室		60 m ²	100 m ²	60 m ²	100 m ²
	実習場		290 m ²	350 m ²	350 m ²	450 m ²
	工具室		13 m ²	20 m ²	20 m ²	25 m ²
	更衣室		15 m ²	22 m ²	25 m ²	38 m ²
	倉庫		50 m ²	80 m ²	80 m ²	100 m ²
	とぎ場	給・排水設備を含む。	1 式	1 式	1 式	1 式
	実習用和室		15 m ²	15 m ²	15 m ²	15 m ²
	実習用洋室		15 m ²	15 m ²	15 m ²	15 m ²
機械	万能木工機	安全自動送り装置付き。	1 台	1 台	1 台	1 台
	両頭研削盤	卓上形	1 台	2 台	1 台	2 台
	電気ドリル		1 台	1 台	1 台	1 台
	卓上ボール盤		1 台	2 台	1 台	2 台
	刃物研削盤		1 台	1 台	1 台	1 台
	電動サンダ		2 台	3 台	2 台	3 台
	留切り器		1 台	1 台	1 台	1 台
その他	(工具及び用具類)					
	作業用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数
	表具用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数
	(計測器類)					
	計測器類		必要数	必要数	必要数	必要数
	(製図用具類)					
	製図器及び製図用具類		必要数	必要数	必要数	必要数
	(教材類)					
模型、掛図等		必要数	必要数	必要数	必要数	

建築仕上系左官・タイル施工科

種別	名称	摘要	高等学校卒業業者等		中学校卒業業者等	
			訓練単位 30人	訓練単位 50人	訓練単位 30人	訓練単位 50人
			数量			
種別	名称	摘要	高等学校卒業業者等		中学校卒業業者等	
			30人を1訓練単位として訓練を行う場合	50人を1訓練単位として訓練を行う場合	30人を1訓練単位として訓練を行う場合	50人を1訓練単位として訓練を行う場合
建物その他の工作物	教室		60 ㎡	100 ㎡	60 ㎡	100 ㎡
	実習場		300 ㎡	430 ㎡	430 ㎡	530 ㎡
	工具室		7 ㎡	10 ㎡	15 ㎡	25 ㎡
	更衣室		15 ㎡	22 ㎡	25 ㎡	38 ㎡
	倉庫		50 ㎡	60 ㎡	60 ㎡	80 ㎡
	実習用模擬家屋	33～50㎡	1 式	1 式	1 式	1 式
機械	ミキサ	0.03～0.12㎡ モルタル、コンクリート、顔料及び土練用	5 台	6 台	7 台	8 台
	つや出し機	0.2～0.5kW	2 台	3 台	3 台	5 台
	人造石研磨機	0.75～3.7kW	1 台	2 台	2 台	3 台
	ランマ	重量50～60kg	1 台	2 台	2 台	2 台
	パイプレータ	振動部径25～30mm	1 台	2 台	2 台	2 台
	機械こて	床仕上げ用、壁仕上げ用	3 台	5 台	6 台	8 台
	砂ふるい機	標準形	2 台	3 台	3 台	3 台
	携帯用電気ドリル	0.2～0.4kW	2 台	3 台	3 台	3 台
	携帯用電気ハンマ	標準形	1 台	2 台	2 台	2 台
	携帯用電気ディスクサンダ	標準形	2 台	3 台	3 台	3 台
	携帯用電気丸のこ	標準形	1 台	2 台	2 台	2 台
	携帯用電気かんな	標準形	1 台	2 台	2 台	2 台
	携帯用電気サンダ	0.2～0.4kW	2 台	3 台	2 台	3 台
	携帯用グラインダ	0.2～0.6kW	1 台	1 台	1 台	1 台
	鉄筋切断機	標準形	1 台	1 台	1 台	1 台
	石材切断機	標準形	1 台	1 台	1 台	1 台
	シゲソー	0.2～0.7kW	1 台	1 台	1 台	1 台
	エアタッカ	標準形	1 台	2 台	2 台	3 台
	タイル切断機	標準形	2 台	3 台	3 台	3 台
	振動式タイル張り機	標準形	6 台	10 台	6 台	10 台
	万能木工機	安全装置付き。	1 台	1 台	1 台	1 台
	電気ドリル	コンクリート用	2 台	3 台	3 台	3 台
	トランシット	標準形	2 台	2 台	2 台	3 台
	レベル	標準形	2 台	2 台	2 台	3 台
	空気圧縮機	0.5～1.5kW	1 台	1 台	1 台	1 台
	ポンプ	0.75kW	1 台	1 台	1 台	1 台
	電動ウインチ	標準形	1 台	1 台	1 台	1 台
	両頭グラインダ	といし車径200～300mm 集じん機付き。	1 台	1 台	1 台	1 台
	熱風ヒータ	標準形	1 台	1 台	1 台	1 台
	運搬用小形自動車	1～2 t	1 台	1 台	1 台	1 台
	集じん機	可搬式	1 台	1 台	1 台	1 台
	その他	(工具及び用具類)				
作業用工具類			必要数	必要数	必要数	必要数
左官用工具類			必要数	必要数	必要数	必要数
タイル張り用工具類			必要数	必要数	必要数	必要数
(計測器類)						
計測器類			必要数	必要数	必要数	必要数
(製図用具類)						
製図器及び製図用具類			必要数	必要数	必要数	必要数
(教材類)						
掛図等		必要数	必要数	必要数	必要数	

建築仕上ブロック施工科

種別	名称	摘要	高等学校卒業者等		中学校卒業者等	
			訓練単位 30人	訓練単位 50人	訓練単位 30人	訓練単位 50人
建物その他の の工作物	教室		60 m ²	100 m ²	60 m ²	100 m ²
	実習場		335 m ²	440 m ²	440 m ²	550 m ²
	工具室		7 m ²	10 m ²	15 m ²	22 m ²
	更衣室		15 m ²	22 m ²	25 m ²	38 m ²
	倉庫		50 m ²	83 m ²	83 m ²	100 m ²
機械	コンクリートミキサ	0.06～0.12m ³	2 台	2 台	2 台	3 台
	モルタルミキサ	0.06～0.12m ³	2 台	2 台	2 台	3 台
	ランマ	重量50～60kg	2 台	2 台	2 台	2 台
	排水ポンプ	標準形	2 台	2 台	2 台	2 台
	交流アーク溶接機	12～35kVA(電撃防止器、安全ホルダー、ヘルメット、その他付属品を含む。)	2 台	2 台	2 台	3 台
	パイプレータ	振動部径25～28mm	1 台	2 台	2 台	2 台
	砂ふるい機	1.5kW	2 台	2 台	2 台	3 台
	鉄筋切断機	手動式、鉄筋径9～15mm	3 台	5 台	3 台	5 台
	ブロックカッタ	携帯用、標準形	3 台	5 台	3 台	5 台
	携帯用石材切断機		2 台	2 台	2 台	2 台
	単管切断機	切断と石径305mm	1 台	1 台	1 台	1 台
	鉄筋曲げ機	曲げ能力径25mm	1 台	1 台	1 台	1 台
	敷石切断機	切断幅350mm、切断深さ80mm	1 台	1 台	1 台	1 台
	タイル切断機	切断長さ150mm	1 台	1 台	1 台	1 台
	携帯用電気攪拌機		1 台	1 台	1 台	1 台
	携帯用コンクリートドリル	径200mm	1 台	1 台	1 台	1 台
	電動ジグソー	0.2～0.5kW	1 台	1 台	1 台	1 台
	万能木工機	安全自動送り装置付き。	1 台	1 台	1 台	1 台
	携帯用電気かんな	0.4kW	1 台	2 台	2 台	2 台
	携帯用電気丸のこ	0.4～0.6kW	2 台	2 台	2 台	2 台
	携帯用電気ハンマドリル	0.4～0.6kW	2 台	2 台	2 台	2 台
	携帯用電気ドリル	0.2～0.4kW	2 台	2 台	2 台	3 台
	携帯用電気ハンマ	0.5～1.2kW	1 台	2 台	2 台	2 台
	両頭グラインダ	といし車径200～300mm 集じん機付き。	1 台	2 台	2 台	2 台
	トランシット	標準形	2 台	3 台	3 台	3 台
	レベル	標準形	2 台	3 台	3 台	3 台
	集じん機	木工機械用	1 台	1 台	1 台	1 台
	ディスクグラインダー		1 台	2 台	2 台	3 台
	コンクリート強度試験機	150～600kg/cm ²	1 台	1 台	1 台	1 台
空気圧縮機	0.75～1.5kW	1 台	1 台	1 台	1 台	
シヨベル	各種アタッチメント付き、3 t未満	1 台	1 台	1 台	1 台	
小型ローラ	エンジン付き。700kg～1 t	1 台	1 台	1 台	1 台	
運搬用小形自動車	1～2 t	1 台	1 台	1 台	1 台	
その他	(工具及び用具類)					
	作業用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数
	コンクリートブロック施工用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数
	測量用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数
	(製図用具類)					
	製図器及び製図用具類		必要数	必要数	必要数	必要数
	(教材類)					
掛図等		必要数	必要数	必要数	必要数	

設備施工系冷凍空調設備科

種別	名称	摘要	高等学校卒業業者等		中学校卒業業者等	
			訓練単位 30人	訓練単位 50人	訓練単位 30人	訓練単位 50人
建物その他の 工作物	教室		60 m ²	100 m ²	60 m ²	100 m ²
	実習場		610 m ²	660 m ²	670 m ²	830 m ²
	実験室	コールドレフュザ付き。	17 m ²	25 m ²	17 m ²	25 m ²
	工具室		10 m ²	17 m ²	20 m ²	25 m ²
	更衣室		15 m ²	22 m ²	25 m ²	38 m ²
	倉庫		17 m ²	23 m ²	23 m ²	30 m ²
	危険物貯蔵倉庫	消防法の条件を備えること。	7 m ²	7 m ²	7 m ²	7 m ²
	貯水装置	給・排水設備を含む。	1 式	1 式	1 式	1 式
	往復動式冷凍装置	5JRTコンデンシングユニット	1 式	1 式	1 式	1 式
	遠心式冷凍装置	80～100JRT	1 式	1 式	1 式	1 式
	吸収式冷凍装置	40～100JRT	1 式	1 式	1 式	1 式
	冷水式冷房装置	20～40JRT	1 式	1 式	1 式	1 式
	スクリュ式圧縮冷凍実験装置	パネル展開式	1 式	1 式	1 式	1 式
	冷凍空調実験装置	パネル展開式	1 式	1 式	1 式	1 式
	ソーラー装置	補器、蓄熱そう、ポンプ等を含む。	1 式	1 式	1 式	1 式
	デフロスト装置	冷蔵庫及び冷凍機用	1 式	1 式	1 式	1 式
冷却塔	付属品付き。	1 式	1 式	1 式	1 式	
機械	往復動式冷凍機	教材用、補器を含む。	6 台	10 台	6 台	10 台
	遠心式冷凍機	教材用、補器を含む。	1 台	2 台	2 台	4 台
	吸収式冷凍機	教材用、補器を含む。	1 台	2 台	2 台	4 台
	スクリュ式冷凍機	教材用、補器を含む。	2 台	3 台	2 台	4 台
	チラーユニット	教材用、補器を含む。	2 台	3 台	2 台	4 台
	ファンコイルユニット	6,000～12,000kcal/h	5 台	8 台	5 台	8 台
	スクリュ式圧縮機	コンデンサ付き。	2 台	3 台	4 台	6 台
	パッケージ形空気調和機	0.4～5.5kW	3 台	5 台	6 台	10 台
	セパレート形空気調和機	0.4～1 kW	3 台	5 台	6 台	10 台
	ウインド形空気調和機	0.4～1 kW	3 台	5 台	3 台	5 台
	冷凍ショーケース	教材用	1 台	2 台	2 台	4 台
	アイスメーカー	教材用	1 台	2 台	2 台	4 台
	冷凍コンテナ	教材用	1 台	2 台	2 台	4 台
	温風暖房機	30,000～100,000kcal/h	2 台	3 台	4 台	6 台
	温水暖房機	50,000kcal/h	2 台	3 台	4 台	6 台
	送風機	電動機付き。	1 台	1 台	1 台	1 台
	冷媒回収機	ポータブルタイプ(冷凍空調全般対応)	3 台	5 台	3 台	5 台
	部品洗浄機	0.2kW	1 台	1 台	1 台	1 台
	交流アーク溶接機	12～30kVA(電撃防止器、安全ホルダー、ヘルメット、その他付属品を含む。)	5 台	8 台	6 台	10 台
	ホットジェット溶接機	圧力0.25～0.4kg/cm ²	1 台	2 台	1 台	2 台
	溶接棒乾燥機	乾燥量50～100kg	1 台	1 台	1 台	1 台
	足踏みシヤール	切断長さ1,000mm	1 台	1 台	1 台	1 台
	はげ折り機	標準形	1 台	1 台	1 台	1 台
	管ねじ切り機	管径15～60mm	6 台	10 台	10 台	15 台
	管切断機	標準形	1 台	2 台	2 台	4 台
	卓上ボール盤	穴あけ能力13mm	2 台	3 台	3 台	4 台
	両頭グラインダ	といし車径200～300mm 集じん機付き。	2 台	3 台	2 台	3 台
	ポータブルグラインダ	0.2～0.4kW	2 台	3 台	2 台	3 台
	電気ドリル	0.2～0.4kW	2 台	3 台	3 台	5 台
	携帯用電気振動ドリル	0.4～0.6kW	2 台	3 台	2 台	3 台
	電気ハンマドリル	打撃回数2,800～3,000rpm	2 台	3 台	2 台	3 台
	高速度といし切断機	1.5～3.7kW	1 台	1 台	1 台	1 台
	冷凍空調故障診断シミュレーター		1 台	1 台	1 台	1 台

	実験用電動機		2 台	3 台	2 台	3 台
	スライダック		2 台	3 台	2 台	3 台
	電気集じん機		1 台	1 台	1 台	1 台
	空気圧縮機	3.75kW	1 台	2 台	1 台	2 台
	ポンプ	0.75～1.5kW	1 台	1 台	1 台	1 台
	移動式クレーン	油圧式2 t	1 台	1 台	1 台	1 台
	フロンガス回収機		1 台	1 台	1 台	1 台
	パーソナルコンピュータ	本体、ディスプレイ、プリンタ等を含む。	2 台	3 台	2 台	3 台
その他	(工具及び用具類)					
	作業用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数
	管工作用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数
	溶接用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数
	冷凍空気調和機用特殊工具類		必要数	必要数	必要数	必要数
	(計測器類)					
	計測器類		必要数	必要数	必要数	必要数
	(製図用具類)					
	製図器及び製図用具類		必要数	必要数	必要数	必要数
	(教材類)					
模型、掛図等		必要数	必要数	必要数	必要数	

設備施工系配管科

種別	名称	摘要	高等学校卒業者等		中学校卒業者等	
			訓練単位 30人	訓練単位 50人	訓練単位 30人	訓練単位 50人
建物その他の 工作物	教室		60 m ²	100 m ²	60 m ²	100 m ²
	実習場		460 m ²	610 m ²	610 m ²	810 m ²
	実験室		33 m ²	33 m ²	33 m ²	33 m ²
	工具室		13 m ²	20 m ²	33 m ²	50 m ²
	更衣室		15 m ²	22 m ²	25 m ²	38 m ²
	倉庫		33 m ²	50 m ²	50 m ²	65 m ²
	ガス集合装置室		7 m ²	7 m ²	7 m ²	7 m ²
	危険物貯蔵倉庫	消防法の条件を備えること。	7 m ²	7 m ²	7 m ²	7 m ²
	ガス集合装置	安全装置付き。	1 式	1 式	1 式	1 式
	局所排気装置	鉛工作業及び溶接作業用(フード、ダクト、サイクロン、ファン、モータ等を含む。)	2 式	2 式	2 式	2 式
	モノレール	2～3 tホイスト付き。	1 式	1 式	1 式	1 式
	実習用模擬家屋	30m ³	1 式	1 式	1 式	1 式
	冷却塔	3.75kW、循環ポンプ付き。	1 式	1 式	1 式	1 式
	貯水装置	給・排水設備を含む。	1 式	1 式	1 式	1 式
	冷凍装置	往復動式又は遠心式教材用、補器を含む。	1 式	1 式	1 式	1 式
	空気調和装置	教材用、補器を含む。	1 式	1 式	1 式	1 式
	蒸気ボイラー装置	蒸気ボイラー又は温水ボイラー	1 式	1 式	1 式	1 式
	温風暖房装置	250,000kcal/h	1 式	1 式	1 式	1 式
	温水暖房装置	50,000kcal/h	1 式	1 式	1 式	1 式
	ソーラシステム装置	蓄熱そう、集熱器等を含む。	1 式	1 式	1 式	1 式
冷凍空調実験装置	パネル展開式	1 式	1 式	1 式	1 式	

機械	油圧管曲げ機	手動式、曲げ可能径60mm	2台	3台	3台	5台
	管穴あけ機	穴あけ能力30mm	2台	3台	4台	6台
	管ねじ切り機	管径10～100mm	8台	8台	10台	10台
	ポリエチレン管接合機	半自動式	1台	1台	1台	1台
	交流アーク溶接機	12～30kVA(電撃防止器、安全ホルダー、ヘルメット、その他付属品を含む)。	3台	5台	3台	5台
	アルゴンアーク溶接機	20kVA	1台	1台	1台	1台
	ホットジェット溶接機	圧力0.25～0.4kg/cm ²	3台	5台	6台	10台
	溶接棒乾燥機	乾燥容量50～100kg	1台	1台	1台	1台
	コンクリートカッタ	180mm	1台	1台	1台	1台
	高速度といし切断機	切断可能径100mm	1台	1台	1台	1台
	スケヤシャー	切断長さ1,200～2,000mm	1台	1台	1台	1台
	ハンドシャー	切断長さ200～300mm	1台	1台	1台	1台
	曲げロール	曲げ長さ1,000mm	1台	1台	1台	1台
	普通旋盤	心間距離500～800mm	1台	1台	1台	1台
	直立ボール盤	振り400～550mm	1台	1台	1台	1台
	卓上ボール盤	穴あけ能力13mm	2台	3台	3台	5台
	金切りのご盤	弓のこ又は帯のこ	1台	1台	1台	1台
	携帯用バンドソー	0.2～0.4kW	2台	3台	4台	6台
	両頭グラインダ	といし車径200～300mm 集じん機付き。	2台	3台	3台	5台
	アングルグラインダ	0.2～0.4kW	2台	3台	3台	5台
	携帯用電気振動ドリル	0.4～0.6kW	2台	3台	2台	3台
	電気ドリル	0.2～0.4kW	3台	5台	3台	5台
	鉄管探知機	標準形	1台	1台	2台	2台
	漏水探知機	標準形	1台	1台	1台	1台
	空気圧縮機	2.2～3.7kW	1台	1台	1台	1台
	水圧ポンプ	50kg/cm ²	2台	3台	2台	3台
	ポンプ	0.75～1.5kW	1台	1台	1台	1台
	パーソナルコンピュータ	本体、ディスプレイ、プリンタ等を含む。	2台	3台	2台	3台
	その他	(工具及び用具類)				
		作業用工具類		必要数	必要数	必要数
管工作用工具類			必要数	必要数	必要数	
溶接用工具類			必要数	必要数	必要数	
(計測器類)						
計測器類			必要数	必要数	必要数	
(製図用具類)						
製図機及び製図用具類			必要数	必要数	必要数	
(教材類)			必要数	必要数	必要数	
温度色別表、模型、掛図等		必要数	必要数	必要数		

設備施工系住宅設備機器科

種別	名称	摘要	高等学校卒業者等		中学校卒業者等	
			訓練単位 30人	訓練単位 50人	訓練単位 30人	訓練単位 50人
建物その他の の工作物	教室		60 m ²	100 m ²	60 m ²	100 m ²
	実習場		460 m ²	610 m ²	610 m ²	810 m ²
	実験室		33 m ²	33 m ²	33 m ²	33 m ²
	工具室		13 m ²	20 m ²	33 m ²	50 m ²
	更衣室		15 m ²	22 m ²	25 m ²	38 m ²
	倉庫		33 m ²	50 m ²	50 m ²	65 m ²
	ガス集合装置室		7 m ²	7 m ²	7 m ²	7 m ²
	危険物貯蔵倉庫	消防法の条件を備えること。	7 m ²	7 m ²	7 m ²	7 m ²
	ガス集合装置	安全装置付き。	1 式	1 式	1 式	1 式
	局所排気装置	鉛作業及び溶接作業用(フード、ダクト、サイクロン、ファン、モータ等を含む。)	2 式	2 式	2 式	2 式
	モノレール	2~3 tホスト付き。	1 式	1 式	1 式	1 式
	実習用模擬家屋	30m ³	1 式	1 式	1 式	1 式
	風呂設備	一般家庭用	1 式	1 式	1 式	1 式
	トイレ設備	一般家庭用	1 式	1 式	1 式	1 式
	衛生給排水設備		1 式	1 式	1 式	1 式
	給湯装置		1 式	1 式	1 式	1 式
	換気設備		1 式	1 式	1 式	1 式
	冷却塔	3.75kW、循環ポンプ付き。	1 式	1 式	1 式	1 式
	貯水装置	給・排水設備を含む。	1 式	1 式	1 式	1 式
	冷凍装置	往復動式又は遠心式教材用、補器を含む。	1 式	1 式	1 式	1 式
	空気調和装置	教材用、補器を含む。	1 式	1 式	1 式	1 式
	蒸気ボイラー装置	蒸気ボイラー又は温水ボイラー	1 式	1 式	1 式	1 式
	温風暖房装置	250,000kcal/h	1 式	1 式	1 式	1 式
	温水暖房装置	50,000kcal/h	1 式	1 式	1 式	1 式
	ソーラシステム装置	蓄熱そう、集熱器等を含む。	1 式	1 式	1 式	1 式
	冷凍空調実験装置	パネル展開式	1 式	1 式	1 式	1 式
	機械	油圧管曲げ機	手動式、曲げ可能径60mm	1 台	2 台	2 台
管穴あけ機		穴あけ能力30mm	1 台	2 台	3 台	4 台
管ねじ切り機		管径10~100mm	5 台	5 台	7 台	7 台
ポリエチレン管接合機		半自動式	1 台	1 台	1 台	1 台
交流アーク溶接機		12~30kVA(電撃防止器、安全ホルダー、ヘルメット、その他付属品を含む。)	2 台	3 台	2 台	3 台
アルゴンアーク溶接機		20kVA	1 台	1 台	1 台	1 台
ホットジェット溶接機		圧力0.25~0.4kg/cm ²	2 台	3 台	4 台	7 台
溶接棒乾燥機		乾燥量50~100kg	1 台	1 台	1 台	1 台
コンクリートカッタ		180mm	1 台	1 台	1 台	1 台
高速度といし切断機		切断可能径100mm	1 台	1 台	1 台	1 台
スケヤシャー		切断長さ1,200~2,000mm	1 台	1 台	1 台	1 台
ハンドシャー		切断長さ200~300mm	1 台	1 台	1 台	1 台
曲げロール		曲げ長さ1,000mm	1 台	1 台	1 台	1 台
普通旋盤		心間距離500~800mm	1 台	1 台	1 台	1 台
直立ボール盤		振り400~550mm	1 台	1 台	1 台	1 台
卓上ボール盤		穴あけ能力13mm	1 台	2 台	2 台	3 台
金切りのご盤		弓のご又は帯のご	1 台	1 台	1 台	1 台
携帯用バンドソー		0.2~0.4kW	2 台	3 台	4 台	6 台
両頭グラインダ		といし車径200~300mm 集じん機付き。	1 台	2 台	2 台	3 台
アングルグラインダ		0.2~0.4kW	2 台	3 台	3 台	5 台
携帯用電気振動ドリル		0.4~0.6kW	1 台	1 台	2 台	2 台
電気ドリル		0.2~0.4kW、コンクリート用を含む。	4 台	6 台	4 台	6 台
鉄管探知機		標準形	1 台	1 台	2 台	2 台
漏水探知機		標準形	1 台	1 台	1 台	1 台
空気圧縮機		2.2~3.7kW	1 台	1 台	1 台	1 台
水圧ポンプ		50kg/cm ²	1 台	2 台	1 台	2 台
ポンプ		0.75~1.5kW	1 台	1 台	1 台	1 台

	タイル切断機	切断長さ150mm	1 台	1 台	1 台	1 台
	振動式タイル張り機		1 台	1 台	1 台	1 台
	トランシット	標準形	1 台	1 台	1 台	1 台
	レベル	標準形	1 台	1 台	1 台	1 台
	万能木工機	安全装置付き。	1 台	1 台	1 台	1 台
	電気ハンマ	標準形	1 台	1 台	1 台	1 台
	タイル接着力試験機	標準形	1 台	1 台	1 台	1 台
	電気窯	酸化還元付き。	1 台	1 台	1 台	1 台
	掃除機		1 台	1 台	1 台	1 台
	冷凍機シミュレータ		1 台	1 台	1 台	1 台
	ボイラーシミュレータ		1 台	1 台	1 台	1 台
	電動弁セット		1 台	2 台	1 台	2 台
	シーケンストレーナー		1 台	2 台	2 台	3 台
	自動火災報知機		1 台	1 台	1 台	1 台
	オイルバーナ	ボイラー用	1 台	1 台	1 台	1 台
	電動機	3種	3 台	3 台	3 台	3 台
	分電盤		1 台	1 台	1 台	1 台
	制御盤		1 台	1 台	1 台	1 台
	ディスクサンダ	0.2~0.4kW	1 台	1 台	2 台	2 台
	空気調和機		1 台	1 台	1 台	2 台
	ファンコイルユニット		1 台	1 台	1 台	2 台
	パイプクリーナ	各種	6 台	8 台	6 台	8 台
	高圧洗浄機		1 台	1 台	1 台	1 台
	変圧器		1 台	1 台	1 台	1 台
	ハンドトラック	500kg	1 台	1 台	1 台	1 台
	ハンドリフト		1 台	1 台	1 台	1 台
	パーソナルコンピュータ	本体、ディスプレイ、プリンタ等を含む。	2 台	3 台	2 台	3 台
その他	(工具及び用具類)					
	作業用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数
	管工作用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数
	タイル張り用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数
	(計測器類)					
	計測器類		必要数	必要数	必要数	必要数
	(製図用具類)					
	製図機及び製図用具類		必要数	必要数	必要数	必要数
	(教材類)					
模型、掛図等		必要数	必要数	必要数	必要数	

土木系土木施工科

種別	名称	摘要	高等学校卒業業者等		中学校卒業業者等	
			訓練単位 30人	訓練単位 50人	訓練単位 30人	訓練単位 50人
建物その他の の工作物	教室		60 m ²	100 m ²	60 m ²	100 m ²
	実習場		210 m ²	310 m ²	310 m ²	410 m ²
	工具室		7 m ²	10 m ²	15 m ²	25 m ²
	更衣室		15 m ²	22 m ²	25 m ²	38 m ²
	倉庫		20 m ²	30 m ²	30 m ²	40 m ²
	屋外実習場		10,000 m ²	15,000 m ²	15,000 m ²	20,000 m ²
	機械格納庫		130 m ²	150 m ²	150 m ²	200 m ²
	危険物貯蔵倉庫	消防法の条件を備えること。	5 m ²	7 m ²	7 m ²	7 m ²
	モノレール	2～3 tホイスト付き。	1 式	1 式	1 式	1 式
	検車設備	ピット、検車台又はオートリフト。	1 式	1 式	1 式	1 式
洗車設備	給・排水設備を含む。	1 式	1 式	1 式	1 式	
機械	ブルドーザ	7～11 t	2 台	3 台	3 台	4 台
	グレーダ	7～8 t	1 台	1 台	1 台	1 台
	トラクタショベル	7～11 t	1 台	1 台	1 台	1 台
	ショベル	各種アタッチメント付き。	1 台	1 台	1 台	1 台
	ロードローラ	4～8 t	1 台	2 台	2 台	2 台
	ダンプトラック	4 t	1 台	1 台	1 台	1 台
	ランマ	てん圧力6～7 t	3 台	5 台	5 台	5 台
	ソイルコンパクタ	小形、振動板700×600mm	1 台	1 台	2 台	2 台
	鉄筋切断機	手動式、鉄筋径15mm	1 台	2 台	2 台	2 台
	コンクリートミキサ	0.2～0.3m ³	1 台	2 台	2 台	2 台
	ベルトコンベア	7m×550mm	1 台	1 台	2 台	2 台
	パイプレータ	振動部径25×28mm	1 台	2 台	2 台	2 台
	トランシット	標準形	10 台	15 台	20 台	30 台
	レベル	標準形	10 台	15 台	20 台	30 台
	平板測量器	中測板、アリダードの曲率半径1.0～1.5m	10 台	15 台	15 台	25 台
	油圧ジャッキ	10～20 t	1 台	1 台	1 台	1 台
	発電機	携帯用	1 台	1 台	1 台	1 台
	充電器	シリコン	1 台	1 台	1 台	1 台
	空気圧縮機	3.7～7.5kW	1 台	2 台	2 台	2 台
	万能試験機	100 t	1 台	1 台	1 台	1 台
光波測距儀	3 km	1 台	1 台	1 台	1 台	
自動製図機械(CAD)	2次元	2 台	3 台	2 台	3 台	
その他	(工具及び用具類)					
	作業用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数
	測量用器具類 (計測器類)		必要数	必要数	必要数	必要数
	計測器類 (製図用具類)		必要数	必要数	必要数	必要数
	製図器及び製図用具 類		必要数	必要数	必要数	必要数
	(教材類)					
	模型、掛図等		必要数	必要数	必要数	必要数

土木系測量・設計科

種別	名称	摘要	高等学校卒業業者等		中学校卒業業者等	
			訓練単位 30人	訓練単位 50人	訓練単位 30人	訓練単位 50人
建物その他の の工作物	教室		60 ㎡	100 ㎡	60 ㎡	100 ㎡
	製図室		120 ㎡	200 ㎡	120 ㎡	200 ㎡
	図化機室		15 ㎡	15 ㎡	15 ㎡	15 ㎡
	更衣室		15 ㎡	22 ㎡	25 ㎡	38 ㎡
	倉庫		20 ㎡	33 ㎡	33 ㎡	50 ㎡
機械	トランシット	標準形	10 台	17 台	20 台	34 台
	レベル	標準形、レーザレベルを含む。	15 台	25 台	20 台	34 台
	平板測量器	中測板、アリダードの曲率半径1.0~1.5m	10 台	17 台	20 台	34 台
	望遠鏡付きアリダード	望遠鏡全長200mm、倍率18倍、光波アリダードを含む。	10 台	17 台	20 台	34 台
	精密セオドライト	1 秒読み	6 台	10 台	6 台	10 台
	精密水準機	有効径45mm、倍率40倍	6 台	10 台	6 台	10 台
	光波測距儀	測距範囲 3km	3 台	5 台	3 台	5 台
	座標展開儀	1/300、1/500、1/1,000	3 台	5 台	5 台	8 台
	図化機	1 級又は 2 級	1 台	1 台	1 台	1 台
	自動製図機械 (CAD)	2次元、パーソナルコンピュータを含む。	15 台	25 台	15 台	25 台
	複写機	A 2 判	1 台	1 台	1 台	1 台
	ジアソ複写機	A 1 判	1 台	1 台	1 台	1 台
	その他	(工具及び用具類)				
器工具類			必要数	必要数	必要数	必要数
測量用器具類			必要数	必要数	必要数	必要数
(計測器類)						
計測器類			必要数	必要数	必要数	必要数
(製図用具類)						
製図器及び製図用具 類			必要数	必要数	必要数	必要数
(教材類)						
模型、掛図等		必要数	必要数	必要数	必要数	

※以下の訓練科には設備基準の細目が設定されていない。

分野	訓練系	訓練科
建築・土木	建築外装系	屋根施工科
		スレート施工科
		建築板金科
		防水加工科
	建築内装系	畳科
		床仕上施工科
	建築仕上系	築炉科
		熱絶縁施工科
	土木系	さく井科

5. 各訓練科の現行の「技能照査の基準の細目表」
(普通課程)

技能照査の基準の細目

訓練科		建築施工系木造建築科	
		学科	実技
系基礎	1 建築物の歴史、役割について知っていること。	系基礎	1 各種測量法により測量ができること。
	2 建築工程について知っていること。		2 OA機器操作ができること。
	3 建築計画について知っていること。		3 測量器具の取扱い及び調整ができること。
	4 建築構造とその特性について知っていること。		
	5 建築設備について知っていること。		
	6 建築製図について知っていること。		
	7 仕様及び積算について知っていること。		
	8 構造力学の基礎について知っていること。		
	9 関係法規について知っていること。		
	10 安全衛生について知っていること。		
専攻	1 各種の仕口、継ぎ手及び造作についてよく知っていること。	専攻	1 木材加工用器工具の取扱いがよくできること。
	2 断熱、防腐及び防音について知っていること。		2 木工機械、携帯用電動工具の取扱いがよくできること。
	3 建築用材料について知っていること。		3 仕口及び継ぎ手の工作ができること。
	4 規く術について知っていること。		4 木造建築物の製作ができること。
			5 各種造作及び仕上げができること。
			6 木造軸組及び木造小屋組ができること。

技能照査の基準の細目

訓練科		建築施工系枠組壁建築科	
		学科	実技
系基礎	1 建築物の歴史、役割について知っていること。	系基礎	1 各種測量法による測量ができること。
	2 建築工程について知っていること。		2 OA機器操作ができること。
	3 建築計画について知っていること。		3 測量器具の取扱い及び調整ができること。
	4 建築構造とその特性について知っていること。		
	5 建築設備について知っていること。		
	6 建築製図について知っていること。		
	7 仕様及び積算について知っていること。		
	8 構造力学の基礎について知っていること。		
	9 関係法規について知っていること。		
	10 安全衛生について知っていること。		
専攻	1 躯体の構成についてよく知っていること。	専攻	1 器工具の取扱いができること。
	2 工法の特性についてよく知っていること。		2 木工用機械、携帯用電動工具の取扱いができること。
	3 施工法についてよく知っていること。		3 各部材の組立てがよくできること。
	4 建築用材料についてよく知っていること。		4 枠組壁建築物の製作がよくできること。
	5 規く術について知っていること。		

技能照査の基準の細目

訓練科		建築施工系とび科			
		学科	実技		
系基礎	1	建築物の歴史、役割について知っていること。	系基礎	1	各種測量法による測量ができること。
	2	建築工程について知っていること。		2	OA機器操作ができること。
	3	建築計画について知っていること。		3	測量器具の取扱い及び調整ができること。
	4	建築構造とその特性について知っていること。			
	5	建築設備について知っていること。			
	6	建築製図について知っていること。			
	7	仕様及び積算について知っていること。			
	8	構造力学の基礎について知っていること。			
	9	関係法規について知っていること。			
	10	安全衛生について知っていること。			
専攻	1	器工具、工所用機械の種類及び取扱いについて知っていること。	専攻	1	やりかた、型枠製作ができること。
	2	仮設の建築物及び設備について知っていること。		2	木造軸組み、鉄骨軸組みがよくなること。
	3	仮設物の組立て、解体について知っていること。		3	玉掛け、揚重及び運搬ができること。
	4	建設工事用の機械及び設備の組立て及び解体の方法についてよく知っていること。		4	仮設物及び足場の組立て及び解体ができること。
	5	建設工事の施工法について知っていること。		5	工所用器工具の取扱いができること。
	6	建設工事の現場における重量物の運搬方法について知っていること。		6	木造、鉄骨軸組み施工がよくなること。
	7	とび工事の施工図について知っていること。		7	鉄骨の組立及びPC板の取付けがよくなること。
	8	とび工事に使用する材料の種類、性質及び用途について知っていること。		8	仮設の建築物及び設備の組立て並びに解体がよくなること。
	9	建築物の軸部の組立ての方法についてよく知っていること。		9	命綱の使用ができること。
	10	力学について知っていること。			
	11	墨出しについて知っていること。			

技能照査の基準の細目

訓練科		建築施工系鉄筋コンクリート施工科			
		学科	実技		
系基礎	1	建築物の歴史、役割について知っていること。	系基礎	1	各種測量法による測量ができること。
	2	建築工程について知っていること。		2	OA機器操作ができること。
	3	建築計画について知っていること。		3	測量器具の取扱い及び調整ができること。
	4	建築構造とその特性について知っていること。			
	5	建築設備について知っていること。			
	6	建築製図について知っていること。			
	7	仕様及び積算について知っていること。			
	8	構造力学の基礎について知っていること。			
	9	関係法規について知っていること。			
	10	安全衛生について知っていること。			
専攻	1	鉄筋の加工及び組立てについてよく知っていること。	専攻	1	墨出しがよくなること。
	2	鉄筋の拾い出しについてよく知っていること。		2	器工具の取扱いができること。
	3	コンクリート品質、打設及び養生についてよく知っていること。		3	鉄筋の組立てができること。
	4	木工用及び鉄筋加工用機械並びに器工具の種類、構造及び使用法についてよく知っていること。		4	ガス溶接、アーク溶接ができること。
	5	建設用材料の種類、性質及び用途についてよく知っていること。		5	建築物躯体施工ができること。
	6	施工図についてよく知っていること。		6	鉄筋の加工及び組立てができること。
			7	コンクリート打設ができること。	
			8	PC部材の製作ができること。	

技能照査の基準の細目

訓練科		建築施工系プレハブ建築科	
学科		実技	
系基礎	<ol style="list-style-type: none"> 1 建築物の歴史、役割について知っていること。 2 建築工程について知っていること。 3 建築計画について知っていること。 4 建築構造とその特性について知っていること。 5 建築設備について知っていること。 6 建築製図について知っていること。 7 仕様及び積算について知っていること。 8 構造力学の基礎について知っていること。 9 関係法規について知っていること。 10 安全衛生について知っていること。 	系基礎	<ol style="list-style-type: none"> 1 各種測量法による測量ができること。 2 OA機器操作ができること。 3 測量器具の取扱い及び調整ができること。
	<ol style="list-style-type: none"> 1 木質系、鉄鋼系及びコンクリート系の特性、構造、組立て方法及び造作についてよく知っていること。 2 建築用材料について知っていること。 		<ol style="list-style-type: none"> 1 木質系の組立てがよくできること。 2 鉄骨系の組立てがよくできること。 3 鉄筋コンクリート系の組立がよくできること。 4 読図ができること。 5 プレハブ建築用各種機械、携帯用電動工具の取扱いができること。 6 プレハブ建築物の製作がよくできること。
専攻		専攻	

技能照査の基準の細目

訓練科		建築施工系建築設計科	
学科		実技	
系基礎	<ol style="list-style-type: none"> 1 建築物の歴史、役割について知っていること。 2 建築工程について知っていること。 3 建築計画について知っていること。 4 建築構造とその特性について知っていること。 5 建築設備について知っていること。 6 建築製図について知っていること。 7 仕様及び積算について知っていること。 8 構造力学の基礎について知っていること。 9 関係法規について知っていること。 10 安全衛生について知っていること。 	系基礎	<ol style="list-style-type: none"> 1 各種測量法による測量ができること。 2 OA機器操作ができること。 3 測量器具の取扱い及び調整ができること。
	<ol style="list-style-type: none"> 1 意匠、構造、設備計画について知っていること。 2 構造力学についてよく知っていること。 3 透視図について知っていること。 4 各種の建築法による建築についてよく知っていること。 5 建築工程の詳細について知っていること。 		<ol style="list-style-type: none"> 1 各種建築図面のトレースがよくできること。 2 建築物のデザインができること。 3 各種建築図面の設計、製図がよくできること。
専攻		専攻	

技能照査の基準の細目

訓練科		建築外装系屋根施工科			
		学科	実技		
系基礎	1	建築計画について知っていること。	系基礎	1	各種方式による測量ができること。
	2	建築構造について知っていること。		2	建築外装用機械の操作ができること。
	3	建築設備について知っていること。		3	足場施工ができること。
	4	測定について知っていること。		4	安全作業、衛生作業ができること。
	5	製図について知っていること。			
	6	関係法規について知っていること。			
	7	安全衛生についてよく知っていること			
専攻	1	材料の種類、性質及び用途についてよく知っていること。	専攻	1	屋根ふき用器工具の取扱いがよくできること。
	2	屋根ふき用器工具の種類及び使用法についてよく知っていること。		2	屋根施工の段取りができること。
	3	割付けについて知っていること。		3	屋根下地及び下ごしらえ作業ができること。
	4	屋根下地及び下ごしらえについて知っていること。		4	割付け及び水系張りができること。
	5	屋根ふきの施工法についてよく知っていること。		5	屋根施工がよくできること。
	6	屋根ふき用補助材料の種類、性質及び用途についてよく知っていること。		6	養生作業ができること。
	7	仕様及び積算について知っていること。			

技能照査の基準の細目

訓練科		建築外装系建築板金科			
		学科	実技		
系基礎	1	建築計画について知っていること。	系基礎	1	各種方式による測量ができること。
	2	建築構造について知っていること。		2	建築外装用機械の操作ができること。
	3	建築設備について知っていること。		3	足場施工ができること。
	4	測定について知っていること。		4	安全作業、衛生作業ができること。
	5	製図について知っていること。			
	6	関係法規について知っていること。			
	7	安全衛生についてよく知っていること。			
専攻	1	材料の種類、性質及び用途についてよく知っていること。	専攻	1	板金用機械及び器工具の取扱いがよくできること。
	2	板金用機械及び器工具の種類、構造及び使用法についてよく知っていること。		2	板金の加工がよくできること。
	3	展開図によるけがき及び板取りについて知っていること。		3	板金施工の段取りができること。
	4	板金の加工についてよく知っていること。		4	板金施工がよくできること。
	5	板金の施工法についてよく知っていること。		5	養生作業ができること。
	6	仕様及び積算についてよく知っていること。			

技能照査の基準の細目

訓練科		建築外装系防水施工科	
学科		実技	
系基礎	1 建築計画について知っていること。	系基礎	1 各種方式による測量ができること。
	2 建築構造について知っていること。		2 建築外装用機械の操作ができること。
	3 建築設備について知っていること。		3 足場施工ができること。
	4 測定について知っていること。		4 安全作業、衛生作業ができること。
	5 製図について知っていること。		
	6 関係法規について知っていること。		
	7 安全衛生についてよく知っていること。		
専攻	1 防水施工用機械及び器工具の種類、構造及び使用法についてよく知っていること。	専攻	1 防水施工用器工具及び機械の取扱いがよくできること。
	2 防水下地についてよく知っていること。		2 防水工事の作業段取りができること。
	3 防水工事における養生についてよく知っていること。		3 下地工作ができること。
	4 防水工事の種類及び特徴について知っていること。		4 墨出しができること。
	5 防水工事の施工法について知っていること。		5 防水作業がよくできること。
	6 防水材料の種類、性質及び用途についてよく知っていること。		6 養生作業ができること。
	7 墨出しについてよく知っていること。		
	8 建築設備について知っていること。		
	9 仕様及び積算について知っていること。		

技能照査の基準の細目

訓練科		建築外装系サッシ・ガラス施工科	
学科		実技	
系基礎	1 建築計画について知っていること。	系基礎	1 各種方式による測量ができること。
	2 建築構造について知っていること。		2 建築外装用機械の操作ができること。
	3 建築設備について知っていること。		3 足場施工ができること。
	4 測定について知っていること。		4 安全作業、衛生作業ができること。
	5 製図について知っていること。		
	6 関係法規について知っていること。		
	7 安全衛生についてよく知っていること。		
専攻	1 サッシ及びガラス工事の施工法についてよく知っていること。	専攻	1 サッシ及びガラス施工用機械並びに器工具の取扱いがよくできること。
	2 金属製建具及びカーテンウォール工事の施工法についてよく知っていること。		2 サッシの加工及び組立てができること。
	3 サッシ及びガラス施工用機械並びに器工具の種類、構造及び使用法についてよく知っていること。		3 金属製建具及び部品(付属部材及び付属金物)の取付けがよくできること。
	4 軸組構造及び組積構造について知っていること。		4 木製建具、スチールサッシ及びアルミサッシのはめ込み寸法の測定がよくできること。
	5 サッシ及びガラス材料の種類、性質並びに用途についてよく知っていること。		5 木製建具、スチールサッシ及びアルミサッシの取付け支持並びにシーリングができること。
	6 ガラス切断の原理について知っていること。		6 板ガラスの板どりができること。
	7 開口部の開閉作動方式についてよく知っていること。		7 ガラスの切断がよくできること。
	8 各種建具の主なガラス取付け支持方式についてよく知っていること。		8 墨出しができること。
	9 電気溶接及びガス溶接について知っていること。		9 溶接ができること。
	10 日本工業規格の建築に関する表示記号について知っていること。		10 玉掛け及び合図がよくできること。
	11 仕様及び積算について知っていること。		11 養生作業ができること。

技能照査の基準の細目

訓練科		建築内装系置科			
		学科	実技		
系基礎	1	室内設計、家具デザイン等の基礎及び表現方法について知っていること。	系基礎	1	木工用機械及び器工具の取扱い及び調整ができること。
	2	建築構造について知っていること。		2	木工用機械による工作ができること。
	3	室内工事の施工及び設備についてよく知っていること。		3	家具、建具、照明器具のはめ込みの測定ができること。
	4	建築、家具の製図について知っていること。		4	建築、家具の製図の作成ができること。
	5	形、光、空間の構成等の造形について知っていること。		5	安全衛生作業がよくできること。
	6	生活機能を基礎とした色彩構成について知っていること。			
	7	関係法規について知っていること。			
	8	安全衛生について知っていること。			
専攻	1	置製作用器工具の種類および使用法についてよく知っていること。	専攻	1	新置の製作作業がよくできること。
	2	材料の取扱いと作業準備についてよく知っていること。		2	置の表替えと裏返しがよくできること。
	3	新置の工作法について知っていること。		3	適寸割り出しができること。
	4	置表替えと裏返し工作法についてよく知っていること。		4	置の敷き込み作業ができること。
	5	適寸割り出し法について知っていること。		5	置床及び置表の修理ができること。
	6	置の敷き方と敷き込みについて知っていること。			
	7	製置機及び縫着機の種類、構造及び使用法について知っていること。			
	8	仕様及び積算について知っていること。			

技能照査の基準の細目

訓練科		建築内装系インテリア・サービス科			
		学科	実技		
系基礎	1	室内設計、家具デザイン等の基礎及び表現方法について知っていること。	系基礎	1	木工用機械及び器工具の取扱い及び調整ができること。
	2	建築構造について知っていること。		2	木工用機械による工作ができること。
	3	室内工事の施工及び設備についてよく知っていること。		3	家具、建具、照明器具のはめ込みの測定ができること。
	4	建築、家具の製図について知っていること。		4	建築、家具の製図の作成ができること。
	5	形、光、空間の構成等の造形について知っていること。		5	安全衛生作業がよくできること。
	6	生活機能を基礎とした色彩構成について知っていること。			
	7	関係法規について知っていること。			
	8	安全衛生について知っていること。			
専攻	1	インテリアの計画の方法についてよく知っていること。	専攻	1	インテリア製図がよくできること。
	2	インテリア材料及び種類についてよく知っていること。		2	木工用機械及び器工具の取扱いがよくできること。
	3	インテリア施工法について知っていること。		3	カーテン、カーペット、壁仕上げ等のインテリア施工がよくできること。

技能照査の基準の細目

訓練科		建築内装系床仕上げ施工科			
		学科	実技		
系基礎	1	室内設計、家具デザイン等の基礎及び表現方法について知っていること。	系基礎	1	木工用機械及び器具の取扱い及び調整ができること。
	2	建築構造について知っていること。		2	木工用機械による工作ができること。
	3	室内工事の施工及び設備についてよく知っていること。		3	家具、建具、照明器具のはめ込みの測定ができること。
	4	建築、家具の製図について知っていること。		4	建築、家具の製図の作成ができること。
	5	形、光、空間の構成等の造形について知っていること。		5	安全衛生作業がよくできること。
	6	生活機能を基礎とした色彩構成について知っていること。			
	7	関係法規について知っていること。			
	8	安全衛生について知っていること。			
専攻	1	下地仕上げ工事用機械及び器具の種類、構造及び使用法についてよく知っていること。	専攻	1	下地仕上げ材の選別ができること。
	2	下地についてよく知っていること。		2	各種カーベットの施工ができること。
	3	下地仕上げの施工法について知っていること。		3	プラスチック系床材の施工ができること。
	4	下地仕上げの施工に用いる材料の種類、性質及び用途についてよく知っていること。			
	5	仕様及び積算について知っていること。			

技能照査の基準の細目

訓練科		建築内装系表具科			
		学科	実技		
系基礎	1	室内設計、家具デザイン等の基礎及び表現方法について知っていること。	系基礎	1	木工用機械及び器具の取扱い及び調整ができること。
	2	建築構造について知っていること。		2	木工用機械による工作ができること。
	3	室内工事の施工及び設備についてよく知っていること。		3	家具、建具、照明器具のはめ込みの測定ができること。
	4	建築、家具の製図について知っていること。		4	建築、家具の製図の作成ができること。
	5	形、光、空間の構成等の造形について知っていること。		5	安全衛生作業がよくできること。
	6	生活機能を基礎とした色彩構成について知っていること。			
	7	関係法規について知っていること。			
	8	安全衛生について知っていること。			
専攻	1	表具品の種類、構造及び規格についてよく知っていること。	専攻	1	寸法取り作業がよくできること。
	2	寸法取りについてよく知っていること。		2	寸法の割り出し及び割り付けがよくできること。
	3	寸法の割り出し及び割り付けについてよく知っていること。		3	表具材料の選定ができること。
	4	表具における仕口及び仕上がりについてよく知っていること。		4	壁装材料の選定ができること。
	5	表装用器具の種類及び使用法についてよく知っていること。		5	表具の仕口及び仕上げができること。
	6	表具材料の種類、性質及び用途について知っていること。		6	表具品の補修ができること。
	7	壁装材料の種類、性質及び用途について知っていること。		7	壁装の下地調整ができること。
				8	壁装の施工ができること。

技能照査の基準の細目

訓練科		建築仕上系左官・タイル施工科		
		学科	実技	
系基礎	1	建築生産について知っていること。	1	機械及び器工具の取扱いがよいこと。
	2	建築構造について知っていること。	2	モルタル及びコンクリートの調合及び練り混ぜができること。
	3	建築設備について知っていること。	3	足場作業ができること。
	4	建築製図について知っていること。	4	安全衛生作業がよいこと。
	5	仕様及び積算について知っていること。		
	6	関係法規について知っていること。		
	7	安全衛生についてよく知っていること。		
専攻	1	左官及びタイル工事用機械及び器工具の種類及び使用法についてよく知っていること。	1	左官及びタイル工事用機械及び器工具の取扱いがよいこと。
	2	測定及び墨出しについてよく知っていること。	2	左官及びタイル工事の作業段取りができること。
	3	左官工事及びタイル工事の施工法についてよく知っていること。	3	測定及び墨出しができること。
	4	左官下地及びタイル下地についてよく知っていること。	4	下地工作ができること。
	5	左官工事の施工設備について知っていること。	5	左官材料及びタイル工事材料の調合及びこねがよいこと。
	6	左官工事及びタイル工事における故障の原因及び対策について知っていること。	6	塗り作業がよいこと。
	7	左官材料及びタイル工事用材料の種類、性質及び用途についてよく知っていること。	7	タイルの選別ができること。
	8	左官材料及びタイル工事用材料の選定、調合及びこねについてよく知っていること。	8	目地割りができること。
	9	左官工事及びタイル工事における養生についてよく知っていること。	9	タイルごしらがよいこと。
	10	組積工事及びコンクリート工事について知っていること。	10	タイル張りがよいこと。
			11	左官工事及びタイル工事の仕上げができること。

技能照査の基準の細目

訓練科		建築仕上系築炉科		
		学科	実技	
系基礎	1	建築生産について知っていること。	1	機械及び器工具の取扱いがよいこと。
	2	建築構造について知っていること。	2	モルタル及びコンクリートの調合及び練り混ぜができること。
	3	建築設備について知っていること。	3	足場作業ができること。
	4	建築製図について知っていること。	4	安全衛生作業がよいこと。
	5	仕様及び積算について知っていること。		
	6	関係法規について知っていること。		
	7	安全衛生についてよく知っていること。		
専攻	1	工業用炉の種類、構造及び用途について知っていること。	1	れんがの選別ができること。
	2	築炉作業に使用する機械及び器工具の種類、構造及び使用法についてよく知っていること。	2	水盛り、やりかた、墨出し及びれんがの割付けができること。
	3	築炉作業に使用する仮設の設備について知っていること。	3	モルタル及びキャスト耐火物の調合及び練り混ぜができること。
	4	築炉作業の段取り及び作業方法についてよく知っていること。	4	れんがの加工及び組積ができること。
	5	炉体に生ずる損傷の原因及び修理方法について知っていること。	5	目地押し及び目地仕上げができること。
	6	れんが及び築炉用材料について知っていること。		
	7	セメント、モルタル及びコンクリートについて知っていること。		
	8	燃料及び燃焼について知っていること。		
	9	製図について知っていること。		

技能照査の基準の細目

訓練科		建築仕上系ブロック施工科	
学科		実技	
系基礎	1 建築生産について知っていること。	系基礎	1 機械及び器工具の取扱いがよくできること。
	2 建築構造について知っていること。		2 モルタル及びコンクリートの調合及び練り混ぜができること。
	3 建築設備について知っていること。		3 足場作業ができること。
	4 建築製図について知っていること。		4 安全衛生作業がよくできること。
	5 仕様及び積算について知っていること。		
	6 関係法規について知っていること。		
	7 安全衛生についてよく知っていること。		
専攻	1 ブロック構造についてよく知っていること。	専攻	1 ブロック工事用機械及び器工具の取扱いがよくできること。
	2 ブロック工事の施工法についてよく知っていること。		2 コンクリートブロックの加工がよくできること。
	3 ブロック工事用機械及び器工具の種類、構造及び使用法についてよく知っていること。		3 鉄筋の加工がよくできること。
	4 ブロック工事の施工計画について知っていること。		4 水盛り、やりかた及び墨出しがよくできること。
	5 ブロック工事に使用する材料の種類、性質及び用途についてよく知っていること。		5 ブロックの補強、組積工事がよくできること。
	6 測量について知っていること。		6 養生ができること。

技能照査の基準の細目

訓練科		建築仕上系熱絶縁施工科	
学科		実技	
系基礎	1 建築生産について知っていること。	系基礎	1 機械及び器工具の取扱いがよくできること。
	2 建築構造について知っていること。		2 モルタル及びコンクリートの調合及び練り混ぜができること。
	3 建築設備について知っていること。		3 足場作業ができること。
	4 建築製図について知っていること。		4 安全衛生作業がよくできること。
	5 仕様及び積算について知っていること。		
	6 関係法規について知っていること。		
	7 安全衛生についてよく知っていること。		
専攻	1 熱絶縁工事の対象となる設備及び装置について知っていること。	専攻	1 各種の形状物に対して熱絶縁材の取り付けができること。
	2 伝熱の機構について知っていること。		2 補強材の取り付けがよくできること。
	3 熱絶縁工事の段取りについてよく知っていること。		3 防水作業ができること。
	4 熱絶縁工事の施工法についてよく知っていること。		4 外装作業ができること。
	5 熱絶縁工事用器工具の種類及び使用法についてよく知っていること。		
	6 熱絶縁材料の種類、性質及び用途についてよく知っていること。		
	7 熱絶縁用補助材料の種類及び用途について知っていること。		
	8 補強法についてよく知っていること。		
	9 外装法についてよく知っていること。		
	10 防水法について知っていること。		
	11 熱絶縁に関する日本工業規格について知っていること。		

技能照査の基準の細目

訓練科		設備施工系冷凍空調設備科	
学科		実技	
系基礎	1 機械工学について知っていること。	系基礎	1 機工具の取扱いがよくできること。
	2 電気工学について知っていること。		2 配管及び機器類の取り付けができること。
	3 生産工学について知っていること。		3 ガス溶接・アーク溶接及びろう付けができること。
	4 建築構造及び建築設備についてよく知っていること。		4 安全衛生作業がよくできること。
	5 ガス溶接及び電気溶接について知っていること。		
	6 燃焼と換気についてよく知っていること。		
	7 建築設備機器について知っていること。		
	8 建築製図について知っていること。		
	9 仕様及び積算について知っていること。		
	10 安全衛生についてよく知っていること。		
専攻	1 冷凍理論及び空気調和理論について知っていること。	専攻	1 整備用機械の取扱いがよくできること。
	2 冷凍機器及び空気調和機器の種類、構造及び用途について知っていること。		2 整備用機械及び器工具の取扱いがよくできること。
	3 整備用機械及び器工具の種類、構造及び使用方法について知っていること。		3 冷凍機器の取り付け及び調整がよくできること。
	4 冷凍機器及び空気調和機器の設備工作法について知っていること。		4 空気調和機器の取り付け、配管及び調整がよくできること。
	5 冷凍機器及び空気調和機器の修理及び調整について知っていること。		5 測定器による測定ができること。
	6 冷媒の種類及び性質について知っていること。		6 性能検査ができること。
	7 制御理論について知っていること。		7 安全衛生作業がよくできること。
	8 計測器の種類、構造及び使用方法についてよく知っていること。		
	9 測定法及び試験法についてよく知っていること。		
	10 関係法規について知っていること。		

技能照査の基準の細目

訓練科		設備施工系配管科			
		学科	実技		
系基礎	1	機械工学について知っていること。	系基礎	1	機工具の取扱いがよいこと。
	2	電気工学について知っていること。		2	配管及び機器類の取り付けができること。
	3	生産工学について知っていること。		3	ガス溶接・アーク溶接及びろう付けができること。
	4	建築構造及び建築設備についてよく知っていること。		4	安全衛生作業がよいこと。
	5	ガス溶接及び電気溶接について知っていること。			
	6	燃焼と換気についてよく知っていること。			
	7	建築設備機器について知っていること。			
	8	建築製図について知っていること。			
	9	仕様及び積算について知っていること。			
	10	安全衛生についてよく知っていること。			
専攻	1	配管用機械及び器工具の種類、構造及び使用法について知っていること。	専攻	1	配管用機械及び器工具の取扱いがよいこと。
	2	管工作及び接合の方法についてよく知っていること。		2	管の切断、接合及び曲げがよいこと。
	3	配管施工法及び機器類の取り付け施工法についてよく知っていること。		3	ガス溶接・アーク溶接及びろう付けができること。
	4	管施設の機能試験の方法について知っていること。		4	施工図の作成がよいこと。
	5	管の被覆及び塗装の方法について知っていること。		5	配管図及び管工作図により材料取り、加工及び組立てができること。
	6	配管材料の種類、性質及び用途についてよく知っていること。		6	安全衛生作業がよいこと。
	7	水、蒸気及びガスの性質について知っていること。			
	8	配管図についてよく知っていること。			
	9	配管関係法規について知っていること。			

技能照査の基準の細目

訓練科		設備施工系住宅設備機器科			
		学科	実技		
系基礎	1	機械工学について知っていること。	系基礎	1	機工具の取扱いがよくできること。
	2	電気工学について知っていること。		2	配管及び機器類の取り付けができること。
	3	生産工学について知っていること。		3	ガス溶接・アーク溶接及びろう付けができること。
	4	建築構造及び建築設備についてよく知っていること。		4	安全衛生作業がよくできること。
	5	ガス溶接及び電気溶接について知っていること。			
	6	燃焼と換気についてよく知っていること。			
	7	建築設備機器について知っていること。			
	8	建築製図について知っていること。			
	9	仕様及び積算について知っていること。			
	10	安全衛生についてよく知っていること。			
専攻	1	住宅用設備及び機器について知っていること。	専攻	1	住宅用設備機器及び空気調和機器設備工事に使用する機械及び器工具の取扱いがよくできること。
	2	住宅用設備機器及び空気調和機器設備工事に使用する機械及び器工具の種類、構造及び使用法についてよく知っていること。		2	住宅用設備機器及び空気調和機器の分解、調整、組立て及び設備工事がよくできること。
	3	住宅用設備機器及び空気調和機器設備工事の施工法についてよく知っていること。		3	住宅用設備機器及び空気調和機器設備工事に伴う各種検査ができること。
	4	住宅用設備機器及び空気調和機器設備工事に使用する材料の種類、性質及び用途について知っていること。		4	安全衛生作業がよくできること。
	5	空気調和機器の修理及び調整について知っていること。			
	6	冷媒の種類及び性質についてよく知っていること。			
	7	計測器の種類、構造及び使用法についてよく知っていること。			
	8	測定法及び試験法についてよく知っていること。			
	9	関係法規について知っていること。			

技能照査の基準の細目

訓練科		土木系土木施工科			
		学科	実技		
系基礎	1	土木工学の内容、国土の開発、水工、道路・構造、都市と環境について知っていること。	系基礎	1	簡単な測量ができること。
	2	測量について知っていること。		2	安全衛生作業がよくできること。
	3	地質の構造、工学、力学について知っていること。			
	4	土木製図について知っていること。			
	5	土木工事における建築生産の過程、施工管理について知っていること。			
	6	安全衛生についてよく知っていること。			
専攻	1	土木施工法についてよく知っていること。	専攻	1	土木施工用機械の取扱いがよくできること。
	2	土木機械の種類、構造及び使用法についてよく知っていること。		2	土木施工作業の段取りがよくできること。
	3	土木材料の種類、性質及び用途についてよく知っていること。		3	土木施工作業ができること。
	4	関係法規について知っていること。		4	読図ができること。
	5	材料試験について知っていること。			
	6	土木設計図及び土木施工図について知っていること。			

技能照査の基準の細目

訓練科		土木系測量・設計科	
学科		実技	
系基礎	1 土木工学の内容、国土の開発、水工、道路・構造、都市と環境について知っていること。	系基礎	1 簡単な測量ができること。
	2 測量について知っていること。		2 安全衛生作業がよくできること。
	3 地質の構造、性質、力学について知っていること。		
	4 土木製図について知っていること。		
	5 土木工事における建築生産の過程、施工管理について知っていること。		
	6 安全衛生についてよく知っていること。		
専攻	1 測量用器械及び器工具の種類及び使用法についてよく知っていること。	専攻	1 測量用器械及び器工具の取扱いがよくできること。
	2 基準点測量における三角測量方式、多角測量方式及び水準測量についてよく知っていること。		2 踏査及び選点がよくできること。
	3 地形測量における平板測量、写真測量及び地図編集について知っていること。		3 距離、角及び高低差の測定がよくできること。
	4 応用測量についてよく知っていること。		4 測定手簿及び観測手簿の作成がよくできること。
	5 誤差の取扱い及び精度について知っていること。		5 測量結果の補正及び精度の計算がよくできること。
	6 土木設計図についてよく知っていること。		6 計算表及び実測図の作成ができること。
	7 空中写真の判読、実体視及び図化について知っていること。		7 応用測量ができること。
		8 土木設計図の作成ができること。	

技能照査の基準の細目

訓練科		設備管理・運転系ビル管理科	
学科		実技	
系基礎	1 生産工学についてよく知っていること。	系基礎	1 熱源設備及びこれらの付属装置の運転がよくできること。
	2 制御理論についてよく知っていること。		2 熱源設備及びこれらの付属装置の定期点検及び調整作業がよくできること。
	3 熱収支及び熱管理について知っていること。		3 安全作業、衛生作業ができること。
	4 熱源設備の種類、構造及び機能についてよく知っていること。		
	5 安全衛生について知っていること。		
専攻	1 建物の構造、総合管理の方法について知っていること。	専攻	1 建築物の総合管理ができること。
	2 空気調和の種類、構造及び方式について知っていること。		2 空気調和設備の運転及び保守ができること。
	3 電気設備の種類、構造及び方法について知っていること。		3 冷凍機、冷温水機の運転及び保守ができること。
	4 給排水設備の種類、構造及び方式について知っていること。		4 給排水設備の保守管理ができること。
	5 制御機器の種類及び回路についてよく知っていること。		5 衛生設備の保守管理ができること。
	6 設備図面の読み方について知っていること。		6 電気設備の点検及び記録ができること。
	7 関係法規について知っていること。		7 自動制御設備の点検及び保守ができること。

技能照査の基準の細目

訓練科		設備管理・運転系ボイラー運転科	
学科		実技	
系基礎	1 生産工学についてよく知っていること。	系基礎	1 熱源整備及びこれらの付属装置の運転がよいこと。
	2 制御理論についてよく知っていること。		2 熱源整備及びこれらの付属装置の定期点検及び調整作業がよいこと。
	3 熱収支及び熱管理について知っていること。		3 安全作業、衛生作業ができること。
	4 熱源設備の種類、構造及び機能についてよく知っていること。		
	5 安全衛生について知っていること。		
専攻	1 ボイラーの種類及び型式について知っていること。	専攻	1 異常の発見及び対策がよいこと。
	2 附属設備及び附属品の構造について知っていること。		2 ボイラー水の処理がよいこと。
	3 自動制御装置について知っていること。		3 ボイラー及びボイラー附属装置の整備及び検査ができること。
	4 燃料の種類について知っていること。		
	5 燃焼理論、燃焼方式及び燃焼装置について知っていること。		
	6 熱及び蒸気について知っていること。		
	7 給水及びボイラー水の処理についてよく知っていること。		
	8 ボイラー及び附属品の整備及び検査について知っていること。		
	9 金属材料の種類、性質及び用途について知っていること。		
	10 ボイラー関係法規について知っていること。		

※以下の訓練科には技能照査の基準の細目が設定されていない。

分野	訓練系	訓練科
建築・土木	建築外装系	スレート施工科
	土木系	さく井科

6. 建築・土木分野の訓練科の設置状況一覧

(1) 対象訓練科の設置数一覧

(2) 対象訓練科の設置施設一覧

(『全国職業能力開発施設ガイドブック／全国公共職業能力開発施設及び認定職業能力開発施設ガイド』(中央職業能力開発協会、2008/3) 及びアンケート調査より集計)

(1) 対象訓練科の設置数一覧

(2012年4月現在)

no. 大分類分野	系 no. 訓練系	科 no. 訓練科名	期間	設置状況		
				公共校	認定校	合計
8 建築・土木	31 建築施工系	75 木造建築科	1年	45	202	247
		76 枠組壁建築科	1年	0	1	1
		77 とび科	1年	0	5	5
		78 鉄筋コンクリート施工科	1年	0	21	21
		79 プレハブ建築科	1年	0	4	4
		80 建築設計科	1年	9	44	53
	32 建築外装系	81 屋根施工科	1年	0	8	8
		82 スレート施工科	1年	0	0	0
		83 建築板金科	1年	0	44	44
		84 防水施工科	1年	0	2	2
		85 サッシ・ガラス施工科	1年	0	6	6
	33 建築内装系	86 畳科	1年	0	13	13
		87 インテリア・サービス科	1年	6	5	11
		88 床仕上施工科	1年	0	0	0
		89 表具科	1年	0	4	4
	34 建築仕上系	90 左官・タイル施工科	1年	2	71	73
		91 築炉科	1年	0	2	2
		92 ブロック施工科	1年	0	2	2
		93 熱絶縁施工科	1年	0	0	0
	35 設備施工系	94 冷凍空調設備科	1年	10	0	10
		95 配管科	1年	10	41	51
96 住宅設備機器科		1年	0	0	0	
36 土木系	97 さく井科	1年	0	0	0	
	98 土木施工科	1年	2	14	16	
	99 測量・設計科	1年	2	2	4	
37 設備管理・運転系	100 ビル管理科	1年	0	0	0	
	101 ボイラー運転科	1年	0	1	1	
総合計				86	492	578

出典:「全国職業能力開発施設ガイドブック／平成20年度／全国公共職業能力開発施設及び認定職業能力開発施設ガイド」(中央職業能力開発協会、平成21年3月)とアンケート調査結果を基に集計

(2) 対象訓練科の設置施設一覧

I. 公共職業能力開発施設（建築・土木分野）

no.	訓練科名	施設名		備考
1	木造建築科	旭川高等技術専門学院	旭川市緑が丘東3条2丁目1-1	
2	木造建築科	帯広高等技術専門学院	帯広市西二十四条北2丁目18-1	
3	木造建築科	北見高等技術専門学院	北見市末広町356-1	
4	木造建築科	釧路高等技術専門学院	釧路市大楽毛南1-2	
5	木造建築科	札幌高等技術専門学院	札幌市東区北二十七条東16-1-1	
6	木造建築科	函館高等技術専門学院	函館市桔梗町435	
7	木造建築科	山形職業能力開発専門校	山形県山形市松栄2丁目2-1	
8	木造建築科	金沢産業技術専門校	金沢市観音堂町子9	
9	木造建築科	峡南高等技術専門校	南巨摩郡増穂町青柳町3492	
10	木造建築科	松本技術専門校	松本市寿北7-16-1	
11	木造建築科	木工芸術スクール	高山市匠ヶ丘町1-123	
12	木造建築科	和歌山産業技術専門学院	和歌山市小倉90	
13	木造建築科	倉吉高等技術専門校	倉吉市福庭町2-1	
14	木造建築科	北部高等技術専門校	岡山県津山市川崎953	
15	木造建築科	松山高高等技術専門校	松山市西垣生町2184	
16	木造建築科	熊本高等技術訓練校	熊本市幸田1-4-1	
17	木造建築科	弘前高等技術専門校	弘前市緑ヶ丘1-9-1	
18	木造建築科	むつ高等技術専門校	むつ市文京町31-1	
19	木造建築科	大船渡職業能力開発センター	大船渡市盛町字みどり町13-2	
20	木造建築科	二戸高等技術専門校	二戸市石切所字上野々92-1	
21	木造建築科	大崎高等技術専門校	古川市米倉字上屋敷51	
22	木造建築科	大曲技術専門校	大仙市大曲川原町2-30	
23	木造建築科	鷹巣技術専門校	北秋田市綴子字街道下191	
24	木造建築科	テクノアカデミー郡山	福島県郡山市上野山5	
25	木造建築科	テクノアカデミー浜	福島県南相馬市原町区萱浜掛場45-112	
26	木造建築科	鹿島産業技術専門学院	鹿嶋市大字林572-1	
27	木造建築科	県央産業技術専門校	栃木県宇都宮市平出工業団地48-4	
28	木造建築科	熊谷高等技術専門校	熊谷市新堀新田522	
29	木造建築科	魚沼テクノスクール	魚沼市堀之内3335-1	
30	木造建築科	飯田技術専門校	飯田市松尾明7508-3	
31	木造建築科	長野技術専門校	長野市篠ノ井布施五明755-2	
32	木造建築科	浜松技術専門校	浜松市東区小池町2444-1	
33	木造建築科	東三河高等技術専門校	豊川市一宮町上新切33-4	
34	木造建築科	京都高等技術専門校	京都市伏見区竹田流池町121-3	
35	木造建築科	呉高等技術専門校	呉市阿賀中央5-11-17	
36	木造建築科	広島高等技術専門校	広島市西区田方2-25-1	
37	木造建築科	福山高高等技術専門校	福山市山手町6-30-1	
38	木造建築科	三次高等技術専門校	三次市十日市南6-14-1	
39	木造建築科	西部高等産業技術学校	下関市千鳥ヶ丘町21-3	
40	木造建築科	中村高等技術学校	四万十市具同5179	
41	木造建築科	佐世保高等技術専門校	北松浦郡佐々町小浦免1572-26	
42	木造建築科	長崎産業技術専門校	長崎県西彼杵郡長与町高田郷547-21	
43	木造建築科	大分高等技術専門校	大分市大字下宗方字古川1035-1	
44	木造建築科	産業技術専門校	宮崎県西都市右松(大字)362-1	
45	木造建築科	宮之城高等技術専門校	薩摩郡さつま町船木881	
46	建築設計科	仙台高等技術専門校	仙台市宮城野区田子1-4-1	
47	建築設計科	中央高等技術専門校	上尾市戸崎975	
48	建築設計科	東部総合職業技術校	神奈川県横浜市鶴見区寛政町28-2	
49	建築設計科	名古屋高等技術専門校	名古屋市北区安井2-4-48	
50	建築設計科	守口高等職業技術専門校	守口市京阪本通2-11-18	
51	建築設計科	但馬技術大学校豊岡職業能力開発校	兵庫県豊岡市九日市上町660-5	
52	建築設計科	高等技術学校高松校	香川県高松市郷東町587-1	
53	建築設計科	産業技術学院	多久市多久町7183-1	
54	インテリア・サービス科	仙台高等技術専門校	仙台市宮城野区田子1-4-1	
55	インテリア・サービス科	城南職業能力開発センター	品川区東品川3-31-16	
56	インテリア・サービス科	平塚高等職業技術校	平塚市東八幡4-19-4	
57	インテリア・サービス科	守口高等職業技術専門校	守口市京阪本通2-11-18	
58	インテリア・サービス科	神戸高等技術専門学院	神戸市西区学園東町5-2	
59	インテリア・サービス科	米子高等技術専門校	米子市夜見町3001-8	
60	左官・タイル施工科	札幌高等技術専門学院	札幌市東区北二十七条東16-1-1	

61	左官・タイル施工科	中村高等技術学校	四万十市具同5179	
62	冷凍空調設備科	県央産業技術専門学校	栃木県宇都宮市平出工業団地48-4	
63	冷凍空調設備科	川口高等技術専門学校	川口市青木4-4-22	
64	冷凍空調設備科	中央高等技術専門学校	上尾市戸崎975	
65	冷凍空調設備科	船橋高等技術専門学校	船橋市高瀬町31-7	
66	冷凍空調設備科	中央・城北職業能力開発センター赤羽校	北区西が丘3-7-8	
67	冷凍空調設備科	松本技術専門学校	松本市寿北7-16-1	
68	冷凍空調設備科	南大阪高等職業技術専門学校	大阪市天王寺区上汐4-4-1	
69	冷凍空調設備科	東部高等産業技術学校	周南市瀬戸見町15-1	
70	冷凍空調設備科	福岡高等技術専門学校	福岡市東区千早4-24-1	
71	冷凍空調設備科	産業技術専門学校	宮崎県西都市右松(大字)362-1	
72	配管科	札幌高等技術専門学校	札幌市東区北二十七条東16-1-1	
73	配管科	八戸工科学院	八戸市桔梗野工業団地二丁目5番30号	
74	配管科	仙台高等技術専門学校	仙台市宮城野区田子1-4-1	
75	配管科	多摩職業能力開発センター	立川市羽衣町3-29-26	
76	配管科	清水技術専門学校	静岡市清水区楠160	
77	配管科	南部高等技術専門学校	岡山県倉敷市新田3241	
78	配管科	高知高等技術学校	高知市仁井田1188	
79	配管科	熊本高等技術訓練校	熊本市幸田1-4-1	
80	配管科	大分高等技術専門学校	大分市大字下宗方字古川1035-1	
81	配管科	具志川職業能力開発校	うるま市字兼箇段1945	
82	土木施工科	青森高等技術専門学校	青森市大字野尻字今田43-1	
83	土木施工科	倉吉高等技術専門学校	倉吉市福庭町2-1	
84	測量・設計科	鹿島産業技術専門学校	鹿嶋市大字林572-1	
85	測量・設計科	中央・城北職業能力開発センター赤羽校	北区西が丘3-7-8	

II. 認定職業訓練校（建築・土木分野）

no.	訓練科	施設名		備考
1	木造建築科	恵庭技術工学院	恵庭市魚町398	
2	木造建築科	帯広地方高等職業訓練校	帯広市西22条北1-2-21	
3	木造建築科	道央建築高等職業訓練校	札幌市白石区東札幌5条1 札幌市産業振興センター内	
4	木造建築科	旭川建築高等職業訓練校	旭川市永山9条1-3-10 旭川建築総合センター	
5	木造建築科	北海道・大工養成塾	旭川市豊岡4条3丁目	
6	木造建築科	岩見沢地方高等職業訓練校	岩見沢市東町2条1-28-7	
7	木造建築科	札幌高等技術専門学校	札幌市白石区榮通13-2-11 札幌建訓センター内	
8	木造建築科	札幌高等技術専門学校	札幌市白石区榮通13-2-11 札幌建訓センター内	
9	木造建築科	千歳職業技術専門学校	千歳市真々地2-4-8	
10	木造建築科	登別地方高等職業訓練校	登別市青葉町42-13	
11	木造建築科	苫小牧地方高等職業訓練校	苫小牧市新開町4-6-12	
12	木造建築科	函館総合建設高等職業訓練校	函館市高盛町19-17	
13	木造建築科	釧路高等技術専門学校	北海道釧路市鳥取南7丁目2-20	
14	木造建築科	北見技術工学院	北見市三輪1-4	
15	木造建築科	土屋アーキテクチャカレッジ	北広島市大曲工業団地5-1-3	
16	木造建築科	美幌高等職業訓練校	網走郡美幌町西1条南5-3	
17	木造建築科	網走地方高等職業訓練校	網走市大曲1-6-1	
18	木造建築科	上北職業能力開発校	上北郡東北町旭南2-31--1000	
19	木造建築科	中里職業能力開発校	北郡中泊町大字尾別字浅井3-2	
20	木造建築科	五所川原職業能力開発校	五所川原市宇一ツ谷503-5	
21	木造建築科	田子共同高等職業訓練校	三戸郡田子町大字田子字天神堂平80-6	
22	木造建築科	十和田職業能力開発校	十和田市大字三本木字千歳森292-7	
23	木造建築科	三沢職業能力開発校	三沢市千代田町4-140-44	
24	木造建築科	むつ職業能力開発校	むつ市金谷1-17-55	
25	木造建築科	弘前職業能力開発校	弘前市田町5-3-3	
26	木造建築科	七戸職業能力開発校	上北郡七戸町蛇坂57-3	
27	木造建築科	八戸職業能力開発校	八戸市類家2-7-30	
28	木造建築科	水沢高等職業訓練校	岩手県奥州市水沢区真城字中上野96-3	
29	木造建築科	気仙高等職業訓練校	大船渡市盛町字みどり町13-4	
30	木造建築科	陸前高田高等職業訓練校	陸前高田市高田町字下和野1-2	
31	木造建築科	東盤高等職業訓練校	一関市千厩町千厩字上駒場360-4	
32	木造建築科	一関高等職業訓練校	一関市舞川字西平8-2	
33	木造建築科	遠野高等職業訓練校	遠野市青笹町中沢第8地割11番8	
34	木造建築科	江刺高等職業訓練校	奥州市江刺区岩谷堂字松長根18-2	
35	木造建築科	花巻高等職業訓練校	花巻市二枚橋第5地割6-22	

36	木造建築科	金石高等職業訓練校	釜石市大字平田第3地割75-1
37	木造建築科	北上高等職業訓練校	岩手県北上市相去町山田2-42
38	木造建築科	久慈高等職業訓練校	久慈市川崎町17-5
39	木造建築科	宮古高等職業訓練校	宮古市長町2-6-1
40	木造建築科	岩手中央高等職業訓練校	盛岡市加賀町4-18-50
41	木造建築科	二戸高等職業訓練校	二戸市米沢字荒谷76-2
42	木造建築科	塩竈建設技能者訓練協会塩竈高等職業訓練校	塩竈市月見ヶ丘2-2
43	木造建築科	宮城県建設技能者訓練協会連合会高等職業訓練校	仙台市青葉区青葉16-1
44	木造建築科	大崎地域高等職業訓練校	大崎市古川西館3-9-10
45	木造建築科	白石建設職組合訓練協会高等職業訓練校	白石市西益岡町8-22
46	木造建築科	鹿角共同高等職業訓練校	鹿角市尾去沢字上山214
47	木造建築科	大館北鹿共同高等職業訓練校	大館市有浦3-6-22
48	木造建築科	大曲仙北共同高等職業訓練校	大崎市大曲町3-1
49	木造建築科	北秋田共同高等職業訓練校	北秋田市花園町15-1
50	木造建築科	本荘由利共同高等職業訓練校	由利本荘市石脇字田尻30
51	木造建築科	新庄マイスターカレッジ	新庄市大字鳥越字玉の木999
52	木造建築科	鶴岡高等職業訓練校	鶴岡市大塚町26-13
53	木造建築科	東根高等職業訓練校	鶴岡市大塚町26-13
54	木造建築科	庄内職業高等専門校	酒田市ゆたか3-7-12
55	木造建築科	河北高等技能専門校	西村山郡河北町谷地字所岡142-2
56	木造建築科	長井高等職業訓練校	長井市屋城町6-53
57	木造建築科	米沢市高等技能専門校	米沢市春日4-2-100
58	木造建築科	いわき共同高等職業訓練校	いわき市平谷川瀬1-1-6
59	木造建築科	岩瀬地区共同高等職業訓練校	岩瀬郡鏡石町字岡ノ内76番地
60	木造建築科	会津共同高等職業訓練校	会津若松市神指町大字南四合字幕内西351
61	木造建築科	郡山高等職業能力開発校	郡山市長者3-2-19
62	木造建築科	増子建築職業能力開発校	郡山市富久山町福原字東内打5-1
63	木造建築科	田村建築共同高等職業訓練校	田村市船引町大字船引字南町通151-2
64	木造建築科	福島共同高等職業訓練校	福島市本内字南街道下35-1
65	木造建築科	江戸崎地区建築高等職業訓練校	稲敷市江戸崎甲2148-2
66	木造建築科	笠間地区建設高等職業訓練校	笠間市笠間1688-11
67	木造建築科	結城地区建設高等職業訓練校	結城市結城3149-2
68	木造建築科	水戸建築高等職業訓練校	水戸市三の丸3-14-10
69	木造建築科	県西地区下館建設高等職業訓練校	筑西市二本成稲荷塚806-2
70	木造建築科	日立建設高等職業訓練校	日立市城南町5-2-24
71	木造建築科	龍ヶ崎地区高等職業訓練校	龍ヶ崎市4274-2
72	木造建築科	大田原地域職業訓練センター	大田原市本町1-2805-3
73	木造建築科	宇都宮共同高等産業技術学校	宇都宮市中戸祭町848
74	木造建築科	鹿沼共同高等産業技術学校	鹿沼市上石川1465-4
75	木造建築科	佐野共同高等産業技術学校	真岡市八条屋敷北106-1
76	木造建築科	真岡共同高等産業技術学校	真岡市八条屋敷北106-1
77	木造建築科	足利市共同高等産業技術学校	足利市東砂原後町1069-2
78	木造建築科	栃木共同高等産業技術学校	栃木市日ノ出町16-6
79	木造建築科	西吾妻地区高等職業訓練校	吾妻郡長野原町長野原42-2
80	木造建築科	みどり地区高等職業訓練校	みどり市大間々町桐原99-8
81	木造建築科	伊勢崎佐波高等職業訓練校	伊勢崎市宮子町1211-1
82	木造建築科	館林地区高等職業訓練校	館林市当郷町218
83	木造建築科	桐生高等技能専門校	桐生市相生町5-51-10
84	木造建築科	高崎建設高等職業訓練校	高崎市山名町918-9
85	木造建築科	利根沼田地区高等職業訓練校	沼田市栄町123-1
86	木造建築科	前橋地区高等職業訓練校	前橋市石関町122-7
87	木造建築科	太田地区高等職業訓練校	太田市西新町22-1
88	木造建築科	富岡地区高等職業訓練校	富岡市富岡1754-1
89	木造建築科	渋川地区高等職業訓練校	北群馬郡吉岡町下野田1521-11
90	木造建築科	大宮建設高等職業訓練校	さいたま市西区西遊馬1338-13
91	木造建築科	近藤建設テクニカルセンター	ふじみ野市大字福岡524
92	木造建築科	ポラス建築技術訓練校	草加市柿ノ木町1558-1
93	木造建築科	比企建設高等技術専門校	東松山市上押垂25-1
94	木造建築科	蕨戸田建設高等職業訓練校	蕨市錦町5-14-14
95	木造建築科	安房共同高等職業訓練校	館山市北条2578-17
96	木造建築科	佐倉共同高等職業訓練校	佐倉市江原新田50-1
97	木造建築科	住友林業建設技術専門校	四街道市鹿渡1144
98	木造建築科	市原共同高等職業訓練校	市原市八幡1050-5
99	木造建築科	山武共同高等職業訓練校	東金市東金908-1
100	木造建築科	柏工業専門校	柏市明原3-20-16

101	木造建築科	君津郡市共同高等職業訓練校	木更津市吾妻2-10-13
102	木造建築科	東京建築高等職業訓練校	渋谷区神南1-3-10
103	木造建築科	鶴見建設共同高等職業訓練校	横浜市鶴見区梶山1-7-1
104	木造建築科	横浜建築高等職業訓練校	横浜市保土ヶ谷区星川3-5-11
105	木造建築科	三浦建築高等職業訓練校	三浦市三崎2-22-16
106	木造建築科	三浦建設協会総合高等職業訓練校	三浦市南下浦町上宮田3040
107	木造建築科	川崎建築高等職業訓練校	川崎市川崎区藤崎1-13-27
108	木造建築科	湘北建築高等職業訓練校	相模原市新戸1888
109	木造建築科	匠塾	新潟市西蒲区升湯1-1
110	木造建築科	西蒲原高等職業訓練校	燕市吉田学校町10-23
111	木造建築科	佐渡高等職業訓練校	佐渡市八幡2001-1
112	木造建築科	三条市高等職業訓練校	三条市東本成寺8-53
113	木造建築科	糸魚川高等職業訓練校	糸魚川市新鉄2-9-1
114	木造建築科	小千谷市高等職業訓練校	小千谷市千谷川2-3-31
115	木造建築科	上越人材ハイスクール	上越市高土町3-1-15
116	木造建築科	魚沼サンティックスクール	新潟県南魚沼市西泉田48-1
117	木造建築科	新潟市高等職業訓練校	新潟市東区藤見町1-18-5
118	木造建築科	村上高等職業訓練校	村上市下相川字長割316-2
119	木造建築科	長岡市高等職業訓練校	長岡市表町1-4-10
120	木造建築科	魚津建築高等職業訓練校	魚津市北鬼江大沢313-3
121	木造建築科	高岡建築高等職業訓練校	高岡市野村920
122	木造建築科	オダケホーム建築技能センター	射水市西高木1184
123	木造建築科	砺波建築高等職業訓練校	砺波市豊町2-16-12
124	木造建築科	富山建築高等職業訓練校	富山市西荒屋25-4
125	木造建築科	(訓)敦賀建設高等職業訓練校	敦賀市本町2-8-7
126	木造建築科	上野原町建築職業訓練校	上野原市上野原1658上野原市商工会内
127	木造建築科	富士吉田共同高等職業訓練校	富士吉田市大明見862
128	木造建築科	大北高等職業訓練校	大町市大字大町1058-13
129	木造建築科	茅野高等職業訓練校	茅野市中大塩1-9
130	木造建築科	塩尻高等職業訓練校	塩尻市広丘高出1666
131	木造建築科	佐久高等職業訓練校	佐久市大字高柳354-2
132	木造建築科	中信職業訓練センター	松本市清水2-6-23
133	木造建築科	上小高等職業訓練校	上田市常盤城1-3-20
134	木造建築科	諏訪高等職業訓練校	諏訪市湯の脇2-11-19
135	木造建築科	上伊那高等職業訓練校	長野県伊那市狐島3650
136	木造建築科	北信州能力開発センター	長野県中野市中野1457-1
137	木造建築科	長野共同高等職業訓練校	長野市大豆島4034
138	木造建築科	飯岳高等職業訓練校	飯山市大字木島662-1
139	木造建築科	飯田高等職業訓練校	飯田市東新町2-30
140	木造建築科	羽島建築高等職業訓練校	羽島市竹鼻町大佛266-1
141	木造建築科	濃飛建設職業能力開発校	加茂郡白川町白山1479
142	木造建築科	大垣地域職業訓練センター	大垣市西大外羽1-226-1
143	木造建築科	職業能力開発校木匠塾	中津川市千旦林1417-26
144	木造建築科	伊東高等職業訓練校	伊東市和田2-2-41
145	木造建築科	伊豆高等職業訓練校	伊豆の国市四日町294 隼山町中央公民館内
146	木造建築科	小笠高等職業訓練校	掛川市中3958
147	木造建築科	駿東地域職業能力開発学院	御殿場市神山1191-2 駿東地域職業訓練センター内
148	木造建築科	沼津高等職業訓練校	沼津市泉町16-40
149	木造建築科	静岡高等技能学校	静岡市駿河区曲金3-1-10
150	木造建築科	藤枝建築高等職業訓練校	藤枝市稲川1-10-30
151	木造建築科	中遠建築高等職業訓練校	磐田市西貝塚1377-1
152	木造建築科	浜松建築高等職業訓練校	浜松市中区元目町110-1
153	木造建築科	榛南建築高等職業訓練校	牧之原市静波1448-1
154	木造建築科	愛知建連技能専門学校	愛知県碧南市夕田町1丁目1番地2(碧南市ものづくりセンター内)
155	木造建築科	岡崎技術工学院	岡崎市羽根町字小豆板117-3
156	木造建築科	豊橋高等技術専門学校	豊橋市前田南町2-19-7
157	木造建築科	豊田高等職業訓練校	豊田市陣中町1-22-2
158	木造建築科	名古屋建築技能大学校	名古屋市昭和区桜山町3-51-2
159	木造建築科	伊賀建設高等職業訓練校	伊賀市四十九町1929-51
160	木造建築科	紀北建設高等職業訓練校	尾鷲市古戸町3-6
161	木造建築科	伊勢建設高等職業能力開発校	伊勢市一之木4-644-3
162	木造建築科	四日市建設高等職業訓練校	四日市市ときわ5-1-8
163	木造建築科	鈴鹿建設高等職業訓練校	鈴鹿市矢橋1-21-1
164	木造建築科	滋賀県八幡建築高等職業訓練校	近江八幡市白鳥町森前133-6
165	木造建築科	全京都建築高等職業訓練校	京都市南区西九条豊田町3

166	木造建築科	奈良建築高等職業訓練校	橿原市小網町9-8	
167	木造建築科	中紀職業能力開発校	日高郡日高町荊木310 中紀地域職業訓練センター内	
168	木造建築科	鳥取県中部建築高等職業訓練校	倉吉市上井81-1	
169	木造建築科	鳥取県八頭郡建築高等職業訓練校	八頭郡郡家町宮谷257	
170	木造建築科	鳥取県西部建築高等職業訓練校	米子市兼久460-1	
171	木造建築科	平田建築共同高等職業訓練校	出雲市西郷町726	
172	木造建築科	邑智地域能力開発センター	邑智郡川本町大字川本516-4	
173	木造建築科	岡山建設共同高等職業訓練校	岡山市駅元町23-12	
174	木造建築科	倉敷共同高等職業訓練校	倉敷市幸町1-12	
175	木造建築科	広島県建築高等職業訓練校	広島市西区横川新町8-12	
176	木造建築科	山口建設高等職業訓練校	山口市吉敷の場3928-2	
177	木造建築科	大洲建設業共同高等技術専門校	大洲市田口甲30-2	
178	木造建築科	高知県建築大工高等職業訓練校	高知市和泉6-7	
179	木造建築科	伊万里共同高等職業訓練校	伊万里市立花町広田1513-18	
180	木造建築科	佐賀建築技術専門学院	佐賀市鍋島町大字森田469-1	
181	木造建築科	鹿島総合技能専門学院	鹿島市大字高津原1727	
182	木造建築科	唐津高等職業訓練校	唐津市養母田78-1	
183	木造建築科	武雄総合技能専門学院	武雄市朝日町大字中野6404	
184	木造建築科	長崎建設技術専門学院	長崎市城山町17-58	
185	木造建築科	壱岐高等職業訓練校	壱岐市郷ノ浦町柳田触14-16	
186	木造建築科	諫早・大村高等職業訓練校	諫早市宇都町22-76	
187	木造建築科	玉名高等職業訓練校	玉名市大字玉名2079	
188	木造建築科	熊本市建設技術専門学院	熊本市南熊本3-8-16	
189	木造建築科	上益城建設高等職業訓練校	上益城郡御船町大字御船805	
190	木造建築科	人吉球磨能力開発センター	人吉市相良町1253-1	
191	木造建築科	八代高等職業訓練校	八代市清水町2-94	
192	木造建築科	大分建築テクニカルスクール	大分市千代町2-1-21	
193	木造建築科	大分県ものづくりカレッジ	大分市牧3-5-10	
194	木造建築科	日田共同高等職業訓練校	日田市清岸寺町1061-1アス力建築総合研究所内	
195	木造建築科	日向地区職業訓練会高等職業訓練校	日向市大字日知屋字前田8097-2	
196	木造建築科	宮崎高等技術専門校	宮崎市大字赤江字飛江田868-16	
197	木造建築科	東児湯高等職業訓練校	児湯郡高鍋町大字北高鍋840-2	
198	木造建築科	西都高等職業訓練校	西都市大字三宅2215	
199	木造建築科	都城地域高等職業訓練校	都城市年見町13-11	
200	木造建築科	日南高等職業訓練校	日南市大字益安888	
201	木造建築科	出水共同高等職業訓練校	出水郡野田町下名5279	
202	木造建築科	鹿児島高等技術専門校	鹿児島市草牟田2-36-39	
203	枠組壁建築科	ポラス建築技術訓練校	草加市柿ノ木町1558-1	
204	とび科	龍ヶ崎地区高等職業訓練校	龍ヶ崎市4274-2	
205	とび科	伊勢崎佐波高等職業訓練校	伊勢崎市宮子町1211-1	
206	とび科	渋川地区高等職業訓練校	北群馬郡吉岡町下野田1521-11	
207	とび科	鈴木職業訓練校	文京区根津2-11-2	
208	とび科	熊本市建設技術専門学院	熊本市南熊本3-8-16	
209	鉄筋コンクリート施工科	帯広地方高等職業訓練校	帯広市西22条北1-2-21	
210	鉄筋コンクリート施工科	岩見沢地方高等職業訓練校	岩見沢市東町2条1-28-7	
211	鉄筋コンクリート施工科	北日本鉄筋高等職業訓練校	札幌市手稲区曙2条4-2-1	
212	鉄筋コンクリート施工科	札幌高等技術専門校	札幌市白石区榮通13-2-11 札幌建訓センター内	
213	鉄筋コンクリート施工科	札幌高等技術専門校	札幌市白石区榮通13-2-11 札幌建訓センター内	
214	鉄筋コンクリート施工科	テクノカレッジ滝川	滝川市流通団地3-6-23	
215	鉄筋コンクリート施工科	釧路高等技術専門校	北海道釧路市鳥取南7丁目2-20	
216	鉄筋コンクリート施工科	美幌高等職業訓練校	網走郡美幌町西1条南5-3	
217	鉄筋コンクリート施工科	網走地方高等職業訓練校	網走市大曲1-6-1	
218	鉄筋コンクリート施工科	青森職業能力開発校	青森市新城字平岡259-28	
219	鉄筋コンクリート施工科	東盤高等職業訓練校	一関市千厩町千厩字上駒場360-4	
220	鉄筋コンクリート施工科	釜石高等職業訓練校	釜石市大字平田第3地割75-1	
221	鉄筋コンクリート施工科	岩手中央高等職業訓練校	盛岡市加賀町4-18-50	
222	鉄筋コンクリート施工科	渋川地区高等職業訓練校	北群馬郡吉岡町下野田1521-11	
223	鉄筋コンクリート施工科	マルチビルダー高等職業訓練校	台東区上野5-3-13	
224	鉄筋コンクリート施工科	新建ビルド(株)技能研修所	新発田市大字富塚1942	
225	鉄筋コンクリート施工科	熊本市建設技術専門学院	熊本市南熊本3-8-16	
226	鉄筋コンクリート施工科	人吉球磨能力開発センター	人吉市相良町1253-1	
227	鉄筋コンクリート施工科	八代高等職業訓練校	八代市清水町2-94	
228	鉄筋コンクリート施工科	大分県ものづくりカレッジ	大分市牧3-5-10	
229	鉄筋コンクリート施工科	鹿児島高等技術専門校	鹿児島市草牟田2-36-39	

230	プレハブ建築科	積水ハウス(株)東日本技術研修センター	古河市久能812
231	プレハブ建築科	パナホーム(株)西部職業能力開発校	東近江市中岸本町281
232	プレハブ建築科	積水ハウス(株)関西技術研修センター	栗東市下鉤274
233	プレハブ建築科	積水ハウス(株)西日本技術研修センター	古河市久能812
234	建築設計科	登別地方高等職業訓練校	登別市青葉町42-13
235	建築設計科	八戸職業能力開発校	八戸市類家2-7-30
236	建築設計科	水沢高等職業訓練校	岩手県奥州市水沢区真城字中上野96-3
237	建築設計科	気仙高等職業訓練校	大船渡市盛町字みどり町13-4
238	建築設計科	陸前高田高等職業訓練校	陸前高田市高田町字下和野1-2
239	建築設計科	東盤高等職業訓練校	一関市千厩町千厩字上駒場360-4
240	建築設計科	一関高等職業訓練校	一関市舞川字西平8-2
241	建築設計科	遠野高等職業訓練校	遠野市青笹町中沢第8地割11番8
242	建築設計科	江刺高等職業訓練校	奥州市江刺区岩谷堂字松長根18-2
243	建築設計科	花巻高等職業訓練校	花巻市二枚橋第5地割6-22
244	建築設計科	釜石高等職業訓練校	釜石市大字平田第3地割75-1
245	建築設計科	北上高等職業訓練校	岩手県北上市相去町山田2-42
246	建築設計科	久慈高等職業訓練校	久慈市川崎町17-5
247	建築設計科	宮古高等職業訓練校	宮古市長町2-6-1
248	建築設計科	岩手中央高等職業訓練校	盛岡市加賀町4-18-50
249	建築設計科	二戸高等職業訓練校	二戸市米沢字荒谷76-2
250	建築設計科	いわき共同高等職業訓練校	いわき市平谷川瀬1-1-6
251	建築設計科	大田原地域職業訓練センター	大田原市本町1-2805-3
252	建築設計科	宇都宮共同高等産業技術学校	宇都宮市中戸祭町848
253	建築設計科	鹿沼共同高等産業技術学校	鹿沼市上石川1465-4
254	建築設計科	佐野共同高等産業技術学校	真岡市八条屋敷北106-1
255	建築設計科	真岡共同高等産業技術学校	真岡市八条屋敷北106-1
256	建築設計科	足利市共同高等産業技術学校	足利市東砂原後町1069-2
257	建築設計科	みどり地区高等職業訓練校	みどり市大間々町桐原99-8
258	建築設計科	桐生高等技能専門学校	桐生市相生町5-51-10
259	建築設計科	太田地区高等職業訓練校	太田市西新町22-1
260	建築設計科	富岡地区高等職業訓練校	富岡市富岡1754-1
261	建築設計科	柏工業専門学校	柏市明原3-20-16
262	建築設計科	佐渡高等職業訓練校	佐渡市八幡2001-1
263	建築設計科	三条市高等職業訓練校	三条市東本成寺8-53
264	建築設計科	糸魚川高等職業訓練校	糸魚川市新鉄2-9-1
265	建築設計科	十日町市高等職業訓練校	十日町市新座甲281-1
266	建築設計科	上越人材ハイスクール	上越市高土町3-1-15
267	建築設計科	新潟市高等職業訓練校	新潟市東区藤見町1-18-5
268	建築設計科	上小高等職業訓練校	上田市常盤城1-3-20
269	建築設計科	諏訪高等職業訓練校	諏訪市湯の脇2-11-19
270	建築設計科	名古屋建築技能大学校	名古屋市昭和区桜山町3-51-2
271	建築設計科	西脇地域職業訓練センター	西脇市平野町189-1
272	建築設計科	大村建設技術専門学院	大村市玖島1-49-2
273	建築設計科	佐世保建設技術専門学院	佐世保市大黒町534-18
274	建築設計科	島原建設技術専門学院	島原市秩父ヶ浦町2669-8
275	建築設計科	長崎建設技術専門学院	長崎市城山町17-58
276	建築設計科	諫早・大村高等職業訓練校	諫早市宇都町22-76
277	建築設計科	東尾湯高等職業訓練校	尾湯郡高鍋町大字北高鍋840-2
278	屋根施工科	遠野高等職業訓練校	遠野市青笹町中沢第8地割11番8
279	屋根施工科	静岡県屋根技術高等専門学院	三島市松本188-13
280	屋根施工科	愛知県瓦瓦高等職業訓練校	高浜市田戸町1-1-1
281	屋根施工科	滋賀県瓦瓦高等職業訓練校	守山市木浜町100
282	屋根施工科	京都瓦技術専門学院	京都市南区西九条豊田町12
283	屋根施工科	大阪府瓦瓦高等職業訓練校	大阪府中央区上本町西1-2-14 第3松屋ビル7F
284	屋根施工科	奈良県瓦瓦高等職業訓練校	天理市遠田町45-11
285	屋根施工科	和歌山高等職業訓練校	和歌山市砂山南3-3-38
286	建築板金科	岩見沢地方高等職業訓練校	岩見沢市東町2条1-28-7
287	建築板金科	テクノカレッジ滝川	滝川市流通団地3-6-23
288	建築板金科	登別地方高等職業訓練校	登別市青葉町42-13
289	建築板金科	釧路高等技術専門学校	北海道釧路市鳥取南7丁目2-20
290	建築板金科	北見技術工学院	北見市三輪1-4
291	建築板金科	美幌高等職業訓練校	網走郡美幌町西1条南5-3
292	建築板金科	網走地方高等職業訓練校	網走市大曲1-6-1
293	建築板金科	青森職業能力開発校	青森市新城市平岡259-28
294	建築板金科	五所川原職業能力開発校	五所川原市宇一ツ谷503-5
295	建築板金科	弘前職業能力開発校	弘前市田町5-3-3

296	建築板金科	一関高等職業訓練校	一関市舞川字西平8-2
297	建築板金科	花巻高等職業訓練校	花巻市二枚橋第5地割6-22
298	建築板金科	北上高等職業訓練校	岩手県北上市相去町山田2-42
299	建築板金科	大曲仙北共同高等職業訓練校	大仙市大曲田町3-1
300	建築板金科	新庄マイスターカレッジ	新庄市大字鳥越字木の木999
301	建築板金科	鶴岡高等職業訓練校	鶴岡市大塚町26-13
302	建築板金科	庄内職業高等専門校	酒田市ゆたか3-7-12
303	建築板金科	河北高等技能専門校	西村山郡河北町谷地字所岡142-2
304	建築板金科	長井高等職業訓練校	長井市屋城町6-53
305	建築板金科	米沢市高等技能専門校	米沢市春日4-2-100
306	建築板金科	郡山高専職業能力開発校	郡山市長者3-2-19
307	建築板金科	福島共同高等職業訓練校	福島市本内字南街道下35-1
308	建築板金科	鹿沼共同高等産業技術学校	鹿沼市上石川1465-4
309	建築板金科	太田地区高等職業訓練校	太田市西新町22-1
310	建築板金科	洪川地区高等職業訓練校	北群馬郡吉岡町下野田1521-11
311	建築板金科	東京都板金高等職業訓練校	港区三田1-3-37
312	建築板金科	(訓)福井県板金高等職業訓練校	福井市花堂東2-1305
313	建築板金科	諏訪高等職業訓練校	諏訪市湯の脇2-11-19
314	建築板金科	長野共同高等職業訓練校	長野市大豆島4034
315	建築板金科	飯岳高等職業訓練校	飯山市大字木島662-1
316	建築板金科	岐阜県板金高等職業訓練校	岐阜市江添3-4-13
317	建築板金科	静岡県高等技能学校	静岡市駿河区曲金3-1-10
318	建築板金科	愛知建連技能専門校	愛知県碧南市夕田町1丁目1番地2(碧南市ものづくりセンター内)
319	建築板金科	岡崎技術工学院	岡崎市羽根町字小豆板117-3
320	建築板金科	豊橋高等技術専門校	豊橋市前田南町2-19-7
321	建築板金科	愛知県板金技能専門校	名古屋市中区浅間2-10-4
322	建築板金科	三重県板金高等職業訓練校	津市海岸町24-4
323	建築板金科	滋賀県板金高等技術専門校	大津市打出浜13-39
324	建築板金科	京都府板金高等職業訓練校	京都市右京区西院東中水町17 京都府中小企業会館内
325	建築板金科	大阪府板金高等職業訓練校	東大阪市若江東1-1-44
326	建築板金科	松山共同高等職業訓練校	松山市土居田町332-5
327	建築板金科	高知県板金高等職業訓練校	高知市二葉町4-18
328	建築板金科	福岡県板金高等職業訓練校	福岡市博多区祇園町4-6
329	建築板金科	熊本県板金高等職業訓練校	熊本市戸島町887-1
330	防水施工科	岩野建設専門技能訓練学園	長野市大字北長池2051
331	防水施工科	熊本市建設技術専門学院	熊本市南熊本3-8-16
332	サッシ・ガラス施工科	川島建材(株)高等職業訓練校	石川郡野々市町御経塚3-120
333	サッシ・ガラス施工科	愛知県硝子施工高等職業訓練校	名古屋市中区天白町大字八事字裏山60-434
334	サッシ・ガラス施工科	京都府硝子技術高等職業訓練校	京都市上京区下長者町通智恵光院東入西辰巳町106-1
335	サッシ・ガラス施工科	大阪府板硝子高等職業訓練校	大阪市中央区島之内1-11-13
336	サッシ・ガラス施工科	広島硝子施工高等職業訓練校	広島市西区中広町3-1-58
337	サッシ・ガラス施工科	鹿児島高等技術専門校	鹿児島市草牟田2-36-39
338	畳科	岩手中央高等職業訓練校	盛岡市加賀町4-18-50
339	畳科	宮城県建設技能者訓練協会連合会高等職業訓練校	仙台市青葉区青葉16-1
340	畳科	福島共同高等職業訓練校	福島市本内字南街道下35-1
341	畳科	茨城県畳高等職業訓練校	高萩市赤浜1915
342	畳科	宇都宮共同高等産業技術学校	宇都宮市中戸祭町848
343	畳科	埼玉県畳高等職業訓練校	さいたま市南区松本1-12-3
344	畳科	東京都畳高等職業訓練校	文京区湯島3-16-10
345	畳科	長野共同高等職業訓練校	長野市大豆島4034
346	畳科	大垣地域職業訓練センター	大垣市西大外羽1-226-1
347	畳科	滋賀県畳高等職業訓練校	近江八幡市田中江町220((有)ツジイチ内)
348	畳科	京都畳技術専門学院	京都市上京区猪熊通榎木町上ル大黒町454
349	畳科	福岡畳高等職業訓練校	春日市一の谷3-27
350	畳科	鹿児島高等技術専門校	鹿児島市草牟田2-36-39
351	インテリア・サービス科	北上高等職業訓練校	岩手県北上市相去町山田2-42
352	インテリア・サービス科	鹿角共同高等職業訓練校	鹿角市尾去沢字上山214
353	インテリア・サービス科	ポラス建築技術訓練校	草加市柿ノ木町1558-1
354	インテリア・サービス科	岩野建設専門技能訓練学園	長野市大字北長池2051
355	インテリア・サービス科	愛知インテリア・アカデミー	名古屋市中区大須1-22-30
356	表具科	工芸大学訓練校	田原市田原町東馬洗34-8
357	表具科	大阪府表具高等職業訓練校	大阪市住吉区東粉浜3-27-12
358	表具科	山口県表具内装高等職業訓練校	宇部市善和203
359	表具科	鹿児島高等技術専門校	鹿児島市草牟田2-36-39
360	左官・タイル施工科	旭川左官高等職業訓練校	旭川市花咲町1

361	左官・タイル施工科	岩見沢地方高等職業訓練校	岩見沢市東町2条1-28-7
362	左官・タイル施工科	札幌左官高等職業訓練校	札幌市白石区東札幌5条1 札幌市産業振興センター内
363	左官・タイル施工科	北海道タイル高等職業訓練校	札幌市白石区東札幌5条1丁目1-2
364	左官・タイル施工科	釧路高等技術専門校	北海道釧路市鳥取南7丁目2-20
365	左官・タイル施工科	五所川原職業能力開発校	五所川原市宇一ツ谷503-5
366	左官・タイル施工科	十和田職業能力開発校	十和田市大字三本木字千歳森292-7
367	左官・タイル施工科	弘前職業能力開発校	弘前市田町5-3-3
368	左官・タイル施工科	遠野高等職業訓練校	遠野市青笹町中沢第8地割11番8
369	左官・タイル施工科	花巻高等職業訓練校	花巻市二枚橋第5地割6-22
370	左官・タイル施工科	釜石高等職業訓練校	釜石市大字平田第3地割75-1
371	左官・タイル施工科	北上高等職業訓練校	岩手県北上市相去町山田2-42
372	左官・タイル施工科	久慈高等職業訓練校	久慈市川崎町17-5
373	左官・タイル施工科	宮古高等職業訓練校	宮古市長町2-6-1
374	左官・タイル施工科	岩手中央高等職業訓練校	盛岡市加賀町4-18-50
375	左官・タイル施工科	二戸高等職業訓練校	二戸市米沢字荒谷76-2
376	左官・タイル施工科	鹿角共同高等職業訓練校	鹿角市尾去沢字上山214
377	左官・タイル施工科	本荘由利共同高等職業訓練校	由利本荘市石脇字田尻30
378	左官・タイル施工科	鶴岡高等職業訓練校	鶴岡市大塚町26-13
379	左官・タイル施工科	庄内職業高等専門校	酒田市ゆたか3-7-12
380	左官・タイル施工科	河北高等技能専門校	西村山郡河北町谷地字所岡142-2
381	左官・タイル施工科	米沢市高等技能専門校	米沢市春日4-2-100
382	左官・タイル施工科	いわき共同高等職業訓練校	いわき市平谷川瀬1-1-6
383	左官・タイル施工科	県南地区共同高等職業訓練校	岩瀬郡鏡石町字岡内76番地
384	左官・タイル施工科	郡山高等職業能力開発校	郡山市長者3-2-19
385	左官・タイル施工科	福島共同高等職業訓練校	福島市本内字南街道下35-1
386	左官・タイル施工科	結城地区建設高等職業訓練校	結城市結城3149-2
387	左官・タイル施工科	龍ヶ崎地区高等職業訓練校	龍ヶ崎市4274-2
388	左官・タイル施工科	渋川地区高等職業訓練校	北群馬郡吉岡町下野田1521-11
389	左官・タイル施工科	上越人材ハイスクール	上越市高土町3-1-15
390	左官・タイル施工科	富山県左官高等職業訓練校	富山市館出町1-11-4 (社)富山市左官組合2F
391	左官・タイル施工科	㈱イスルギ附属技能専門校	金沢市神田1-31-1
392	左官・タイル施工科	石川県建設共同高等職業訓練校	金沢市北安江町4-15-15
393	左官・タイル施工科	富士吉田共同高等職業訓練校	富士吉田市大明見862
394	左官・タイル施工科	橋爪工業高等職業訓練校	岡谷市赤羽2-1-5
395	左官・タイル施工科	佐久高等職業訓練校	佐久市大字高柳354-2
396	左官・タイル施工科	中信職業訓練センター	松本市清水2-6-23
397	左官・タイル施工科	上小高等職業訓練校	上田市常盤城1-3-20
398	左官・タイル施工科	北信州能力開発センター	長野県中野市中野1457-1
399	左官・タイル施工科	飯岳高等職業訓練校	飯山市大字木島662-1
400	左官・タイル施工科	飯田高等職業訓練校	飯山市大字木島662-1
401	左官・タイル施工科	静岡高等技能学校	静岡市駿河区曲金3-1-10
402	左官・タイル施工科	愛知建連技能専門校	愛知県碧南市汐田町1丁目1番地2(碧南市ものづくりセンター内)
403	左官・タイル施工科	岡崎技術工学院	岡崎市羽根町字小豆板117-3
404	左官・タイル施工科	INAX建築技術専門校	常滑市多屋町4-18-2
405	左官・タイル施工科	豊田高等職業訓練校	豊田市陣中町1-22-2
406	左官・タイル施工科	愛知県左官高等職業訓練校	名古屋市北区城東町6-141
407	左官・タイル施工科	鈴鹿建設高等職業訓練校	鈴鹿市矢橋1-21-1
408	左官・タイル施工科	福知山左官高等職業訓練校	福知山市上天津1919
409	左官・タイル施工科	京都府左官技能専修学院	京都市下京区大宮通五条下る東側南門前町484
410	左官・タイル施工科	中紀職業能力開発校	日高郡日高町荊木310 中紀地域職業訓練センター内
411	左官・タイル施工科	和歌山高等職業訓練校	和歌山市砂山南3-3-38
412	左官・タイル施工科	鳥取県左官高等職業訓練校	鳥取市緑ヶ丘3-14-1
413	左官・タイル施工科	日本建設左官高等職業訓練校	下関市東大和町2-2-18
414	左官・タイル施工科	松山共同高等職業訓練校	松山市土居田町332-5
415	左官・タイル施工科	伊万里共同高等職業訓練校	伊万里市立花町広田1513-18
416	左官・タイル施工科	佐賀建築技術専門学院	佐賀市鍋島町大字森田469-1
417	左官・タイル施工科	鹿島総合技能専門学院	鹿島市大字高津原1727
418	左官・タイル施工科	武雄総合技能専門学院	武雄市朝日町大字中野6404
419	左官・タイル施工科	玉名高等職業訓練校	玉名市大字玉名2079
420	左官・タイル施工科	オオタ左官訓練センター	熊本市若葉3-15-22
421	左官・タイル施工科	永野工業能力開発研修センター	熊本市内坪井町9-57
422	左官・タイル施工科	熊本市建設技術専門学院	熊本市南熊本3-8-16
423	左官・タイル施工科	上内左官高等職業訓練校	熊本市龍田陳内4-18-47
424	左官・タイル施工科	八代高等職業訓練校	八代市清水町2-94
425	左官・タイル施工科	大分県ものづくりカレッジ	大分市牧3-5-10

426	左官・タイル施工科	日向地区職業訓練会高等職業訓練校	日向市大字日知屋字前田8097-2
427	左官・タイル施工科	宮崎高等技術専門学校	宮崎市大字赤江字飛江田868-16
428	左官・タイル施工科	都城地域高等職業訓練校	都城市年見町13-11
429	左官・タイル施工科	日南高等職業訓練校	日南市大字益安888
430	左官・タイル施工科	大平工務店高等職業訓練校	鹿児島市小野2-8-10
431	左官・タイル施工科	鹿児島高等技術専門学校	鹿児島市草牟田2-36-39
432	築炉科	築炉技能高等職業訓練校	大田区鎌田5-48-4
433	築炉科	山崎高等技術専門学校	大牟田市大字橋11
434	ブロック施工科	札幌ブロック建築高等職業訓練校	札幌市東区北35条東26丁目3-10 トレジャービル1階
435	ブロック施工科	岩手中央高等職業訓練校	盛岡市加賀町4-18-50
436	配管科	岩見沢地方高等職業訓練校	岩見沢市東町2条1-28-7
437	配管科	北海道管設備高等職業訓練校	札幌市白石区東札幌5条1 札幌市産業振興センター内
438	配管科	美幌高等職業訓練校	網走郡美幌町西1条南5-3
439	配管科	美幌高等職業訓練校	網走郡美幌町西1条南5-3
440	配管科	網走地方高等職業訓練校	網走市大曲1-6-1
441	配管科	水沢高等職業訓練校	岩手県奥州市水沢区真城字中上野96-3
442	配管科	東盤高等職業訓練校	一関市千厩町千厩字上駒場360-4
443	配管科	一関高等職業訓練校	一関市舞川字西平8-2
444	配管科	遠野高等職業訓練校	遠野市青笹町中沢第8地割11番8
445	配管科	江刺高等職業訓練校	奥州市江刺区岩谷堂字松長根18-2
446	配管科	花巻高等職業訓練校	花巻市二枚橋第5地割6-22
447	配管科	釜石高等職業訓練校	釜石市大字平田第3地割75-1
448	配管科	北上高等職業訓練校	岩手県北上市相去町山田2-42
449	配管科	横手平鹿共同高等職業訓練校	横手市前郷字下三枚橋167
450	配管科	増子建築職業能力開発校	郡山市富久山町福原字東内打5-1
451	配管科	伊勢崎佐波高等職業訓練校	伊勢崎市宮子町1211-1
452	配管科	ヤマトテクニカールスクール	前橋市江田町30-3
453	配管科	太田地区高等職業訓練校	太田市西新町22-1
454	配管科	渋川地区高等職業訓練校	北群馬郡吉岡町下野田1521-11
455	配管科	西原高等職業訓練校	大田区昭和島2-4-1
456	配管科	富士吉田共同高等職業訓練校	富士吉田市大明見862
457	配管科	大北高等職業訓練校	大町市大字大町1058-13
458	配管科	茅野高等職業訓練校	茅野市中大塩1-9
459	配管科	塩尻高等職業訓練校	塩尻市広丘高出1666
460	配管科	佐久高等職業訓練校	佐久市大字高柳354-2
461	配管科	中信職業訓練センター	松本市清水2-6-23
462	配管科	上小高等職業訓練校	上田市常盤城1-3-20
463	配管科	諏訪高等職業訓練校	諏訪市湯の脇2-11-19
464	配管科	中高等職業訓練校	中野市大字中野1457-1
465	配管科	飯岳高等職業訓練校	飯山市大字木島662-1
466	配管科	飯田高等職業訓練校	飯田市東新町2-30
467	配管科	名古屋建築設備高等技術専門学校	名古屋市中区丸の内3-14-11
468	配管科	京都府建築設備高等技術専門学校	京都市左京区岡崎円勝寺1-11
469	配管科	大阪配管高等職業訓練校	大阪市北区西天満3-6-32 水道会館
470	配管科	中紀職業能力開発校	日高郡日高町荊木310 中紀地域職業訓練センター内
471	配管科	筑後配管設備高等職業訓練校	久留米市合川町北屋敷1898-7
472	配管科	山崎高等技術専門学校	大牟田市大字橋11
473	配管科	鹿児島総合技能専門学校	鹿児島市大字高津原1727
474	配管科	武雄総合技能専門学校	武雄市朝日町大字中野6404
475	配管科	沓岐高等職業訓練校	沓崎市郷ノ浦町柳田触14-16
476	配管科	人吉球磨能力開発センター	人吉市相良町1253-1
477	土木施工科	日高高等技術専門学校	浦河郡浦河町東町うしお2-3-1
478	土木施工科	函館総合建設高等職業訓練校	函館市高盛町19-17
479	土木施工科	鹿沼共同高等産業技術学校	鹿沼市上石川1465-4
480	土木施工科	ユニオン建設保線技術研修センター	北足立郡伊奈町大字小室5071-1
481	土木施工科	交通建設研修センター	佐倉市六崎334-10
482	土木施工科	東鉄研修センター	新宿区信濃町34
483	土木施工科	新建ビルド(株)技能研修所	新発田市大字富塚1942
484	土木施工科	塩尻高等職業訓練校	塩尻市広丘高出1666
485	土木施工科	諏訪高等職業訓練校	諏訪市湯の脇2-11-19
486	土木施工科	飯岳高等職業訓練校	飯山市大字木島662-1
487	土木施工科	静岡県建設学院	藤枝市潮107-2
488	土木施工科	唐津高等職業訓練校	唐津市養母田78-1
489	土木施工科	北松浦建設協同高等職業訓練校	北松浦郡佐々町本田原免153-3
490	土木施工科	出水共同高等職業訓練校	出水郡野田町下名5279
491	測量設計科	水沢高等職業訓練校	岩手県奥州市水沢区真城字中上野96-3
492	測量設計科	東盤高等職業訓練校	一関市千厩町千厩字上駒場360-4
493	ボイラー運転科	三浦共同高等職業訓練校	松山市堀江町7

7. 現行訓練科の「カリキュラム」の見直し提案表

現行訓練科の「カリキュラム」の見直し提案表

系	31 建築施工系	科名	77 とび科
		訓練期間	1年
		総時間	1400H

一 系基礎科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	中小規模建築物における建築一般、設計製図、施工管理及び建築施工における基礎的な技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 系基礎学科	250	
① 建築概論	10	建築の概要、建築物の種類、建築史
② 構造力学概論	30	力の釣合い、荷量と外力、断面の性質、基礎と地盤
③ 建築構造概論	60	木造建築、プレハブ建築、枠組壁建築、鉄筋コンクリート造建築、鉄骨造建築
④ 建築計画概論	40	全体計画、各部の計画、計画の進め方
⑤ 建築生産概論	20	機械、工程管理、資材管理、生産管理、契約事務
⑥ 建築設備	20	給排水設備、電気設備、空調設備、その他の設備
⑦ 測量	10	測量一般、測量機器、敷地測量、図面及び計算
⑧ 建築製図	20	製図用具及び用紙、製図通則、建築物製図の概要
⑨ 安全衛生	20	安全衛生管理、安全衛生関係法規、安全作業法
⑩ 関係法規	20	建築基準法、建設業法、建築士法
2 系基礎実技	150	
① 機械操作基本実習	70	建築機械使用実習、CAD操作、OA機器操作
② 測量基本実習	50	平板測量、水準測量、トランシット測量、測量図
③ 安全衛生作業法	30	安全作業法、衛生作業法

二 専攻科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	建築物の<躯体施工、仮設物の組立て及び解体における技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 専攻学科	150	
① 材料及び器工具	20	とび工事用器工具、仮設材、木質系材料、金属系材料、コンクリート系材料、その他の材料
② とび施工法	40	工事用機械及び設備、施工計画及び管理、木工事(建方・引き方等)、鉄骨工事(建方・接合等)、コンクリート工事、建物解体工事
③ 仮設工事施工法	40	仮設建物の組立て・解体、足場の組立て・解体
④ 土工事施工法	30	掘削工事、排水工事、山止め工事、杭・地業工事
⑤ 仕様及び積算	20	仕様書、積算
2 専攻実技	300	
① 器工具使用法	40	とび工事用器工具の使用法
② 玉掛揚重実習	30	玉掛作業、揚重、運搬
③ 仮設工事実習	100	仮設建物の組立て・解体、足場の組立て・解体
④ 鉄骨工事実習	100	鉄骨建方実習、木造建方実習、コンクリート工事実習、建物解体実習
⑤ 土工事実習	30	掘削工事実習、排水工事実習、山止め工事実習、杭地業工事実習

計 850
教科設定時間の割合 60.7%

現行訓練科の「カリキュラム」の見直し提案表

系	31 建築施工系	科名	80 建築設計科
		訓練期間	1年
		総時間	1400H

一 系基礎科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	中小規模建築物における建築一般、設計製図、施工管理及び建築施工における基礎的な技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 系基礎学科	250	
① 建築概論	10	建築の概要、建築物の種類、建築史
② 構造力学概論	30	力の釣合い、荷重と外力、断面の性質、基礎と地盤
③ 建築構造概論	60	木造建築、プレハブ建築、枠組壁建築、鉄筋コンクリート造建築、鉄骨造建築
④ 建築計画概論	40	全体計画、各部の計画、計画の進め方
⑤ 建築生産概論	20	機械、工程管理、資材管理、生産管理、契約事務
⑥ 建築設備	20	給排水設備、電気設備、空調設備、その他の設備
⑦ 測量	10	測量一般、測量機器、敷地測量、図面及び計算
⑧ 建築製図	20	製図用具及び用紙、製図通則、建築物製図の概要
⑨ 安全衛生	20	安全衛生管理、安全衛生関係法規、安全作業法
⑩ 関係法規	20	建築基準法、建設業法、建築士法
2 系基礎実技	150	
① 機械操作基本実習	70	建築機械使用実習、CAD操作、OA機器操作
② 測量基本実習	50	平板測量、水準測量、トランシット測量、測量図
③ 安全衛生作業法	30	安全作業法、衛生作業法

二 専攻科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	建築物の製図、写図及び簡単な設計における技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 専攻学科	300	
① 構造力学	50	静定構造物、不静定構造物、応用力と変形、構造物の変形
② 建築構造	90	鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造、木構造、プレキャスト構造、組積造
③ 建築計画	50	建築計画の進め方、建築環境調整、各種建築物の建築計画
④ 建築設計	50	建築製図の表現、設計図の目的、建築設計図・設備関係図の種類及び内容、CAD・CG
⑤ 建築施工法	60	仮設工事、土工事、鉄筋コンクリート工事、鉄骨工事、仕上げ工事
2 専攻実技	300	
① 木造建築設計実習	130	木造建築物の設計・製図
② 鉄骨造建築設計実習	70	鉄骨造建築物の設計・製図
③ 鉄筋コンクリート造建築設計実習	100	鉄筋コンクリート造建築物の設計・製図

計 1000
教科設定時間の割合 71.4%

現行訓練科の「カリキュラム」の見直し提案表

系	32 建築外装系	科名	81 屋根施工科
		訓練期間	1年
		総時間	1400H

一 系基礎科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	建築外装施工における基礎的な技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 系基礎学科	250	
① 建築概論	20	建築の概要、建築物の種類、建築史
② 建築生産概論	30	建築生産の特徴、建築施工計画、建築施工法、機械、工具管理、資材管理、契約事務
③ 建築構造	60	木質構造、鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造、鉄骨・鉄筋コンクリート構造、特殊構造
④ 建築設備	30	給排水設備、電気設備、空調設備、その他の設備
⑤ 建築計画	20	全体計画、各部の計画、計画の進め方、各種建物の計画
⑥ 建築製図	50	製図用具及び用紙、製図通則、建築物製図の概要
⑦ 安全衛生	20	安全衛生管理、安全衛生関係法規、安全作業法
⑧ 関係法規	20	建築基準法、建設業法、その他関係法令
2 系基礎実技	150	
① 測量及び測定基本実習	40	平板測量、水準測量、トランシット測量 角度の測定、水準測定、距離及び長さの測定、引通し及び表示
② 機械操作基本実習	30	外装施工用機械の取扱い及び整備
③ 足場実習	50	足場の組立て・解体、登りさん橋
④ 安全衛生作業法	30	安全作業法、衛生作業法

二 専攻科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	瓦ふき屋根等の屋根ふきにおける技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 専攻学科	150	
① 材料	30	屋根ふき材料、関連工事材料
② 屋根施工法	90	割付け、下地施工法、屋根施工
③ 仕様及び積算	30	仕様書、積算
2 専攻実技	350	
① 器工具使用法	30	屋根施工用器工具の使用実習
② 割付け実習	30	墨出し、割付け、合わせ
③ 下地施工実習	30	屋根材料の選定、材料準備、下地施工
④ 屋根施工実習	230	吹上げ、屋根仕舞、各種屋根の屋根ふき、施工
⑤ 養生	30	養生材料の取扱い、養生

計 900
教科設定時間の割合 64.3%

現行訓練科の「カリキュラム」の見直し提案表

系	32 建築外装系	科名	83 建築板金科
		訓練期間	1年
		総時間	1400H

一 系基礎科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	建築外装施工における基礎的な技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 系基礎学科	250	
① 建築概論	20	建築の概要、建築物の種類、建築史
② 建築生産概論	30	建築生産の特徴、建築施工計画、建築施工法、機械、工具管理、資材管理、契約事務
③ 建築構造	60	木質構造、鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造、鉄骨・鉄筋コンクリート構造、特殊構造
④ 建築設備	30	給排水設備、電気設備、空調設備、その他の設備
⑤ 建築計画	20	全体計画、各部の計画、計画の進め方、各種建物の計画
⑥ 建築製図	50	製図用具及び用紙、製図通則、建築物製図の概要
⑦ 安全衛生	20	安全衛生管理、安全衛生関係法規、安全作業法
⑧ 関係法規	20	建築基準法、建設業法、その他関係法令
2 系基礎実技	150	
① 測量及び測定基本実習	40	平板測量、水準測量、トランシット測量 角度の測定、水準測定、距離及び長さの測定、引通し及び表示
② 機械操作基本実習	30	外装施工用機械の取扱い及び整備
③ 足場実習	50	足場の組立て・解体、登りさん橋
④ 安全衛生作業法	30	安全作業法、衛生作業法

二 専攻科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	建築板金の加工及び施工における技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 専攻学科	150	
① 材料	30	各種鋼板、金属板、合成樹脂材、断熱材、防音材、シーリング材、接着剤
② 板金加工法	30	板金機械、曲げ加工法、接合法、絞り加工法、切断加工法
③ 板金施工法	60	施工用機械、外壁施工、屋根施工、雨どい施工、ダクト施工
④ 仕様及び積算	30	仕様書、積算
2 専攻実技	350	
① 器工具使用法	30	板金加工及び施工用器工具の使用実習
② 板金加工実習	90	曲げ加工、接合、絞り加工、切断加工
③ 板金施工実習	200	外壁施工、屋根施工、雨どい施工、ダクト施工
④ 養生	30	養生材料の取扱い、養生

計 900
教科設定時間の割合 64.3%

現行訓練科の「カリキュラム」の見直し提案表

系	32 建築外装系	科名	84 防水施工科
		訓練期間	1年
		総時間	1400H

一 系基礎科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	建築外装施工における基礎的な技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 系基礎学科	250	
① 建築概論	20	建築の概要、建築物の種類、建築史
② 建築生産概論	30	建築生産の特徴、建築施工計画、建築施工法、機械、工具管理、資材管理、契約事務
③ 建築構造	60	木質構造、鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造、鉄骨・鉄筋コンクリート構造、特殊構造
④ 建築設備	30	給排水設備、電気設備、空調設備、その他の設備
⑤ 建築計画	20	全体計画、各部の計画、計画の進め方、各種建物の計画
⑥ 建築製図	50	製図用具及び用紙、製図通則、建築物製図の概要
⑦ 安全衛生	20	安全衛生管理、安全衛生関係法規、安全作業法
⑧ 関係法規	20	建築基準法、建設業法、その他関係法令
2 系基礎実技	150	
① 測量及び測定基本実習	40	平板測量、水準測量、トランシット測量 角度の測定、水準測定、距離及び長さの測定、引通し及び表示
② 機械操作基本実習	30	外装施工用機械の取扱い及び整備
③ 足場実習	50	足場の組立て・解体、登りさん橋
④ 安全衛生作業法	30	安全作業法、衛生作業法

二 専攻科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	防水施工における技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 専攻学科	150	
① 材料	30	各種防水材料の特性及び選定法、付属材料
② 防水施工法	90	シート防水法、塗膜防水法、アスファルト防水法、金属防水法、シーリング防水法
③ 仕様及び積算	30	仕様書、積算
2 専攻実技	350	
① 器工具使用法	50	防水施工用器工具使用法
② 防水施工実習	270	墨出し、下地施工、各種方式による防水施工、仕上げ
③ 養生	30	養生材料の取扱い、養生

計 900
教科設定時間の割合 64.3%

現行訓練科の「カリキュラム」の見直し提案表

系	32 建築外装系	科名	85 サッシ・ガラス施工科
		訓練期間	1年
		総時間	1400H

一 系基礎科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	建築外装施工における基礎的な技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 系基礎学科	250	
① 建築概論	20	建築の概要、建築物の種類、建築史
② 建築生産概論	30	建築生産の特徴、建築施工計画、建築施工法、機械、工具管理、資材管理、契約事務
③ 建築構造	60	木質構造、鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造、鉄骨・鉄筋コンクリート構造、特殊構造
④ 建築設備	30	給排水設備、電気設備、空調設備、その他の設備
⑤ 建築計画	20	全体計画、各部の計画、計画の進め方、各種建物の計画
⑥ 建築製図	50	製図用具及び用紙、製図通則、建築物製図の概要
⑦ 安全衛生	20	安全衛生管理、安全衛生関係法規、安全作業法
⑧ 関係法規	20	建築基準法、建設業法、その他関係法令
2 系基礎実技	150	
① 測量及び測定基本実習	40	平板測量、水準測量、トランシット測量 角度の測定、水準測定、距離及び長さの測定、引通し及び表示
② 機械操作基本実習	30	外装施工用機械の取扱い及び整備
③ 足場実習	50	足場の組立て・解体、登りさん橋
④ 安全衛生作業法	30	安全作業法、衛生作業法

二 専攻科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	サッシ施工及びガラス施工における技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 専攻学科	150	
① 材料	50	鉄鋼材料、非鉄材料、サッシと規格、ガラスと規格
② サッシ施工法	40	アーク溶接法、ガス溶接法、サッシの組立法、附属材の取付け法
③ ガラス施工法	30	ガラス加工法、ガラスの取扱い法、附属品の取付法
④ 仕様及び積算	30	仕様書、積算
2 専攻実技	350	
① 器工具使用法	30	サッシ施工用及びガラス施工用器工具の使用実習
② 溶接実習	80	アーク溶接、ガス溶接
③ サッシ施工実習	120	カーテンウォール取付け、サッシの加工・組立て・取付け、附属材の取付け
④ ガラス施工実習	90	ガラス加工、ガラスの取付け、附属材の取付け
⑤ 養生	30	養生材料の取扱い、養生

計 900
教科設定時間の割合 64.3%

現行訓練科の「カリキュラム」の見直し提案表

系	33 建築内装系	科名	87 インテリア・サービス科
		訓練期間	1年
		総時間	1400H

一 系基礎科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	建築物の内装施工における基礎的な技能及びこれに関する知識		
教科	訓練時間	教科の細目	
1 系基礎学科	200		
① 建築概論	30	建築の概要、建築物の種類、建築史	
② 室内装飾概論	40	室内環境、色彩概論、内装の分類、インテリア史	
③ 建築生産概論	20	工程管理、資材管理、生産管理	
④ 建築構造	40	木構造、内装構造、その他の構造、構造力学	
⑤ 建築製図	30	製図用機械、JIS製図通則、建築物製図	
⑥ 安全衛生	20	安全衛生管理、安全衛生関係法規、安全作業法	
⑦ 関係法規	20	建築基準法、消防法、消費者保護・物品等関係法規	
2 系基礎実技	120		
① 測量基本実習	30	角度の測定、水準測定、距離及び長さの測定、引通し及び表示	
② 機械操作基本実習	35	建築内装用機械の取扱い及び整備	
③ 製図基本実習	35	製図一般、図法、建築製図	
④ 安全衛生作業法	20	安全衛生作業法	

二 専攻科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	建築物の内装計画、内装施工、プレゼンテーション等における技能及びこれに関する知識		
教科	訓練時間	教科の細目	
1 専攻学科	120		
① インテリア計画	20	インテリアの歴史と様式、色彩計画、寸法計画、室内計画、設備計画	
② 材料	30	部位別材料、内装施工用材料	
③ 施工法	50	床・壁・天井等の仕上げと施工法	
④ 仕様及び積算	20	仕様書、積算	
2 専攻実技	380		
① 器工具使用法	40	木工機械、金工用電動工具、インテリア加工用器工具の取扱い及び調整法	
② インテリア製図実習	80	各室の製図、建具・家具製図、プレゼンテーション	
③ 施工実習	260	床仕上げ、壁仕上げ、天井仕上げ、各種取付工事	

計 820
教科設定時間の割合 58.6%

現行訓練科の「カリキュラム」の見直し提案表

系	34 建築仕上系	科名	90 左官・タイル施工科
		訓練期間	1年
		総時間	1400H

一 系基礎科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	建築物の仕上げにおける基礎的な技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 系基礎学科	150	
① 建築生産概論	20	建築史、建築の概要、建築物の種類
② 建築生産概論	20	工程管理、資材管理、生産管理
③ 建築構造	20	木構造、RC構造、SRC構造、補強ブロック構造
④ 建築設備	20	給排水設備、電気設備、空調設備
⑤ 建築製図	30	JIS製図通則、建築物の製図
⑥ 建築仕上法	70 50	コンクリートブロック施工法、左官施工法、タイル施工法
⑦ 安全衛生	20	産業安全、労働衛生、安全衛生管理の実際、具体的災害防止対策
⑧ 関係法規	20	建築基準法、建設業法、その他関係法規
2 系基礎実技	150	
① 機械操作基本実習	50	左官・タイル、ブロック工事用機械 建築仕上用各種機械の取扱い及び整備
② 調合実習	50	調合、モルタル及びコンクリートの混練 材料の調合、混練
③ 足場実習	30	足場の組立て及び解体、登りさん橋
④ 安全衛生作業法	20	安全衛生作業法

二 専攻科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	下地、土壁、モルタル、プラスタ、しつくい、人造石及びタイル施工における技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 専攻学科	150	
① 造型	20	意匠図案、彫刻
② 材料	20	左官材料、タイル材料
③ 左官施工法	40	作業の段取り、下地調整、施工法
④ タイル施工法	40	作業の段取り、内装施工、外装施工、圧着工法、接着工法
⑤ 仕様及び積算	30	仕様書の目的、設計書との関係、見積りの方法、積算法
2 専攻実技	350	
① 測定及び墨出し実習	50	下地調整、割付け、墨出し
② 下地施工実習	60	コンクリート下地施工、木質下地施工、その他の下地施工
③ 左官施工実習	110	材料別塗工法、技法別塗工法 材料別塗仕上げ、技法別塗仕上げ
④ タイル施工実習	110	タイル加工、積上げ張り、圧着張り、接着張り、目地仕上げ
⑤ 養生	20	養生材料の取扱い、養生

計 850
教科設定時間の割合 60.7%

現行訓練科の「カリキュラム」の見直し提案表

系	34 建築仕上系	科名	91 築炉科
		訓練期間	1年
		総時間	1400H

一 系基礎科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	建築物の仕上げにおける基礎的な技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 系基礎学科	150	
① 建築生産概論	20	建築史、建築の概要、建築物の種類
② 建築生産概論	20	工程管理、資材管理、生産管理
③ 建築構造	20	木構造、RC構造、SRC構造、補強ブロック構造
④ 建築設備	20	給排水設備、電気設備、空調設備
⑤ 建築製図	30	JIS製図通則、建築物の製図
⑥ 建築仕上法	70 50	コンクリートブロック施工法、左官施工法、タイル施工法
⑦ 安全衛生	20	産業安全、労働衛生、安全衛生管理の実際、具体的災害防止対策
⑧ 関係法規	20	建築基準法、建設業法、その他関係法規
2 系基礎実技	150	
① 機械操作基本実習	50	左官・タイル、ブロック工事用機械 建築仕上用各種機械の取扱い及び整備
② 調合実習	50	調合、モルタル及びコンクリートの混練 材料の調合、混練
③ 足場実習	30	足場の組立て及び解体、登りさん橋
④ 安全衛生作業法	20	安全衛生作業法

二 専攻科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	金属、ガラス等の溶解炉及び加熱炉、窯業用窯の築造及び修理における技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 専攻学科	150	
① 窯炉	30	窯炉一般、鉄鋼製造用窯炉、非鉄金属精錬用窯炉、その他の工業窯炉
② 材料	30	耐火物一般、耐火物の物性、耐火物の損傷の原因と防止法、定型耐火物、不定形耐火物、耐火モルタル、断熱材と保温材
③ 燃料及び燃焼	10	燃料燃焼、燃焼装置等、伝熱
④ 築炉法	80	築炉一般、機械及び器工具、築炉作業法、モルタル及びコンクリート、煉瓦の加工法、不定形耐火物の施工法、墨出しとやり方、仮設設備、各炉の築炉法、仕上げ損傷の原因と修理法、保全、関連他工事、施工計画
2 専攻実技	350	
① れんがの加工及び切断実習	100	機械及び器工具の取扱い、加工墨の割出しと墨打ち、れんがの加工及び切断
② モルタル混練り実習	30	機械及び器工具の取扱い、調合、混練、圧送
③ 不定形耐火物施工実習	100	機械及び器工具の取扱い、キャストブル耐火物の施工、プラスチック耐火物の施工、リング耐火物の施工、ガン耐火物の施工
④ 築炉実習	120	築炉用器工具使用及び機械の機能と用途、築炉の段取り、築炉の施工法及び施工計画、築炉の損傷と修理

計 850
教科設定時間の割合 60.7%

現行訓練科の「カリキュラム」の見直し提案表

系	34 建築仕上系	科名	92 ブロック施工科
		訓練期間	1年
		総時間	1400H

一 系基礎科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	建築物の仕上げにおける基礎的な技能及びこれに関する知識		
教科	訓練時間	教科の細目	
1 系基礎学科	150		
① 建築生産概論	20	建築史、建築の概要、建築物の種類	
② 建築生産概論	20	工程管理、資材管理、生産管理	
② 建築構造	20	木構造、RC構造、SRC構造、補強ブロック構造	
③ 建築設備	20	給排水設備、電気設備、空調設備	
④ 建築製図	30	JIS製図通則、建築物の製図	
⑤ 建築仕上法	70	コンクリートブロック施工法、左官施工法、タイル施工法	
⑥ 安全衛生	20	産業安全、労働衛生、安全衛生管理の実際、具体的災害防止対策	
⑦ 関係法規	20	建築基準法、建設業法、その他関係法規	
2 系基礎実技	150		
① 機械操作基本実習	50	左官・タイル、ブロック工専用機械 建築仕上用各種機械の取扱い及び整備	
② 調合実習	50	調合、モルタル及びコンクリートの混練 材料の調合、混練	
③ 足場実習	30	足場の組立て及び解体、登りさん橋	
④ 安全衛生作業法	20	安全衛生作業法	

二 専攻科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	ブロック建築物の施工における技能及びこれに関する知識		
教科	訓練時間	教科の細目	
1 専攻学科	120		
① ブロック構造	30	補強ブロック構造、型枠ブロック構造、帳壁構造、ブロック塀	
② 測量	10	平板測量、レベル測量、トランシット測量	
③ 材料	30	ブロック用材料、建築施工用材料、混和剤	
④ ブロック施工法	30	作業の段取り、鉄筋工事、組積方法、まぐさ、がりょう、スラブ	
⑤ 仕様及び積算	20	仕様書の目的、設計書との関係、見積もりの方法、積算法	
2 専攻実技	350		
① 下地施工実習	30	土工事、基礎工事、型枠工事	
② 切断及び加工実習	20	ブロック及び鉄筋の切断、ブロックの欠きとり・くり抜き	
③ 鉄筋工作及びブロック組積実習	200	特殊加工、鉄筋施工、ブロック組積、仕上げ	
④ コンクリート施工実習	40	調合、ミキシング、打設	
⑤ 仮設工事実習	40	水もりやりかた、たてやりかた	
⑥ 養生	20	養生材料の取扱い、養生	

計 820
教科設定時間の割合 58.6%

現行訓練科の「カリキュラム」の見直し提案表

系	35 設備施工系	科名	94 冷凍空調設備科
		訓練期間	1年
		総時間	1400H

一 系基礎科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	中小規模建築物の建築設備の施工における基礎的な技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 系基礎学科	270	
① 機械工学概論	40	機械要素、機構と運動、原動機及び一般機器、材料力学
② 電気工学概論	40	直流及び交流回路、電流の磁気作用、電気機器、各種の電気応用
③ 建築設備及び機器概論	40	給排水設備、給水設備、排水通気設備、衛生器具、給湯設備、上下水道施設、ガス設備、消火設備、空調設備、換気設備、集じん装置、火災報知設備、排煙設備
④ 環境工学概論	20	地球環境問題、大気、水質、土壌、廃棄物、臭気、騒音、光、環境関連法規、再生可能エネルギー利用
⑤ 生産工学概論	20	品質管理、工程管理、機械・工具・資材管理、コスト管理、環境管理
⑥ 建築構造	20	土工事及び基礎工事、木構造、組積構造、鉄骨構造、鉄筋コンクリート構造、鉄骨及び鉄筋コンクリート構造
⑦ 建築製図	30	製図用機械、JIS製図通則、建築製図法
⑧ 溶接法	20	ガス溶接法、アーク溶接法、ろう付け法
⑨ 安全衛生	20	安全衛生管理、安全衛生関係法規、安全作業法
⑩ 仕様及び積算	20	仕様書、積算
2 系基礎実技	200	
① 器工具使用法	60 50	手工具、電動工具、ボール盤作業、グラインダ作業、はつり作業、断熱・防露作業
② 溶接及びろう付け基本実習	60	ガス溶接、アーク溶接、ろう付け
③ 配管基本実習	60 70	鋼管、樹脂管、銅管、ステンレス管、特殊管、保温工事
④ 安全衛生作業法	20	安全衛生作業法

二 専攻科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	冷凍、冷却及び空調設備の施工及び調整における技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 専攻学科	200	
① 自動制御	30	制御理論、制御機器の種類と用途、各種回路
② 冷凍空調設備	50	冷凍機、圧縮機その他機器、冷凍装置、空調装置、空調機器、機器の選定
③ 設備製図	40	空調設備の設計及び製図
④ 冷凍空調法	50	冷凍サイクル、冷媒、冷媒とライン、空調計画、負荷計算
⑤ 施工法	30	冷媒配管施工法、冷凍空調装置据付法、配管施工法、冷媒回収
2 専攻実技	300 310	
① 冷媒配管実習	50	管加工、配管、試験漏れ検査、断熱
② 制御配線実習	60	配線工事、シーケンス配線、機器回路配線、太陽光発電装置
③ 設備施工実習	60 70	各種冷凍及び空調装置の据付け、配管、配線、保温工事、太陽熱給湯装置、ヒートポンプ給湯器
④ 運転及び調整実習	40	計測器の使用法、各種冷凍及び空調装置の運転、調整及び修理
⑤ 整備実習	40	各種冷凍及び空調装置の分解、組立て、ポンプ・送風機の分解、組立て、冷媒回収
⑥ 検査実習	50	冷凍及び空調装置の工事検査

計 970 980
 教科設定時間の割合 69.3% 70.0%

現行訓練科の「カリキュラム」の見直し提案表

系	35 設備施工系	科名	95 配管科
		訓練期間	1年
		総時間	1400H

一 系基礎科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	中小規模建築物の建築設備の施工における基礎的な技能及びこれに関する知識		
教科	訓練時間	教科の細目	
1 系基礎学科	270		
① 機械工学概論	40	機械要素、機構と運動、原動機及び一般機器、材料力学	
② 電気工学概論	40	直流及び交流回路、電流の磁気作用、電気機器、各種の電気応用	
③ 建築設備及び機器概論	40	給排水設備、給水設備、排水通気設備、衛生器具、給湯設備、上下水道施設、ガス設備、消火設備、空調設備、換気設備、集じん装置、火災報知設備、排煙設備	
④ 環境工学概論	20	地球環境問題、大気、水質、土壌、廃棄物、臭気、騒音、光、環境関連法規、再生可能エネルギー利用	
⑤ 生産工学概論	20	品質管理、工程管理、機械・工具・資材管理、コスト管理、環境管理	
⑥ 建築構造	20	土工事及び基礎工事、木構造、組積構造、鉄骨構造、鉄筋コンクリート構造、鉄骨及び鉄筋コンクリート構造	
⑦ 建築製図	30	製図用機械、JIS製図通則、建築製図法	
⑧ 溶接法	20	ガス溶接法、アーク溶接法、ろう付け法	
⑨ 安全衛生	20	安全衛生管理、安全衛生関係法規、安全作業法	
⑩ 仕様及び積算	20	仕様書、積算	
2 系基礎実技	200		
① 器工具使用法	60 50	手工具、電動工具、ボール盤作業、グラインダ作業、はつり作業、断熱・防露作業	
② 溶接及びろう付け基本実習	60	ガス溶接、アーク溶接、ろう付け	
③ 配管基本実習	60 70	鋼管、樹脂管、銅管、ステンレス管、特殊管、保温工事	
④ 安全衛生作業法	20	安全衛生作業法	

二 専攻科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	空調、給排水設備等の管工事及び設備の取付けにおける技能及びこれに関する知識		
教科	訓練時間	教科の細目	
1 専攻学科	200		
① 配管概論	50	水力学、流体力学、熱力学、配管用工作機械、管仕上げ及び組立法、管の接合法、試験法、管組立法	
② 給排水設備	30 40	給水装置、給水法、使用水量、給水管の管径、ポンプ、排水装置管の管径、排水トラップと通気管、便器洗浄、給水方式、衛生陶器器具、合併処理浄化槽、給湯方式	
③ 空調設備	30	暖房設備の概要、各種暖房方式、各種暖房方式の比較、放熱器、ボイラー、冷房設備の概要、冷房方式、空気調和装置、空気調和装置用機器、冷凍機設備の概要、冷凍機用付属機器、ヒートポンプ空調機	
④ 設備製図	30	給排水設備製図、空調設備製図、配管製図	
⑤ 配管施工法	60 50	給・排水設備の配管施工法、通気及び衛生設備の配管施工法、給湯設備の配管施工法、ガス設備の配管施工法、冷暖房設備の配管施工法、管の被覆・防露保温施工法	
2 専攻実技	300 310		
① 配管施工実習	250 260	給・排水設備の配管施工、通気及び衛生設備の配管施工、給湯設備の配管施工、ガス設備の配管施工、冷暖房設備の配管施工、管の被覆・防露施工、保温工事	
② 検査実習	50	水圧検査、水張り検査、気圧検査、満水及び通水検査、空気圧及び気密検査	

計 970 980
 教科設定時間の割合 69.3% 70.0%

現行訓練科の「カリキュラム」の見直し提案表

系	35 設備施工系	科名	96 住宅設備機器科
		訓練期間	1年
		総時間	1400H

一 系基礎科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	中小規模建築物の建築設備の施工における基礎的な技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 系基礎学科	270	
① 機械工学概論	40	機械要素、機構と運動、原動機及び一般機器、材料力学
② 電気工学概論	40	直流及び交流回路、電流の磁気作用、電気機器、各種の電気応用
③ 建築設備及び機器概論	40	給排水設備、給水設備、排水通気設備、衛生器具、給湯設備、上下水道施設、ガス設備、消火設備、空調設備、換気設備、集じん装置、火災報知設備、排煙設備
④ 環境工学概論	20	地球環境問題、大気、水質、土壌、廃棄物、臭気、騒音、光、環境関連法規、再生可能エネルギー利用
⑤ 生産工学概論	20	品質管理、工程管理、機械・工具・資材管理、コスト管理、環境管理
⑥ 建築構造	20	土工事及び基礎工事、木構造、組積構造、鉄骨構造、鉄筋コンクリート構造、鉄骨及び鉄筋コンクリート構造
⑦ 建築製図	30	製図用機械、JIS製図通則、建築製図法
⑧ 溶接法	20	ガス溶接法、アーク溶接法、ろう付け法
⑨ 安全衛生	20	安全衛生管理、安全衛生関係法規、安全作業法
⑩ 仕様及び積算	20	仕様書、積算
2 系基礎実技	200	
① 器工具使用法	60 50	手工具、電動工具、ボール盤作業、グラインダ作業、はつり作業、断熱・防露作業
② 溶接及びろう付け基本実習	60	ガス溶接、アーク溶接、ろう付け
③ 配管基本実習	60 70	鋼管、樹脂管、銅管、ステンレス管、特殊管、保温工事
④ 安全衛生作業法	20	安全衛生作業法

二 専攻科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	一般住宅の浴槽設備、給湯設備及び厨房設備等の施工における技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 専攻学科	200	
① 燃焼化学概論	30	燃料の種類、エネルギー計算、燃焼理論
② 換気概論	30	換気の必要性、換気方式のと換気設備、換気量計算
③ 住宅設備及び機器	50	各種設備及び機器の特性、選び方、機器制御の基礎、保守管理及び修理法
④ 設備製図	40	住宅設備の設計及び製図
⑤ 施工法	50	機械・工具と使用法、浴槽の据付け、各種厨房機器の据付け
2 専攻実技	300	
① 設備施工実習	150	各種住宅設備の据付け、配管、タイル施工、換気・排煙排気筒工事
② 整備実習	150	住宅設備の保守管理、故障探査診断及び修理

計 970
教科設定時間の割合 69.3%

現行訓練科の「カリキュラム」の見直し提案表

系	36 土木系	科名	98 土木施工科
		訓練期間	1年
		総時間	1400H

一 系基礎科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	一般的な土木工事及び土木施工のための測量における基礎的な技能及びこれに関する知識		
教科	訓練時間	教科の細目	
1 系基礎学科	250		
① 土工学概論	50	土工学について、国土の開発、水工、道路及びその構造、都市と環境	
② 測量学概論	60	距離及び角の測定、多角測量、水準測量、平板測量、スタジア測量、その他の測量	
③ 建築建設生産概論	40	建設の生産プロセス、施工管理	
④ 応用力学及び土質工学	60	土質の構造・性質、応用力学、水理学	
⑤ 製図	20	土木製図の基礎、土木設計図	
⑥ 安全衛生	20	安全衛生管理、安全作業法、安全衛生関係法規	
2 系基礎実技	150		
① 測量基本実習	130	距離及び角の測定、多角測量、水準測量、平板測量、スタジア測量	
② 安全衛生作業法	20	安全衛生作業	

二 専攻科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	土木工事の施工計画の立案及び施工管理における技能及びこれに関する知識		
教科	訓練時間	教科の細目	
1 専攻学科	200		
① 機械及び電気	20	土木機械の種類及び機能、主要部の構造及び操作法、土木機械操作法、土木機械の管理、電気の基礎工事現場における電気設備	
② 土木設計	70	土木構造物の設計、土木設計図及び施工図	
③ 材料	20	土木材料の種類、性質及び用途、材料試験	
④ 土木施工法	80	土工事、基礎工事、コンクリート工事、鉄筋工事、仮設工事、土木工事の計画及び施工法	
⑤ 関係法規	10	建設公害対策、その他関係法規	
2 専攻実技	300 330		
① 測量実習	130 160	基準点測量、地形測量、 路線測量	
② 土木施工実習	170	土工事、基礎工事、コンクリート工事、鉄筋工事、仮設工事、土木工事の計画及び施工、工事の事前調査、施工計画の作成、作業の段取り及び実施、機械の運営管理、施工管理	

計 900- 930
 教科設定時間の割合 64.3% 66.4%

現行訓練科の「カリキュラム」の見直し提案表

系	36 土木系	科名	99 測量・設計科
		訓練期間	1年
		総時間	1400H

一 系基礎科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	一般的な土木工事及び土木施工のための測量における基礎的な技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 系基礎学科	250	
① 土木工学概論	50	土木工学について、国土の開発、水工、道路及びその構造、都市と環境
② 測量学概論	60	距離及び角の測定、多角測量、水準測量、平板測量、スタジア測量、その他の測量
③ 建築建設生産概論	40	建設の生産プロセス、施工管理
④ 応用力学及び土質工学	60	土質の構造・性質、応用力学、水理学
⑤ 製図	20	土木製図の基礎、土木設計図
⑥ 安全衛生	20	安全衛生管理、安全作業法、安全衛生関係法規
2 系基礎実技	150	
① 測量基本実習	130	距離及び角の測定、多角測量、水準測量、平板測量、スタジア測量
② 安全衛生作業法	20	安全衛生作業

二 専攻科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	各種の測量方法及び土木設計における技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 専攻学科	200	
① 基準点測量	50	測量学概論、測量機械概論、三角測量、多角測量方式、水準測量
② 地形測量	40	平板測量、写真測量、地図編集
③ 応用測量	50	路線測量、河川測量、土地区画整理測量
④ 土木設計	60	土木構造物の設計、構造計算
2 専攻実技	300	
① 基準点測量実習	60	多角測量方式、水準測量
② 地形測量実習	40	平板測量、写真測量
③ 応用測量実習	100	路線測量、河川測量、土地区画整理測量
④ 土木設計実習	100	土木設計図の作成

計 900
教科設定時間の割合 64.3%

現行訓練科の「カリキュラム」の見直し提案表

系	37 設備管理・運転系	科名	100 ビル管理科
		訓練期間	1年
		総時間	1400H

一 系基礎科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	ビル、工場等の附付帯設備、ボイラー等の操作又は運転及び保守管理における基礎的な技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 系基礎学科	280	
① 生産工学概論	40	工程管理、品質管理
② 自動制御	60	制御理論、制御機器の種類と用途、各種回路
③ 熱源設備	70	ボイラー・冷凍機・吸収式冷温水機等の種類・構造・機能
④ 熱管理	70	熱勘定収支、燃焼方法、熱量計算
⑤ 安全衛生	40	安全衛生管理、安全衛生関係法規、安全作業法
2 系基礎実技	150	
① 熱源設備の保守管理実習	110	熱源設備の保守・運転・管理作業
② 安全衛生作業法	40	安全衛生作業法

二 専攻科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	ビル、工場等の空気調和設備、給排水・衛生設備及び電気設備の保守管理における技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 専攻学科	270	
① ビル管理概論	40	建築構造の概要、建築設備の種類、中央監視システム
② 給排水・衛生設備	50	給水方式の種類と構造、排水の種類と設備機器の構造・機能、配管方式、配管図、消防設備
③ 空気調和設備	50	熱負荷、空調方式、機器の種類と構造
④ 電気設備	80	電気理論、電灯、動力、受変電設備等の種類と機能、配線図
⑤ 設備図面	30	各種建築図面の読み方、設備図面の読み方
⑥ 関係法規	20	ビル衛生管理関係法令、高圧ガス取締法、消防法、給排水関係法、ボイラー及び圧力容器安全規則、労働安全衛生法、電気事業法、建築基準法
2 専攻実技	300	
① 給排水・衛生設備保守管理実習	60	給排水・衛生設備の点検・調整・保守・記録、管工作、水質測定
② 空気調和設備保守管理実習	80	空気調和機及び付帯設備の保守・運転・管理作業、環境測定
③ 電気設備保守管理実習	80	電灯・受変電設備・動力・非常用電源設備の点検・保守・記録、電気工事
④ 自動制御機器保守管理実習	80	自動制御機器の点検・保守

計 1040
教科設定時間の割合 74.3%

現行訓練科の「カリキュラム」の見直し提案表

系	37 設備管理・運転系	科名	101 ボイラー運転科
		訓練期間	1年
		総時間	1400H

一 系基礎科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	ビル、工場等の附付帯設備、ボイラー等の操作又は運転及び保守管理における基礎的な技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 系基礎学科	280	
① 生産工学概論	40	工程管理、品質管理
② 自動制御	60	制御理論、制御機器の種類と用途、各種回路
③ 熱源設備	70	ボイラー・冷凍機・吸収式冷温水機等の種類・構造・機能
④ 熱管理	70	熱勘定収支、燃焼方法、熱量計算
⑤ 安全衛生	40	安全衛生管理、安全衛生関係法規、安全作業法
2 系基礎実技	150	
① 熱源設備の保守管理実習	110	熱源設備の保守・運転・管理作業
② 安全衛生作業法	40	安全衛生作業法

二 専攻科目

訓練の対象となる技能及び知識の範囲	ボイラー及びボイラー附付属装置の運転及び保守における技能及びこれに関する知識	
教科	訓練時間	教科の細目
1 専攻学科	250	
① ボイラーの構造	50	ボイラーの種類及び型式、主要部分の構造及び強度、材料、工作、据付け、付属設備及び付属品の構造、自動制御装置
② ボイラーの取扱い	100	点火、使用運転中の留意事項、埋火、付属設備及び付属品の取扱い、ボイラー用水及びその処理、吹出し損傷及びその防止方法
③ 燃料及び燃焼	50	燃料の種類、燃焼理論、燃焼方式及び燃焼装置、通風及び通風装置
④ 保守及び整備法	30	機械的清浄作業、化学洗浄作業、付属設備及び付属品の設備、清浄作業に使用する器具
⑤ 関係法規	20	労働安全衛生法、労働安全衛生規則、ボイラー及び圧力容器安全規則、ボイラー構造規格
2 専攻実技	500	
① ボイラー運転実習	300	点火、燃焼の調整、付属設備及び付属品の取扱い
② 水処理実習	50	水処理、吹出し、補給水処理、ボイラー系統内処理
③ 点検及び保守実習	150	損傷の防止及び措置、使用後の措置、清浄作業、点検及び異常時の処置

計 1220
教科設定時間の割合 87.1%

8. 現行訓練科の「設備の細目」の見直し提案表

建築施工系木造建築科

種別	名称	摘要	高等学校卒業業者等		中学校卒業業者等		提案理由
			訓練単位 30人	訓練単位 50人	訓練単位 30人	訓練単位 50人	
建物その他の 工作物	教室		60㎡	100㎡	60㎡	100㎡	
	製図室		135㎡	220㎡	135㎡	220㎡	
	実習場		330㎡	480㎡	480㎡	600㎡	
	工具室		7㎡	10㎡	15㎡	25㎡	
	更衣室		15㎡	22㎡	25㎡	38㎡	
	倉庫		50㎡	83㎡	83㎡	100㎡	
	局所排気装置	木工機械用(フード、ダクト、サイクロン、ファン、モータ、焼却装置等を含む。)	1式	1式	1式	1式	
	とぎ場	給・排水設備を含む。	1式	1式	1式	1式	
機械	手押しかな盤	加工幅300mm安全装置付き。	1台	1台	1台	1台	
	自動一面かな盤	加工幅300mm	1台	1台	1台	1台	
	自動多面かな盤	加工幅30～150mm三面以上	1台	1台	1台	1台	
	超仕上げかな盤	加工幅300～450mm	1台	1台	1台	1台	
	丸のこ盤	のこ車径400mm	1台	1台	1台	1台	
	角のみ盤	のみ寸法30mm	1台	2台	1台	2台	
	昇降傾斜盤	のこ径400～450mm	1台	1台	1台	1台	
	ほぞ取り盤	加工最大長さ100mm	1台	1台	1台	1台	
	パネルソー	切断可能寸法約2,000mm	1台	1台	1台	1台	
	リップソー	最大厚さ120mm	1台	1台	1台	1台	
	ジグソー	0.2～0.4kW	1台	1台	1台	1台	
	携帯用電気かな	0.4～1.2kW	5台	8台	10台	15台	
	携帯用電気みぞかな	0.4～1.5kW	5台	8台	5台	8台	
	携帯用電気丸のこ	0.4～1.5kW	6台	10台	6台	10台	
	携帯用電気角のみ	0.4～1.5kW	5台	8台	5台	8台	
	携帯用ルータ	0.4～1.5kW	2台	3台	2台	3台	
	携帯用自動かな	1.5kW	1台	1台	1台	1台	
	集じん機	可搬形	1台	1台	1台	1台	
	大入れ加工機	移動式	2台	3台	2台	3台	
	電気ドリル	0.2～0.4kW	5台	8台	5台	8台	
	くぎ打ち機	エア式	2台	3台	2台	3台	
	両頭グラインダ	といし車径200～300mm	1台	1台	2台	2台	
	刃物研削盤	研削長さ600mm	1台	1台	1台	1台	
	コンクリートミキサ	0.06～0.12m³	1台	1台	1台	1台	
	ランマ	重量50～60kg	1台	1台	1台	1台	
	自動製図機械(GAD)	2次元	3台	5台	3台	5台	PCを使った訓練は必須。0.5台/人は必要。
	パーソナルコンピュータ	ネットワーク環境	15	25	15	25	
	カラープリンタ	A3判	2台	3台	2台	3台	1台/15人程度は必要。
	カラープリンタ	A2判	1台	1台	1台	1台	1台/定員は必要。
	トランシット	標準形	3台	5台	3台	5台	
	レベル	標準形	2台	3台	2台	3台	
	平板測量器	中測板、アリダードの曲率半径1.0～1.5m	3台	5台	3台	5台	
	万能試験機	標準形	1台	1台	1台	1台	
	空気圧縮機	1.5～2.2kW	1台	2台	1台	2台	
運搬用小形自動車	1～2t	1台	1台	1台	1台		
その他	(工具及び用具類)						
	作業用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数	
	木工用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数	
	測量用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数	
	足場		必要数	必要数	必要数	必要数	安全衛生法対応。
	(計測器類)						
	計測器類		必要数	必要数	必要数	必要数	
	(製図用具類)						
	製図器及び製図用具類		必要数	必要数	必要数	必要数	
	(教材類)						
模型、掛図等		必要数	必要数	必要数	必要数		
ソフトウェア		必要数	必要数	必要数	必要数	コンピュータを使用した、文章作成、表計算、図面作成に使用。	

建築施工系枠組壁建築科

種別	名称	概要	高等学校卒業業者等		中学校卒業業者等		提案理由
			訓練単位 30人	訓練単位 50人	訓練単位 30人	訓練単位 50人	
建物その他の 工作物	教室		60 m ²	100 m ²	60 m ²	100 m ²	
	製図室		135 m ²	220 m ²	135 m ²	220 m ²	
	実習場		300 m ²	430 m ²	450 m ²	550 m ²	
	工具室		7 m ²	10 m ²	15 m ²	25 m ²	
	更衣室		15 m ²	22 m ²	25 m ²	38 m ²	
	倉庫		50 m ²	83 m ²	83 m ²	100 m ²	
	局所排気装置	木工機械用(フード、ダクト、サイクロン、ファン、モーター、焼却装置等を含む。)	1 式	1 式	1 式	1 式	
	とぎ場	給・排水設備を含む。	1 式	1 式	1 式	1 式	
機械	手押しかな盤	加工幅300mm、安全自動送り装置付き。	2 台	3 台	2 台	3 台	
	自動一面かな盤	加工幅600mm	1 台	2 台	1 台	2 台	
	昇降傾斜盤	のこ径400～450mm	1 台	1 台	1 台	1 台	
	ジグソー	0.2～0.5kW	5 台	8 台	10 台	15 台	
	携帯用電気かな	0.4～1.2kW	5 台	8 台	10 台	15 台	
	携帯用電気丸のこ	0.4～1.5kW	15 台	25 台	30 台	50 台	
	携帯用ルータ	0.4～1.5kW	2 台	3 台	2 台	3 台	
	携帯用自動かな	1.5kW	1 台	1 台	1 台	1 台	
	集じん機	可搬形	1 台	1 台	1 台	1 台	
	電気ドリル	0.2～0.4kW	5 台	8 台	5 台	8 台	
	くぎ打ち機	エア式	5 台	8 台	5 台	8 台	
	両頭グラインダ	といし車径200～300mm 集じん機付き。	1 台	1 台	2 台	2 台	
	刃物研削盤	研削長さ600mm	1 台	1 台	1 台	1 台	
	自動製図機械(CAD)	2次元	3 台	5 台	3 台	5 台	PCを使った訓練は必須。0.5台/人は必要。
	パーソナルコンピュータ	ネットワーク環境	15	25	15	25	
	カラープリンタ	A3判	2 台	3 台	2 台	3 台	1台/15人程度は必要。
	カラープリンタ	A2判	1 台	1 台	1 台	1 台	1台/定員は必要。
	トランシット	標準形	3 台	5 台	3 台	5 台	
	レベル	標準形	2 台	3 台	2 台	3 台	
	平板測量器	中測板、アリダードの曲率半径1.0～1.5m	3 台	5 台	3 台	5 台	
空気圧縮機	1.5～2.2kW	3 台	4 台	3 台	4 台		
運搬用小形自動車	1～2t	1 台	1 台	1 台	1 台		
その他	(工具及び用具類)						
	作業用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数	
	木工用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数	
	測量用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数	
	足場		必要数	必要数	必要数	必要数	安全衛生法対応。
	(計測器類)						
	計測器類		必要数	必要数	必要数	必要数	
	(製図用具類)						
	製図器及び製図用具類		必要数	必要数	必要数	必要数	
	(教材類)						
	ソフトウェア		必要数	必要数	必要数	必要数	コンピュータを使用した、文章作成、表計算、図面作成に使用。
継ぎ手、仕口、建物等の 模型、掛図等		必要数	必要数	必要数	必要数		

建築施工系とび科

種別	名称	摘要	高等学校卒業業者等		中学校卒業業者等		提案理由
			訓練単位 30人	訓練単位 50人	訓練単位 30人	訓練単位 50人	
建物その他の 工作物	教室		60 m ²	100 m ²	60 m ²	100 m ²	
	製図室		120 m ²	200 m ²	120 m ²	200 m ²	
	実習場		300 m ²	500 m ²	550 m ²	600 m ²	
	工具室		10 m ²	17 m ²	20 m ²	25 m ²	
	更衣室		15 m ²	22 m ²	25 m ²	38 m ²	
	倉庫		120 m ²	150 m ²	150 m ²	180 m ²	
機械	工事用リフト	積載荷重100～200kg	1 台	2 台	2 台	2 台	
	コンクリートミキサ	0.06～0.12m ³	1 台	2 台	2 台	2 台	
	ランマ	重量50～60kg	1 台	2 台	2 台	2 台	
	パイプレータ	振動部径25～28mm	2 台	3 台	2 台	3 台	
	鉄筋切断機	切断能力径25～32mm	2 台	3 台	3 台	5 台	
	鉄筋曲げ機	曲げ能力径25～32mm	2 台	3 台	3 台	5 台	
	ガス圧接機	圧接能力径25～32mm	1 台	1 台	1 台	1 台	
	携帯用電気丸のこ	0.4～0.6kW	3 台	5 台	3 台	5 台	
	電気ドリル	0.2～0.4kW	2 台	3 台	2 台	3 台	
	両頭グラインダ	といし車径200～300mm 集じん機付き。	1 台	1 台	1 台	1 台	
	交流アーク溶接機	12～20kVA(電撃防止器、安全ホルダー、ヘルメット、その他付属品を含む。)	2 台	3 台	2 台	3 台	
	溶接棒乾燥器	50～100kg	1 台	1 台	1 台	1 台	
	トランシット	標準形	2 台	3 台	3 台	5 台	
	レベル	標準形	2 台	3 台	3 台	5 台	
	平板測量器	中測板、アリダードの曲率半径1.0～1.5m	10 台	15 台	15 台	25 台	
	自動製図機械(CAD)	2次元	3 台	5 台	3 台	5 台	PCを使った訓練は必須。0.5台/人は必要。
	パーソナルコンピュータ	ネットワーク環境	15	25	15	25	
	カラープリンタ	A3判	2 台	3 台	2 台	3 台	1台/15人程度は必要。
	カラープリンタ	A2判	1 台	1 台	1 台	1 台	1台/定員は必要。
	電動ハンマ	950～2,100打撃/分	1 台	1 台	1 台	1 台	
	運搬用小形自動車	1～2t	1 台	1 台	1 台	1 台	
	小形式移動クレーン		1 台	1 台	1 台	1 台	
パワーショベル	0.05～0.1m ³	1 台	1 台	1 台	1 台		
ジブクレーン	3t	1 台	1 台	1 台	1 台		
その他	(工具及び用具類)						
	作業用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数	
	とび作業用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数	
	足場		必要数	必要数	必要数	必要数	安全衛生法対応。
	(計測器類)						
	計測器類		必要数	必要数	必要数	必要数	
	(製図用具類)						
	製図器及び製図用具類		必要数	必要数	必要数	必要数	
	(教材類)						
	ソフトウェア		必要数	必要数	必要数	必要数	コンピュータを使用した、文章作成、表計算、図面作成に使用。
模型、掛図等		必要数	必要数	必要数	必要数		

建築施工系鉄筋コンクリート施工科

種別	名称	摘要	高等学校卒業生等		中学校卒業生等		提案理由
			訓練単位 30人	訓練単位 50人	訓練単位 30人	訓練単位 50人	
建物その他の 工作物	教室		60㎡	100㎡	60㎡	100㎡	
	製図室		135㎡	220㎡	135㎡	220㎡	
	実習場		300㎡	500㎡	550㎡	600㎡	
	工具室		10㎡	17㎡	20㎡	25㎡	
	更衣室		15㎡	22㎡	25㎡	38㎡	
	倉庫		33㎡	50㎡	50㎡	65㎡	
機械	工事用リフト	積載荷重100～200kg	1台	2台	2台	2台	
	コンクリート品質試験器具	一式(スランプ試験、空気量試験、フロー試験)	2台	3台	2台	3台	
	コンクリートミキサ		1台	2台	2台	2台	
	ランマ	重量50～60kg	3台	5台	3台	5台	
	パイプレータ	振動部径25～28mm	3台	5台	3台	5台	
	鉄筋切断機	切断能力径25～32mm	3台	5台	3台	5台	
	鉄筋曲げ機	曲げ能力径25～32mm	3台	5台	3台	5台	
	ガス圧接機	圧接能力径25～32mm	3台	5台	3台	5台	
	携帯用電気丸のこ	0.4～0.6kW	5台	8台	5台	8台	
	携帯用電気かんな	0.4～0.6kW	3台	5台	3台	5台	
	電気ドリル	0.2～0.4kW	5台	8台	5台	8台	
	両頭グラインダ	といし車径200～300mm 集じん機付き。	1台	1台	1台	1台	
	交流アーク溶接機	12～20kVA(電撃防止器、安全ホルダー、ヘルメット、その他付属品を含む。)	3台	5台	3台	5台	
	溶接棒乾燥機	50～100kg	1台	1台	1台	1台	
	自動製図機械(CAD) パーソナルコンピュータ	2次元 ネットワーク環境	3台 15	5台 25	3台 15	5台 25	PCを使った訓練は必須。0.5台/人は必要。
	カラープリンタ	A3判	2台	3台	2台	3台	1台/15人程度は必要。
	カラープリンタ	A2判	1台	1台	1台	1台	1台/定員は必要。
	空気圧縮機	1.5～2.2kW	1台	1台	1台	1台	
	ショベル	各種アタッチメント付き	1台	1台	1台	1台	
	トランシット	標準形	3台	5台	3台	5台	
	レベル	標準形	3台	5台	3台	5台	
	平板測量器	中測板、アリゲードの曲率半径1.0～1.5m	10台	15台	15台	25台	
	電気ハンマ	950～2,100打撃/分	1台	1台	1台	1台	
運搬用小形自動車	1～2t	1台	1台	1台	1台		
その他	(工具及び用具類)						
	作業用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数	
	木工用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数	
	鉄筋工作用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数	
	溶接用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数	
	足場		必要数	必要数	必要数	必要数	安全衛生法対応。
	(計測器類)						
	計測器類		必要数	必要数	必要数	必要数	
	(製図用具類)						
	製図器及び製図用具類		必要数	必要数	必要数	必要数	
	(教材類)						
	ソフトウェア		必要数	必要数	必要数	必要数	コンピュータを使用した、文章作成、表計算、図面作成に使用。
	模型、掛図等		必要数	必要数	必要数	必要数	

建築施工系プレハブ建築科

種別	名称	摘要	高等学校卒業業者等		中学校卒業業者等		提案理由
			訓練単位 30人	訓練単位 50人	訓練単位 30人	訓練単位 50人	
建物その他の 工作物	教室		60 m ²	100 m ²	60 m ²	100 m ²	
	製図室		135 m ²	220 m ²	135 m ²	220 m ²	
	実習室		500 m ²	600 m ²	600 m ²	750 m ²	
	工具室		7 m ²	10 m ²	15 m ²	25 m ²	
	更衣室		15 m ²	22 m ²	25 m ²	38 m ²	
	倉庫		50 m ²	83 m ²	83 m ²	100 m ²	
	危険物貯蔵庫	消防法の条件を備えること。	10 m ²	10 m ²	10 m ²	10 m ²	
	とぎ場	給・排水設備を含む。	1 式	1 式	1 式	1 式	
	局所排気装置	フード、ダクト、サイクロン、ファン、モータ、焼却装置等を含む。	1 式	1 式	1 式	1 式	
	ぎょう鉄設備	炉、定盤等	1 式	1 式	1 式	1 式	
機械	手押しかな盤	加工幅300mm、安全自動送り装置付き。	1 台	2 台	1 台	2 台	
	自動かな盤	加工幅600mm	1 台	1 台	1 台	1 台	
	帯のこ盤	のこ車径500mm～750mm	1 台	1 台	1 台	1 台	
	丸のこ盤	のこ径400mm、安全自動送り装置付き。	1 台	1 台	1 台	1 台	
	昇降傾斜盤	のこ径400～450mm	1 台	1 台	1 台	1 台	
	角のみ盤	のみ寸法30mm	1 台	1 台	1 台	1 台	
	ほぞ取り盤	加工最大ほぞ長さ100mm	1 台	1 台	1 台	1 台	
	ダブルソー	最大切断幅3,000mm	1 台	1 台	1 台	1 台	
	ランニングソー	標準形	1 台	1 台	1 台	1 台	
	携帯用電気かな	0.4kW	5 台	8 台	8 台	12 台	
	携帯用電気みぞかな	0.4～0.6kW	3 台	5 台	5 台	8 台	
	携帯用電気丸のこ	0.4～0.6kW	5 台	8 台	5 台	8 台	
	携帯用電気角のみ	0.4～0.6kW	3 台	5 台	5 台	8 台	
	接着用油圧プレス	定盤1,000×3,000mm	1 台	1 台	1 台	1 台	
	万能刃物研削盤	研削長さ600mm	1 台	1 台	1 台	1 台	
	両頭グラインダ	といし車径200～300mm 集じん機付き。	1 台	1 台	1 台	1 台	
	エアナイラ	標準形	3 台	5 台	5 台	8 台	
	交流アーク溶接機	12～30kVA(電撃防止器、安全ホルダー、ヘルメット、その他付属品を含む。)	2 台	3 台	3 台	5 台	
	エンジンウエルダ	40～250A	1 台	1 台	1 台	1 台	
	溶接棒乾燥器	乾燥量50kg	1 台	1 台	1 台	1 台	
	直立ボール盤	振り400～550mm	1 台	1 台	1 台	1 台	
	卓上ボール盤	穴あけ能力13mm	2 台	3 台	3 台	5 台	
	高速度といし切断機	2.2kW	1 台	1 台	1 台	1 台	
	ディスクグラインダ	0.2～0.4kW	3 台	5 台	5 台	8 台	
	ポータブルサンダ	0.2～0.4kW	3 台	5 台	5 台	8 台	
	電気ドリル	0.2～0.4kW	3 台	5 台	5 台	8 台	
	インパクトレンチ	締付けボルト径 10～20mm	2 台	3 台	3 台	5 台	
	携帯用電気シャー	0.2～0.4kW	1 台	1 台	1 台	1 台	
	スケヤーシャー	切断能力6mm	1 台	1 台	1 台	1 台	
	レバーシャー	6×200mm	1 台	1 台	1 台	1 台	
	万能折曲げ機	折曲げ長さ3,000mm	1 台	1 台	1 台	1 台	
	鉄筋切断機	標準形	1 台	2 台	1 台	2 台	
	鉄筋曲げ機	標準形	1 台	2 台	1 台	2 台	
	オイルジャッキ	3～5t 30kN～50kN	2 台	2 台	2 台	2 台	SI単位に変更。
	空気圧縮機	0.75～1.5kW	2 台	2 台	2 台	2 台	
	コンクリートミキサ	0.06～0.12m ³	1 台	1 台	1 台	1 台	
	モルタルミキサ	0.03～0.09m ³	1 台	1 台	1 台	1 台	
	ランマ	重量50～60kg	1 台	1 台	1 台	1 台	
	自動製図機械(CAD)		3 台	5 台	3 台	5 台	PCを使った訓練は必須。0.5台/人は必要。
	パーソナルコンピュータ	ネットワーク環境	15	25	15	25	
	カラープリンタ	A3判	2 台	3 台	2 台	3 台	1台/15人程度は必要。
	カラープリンタ	A2判	1 台	1 台	1 台	1 台	1台/定員は必要。
	トランシット	標準形	2 台	3 台	2 台	3 台	
	レベル	標準形	2 台	3 台	2 台	3 台	
	平板測量器	中測板、アリダードの曲率半径1.0～1.5m	3 台	5 台	5 台	8 台	
小形デリック	20t 20kN、ブーム長さ6m	1 台	1 台	1 台	1 台	SI単位に変更。	
運搬用小形自動車	1～2t	1 台	1 台	1 台	1 台		
その他	(工具及び用具類)						
	作業用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数	
	木工用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数	
	鉄筋工作用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数	
	足場		必要数	必要数	必要数	必要数	安全衛生法対応。
	(計測器類)						
	計測器類		必要数	必要数	必要数	必要数	
	(製図用具類)						
	製図器及び製図用具類		必要数	必要数	必要数	必要数	
	(教材類)						
ソフトウェア		必要数	必要数	必要数	必要数	コンピュータを使用した、文章作成、表計算、図面作成に使用。	
模型、掛図等		必要数	必要数	必要数	必要数		

建築施工系建築設計科

種別	名称	摘要	高等学校卒業業者等		中学校卒業業者等		提案理由
			訓練単位 30人	訓練単位 50人	訓練単位 30人	訓練単位 50人	
建物その他の 工作物	教室		60 m ²	100 m ²	60 m ²	100 m ²	
	製図室		205 m ²	330 m ²	335 m ²	550 m ²	
	更衣室		15 m ²	22 m ²	25 m ²	38 m ²	
	倉庫		15 m ²	20 m ²	20 m ²	33 m ²	
機械	製図機械	A0判用	30 台	50 台	60 台	100 台	
	自動製図機械(CAD) パーソナルコンピュータ	2次元 ネットワーク環境	45 台 30	25 台 50	45 台 30	25 台 50	PCを使った訓練は必須。1台/人は必要。
	カラープリンタ	A3判	3 台	5 台	3 台	5 台	1台/10人は必要。
	X-Yプロッタ	A0判	4 台	2 台	4 台	2 台	製品が市場にない。
	カラープリンタ	A0判	1 台	2 台	1 台	2 台	1台/25人程度は必要。
	超音波洗浄機						使用頻度が少ない。
	複写機	複写幅500～1,000mm	2 台	2 台	2 台	2 台	
	トランシット	標準形	5 台	8 台	8 台	15 台	
	レベル	標準形	5 台	8 台	8 台	15 台	
	平板測量器	中測板、アリゲードの曲 率半径1.0～1.5m	10 台	15 台	15 台	30 台	
	黒板用製図機械	標準形	1 台	1 台	2 台	2 台	
	その他	(工具及び用具類)					
器具類			必要数	必要数	必要数	必要数	
(計測器類)							
計測器類			必要数	必要数	必要数	必要数	
(製図用具類)							
製図器及び製図用具類			必要数	必要数	必要数	必要数	
(教材類)							
ソフトウェア		必要数	必要数	必要数	必要数	コンピュータを使用した、CG、文章作成、表 計算、図面作成等に使用。	
家屋、各種継ぎ手、仕口 等の模型、掛図等		必要数	必要数	必要数	必要数		

建築内装系インテリア・サービス科

種別	名称	摘要	高等学校卒業業者等		中学校卒業業者等		提案理由
			訓練単位 30人	訓練単位 50人	訓練単位 30人	訓練単位 50人	
建物その他の 工作物	教室		60 m ²	100 m ²	60 m ²	100 m ²	
	実習場		300 m ²	350 m ²	350 m ²	400 m ²	
	機械実習場		200 m ²	250 m ²	250 m ²	300 m ²	
	塗装場		7 m ²	7 m ²	7 m ²	7 m ²	
	工具室		20 m ²	30 m ²	30 m ²	45 m ²	
	更衣室		15 m ²	22 m ²	25 m ²	38 m ²	
	倉庫		50 m ²	80 m ²	80 m ²	100 m ²	
	危険物貯蔵倉庫	消防法の条件を備える こと。	10 m ²	10 m ²	10 m ²	10 m ²	
	木工機械用局所排気装 置	フード、ダクト、サイクロ ン、ファン、モータ等を含 む。	1 式	1 式	1 式	1 式	
	塗装用局所排気装置	フード又はブース、ダク ト、サイクロン、ファン、 モータ等を含む。	1 式	1 式	1 式	1 式	
	とぎ場	給・排水設備を含む。	1 式	1 式	1 式	1 式	
	実習用和室		30 m ²	30 m ²	30 m ²	30 m ²	
	実習用洋室		30 m ²	30 m ²	30 m ²	30 m ²	
機械	手押しかな盤	加工幅200～400mm、安 全自動送り装置付き。	2 台	2 台	2 台	2 台	
	自動一面かな盤	加工幅300～600mm	1 台	1 台	1 台	1 台	
	超仕上げかな盤	加工幅250～350mm	1 台	1 台	1 台	1 台	
	昇降傾斜盤	のこ径300～400mm	2 台	2 台	2 台	2 台	
	角のみ盤	のみ寸法5～25mm	2 台	2 台	2 台	3 台	
	単軸面取り盤	加工高さ75～125mm、安 全自動送り装置付き。	1 台	1 台	1 台	1 台	
	高速ルータ	1.5～2.2kW	1 台	2 台	2 台	2 台	
	木工旋盤	心間距離1,000～1,300 mm	1 台	1 台	1 台	1 台	
木工プレス	20～100 t	1 台	1 台	1 台	1 台		

	横びき丸のご盤	の径300～400mm	1台	1台	1台	1台	
	丸のご盤	の径300～400mm、安全自動装置付き。	1台	1台	1台	1台	
	糸のご盤	0.75kW	1台	2台	2台	3台	
	ベルトサンダ	加工幅300～600mm	1台	1台	1台	1台	
	パネルソー	切断可能寸法約2,000mm	1台	1台	1台	1台	
	携帯用電気かん	0.4kW	3台	5台	3台	5台	
	携帯用電気ルータ	0.8～1.0kW	2台	2台	2台	3台	
	携帯用電気丸のこ	0.4～0.6kW	2台	2台	2台	4台	
	携帯用電気みぞかん	0.4～0.6kW	2台	2台	2台	3台	
	携帯用電気角のみ	0.5～0.7kW	2台	2台	2台	3台	
	携帯用ハンマドリル	0.8～1.2kW	2台	2台	2台	3台	
	携帯用電気スクリュドライバ	0.2～0.5kW	2台	2台	2台	4台	
	携帯用電気ポリリッシャ	0.2～0.6kW	2台	2台	2台	3台	
	携帯用電気ドリル	0.2～0.4kW	3台	3台	3台	4台	
	携帯用電気サンダ	0.2～0.6kW	2台	2台	2台	4台	
	携帯用ジグソー	0.2～0.6kW	2台	2台	2台	2台	
	ディスクグラインダ		2台	2台	2台	4台	
	エアレススプレー	ホット形又はコールド形	1台	1台	1台	1台	
	赤外線乾燥スタンド	250W×12球	2台	2台	2台	2台	
	管曲げ機	手動式	1台	1台	1台	1台	
	万能折曲げ機	板厚1.6mm、長さ1,280mm	1台	2台	2台	2台	
	エアタッカ	標準形	4台 2	4台 2	4台 2	4台 2	天井に使用される化粧用石膏ボードを取り付ける際に使用する。訓練において個人で作業用ブースを作るため、最低2台は必要なため
	ボード切断機	標準形	1台	2台	2台	2台	
	プラスチック曲げ機	標準形	1台	1台	1台	1台	
	ポリエステル研削盤	0.75kW、集じん機付き。	1台	2台	2台	2台	
	交流アーク溶接機	12～35kVA(電撃防止器、安全ホルダー、ヘルメット、その他付属品を含む。)	1台	1台	1台	1台	
	シート溶接機	0.6kW	4台 3	4台 5	4台 3	4台 5	床施工訓練時の長尺シート床を接続する際に使用する。訓練の性質上、溶接機は10名に1台はないと、生徒が実際に作業を行えないため
	卓上ボール盤	穴あけ能力13mm	1台	2台	2台	2台	
	両頭グラインダ	といし車径200～300mm 集じん機付き。	1台	2台	2台	2台	
	工業用ミシン	TA形	2台	3台	2台	3台	
	オーバークロックミシン		1台	1台	1台	1台	
	床用研磨機	フリージングバケット用	1台	1台	1台	1台	
	マスヒータ	標準形	1台	1台	1台	1台	
	モルタル用ミキサ	0.03～0.06m ³	1台	1台	1台	1台	
	のこ研削盤	帯のこ、丸のこ兼用	1台	1台	1台	1台	
	万能刃物研削盤	研削長さ600mm	1台	1台	1台	1台	
	木材万能試験機	40t～100kN	1台	1台	1台	1台	SI単位に変更のため
	塗膜折曲げ試験機	曲げ半径2～10mm	1台	1台	1台	1台	
	乾燥時間測定機	標準形	1台	1台	1台	1台	
	水分測定機	標準形	1台	1台	1台	1台	
	パーソナルコンピュータ	本体、ディスプレイ、プリンタ等を含む。	3台	4台 5	3台	4台 5	図面作成のみでなくプレゼンテーション等で使用するため10人に1台は必要となるため
	トランシット	標準形	1台	1台	1台	1台	
	レベル	標準形	1台	1台	1台	1台	
	のり付け機	自動式、手動式	4台 3	4台 5	4台 3	4台 5	現状の壁装作業では、機械による糊付け作業となっている。使用法や調整、手入れの手法を含め訓練を行うためには、10人に1台は必要となるため
	床材がし機	0.4kW	1台	1台	1台	1台	
	クロス断台機		1台	1台	1台	1台	
	空気圧縮機	0.75～1.5kW	2台	2台	2台	2台	
その他	(工具及び用具類)						
	作業用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数	
	木工用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数	
	塗装用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数	
	床仕上げ用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数	
	表具用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数	
	(計測器類)						
	計測器類		必要数	必要数	必要数	必要数	
	(製図用具類)						
	製図器及び製図用具類		必要数	必要数	必要数	必要数	
	(教材類)						
	模型、掛図等		必要数	必要数	必要数	必要数	
	ソフトウェア		必要数	必要数	必要数	必要数	プレゼンテーションなどで使用する

建築仕上系左官・タイル施工科

種別	名称	摘要	高等学校卒業業者等		中学校卒業業者等		提案理由
			訓練単位 30人	訓練単位 50人	訓練単位 30人	訓練単位 50人	
建物その他の 工作物	教室		60 m ²	100 m ²	60 m ²	100 m ²	
	実習場		300 m ²	430 m ²	430 m ²	530 m ²	
	工具室		7 m ²	10 m ²	15 m ²	25 m ²	
	更衣室		15 m ²	22 m ²	25 m ²	38 m ²	
	倉庫		50 m ²	60 m ²	60 m ²	80 m ²	
	実習用模擬家屋	33～50m ²	1 式	1 式	1 式	1 式	
機械	ミキサ	0.03～0.12m ² モルタル、コンクリート、顔料及び土練用	5 台	6 台	7 台	8 台	
	つや出し機	0.2～0.5kW	2 台	3 台	3 台	5 台	
	人造石研磨機	0.75～3.7kW	1 台	2 台	2 台	3 台	
	ランマ	重量50～60kg	1 台	2 台	2 台	2 台	
	パイプレータ	振動部径25～30mm	4 台 2	2 台	2 台	2 台	作業する高さに応じて、長いもの、短いもの2種類が必要なため
	機械こて	床仕上げ用、壁仕上げ用	3 台	5 台	6 台	8 台	
	砂ふるい機	標準形	2 台	3 台	3 台	3 台	
	携帯用電気ドリル	0.2～0.4kW	2 台	3 台	3 台	3 台	
	携帯用電気ハンマ	標準形	4 台 2	2 台	2 台	2 台	コンクリートのはつり作業に応じて、高出力タイプと狭隙部分の作業が可能な小型の2種類が必要なため
	携帯用電気ディスクサンダ	標準形	2 台	3 台	3 台	3 台	
	携帯用電気丸のこ	標準形	1 台	2 台	2 台	2 台	
	携帯用電気かんな	標準形	1 台	2 台	2 台	2 台	
	携帯用電気サンダ	0.2～0.4kW	2 台	3 台	2 台	3 台	
	携帯用グラインダ	0.2～0.6kW	1 台	1 台	1 台	1 台	
	鉄筋切断機	標準形	1 台	1 台	1 台	1 台	
	石材切断機	標準形	1 台	1 台	1 台	1 台	
	シングソー	0.2～0.7kW	1 台	1 台	1 台	1 台	
	エアタッカ	標準形	1 台	2 台	2 台	3 台	
	タイル切断機	標準形	2 台 3	3 台 5	3 台 5	3 台 5	訓練におけるタイル張り作業では、正規のタイルのみでなく加工したタイルを張り付けることが多く、10名に1台はないと訓練上支障をきたすため
	振動式タイル張り機	標準形	6 台	10 台	6 台	10 台	
	万能木工機	安全装置付き。	1 台	1 台	1 台	1 台	
	電気ドリル	コンクリート用	2 台 3	3 台	3 台	3 台	コンクリート躯体と金属製内装下地の組み合わせが一般的な構法となっているため、10人に対し1台の割合での整備が必要なため
	トランシット	標準形	2 台	2 台	2 台	3 台	
	レベル	標準形	2 台	2 台	2 台	3 台	
	空気圧縮機	0.5～1.5kW	1 台	1 台	1 台	1 台	
	ポンプ	0.75kW	1 台	1 台	1 台	1 台	
	電動ウインチ	標準形	1 台	1 台	1 台	1 台	
	両頭グラインダ	どし車径200～300mm 集じん機付き。	1 台	1 台	1 台	1 台	
	熱風ヒータ	標準形	1 台	1 台	1 台	1 台	
	運搬用小形自動車	1～2 t	1 台	1 台	1 台	1 台	
	集じん機	可搬式	1 台	1 台	1 台	1 台	
	かくはん機		1 台	1 台	1 台	1 台	従来の無機系から有機系接着剤および防水剤に仕様変更されているため、材料の混り練げに必要なため
インパクトレンチ	電気式又は充電式	3 台	3 台	3 台	3 台	型枠作成、やり方、造作等に釘から木ねじへの仕様変更が一般的になっているため、10人に対し1台の割合での整備が必要なため	
その他	(工具及び用具類)						
	作業用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数	
	左官用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数	
	タイル張り用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数	
	(計測器類)						
	計測器類		必要数	必要数	必要数	必要数	
	(製図用具類)						
	製図器及び製図用具類		必要数	必要数	必要数	必要数	
(教材類)							
掛図等		必要数	必要数	必要数	必要数		

建築仕上系ブロック施工科

種別	名称	摘要	高等学校卒業業者等		中学校卒業業者等		提案理由
			訓練単位 30人	訓練単位 50人	訓練単位 30人	訓練単位 50人	
建物その他の 工作物	教室		60 m ²	100 m ²	60 m ²	100 m ²	
	実習場		335 m ²	440 m ²	440 m ²	550 m ²	
	工具室		7 m ²	10 m ²	15 m ²	22 m ²	
	更衣室		15 m ²	22 m ²	25 m ²	38 m ²	
	倉庫		50 m ²	83 m ²	83 m ²	100 m ²	
機械	コンクリートミキサ	0.06～0.12m ³	2 台	2 台	2 台	3 台	
	モルタルミキサ	0.06～0.12m ³	2 台	2 台	2 台	3 台	
	ランマ	重量50～60kg	2 台	2 台	2 台	2 台	
	排水ポンプ	標準形	2 台	2 台	2 台	2 台	
	交流アーク溶接機	12～35kVA(電撃防止器、安全ホルダー、ヘルメット、その他付属品を含む。)	2 台	2 台	2 台	3 台	
	パイプレータ	振動部径25～28mm	1 台 2	2 台	2 台	2 台	作業する高さに応じて、長いもの、短いもの2種類が必要なため
	砂ふるい機	1.5kW	2 台	2 台	2 台	3 台	
	鉄筋切断機	手動式、鉄筋径9～15mm	3 台	5 台	3 台	5 台	
	ブロックカッター	携帯用、標準形	3 台	5 台	3 台	5 台	
	携帯用石材切断機		2 台	2 台	2 台	2 台	
	単管切断機	切断と石径305mm	1 台	1 台	1 台	1 台	
	鉄筋曲げ機	曲げ能力径25mm	1 台	1 台	1 台	1 台	
	敷石切断機	切断幅350mm、切断深さ80mm	1 台	1 台	1 台	1 台	
	タイル切断機	切断長さ150mm	1 台	1 台	1 台	1 台	
	携帯用電気攪拌機		1 台	1 台	1 台	1 台	
	携帯用コンクリートドリル	径200mm	1 台	1 台	1 台	1 台	
	電動ジグソー	0.2～0.5kW	1 台	1 台	1 台	1 台	
	万能木工機	安全自動送り装置付き。	1 台	1 台	1 台	1 台	
	携帯用電気かんな	0.4kW	1 台	2 台	2 台	2 台	
	携帯用電気丸のこ	0.4～0.6kW	2 台	2 台	2 台	2 台	
	携帯用電気ハンマドリル	0.4～0.6kW	2 台	2 台	2 台	2 台	
	携帯用電気ドリル	0.2～0.4kW	2 台	2 台	2 台	3 台	
	携帯用電気ハンマ	0.5～1.2kW	1 台 2	2 台	2 台	2 台	コンクリートのはつり作業に応じて、高出力タイプと狭隘部分の作業が可能な小型の2種類が必要なため
	両頭グラインダ	といし車径200～300mm 集じん機付き。	1 台	2 台	2 台	2 台	
	トランシット	標準形	2 台	3 台	3 台	3 台	
	レベル	標準形	2 台	3 台	3 台	3 台	
	集じん機	木工機械用	1 台	1 台	1 台	1 台	
	ディスクグラインダー		1 台	2 台	2 台	3 台	
	コンクリート強度試験機	150～600kg/cm ² 15～60N/mm ²	1 台	1 台	1 台	1 台	SI単位に変更のため
	空気圧縮機	0.75～1.5kW	1 台	1 台	1 台	1 台	
	ショベル	各種アタッチメント付き、3t未満	1 台	1 台	1 台	1 台	
	小型ローラ	エンジン付き。700kg～1t	1 台	1 台	1 台	1 台	
	運搬用小形自動車	1～2 t	1 台	1 台	1 台	1 台	
インパクトレンチ	電気式又は充電式	3 台	3 台	3 台	3 台	型枠作成、やり方、造作等がボルト締めとすることが一般的になっているため、10人に対し1台の割合での整備が必要なため	
その他	(工具及び用具類)						
	作業用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数	
	コンクリートブロック施工用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数	
	測量用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数	
	(製図用具類)						
	製図器及び製図用具類		必要数	必要数	必要数	必要数	
	(教材類)						
掛図等		必要数	必要数	必要数	必要数		

設備施工系冷凍空調設備科

種別	名称	摘要	高等学校卒業者等		中学校卒業者等		変更理由又は提案理由
			訓練単位 30人	訓練単位 50人	訓練単位 30人	訓練単位 50人	
建物その他の 工作物	教室		60 m ²	100 m ²	60 m ²	100 m ²	
	実習場		610 m ²	660 m ²	670 m ²	830 m ²	
	実験室	コールドレフュザ付き。	17 m ²	25 m ²	17 m ²	25 m ²	・「コールドレフュザ付き」である必要はないので削除。
	工具室		10 m ²	17 m ²	20 m ²	25 m ²	
	更衣室		15 m ²	22 m ²	25 m ²	38 m ²	
	倉庫		17 m ²	23 m ²	23 m ²	30 m ²	
	危険物貯蔵倉庫	消防法の条件を備えること。	7 m ²	7 m ²	7 m ²	7 m ²	
	貯水装置	給・排水設備を含む。	1 式	1 式	1 式	1 式	
	往復動容積式冷凍装置	5JRTコンデンシングユニット 2. 2kW～7. 5kW	1 式	1 式	1 式	1 式	・現在、往復動式だけではなく、スクロール等他圧縮方式が増えてきているため。 ・JRT(日本冷凍トン)容積式の法定冷凍トン は、USRT(米国冷凍トン)で表わすが一般的なRTで表示する又、KW併記する。圧縮方式等により変わる為、動力の容量で表示する。
	遠心式冷凍装置	80～100JRT 50～300RT (170kW～1100kW)	1 式	1 式	1 式	1 式	・JRT(日本冷凍トン)容積式の法定冷凍トン は、USRT(米国冷凍トン)で表わすが一般的なRTで表示する又、KW併記する。 ・現存のメーカーにより容量の幅がある為、変更。
	吸収式冷凍装置	40～100JRT 40～100RT (140kW～360kW)	1 式	1 式	1 式	1 式	・JRT(日本冷凍トン)容積式の法定冷凍トン は、USRT(米国冷凍トン)で表わすが一般的なRTで表示する又、KW併記する。
	冷水式冷房装置 チラーユニット	20～40JRT 20～40RT (70kW～150kW)	1 式	1 式	1 式	1 式	・「冷水式」の名称の意味が分かりづらいので、現代の名称として合っていると思われる「チラーユニット」としたほうが分かりやすい。 ・JRT(日本冷凍トン)容積式の法定冷凍トン は、USRT(米国冷凍トン)で表わすが一般的なRTで表示する又、KW併記する。
	スクリュ式圧縮冷凍実験装置	パネル展開式	1 式	1 式	1 式	1 式	
	氷蓄熱式冷凍実験装置		1 式	1 式	1 式	1 式	・最近の空調方式では、夜間電力利用による消費電力低減が重要視され、氷蓄熱を導入している。
	冷凍空調実験装置	パネル展開式	1 式	1 式	1 式	1 式	
	デフロスト装置	冷蔵庫及び冷凍機用	1 式	1 式	1 式	1 式	・各種冷凍機装置には、デフロスト機能が組み込まれている為、削除する。
冷却塔	付属品付き。	1 式	1 式	1 式	1 式		
機械	往復動式冷凍機	教材用、補器を含む。	6 台	10 台	6 台	10 台	
	遠心式冷凍機	教材用、補器を含む。	1 台	2 台	2 台	4 台	
	ロータリー式冷凍機	教材用、補器を含む。	1 台	2 台	2 台	4 台	・最近の各種冷凍機の種類の中で、主力機械であり需要がある機種の為、追加。
	スクロール式冷凍機	教材用、補器を含む。	1 台	2 台	2 台	4 台	・最近の各種冷凍機の種類の中で、主力機械であり需要がある機種の為、追加。
	吸収式冷凍機	教材用、補器を含む。	1 台	2 台	2 台	4 台	
	スクリュ式冷凍機	教材用、補器を含む。	2 台	3 台	2 台	4 台	
	チラーユニット	教材用、補器を含む。	2 台	3 台	2 台	4 台	・チラーユニットの主要機器の圧縮機は、上記で、網羅される為、削除する。
	ファンコイルユニット	6,000～12,000kcal/h7～14kW	5 台	8 台	5 台	8 台	・1kcal=1.163Wで換算した。SI単位にした。
	スクリュ式圧縮機	コンデンサ付き。	2 台	3 台	4 台	6 台	
	パッケージ形空調和機	0.4～5.5kW 8KW～80KW	3 台	5 台	6 台	10 台	・定格冷房能力で表示した。
	セパレートエアハンドリングユニット形空調和機	0.4～1 kW 8～40KW	3 台	5 台	6 台	10 台	・定格冷却コイル能力で表示した。
	ウインド形空調和機	0.4～1 kW	3 台	5 台	3 台	5 台	・据付けるための特に高い技能が必要ではなく、減少傾向にあるため。(ルームエアコンの普及)
	冷凍ショーケース	教材用	1 台	2 台	2 台	4 台	
	アイスメーカー製氷機	教材用	1 台	2 台	2 台	4 台	・現状の名称に変更した。
	冷凍コンテナ	教材用	1 台	2 台	2 台	4 台	
	ソーラー装置 太陽熱給湯装置	補器、蓄熱槽、ポンプ等を含む。 模擬屋根含む。(太陽光発電装置と兼用)	1 式	1 式	1 式	1 式	・「太陽光発電装置」の名称とあわせるために改名した。今後、発電だけではなく、直接太陽熱を利用した給湯設備も注目されると思われる。(ハイブリッドソーラーシステム(発電+給湯))
	太陽光発電装置	模擬屋根含む。(太陽熱給湯装置と兼用)	1 式	1 式	1 式	1 式	近年の自然エネルギーを利用した発電装置の普及とともに、設備業として必要と思われる。
ヒートポンプ給湯機		1 式	1 式	1 式	1 式	・省エネルギー・夜間電力利用による消費電力低減等に伴い、現在需要が急がれている新分野である為、追加する。	

	温風暖房機	30,000~100,000kcal/h35~116kW	2台	3台	4台	6台	・SI単位にした。
	温水暖房機	50,000kcal/h60kW	2台	3台	4台	6台	・SI単位にした。
	送風機	電動機付き。	1台	1台	1台	1台	
	冷媒回収機	ポータブルタイプ(冷凍空調全般対応)	3台	5台	3台	5台	
	部品洗浄機	0.2kW	1台	1台	1台	1台	
	交流アーク溶接機	12~30kVA定格出力電流250A程度 (電撃防止器、安全ホルダー、ヘルメット、その他付属品を含む。)	5台	8台	6台	10台	溶接機の容量表記を定格出力電流とした。 溶接機の容量(大きさ)を表し、購入する際、 定格出力で選定するため。
	溶極式溶接機	半自動式(定格出力電流200A~600A) ワイヤー送給装置・溶接トーチ・ガス流量調整器	2台	3台	4台	6台	低電圧アーク溶接機同様、汎用溶接作業 で、必要な機器の追加する。
	ホットジェット溶接機	圧力0.25~0.4kg/cm ² 25~40kPa	1台	2台	1台	2台	・SI単位にした。
	溶接棒乾燥機	乾燥量50~100kg 5~50kg	1台	1台	1台	1台	・現状の総量と製造状況を調べ変更した。
	足踏み動力シャワー	切断長さ1,000mm	1台	1台	1台	1台	・足踏みは、製造なし、動力に変更した。
	はげ折り機	標準形	1台	1台	1台	1台	
	管ねじ切り機	管径15~60mm	6台	10台	10台	15台	
	管切断機	標準形	1台	2台	2台	4台	
	卓上ボール盤	穴あけ能力13mm	2台	3台	3台	4台	
	両頭グラインダ	といし車径200~300mm 集じん機付き。	2台	3台	2台	3台	
	ポータブルディスクグラインダ	0.2~0.4kW0.5~1.5KW	2台	3台	2台	3台	・現状の機器名称と製造状況を調べ変更した。
	電気ドリル	0.2~0.40.8kW	2台	3台	3台	5台	・製造状況を調べ変更した。
	携帯用電気振動ドリル	0.4~0.61.0kW	2台	3台	2台	3台	・製造状況を調べ変更した。
	電気ハンマドリル	打撃回数2,800~3,000~5,000rpm	2台	3台	2台	3台	・製造状況を調べ変更した。
	インパクトドライバ	充電式	10台	15台	10台	15台	・最新機器等の施工で必需品である為追加した。1台/3名程度必要
	回転式ドライバ	充電式	10台	15台	10台	15台	・最新機器等の施工で必需品である為追加した。1台/3名程度必要
	移動式金属切断機	鋼板20mm	2台	3台	2台	3台	・最新機器等の施工で必需品である為追加した。
	高速度といし切断機	1.5~3.7kW外径180~405mm	1台	1台	1台	1台	・現状を調べ適用をと石の寸法に変更した。
	冷凍空調故障診断シミュレータ		1台	1台	1台	1台	
	実験用電動機		2台	3台	2台	3台	
	スライダック		2台	3台	2台	3台	
	電気集じん機		1台	1台	1台	1台	
	空気圧縮機	3.75kW	1台	2台	1台	2台	
	ポンプ	0.75~1.5kW	1台	1台	1台	1台	
	移動式クレーン	油圧式2t	1台	1台	1台	1台	
	フロンガス回収機	付属機器含む	1台	1台	1台	1台	・現状を調べ、販売状況では、付属も含むため追加した。
	パーソナルコンピュータ	本体、ディスプレイ、プリンタ等を含む。	230台	350台	230台	350台	PCを使用した訓練は必修。1台/1名必要
	カラープリンタ	A1判	1台	1台	1台	1台	設備配管等の図面と建築図面や他設備図面の区別する為。
その他	(工具及び用具類)						
	作業用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数	
	管工作用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数	
	溶接用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数	
	冷凍空調和機用特殊工具類		必要数	必要数	必要数	必要数	
	(計測器類)						
	計測器類		必要数	必要数	必要数	必要数	
	(製図用具類)						
	製図器及び製図用具類		必要数	必要数	必要数	必要数	
	(教材類)						
	模型、掛図等		必要数	必要数	必要数	必要数	
	ソフトウェア		必要数	必要数	必要数	必要数	PCを使用した文章作成、表計算、図面作成、プログラミング、プレゼンテーション等に使用。

設備施工系配管科

種別	名称	摘要	高等学校卒業生等		中学校卒業生等		変更理由又は提案理由
			訓練単位 30人	訓練単位 50人	訓練単位 30人	訓練単位 50人	
建物その他の 工作物	教室		60 m ²	100 m ²	60 m ²	100 m ²	
	実習場		460 m ²	610 m ²	610 m ²	810 m ²	
	実験室		33 m ²	33 m ²	33 m ²	33 m ²	
	工具室		13 m ²	20 m ²	33 m ²	50 m ²	
	更衣室		15 m ²	22 m ²	25 m ²	38 m ²	
	倉庫		33 m ²	50 m ²	50 m ²	65 m ²	
	ガス集合装置室		7 m ²	7 m ²	7 m ²	7 m ²	
	危険物貯蔵倉庫	消防法の条件を備えること。	7 m ²	7 m ²	7 m ²	7 m ²	
	ガス集合装置	安全装置付き。	1 式	1 式	1 式	1 式	
	局所排気装置	鉛作業及び溶接作業用(フード、ダクト、サイクロン、ファン、モータ等を含む。)	2 式	2 式	2 式	2 式	
	モノレール	2~3 tホイスト付き。	1 式	1 式	1 式	1 式	
	実習用模擬家屋	30m ³	1 式	1 式	1 式	1 式	
	冷却塔	3.75kW、循環ポンプ付き。	1 式	1 式	1 式	1 式	
	貯水装置	給・排水設備を含む。	1 式	1 式	1 式	1 式	
	冷凍装置	往復動式又は遠心式教材用、補器を含む。	1 式	1 式	1 式	1 式	
	空調装置	教材用、補器を含む。	1 式	1 式	1 式	1 式	
	蒸気ボイラー装置	蒸気ボイラー又は温水ボイラー	1 式	1 式	1 式	1 式	
	温風暖房装置	250,000kcal/h 300kW	1 式	1 式	1 式	1 式	SI単位にした。
	温水暖房装置	50,000kcal/h 60kW	1 式	1 式	1 式	1 式	SI単位にした。
	ソーラシステム装置	蓄熱そう、集熱器等を含む。	4 式	4 式	4 式	4 式	種別を機械とした。
冷凍空調実験装置	パネル展開式	1 式	1 式	1 式	1 式		
機械	太陽熱給湯装置	補器、蓄熱槽、ポンプ、模擬屋根含む	1 式	1 式	1 式	1 式	名称及び摘要を冷凍空調設備科に合わせ、種別を機械とした。
	ヒートポンプ給湯器		1 式	1 式	1 式	1 式	名称及び摘要を冷凍空調設備科に合わせ、種別を機械とした。
	油圧管曲げ機	手動式、曲げ可能径60mm	2 台	3 台	3 台	5 台	
	管穴あけ機	穴あけ能力30mm	2 台	3 台	4 台	6 台	
	管ねじ切り機	管径10~100mm	8 台	8 台	10 台	10 台	
	ポリエチレン管接合機	半自動式	1 台	1 台	1 台	1 台	
	交流アーク溶接機	12~30kVA定格出力電流250A程度(電撃防止器、安全ホルダー、ヘルメット、その他付属品を含む。)	3 台	5 台	3 台	5 台	溶接機の容量表記を定格出力電流とした。溶接機の容量(大きさ)を表し、購入する際、定格出力で選定するため。
	溶極式溶接機	半自動、定格出力電流200A程度(ヘルメット、その他付属品を含む。)	1 台	1 台	1 台	1 台	現在、交流アーク溶接とともに主流となっているアーク溶接であるため追加した。
	アルゴンアーク溶接機 非溶極式溶接機	20kVA TIG溶接、定格出力電流200A程度(ヘルメット、その他付属品を含む。)	1 台	1 台	1 台	1 台	他アーク溶接と区別するために、一般的な名称に変更した。溶接機の容量表記を定格出力電流とした。溶接機の容量(大きさ)を表し、購入する際、定格出力で選定するため。
	ホットジェット溶接機	圧力0.25~0.4kg/cm ² 25~40kPa	3 台	5 台	6 台	10 台	SI単位にした。
	溶接棒乾燥機	乾燥容量50~100kg 5~50kg	1 台	1 台	1 台	1 台	現状の溶接棒の総量と乾燥機の製造状況を調べ、変更した。
	コンクリートカッター	180mm	1 台	1 台	1 台	1 台	
	高速度といし切断機	切断可能径100mm 外径180~405mm	1 台	1 台	1 台	1 台	現状を調査し、摘要内を切断径から砥石の直径に変更した。
	ステヤ動力シャワー	切断長さ1,200~2,000mm	1 台	1 台	1 台	1 台	ステヤシャワーの製造が中止され、動力となったため動力に変更した。
	ハンドシャワー	切断長さ200~300mm	1 台	1 台	1 台	1 台	
	曲げローラー	曲げ長さ1,000mm	1 台	1 台	1 台	1 台	
	普通旋盤	心間距離500~800mm	1 台	1 台	1 台	1 台	
	直立ボール盤	振り400~550mm	1 台	1 台	1 台	1 台	
	卓上ボール盤	穴あけ能力13mm	2 台	3 台	3 台	5 台	
	金切りご盤	弓のこ又は帯のこ	1 台	1 台	1 台	1 台	
	携帯用バンドソー	0.2~0.4kW	2 台	3 台	4 台	6 台	
	両頭グラインダ	といし車径200~300mm 集じん機付き。	2 台	3 台	3 台	5 台	
	アングルディスクグラインダ	0.2~0.4kW 0.5~1.5kW	2 台	3 台	3 台	5 台	現状の機器名と製造状況を調べ、変更した。
	携帯用電気振動ドリル	0.4~0.6kW	2 台	3 台	2 台	3 台	
	電気ドリル	0.2~0.4kW	3 台	5 台	3 台	5 台	
	鉄管探知機	標準形	1 台	1 台	2 台	2 台	
	漏水探知機	標準形	1 台	1 台	1 台	1 台	
	空気圧縮機	2.2~3.7kW	1 台	1 台	1 台	1 台	
	水圧ポンプ	50kg/cm ²	2 台	3 台	2 台	3 台	
	ポンプ	0.75~1.5kW	1 台	1 台	1 台	1 台	
	パーソナルコンピュータ	本体、ディスプレイ、プリンタ等を含む。	2 台 30	3 台 50	2 台 30	3 台 50	パソコンは、現在、単純な文書作成だけでなく、表計算、プレゼンテーション、CAD等訓練内で様々な活用があり、1人1台でなければ、訓練が成立しない。
	カラープリンタ	A3以上を出力できる。	1 台	2 台	1 台	2 台	CADにより作成した図面を出力した際に、系統ごとに色分けがされているため。

その他	(工具及び用具類)					
	作業用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数
	管工作用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数
	溶接用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数
	(計測器類)					
	計測器類		必要数	必要数	必要数	必要数
	(製図用具類)					
	製図機及び製図用具類		必要数	必要数	必要数	必要数
	(教材類)		必要数	必要数	必要数	必要数
温度色別表、模型、掛図等		必要数	必要数	必要数	必要数	
ソフトウェア		必要数	必要数	必要数	必要数	パソコンだけがあっても使用できないので、各訓練に沿った、ソフトウェアをインストールし、教材として活用する。

設備施工系住宅設備機器科

種別	名称	摘要	高等学校卒業業者等		中学校卒業業者等		変更理由又は提案理由
			訓練単位 30人	訓練単位 50人	訓練単位 30人	訓練単位 50人	
建物その他の工作物	教室		60 m ²	100 m ²	60 m ²	100 m ²	
	実習場		460 m ²	610 m ²	610 m ²	810 m ²	
	実験室		33 m ²	33 m ²	33 m ²	33 m ²	
	工具室		13 m ²	20 m ²	33 m ²	50 m ²	
	更衣室		15 m ²	22 m ²	25 m ²	38 m ²	
	倉庫		33 m ²	50 m ²	50 m ²	65 m ²	
	ガス集合装置室		7 m ²	7 m ²	7 m ²	7 m ²	
	危険物貯蔵倉庫	消防法の条件を備えること。	7 m ²	7 m ²	7 m ²	7 m ²	
	ガス集合装置	安全装置付き。	1 式	1 式	1 式	1 式	
局所排気装置	鉛作業及び溶接作業用(フード、ダクト、サイクロン、ファン、モータ等を含む。)	2 式	2 式	2 式	2 式		
機械	モノレール	2～3 tホイスト付き。	1 式	1 式	1 式	1 式	
	実習用模擬家屋	30m ³	1 式	1 式	1 式	1 式	
	風呂設備	一般家庭用	1 式	1 式	1 式	1 式	
	トイレ設備	一般家庭用	1 式	1 式	1 式	1 式	
	衛生給排水設備		1 式	1 式	1 式	1 式	
	給湯装置		1 式	1 式	1 式	1 式	
	換気設備		1 式	1 式	1 式	1 式	
	冷却塔	3.75kW、循環ポンプ付き。	1 式	1 式	1 式	1 式	
	貯水装置	給・排水設備を含む。	1 式	1 式	1 式	1 式	
	冷凍装置	往復動式又は遠心式教材用、補器を含む。	1 式	1 式	1 式	1 式	
	空調装置	教材用、補器を含む。	1 式	1 式	1 式	1 式	
	蒸気ボイラー装置	蒸気ボイラー又は温水ボイラー	1 式	1 式	1 式	1 式	
	温風暖房装置	250,000kcal/h300kW	1 式	1 式	1 式	1 式	・SI単位にした。
温水暖房装置	50,000kcal/h60kW	1 式	1 式	1 式	1 式	・SI単位にした。	
冷凍空調実験装置	パネル展開式	1 式	1 式	1 式	1 式		
機械	油圧管曲げ機	手動式、曲げ可能径60mm	1 台	2 台	2 台	3 台	
	管穴あけ機	穴あけ能力30mm	1 台	2 台	3 台	4 台	
	管ねじ切り機	管径10～100mm	5 台	5 台	7 台	7 台	
	ソーラー装置 太陽熱給湯装置	補器、蓄熱槽、ポンプ等を含む。 模擬屋根含む。(太陽光発電装置と兼用)	1 式	1 式	1 式	1 式	・「太陽光発電装置」の名称とあわせるために改名した。今後、発電だけではなく、直接太陽熱を利用した給湯設備も注目されると思われる。(ハイブリッドソーラーシステム(発電+給湯))
	太陽光発電装置	模擬屋根含む。(太陽熱給湯装置と兼用)	1 式	1 式	1 式	1 式	・近年の自然エネルギーを利用した発電装置の普及とともに、設備業として必要と思われる。
	ヒートポンプ給湯機		1 式	1 式	1 式	1 式	・省エネルギー・夜間電力利用による消費電力低減等に伴い、現在需要が急がれている新分野である為、追加する。
	ポリエチレン管接合機	半自動式	1 台	1 台	1 台	1 台	
	交流アーク溶接機	12～30kVA 定格出力電流250A程度 (電撃防止器、安全ホルダー、ヘルメット、その他付属品を含む。)	2 台	3 台	2 台	3 台	溶接機の容量表記を定格出力電流とした。溶接機の容量(大きさ)を表し、購入する際、定格出力で選定するため。
	アルゴンアーク溶接機 非溶極式溶接機	20kVA TIG 溶接、定格出力電流200A程度(ヘルメット、その他付属品を含む。)	1 台	1 台	1 台	1 台	他アーク溶接と区別するために、一般的な名称に変更した。溶接機の容量表記を定格出力電流とした。溶接機の容量(大きさ)を表し、購入する際、定格出力で選定するため。

	ホットジェット溶接機	圧力0.25~0.4kg/cm ² 25~40kPa	2台	3台	4台	7台	・SI単位にした。
	溶接棒乾燥機	乾燥量50~100kg 5~50kg	1台	1台	1台	1台	・現状の総量と製造状況を調べ変更した。
	コンクリートカッタ	180mm	1台	1台	1台	1台	
	高速度といし切断機	1.5~3.7kW外径180~405mm	1台	1台	1台	1台	・現状を調べ適用をと石の寸法に変更した。
	ハンドシャワー	切断長さ200~300mm	1台	1台	1台	1台	
	曲げロール	曲げ長さ1,000mm	1台	1台	1台	1台	
	普通旋盤	心間距離500~800mm	1台	1台	1台	1台	
	直立ボール盤	振り400~550mm	1台	1台	1台	1台	
	卓上ボール盤	穴あけ能力13mm	1台	2台	2台	3台	
	金切りのご盤	弓のご又は帯のご	1台	1台	1台	1台	
	携帯用バンドソー	0.2~0.4kW	2台	3台	4台	6台	
	両頭グラインダ	といし車径200~300mm 集じん機付	1台	2台	2台	3台	
	アングルグラインダ	0.2~0.4kW	2台	3台	3台	5台	
	携帯用電気振動ドリル	0.4~0.61.0kW	1台	1台	2台	2台	・製造状況を調べ変更した。
	電気ドリル	0.2~0.4kW、コンクリート用を含む。	4台	6台	4台	6台	
	鉄管探知機	標準形	1台	1台	2台	2台	
	漏水探知機	標準形	1台	1台	1台	1台	
	空気圧縮機	2.2~3.7kW	1台	1台	1台	1台	
	水圧ポンプ	50kg/cm ² 5MPa	1台	2台	1台	2台	・SI単位にした。
	ポンプ	0.75~1.5kW	1台	1台	1台	1台	
	タイル切断機	切断長さ150mm	1台	1台	1台	1台	
	振動式タイル張り機		1台	1台	1台	1台	
	トランシット	標準形	1台	1台	1台	1台	
	レベル	標準形	1台	1台	1台	1台	
	万能木工機	安全装置付き。	1台	1台	1台	1台	
	インパクトドライバ	充電式	2台	3台	2台	3台	・最新機器等の施工で必需品である為追加した。
	回転式ドライバ	充電式	2台	3台	2台	3台	・最新機器等の施工で必需品である為追加した。
	移動式金属切断機	鋼板20mm	2台	3台	2台	3台	・最新機器等の施工で必需品である為追加した。
	電気ハンマ	打撃回数2,800~3,000~5,000rpm	1台	1台	1台	1台	・製造状況を調べ変更した。
	タイル接着力試験機	標準形	1台	1台	1台	1台	
	電気窯	酸化還元付き。	1台	1台	1台	1台	
	掃除機		1台	1台	1台	1台	
	冷凍機シミュレータ		1台	1台	1台	1台	
	ボイラージュミレータ		1台	1台	1台	1台	
	電動弁セット		1台	2台	1台	2台	
	シーケンストレーナー		1台	2台	2台	3台	
	自動火災報知機		1台	1台	1台	1台	
	オイルバーナ	ボイラー用	1台	1台	1台	1台	
	電動機	3種	3台	3台	3台	3台	
	分電盤		1台	1台	1台	1台	
	制御盤		1台	1台	1台	1台	
	ディスクサンダ	0.2~0.4kW	1台	1台	2台	2台	
	空気調和機		1台	1台	1台	2台	
	ファンコイルユニット		1台	1台	1台	2台	
	パイプクリーナ	各種	6台	8台	6台	8台	
	高圧洗浄機		1台	1台	1台	1台	
	変圧器		1台	1台	1台	1台	
	ハンドトラック	500kg	1台	1台	1台	1台	
	ハンドリフト		1台	1台	1台	1台	
	パーソナルコンピュータ	本体、ディスプレイ、プリンタ等を含む。	2台	3台	2台	3台	PCを使用した訓練は必修。1台/1名必要
	カラープリンタ	A1判	1台	1台	1台	1台	設備配管等の図面と建築図面や他設備図面の区別する為。
その他	(工具及び用具類)						
	作業用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数	
	管工作用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数	
	タイル張り用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数	
	(計測器類)						
	計測器類		必要数	必要数	必要数	必要数	
	(製図用具類)						
	製図機及び製図用具類		必要数	必要数	必要数	必要数	
	(教材類)						
	模型、掛図等		必要数	必要数	必要数	必要数	
	ソフトウェア		必要数	必要数	必要数	必要数	PCを使用した文章作成、表計算、図面作成、プログラミング、プレゼンテーション等に使用。

土木系土木施工科

種別	名称	摘要	高等学校卒業者等		中学校卒業者等		提案理由
			訓練単位 30人	訓練単位 50人	訓練単位 30人	訓練単位 50人	
建物その他の 工作物	教室		60 m ²	100 m ²	60 m ²	100 m ²	
	実習場		210 m ²	310 m ²	310 m ²	410 m ²	
	工具室		7 m ²	10 m ²	15 m ²	25 m ²	
	更衣室		15 m ²	22 m ²	25 m ²	38 m ²	
	倉庫		20 m ²	30 m ²	30 m ²	40 m ²	
	屋外実習場		10,000 m ²	15,000 m ²	15,000 m ²	20,000 m ²	
	機械格納庫		130 m ²	150 m ²	150 m ²	200 m ²	
	危険物貯蔵倉庫	消防法の条件を備えること。	5 m ²	7 m ²	7 m ²	7 m ²	
	モノレール	2～3t ホイスト付き。	1 式	1 式	1 式	1 式	
	検車設備	ピット、検車台又はオートリフト。	1 式	1 式	1 式	1 式	
	洗車設備	給・排水設備を含む。	1 式	1 式	1 式	1 式	
機械	ブルドーザ	7～11t	2 台	3 台	3 台	4 台	
	グレーダ	7～8t	1 台	1 台	1 台	1 台	
	トラクタショベル	7～11t	1 台	1 台	1 台	1 台	
	ショベル	各種アタッチメント付き。	1 台	1 台	1 台	1 台	
	ロードローラ	4～8t	1 台	2 台	2 台	2 台	
	ダンプトラック	4t	1 台	1 台	1 台	1 台	
	ランマ	てん圧力6～7t	3 台	5 台	5 台	5 台	
	ソイルコンパクタ	小形、振動板700×600mm	1 台	1 台	2 台	2 台	
	鉄筋切断機	手動式、鉄筋径15mm 切断能力径25～32mm	3 台	5 台	3 台	5 台	切断する太径鉄筋に対応。
	鉄筋曲げ機	曲げ能力径25～32mm	3 台	5 台	3 台	5 台	曲げ加工は必要。
	コンクリートミキサ	0.2～0.3m ³	1 台	2 台	2 台	2 台	
	ベルトコンベア	7m×550mm	1 台	1 台	2 台	2 台	
	パイプレータ	振動部径25×28mm	1 台	2 台	2 台	2 台	
	トランシット	標準形	10 台	15 台	20 台	30 台	
	レベル	標準形	10 台	15 台	20 台	30 台	
	平板測量器	中測板、アリダードの曲率半径1.0～1.5m	10 台	15 台	15 台	25 台	
	油圧ジャッキ	10～20t 100kN～200kN	1 台	1 台	1 台	1 台	単位変更
	発電機	携帯用	1 台	1 台	1 台	1 台	
	充電器	シリコン	1 台	1 台	1 台	1 台	
	空気圧縮機	3.7～7.5kW	1 台	2 台	2 台	2 台	
	万能試験機	100t-1000kN	1 台	1 台	1 台	1 台	単位変更
光波測距儀	3 km	1 台	1 台	1 台	1 台		
自動製図機械(CAD) パーソナルコンピュータ	2次元 ネットワーク環境	3 15	5 25	3 15	5 25	PCを使った訓練は必須。0.5台/人は必要。	
カラープリンタ	A3判	2 台	3 台	2 台	3 台	1台/15人程度は必要。	
カラープリンタ	A2判	1 台	1 台	1 台	1 台	1台/定員は必要。	
その他	(工具及び用具類)						
	足場		必要数	必要数	必要数	必要数	安全衛生法対応。
	作業用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数	
	測量用器具類 (計測器類)		必要数	必要数	必要数	必要数	
	計測器類		必要数	必要数	必要数	必要数	
	(製図用具類)						
	製図器及び製図用具類		必要数	必要数	必要数	必要数	
	(教材類)						
	ソフトウェア		必要数	必要数	必要数	必要数	コンピュータを使用した、文章作成、表計算、図面作成に使用。
模型、掛図等		必要数	必要数	必要数	必要数		

土木系測量・設計科

種別	名称	摘要	高等学校卒業者等		中学校卒業者等		提案理由
			訓練単位 30人	訓練単位 50人	訓練単位 30人	訓練単位 50人	
建物その他の 工作物	教室		60 m ²	100 m ²	60 m ²	100 m ²	
	製図室		120 m ²	200 m ²	120 m ²	200 m ²	
	図化機室		15 m ²	15 m ²	15 m ²	15 m ²	
	更衣室		15 m ²	22 m ²	25 m ²	38 m ²	
	倉庫		20 m ²	33 m ²	33 m ²	50 m ²	
機械	トランシット	標準形	10 台	17 台	20 台	34 台	
	レベル	標準形、レーザーレベルを含む。	15 台	25 台	20 台	34 台	
	平板測量器	中測板、アリダードの曲率半径1.0～1.5m	10 台	17 台	20 台	34 台	
	望遠鏡付きアリダード	望遠鏡全長200mm、倍率18倍、光波アリダードを含む。	10 台	17 台	20 台	34 台	
	精密セオドライト	1 秒読み	6 台	10 台	6 台	10 台	
	精密水準機	有効径45mm、倍率40倍	6 台	10 台	6 台	10 台	
	光波測距儀	測距範囲 3km	3 台	5 台	3 台	5 台	
	座標展開儀	1/300、1/500、1/1,000	3 台	5 台	5 台	8 台	
	図化機	1 級又は 2 級	1 台	1 台	1 台	1 台	
	自動製図機械(CAD) パーソナルコンピュータ	2次元 ネットワーク環境	15 30	25 50	15 30	25 50	PCを使った訓練は必須。1台/人は必要。
	カラープリンタ	A3判	3 台	5 台	3 台	5 台	1台/10人は必要。
	カラープリンタ	A0判	1 台	2 台	1 台	2 台	1台/25人程度は必要。
	複写機	A 2 判	1 台	1 台	1 台	1 台	
	ジヤソ複写機	A-2 判	1 台	1 台	1 台	1 台	製品が市場にない。
	その他	(工具及び用具類)					
器具類			必要数	必要数	必要数	必要数	
測量用器具類			必要数	必要数	必要数	必要数	
(計測器類)							
計測器類			必要数	必要数	必要数	必要数	
(製図用具類)							
製図器及び製図用具類			必要数	必要数	必要数	必要数	
(教材類)							
ソフトウェア			必要数	必要数	必要数	必要数	コンピュータを使用した、CG、文章作成、表計算、図面作成作成に使用。
模型、掛図等		必要数	必要数	必要数	必要数		

設備管理・運転系ビル管理科

種別	名称	摘要	高等学校卒業者等		中学校卒業者等		変更理由又は提案理由
			訓練単位 30人	訓練単位 50人	訓練単位 30人	訓練単位 50人	
建物その他の 工作物	教室		60 m ²	100 m ²	60 m ²	100 m ²	
	実習場		370 m ²	500 m ²	370 m ²	500 m ²	
	工具室		15 m ²	22 m ²	15 m ²	22 m ²	
	倉庫		20 m ²	33 m ²	20 m ²	33 m ²	
	危険物貯蔵倉庫	消防法の条件を備えること。	5 m ²	5 m ²	5 m ²	5 m ²	
	更衣室		15 m ²	22 m ²	25 m ²	38 m ²	
	空調設備	蒸気ボイラー、冷温水発生機、ファンコイルユニット、チーリングユニット、冷却塔等を含む。	1 式	1 式	1 式	1 式	
	受変電設備	開放形、閉鎖形	1 式	1 式	1 式	1 式	
	給排水衛生設備	消防設備を含む。	1 式	1 式	1 式	1 式	
	中央監視設備	CRT、グラフィックパネル付き。	1 式	1 式	1 式	1 式	
機械	冷凍機シミュレータ		2 台	3 台	2 台	3 台	
	ボイラーシミュレータ		1 台	2 台	1 台	2 台	
	消防設備シミュレータ		1 台	1 台	1 台	1 台	
	電動弁セット		5 台	8 台	5 台	8 台	
	シーケンストレー		5 台	8 台	5 台	8 台	
	自動火災報知器		1 台	2 台	1 台	2 台	
	オイルバーナ	ボイラー用	1 台	1 台	1 台	1 台	
	電動機	3種	3 台	5 台	3 台	5 台	
	分電盤		2 台	3 台	2 台	3 台	
	制御盤		2 台	3 台	2 台	3 台	
	卓上ボール盤	穴あけ能力13mm	1 台	2 台	1 台	2 台	
	両頭グラインダ	砥石車径200～300mm 集じん機付き。	1 台	2 台	1 台	2 台	
	ディスクサンダ	0.2～0.4kW 0.5～1.5kW	1 台	2 台	1 台	2 台	現状の機器名称と製造状況を調べ変更した。
	電動ドリル	0.2～0.40.8kW	2 台	3 台	2 台	3 台	製造状況を調べ変更した。
	空調機		台	台	台	台	
	ファンコイルユニット		2 台	2 台	2 台	2 台	
	ポンプ	単段、多段	4 台	6 台	4 台	6 台	
	真空ポンプ		1 台	2 台	1 台	2 台	
	空気圧縮機	2.2～3.7kW	1 台	2 台	1 台	2 台	
	パイプクリーナ	多種	6 台	8 台	6 台	8 台	
	高圧洗浄機		1 台	2 台	1 台	2 台	
	変圧器		3 台	5 台	3 台	5 台	
	ハンドトラック	500kg	1 台	2 台	1 台	2 台	
	高速度といし切断機	切断可能径100mm 外径180～405mm	1 台	1 台	1 台	1 台	現状を調査し、摘要内を切断径から砥石の直径に変更した。
	交流アーク溶接機	定格出力電流250A程度。電撃防止器、安全ホルダー、ヘルメット、その他付属品を含む。	1 式	1 式	1 式	1 式	他科と名称を統一した。溶接機の容量表記を定格出力電流とした。溶接機の容量(大きさ)を表し、機種を選定する際、定格出力で選定するため。
	シーケンス制御装置	負荷装置を含む。	1 式	1 式	1 式	1 式	
	非常用発電装置		1 式	1 式	1 式	1 式	
	無停電電源装置		1 式	1 式	1 式	1 式	
	非常用放送機		1 台	1 台	1 台	1 台	
	インバータ漏電火災警報器	3 φ 200V2.2kW	1 台	2 台	1 台	2 台	
	高圧コンデンサ	6,000V	1 台	2 台	1 台	2 台	
	ガス漏れ警報器	5 回路	3 台	5 台	3 台	5 台	
パーソナルコンピュータ	本体、ディスプレイ、プリンタ等を含む。	2 台 30	3 台 50	2 台 30	3 台 50	パソコンは、現在、単純な文書作成だけでなく、表計算、プレゼンテーション、CAD等訓練内で様々な活用があり、1人一台でなければ、訓練が成立しない。	
カラープリンタ	A3以上を出力できる。	1 台	2 台	1 台	2 台	CADにより作成した図面を出力した際に、系統ごとに色分けがされているため。	
その他	(工具及び用具類)						
	作業用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数	
	電工用工具類		必要数	必要数	必要数	必要数	
	(計測器類)						
	計測器類		必要数	必要数	必要数	必要数	
	(教材類)						
	模型、掛図等		必要数	必要数	必要数	必要数	
ソフトウェア		必要数	必要数	必要数	必要数	パソコンだけがあっても使用できないので、各訓練に沿った、ソフトウェアをインストールし、教材として活用する。	

9. 現行訓練科の「技能照査の基準の細目」の
見直し提案表

技能照査の基準の細目

訓練科		建築施工系建築設計科			
		学科	実技		
系基礎	1	建築物の歴史、役割について知っていること。	系基礎	1	各種測量法による測量ができること。
	2	建築工程について知っていること。		2	OA機器操作ができること。
	3	建築計画について知っていること。		3	測量器具の取扱い及び調整ができること。
	4	建築構造とその特性について知っていること。			
	5	建築設備について知っていること。			
	6	建築製図について知っていること。			
	7	仕様及び積算について知っていること。			
	8	構造力学の基礎について知っていること。			
	9	関係法規について知っていること。			
	10	安全衛生について知っていること。			
専攻	1	意匠、構造、設備計画について知っていること。	専攻	1	各種建築図面のトレースがよくできること。
	2	構造力学についてよく知っていること。		2	建築物のデザインができること。
	3	透視図について知っていること。 建築製図表現		3	各種建築図面の設計、製図がよくできること。
	4	各種の建築法による建築についてよく知っていること。			
	5	建築工程の詳細について知っていること。			

技能照査の基準の細目

訓練科		建築外装系屋根施工科			
		学科	実技		
系基礎	1	建築計画について知っていること。	系基礎	1	各種方式による測量ができること。
	2	建築構造について知っていること。		2	建築外装用機械の操作ができること。
	3	建築設備について知っていること。		3	足場施工ができること。
	4	測定について知っていること。		4	安全作業、衛生作業できること。
	5	製図について知っていること。			
	6	関係法規について知っていること。			
	7	安全衛生についてよく知っていること。			
専攻	1	材料の種類、性質及び用途についてよく知っていること。	専攻	1	屋根ふき用器工具の取扱いがよくできること。
	2	屋根ふき用器工具の種類及び使用法についてよく知っていること。		2	屋根施工の段取りができること。
	3	割付けについて知っていること。		3	屋根下地及び下ごしらえ作業ができること。
	4	屋根下地及び下ごしらえについて知っていること。		4	割付け及び水系張りができること。
	5	屋根ふきの施工法についてよく知っていること。		5	屋根施工がよくできること。
	6	屋根ふき用補助材料の種類、性質及び用途についてよく知っていること。		6	養生作業ができること。
	7	仕様及び積算について知っていること。			

技能照査の基準の細目

訓練科		建築外装系建築板金科			
学科		実技			
系基礎	1	建築計画について知っていること。	系基礎	1	各種方式による測量ができること。
	2	建築構造について知っていること。		2	建築外装用機械の操作ができること。
	3	建築設備について知っていること。		3	足場施工ができること。
	4	測定について知っていること。		4	安全作業、衛生作業できること。
	5	製図について知っていること。			
	6	関係法規について知っていること。			
	7	安全衛生についてよく知っていること			
専攻	1	材料の種類、性質及び用途についてよく知っていること。	専攻	1	板金用機械及び器工具の取扱いがよくできること。
	2	板金用機械及び器工具の種類、構造及び使用法についてよく知っていること。		2	板金の加工がよくできること。
	3	展開図によるけがき及び板取りについて知っていること。		3	板金施工の段取りができること。
	4	板金の加工についてよく知っていること。		4	板金施工がよくできること。
	5	板金の施工法についてよく知っていること。		5	養生作業ができること。
	6	仕様及び積算についてよく知っていること。			

技能照査の基準の細目

訓練科		建築外装系防水施工科			
学科		実技			
系基礎	1	建築計画について知っていること。	系基礎	1	各種方式による測量ができること。
	2	建築構造について知っていること。		2	建築外装用機械の操作ができること。
	3	建築設備について知っていること。		3	足場施工ができること。
	4	測定について知っていること。		4	安全作業、衛生作業できること。
	5	製図について知っていること。			
	6	関係法規について知っていること。			
	7	安全衛生についてよく知っていること			
専攻	1	防水施工用機械及び器工具の種類、構造及び使用法についてよく知っていること。	専攻	1	防水施工用器工具及び機械の取扱いがよくできること。
	2	防水下地についてよく知っていること。		2	防水工事の作業段取りができること。
	3	防水工事における養生についてよく知っていること。		3	下地工作ができること。
	4	防水工事の種類及び特徴について知っていること。		4	墨出しができること。
	5	防水工事の施工法について知っていること。		5	防水作業がよくできること。
	6	防水材料の種類、性質及び用途についてよく知っていること。		6	養生作業ができること。
	7	墨出しについてよく知っていること。			
	8	仕様及び積算について知っていること。			

技能照査の基準の細目

訓練科		建築外装系サッシ・ガラス施工科			
		学科	実技		
系基礎	1	建築計画について知っていること。	系基礎	1	各種方式による測量ができること。
	2	建築構造について知っていること。		2	建築外装用機械の操作ができること。
	3	建築設備について知っていること。		3	足場施工ができること。
	4	測定について知っていること。		4	安全作業、衛生作業ができること。
	5	製図について知っていること。			
	4	製図について知っていること。			
	6	関係法規について知っていること。			
7	安全衛生についてよく知っていること				
6					
専攻	1	サッシ及びガラス工事の施工法についてよく知っていること。	専攻	1	サッシ及びガラス施工用機械並びに器工具の取扱いがよくできること。
	2	金属製建具及びカーテンウォール工事の施工法についてよく知っていること。		2	サッシの加工及び組立てができること。
	3	サッシ及びガラス施工用機械並びに器工具の種類、構造及び使用法についてよく知っていること。		3	金属製建具及び部品(付属部材及び付属金物)の取付けがよくできること。
	4	軸組構造及び組積構造について知っていること。		4	木製建具、スチールサッシ及びアルミサッシのはめ込み寸法の測定がよくできること。
	5	サッシ及びガラス材料の種類、性質並びに用途についてよく知っていること。		5	木製建具、スチールサッシ及びアルミサッシの取付け支持並びにシーリングができること。
	4	サッシ及びガラス材料の種類、性質並びに用途についてよく知っていること。		6	板ガラスの板どりができること。
	6	ガラス切断の原理について知っていること。		7	ガラスの切断がよくできること。
	7	開口部の開閉作動方式についてよく知っていること。		8	墨出しができること。
	6	開口部の開閉作動方式についてよく知っていること。		9	溶接ができること。
	8	各種建具の主なガラス取付け支持方式についてよく知っていること。		10	玉掛け及び合図がよくできること。
	7	各種建具の主なガラス取付け支持方式についてよく知っていること。		11	養生作業ができること。
9	電気溶接及びガス溶接について知っていること。				
8					
10	日本工業規格の建築に関する表示記号について知っていること。				
11	仕様及び積算について知っていること。				
9					

技能照査の基準の細目

訓練科		建築内装系畳科			
		学科	実技		
系基礎	1	室内設計、家具デザイン等の基礎及び表現方法について知っていること。	系基礎	1	本工用機械及び器工具 建築内装用機械 の取扱い及び調整ができること。
	2	建築構造について知っていること。		2	本工用機械による工作ができること。
	3	室内工事の施工及び設備についてよく知っていること。		3	家具、建具、照明器具のはめ込みの測定ができること。
	4	建築、家具の製図について知っていること。		2	こと。
	5	形、光、空間の構成等の造形について知っていること。		4	建築、家具の製図の作成ができること。
	3	建築、家具の製図について知っていること。		3	
	6	生活機能を基礎とした色彩構成について知っていること。		5	安全衛生作業がよくできること。
	4	生活機能を基礎とした色彩構成について知っていること。		4	
7	関係法規について知っていること。				
8	安全衛生について知っていること。				
専攻	1	畳製作器工具の種類および使用法についてよく知っていること。	専攻	1	新畳の製作作業がよくできること。
	2	材料の取扱いと作業準備についてよく知っていること。		2	畳の表替えと裏返しがよくできること。
	3	新畳の工作法について知っていること。		3	適寸割り出しができること。
	4	畳表替えと裏返し工作法についてよく知っていること。		4	畳の敷き込み作業ができること。
	5	適寸割り出し法について知っていること。		5	畳床及び畳表の修理ができること。
	6	畳の敷き方と敷き込みについて知っていること。			
	7	製畳機及び縫着機の種類、構造及び使用法について知っていること。			
	8	仕様及び積算について知っていること。			

技能照査の基準の細目

訓練科		建築内装系インテリア・サービス科		
学科		実技		
系基礎	1	室内設計、家具デザイン等の基礎及び表現方法について知っていること。	1	木工用機械及び器具 建築内装用機械 の取扱い及び調整ができること。
	2	建築構造について知っていること。	2	木工用機械による工作ができること。
	3	室内工事の施工及び設備についてよく知っていること。	3	家具、建具、照明器具のはめ込みの測定ができること。
	4	建築、家具の製図について知っていること。	4	建築、家具の製図の作成ができること。
	5	形、光、空間の構成等の造形について知っていること。	5	安全衛生作業がよくできること。
	6	生活機能を基礎とした色彩構成について知っていること。	6	
	7	関係法規について知っていること。	7	
	8	安全衛生について知っていること。	8	
専攻	1	インテリアの計画の方法についてよく知っていること。	1	インテリア製図がよくできること。
	2	インテリア材料及び種類についてよく知っていること。	2	木工用機械及び器具 木工機械、金工用電動工具、インテリア加工用器具 の取扱い及び調整がよくできること。
	3	インテリア施工法について知っていること。	3	カーテン 、 カーペット 、 床仕上 、 壁仕上げ 、 天井仕上げ 等のインテリア施工がよくできること。
	4	仕様及び積算について知っていること。		

技能照査の基準の細目

訓練科		建築内装系床仕上施工科		
学科		実技		
系基礎	1	室内設計、家具デザイン等の基礎及び表現方法について知っていること。	1	木工用機械及び器具 建築内装用機械 の取扱い及び調整ができること。
	2	建築構造について知っていること。	2	木工用機械による工作ができること。
	3	室内工事の施工及び設備についてよく知っていること。	3	家具、建具、照明器具のはめ込みの測定ができること。
	4	建築、家具の製図について知っていること。	4	建築、家具の製図の作成ができること。
	5	形、光、空間の構成等の造形について知っていること。	5	安全衛生作業がよくできること。
	6	生活機能を基礎とした色彩構成について知っていること。	6	
	7	関係法規について知っていること。	7	
	8	安全衛生について知っていること。	8	
専攻	1	下地仕上げ工事用機械及び器具の種類、構造及び使用法についてよく知っていること。	1	下地仕上げ材の選別ができること。
	2	下地についてよく知っていること。	2	各種カーペットの施工ができること。
	3	下地仕上げの施工法について知っていること。	3	プラスチック系床材の施工ができること。
	4	下地仕上げの施工に用いる材料の種類、性質及び用途についてよく知っていること。	4	各種床施工用器具 の取扱い及び調整がよくできること。
	5	仕様及び積算について知っていること。		

技能照査の基準の細目

訓練科		建築内装系表具科			
		学科	実技		
系基礎	1	室内設計、家具デザイン等の基礎及び表現方法について知っていること。	系基礎	1	木工用機械及び器工具 建築内装用機械 の取扱い及び調整ができること。
	2	建築構造について知っていること。		2	木工用機械による工作ができること。
	3	室内工事の施工及び設備についてよく知っていること。		3	家具、建具、照明器具のはめ込みの測定ができること。
	4	建築、家具の製図について知っていること。		4	建築、家具の製図の作成ができること。
	5	形、光、空間の構成等の造形について知っていること。		5	安全衛生作業がよくできること。
	6	生活機能を基礎とした色彩構成について知っていること。			
	7	関係法規について知っていること。			
	8	安全衛生について知っていること。			
専攻	1	表具品の種類、構造及び規格についてよく知っていること。	専攻	1	寸法取り作業がよくできること。
	2	寸法取りについてよく知っていること。		2	寸法の割り出し及び割り付けがよくできること。
	3	寸法の割り出し及び割り付けについてよく知っていること。		3	表具材料の選定ができること。
	4	表具における仕口及び仕上がりについてよく知っていること。		4	壁装材料の選定ができること。
	5	表装用器工具の種類及び使用法についてよく知っていること。		5	表具の仕口及び仕上げができること。
	6	表具材料の種類、性質及び用途について知っていること。		6	表具品の補修ができること。
	7	壁装材料の種類、性質及び用途について知っていること。		7	壁装の下地調整ができること。
	8	仕様及び積算について知っていること。		8	壁装の施工ができること。

技能照査の基準の細目

訓練科		建築仕上系左官・タイル施工科			
		学科	実技		
系基礎	1	建築生産について知っていること。	系基礎	1	建築仕上用各種 機械及び器工具の取扱いがよくできること。
	2	建築構造について知っていること。		2	モルタル及びコンクリートの 材料 の調合及び練り混ぜができること。
	3	建築設備について知っていること。		3	足場作業ができること。
	4	建築製図について知っていること。		4	安全衛生作業がよくできること。
	5	仕様及び積算について知っていること。			
	6	関係法規について知っていること。			
	7	安全衛生についてよく知っていること。			
専攻	1	左官及びタイル工用機械及び器工具の種類及び使用法についてよく知っていること。	専攻	1	左官及びタイル工用機械及び器工具の取扱いがよくできること。
	2	測定及び墨出しについてよく知っていること。		2	左官及びタイル工事の作業段取りができること。
	3	左官工事及びタイル工事の施工法についてよく知っていること。		3	測定及び墨出しができること。
	4	左官下地及びタイル下地についてよく知っていること。		4	下地工作ができること。
	5	左官工事の施工設備について知っていること。		5	左官材料及びタイル工事材料の調合及び ね練 がよくできること。
	6	左官工事及びタイル工事における故障の 原因不具合 及び対策について知っていること。		6	塗り作業がよくできること。
	7	左官材料及びタイル工用材料の種類、性質及び用途についてよく知っていること。		7	タイルの選別ができること。
	8	左官材料及びタイル工用材料の選定、調合及び ね練 についてよく知っていること。		8	目地割りができること。
	9	左官工事及びタイル工事における養生についてよく知っていること。		9	タイルごしらえがよくできること。
	10	組積工事及びコンクリート工事について知っていること。		10	タイル張りがよくできること。
	9	仕様及び積算について知っていること。		11	左官工事及びタイル工事の仕上げができること。

技能照査の基準の細目

訓練科		建築仕上系築炉科	
学科		実技	
系基礎	1 建築生産について知っていること。	系基礎	1 建築仕上用各種 機械及び器工具の取扱いがよ けること。
	2 建築構造について知っていること。		2 モルタル及びコンクリートの 材料 の調合及び練り混 ぜができること。
	3 建築設備について知っていること。		3 足場作業ができること。
	4 建築製図について知っていること。		4 安全衛生作業がよ けること。
	5 仕様及び積算について知っていること。		
	6 関係法規について知っていること。		
	7 安全衛生についてよ けること。		
専攻	1 工業用炉の種類、構造及び用途について知 っていること。	専攻	1 れんがの選別ができること。
	2 築炉作業に使用する機械及び器工具の種類、構造 及び使用法についてよ けること。		2 水盛り、やりかた、墨出し及びれんがの割付けが できること。
	3 築炉作業に使用する仮設の設備について知 っていること。		3 モルタル及びキャストブル耐火物の調合及び練り混 ぜができること。
	4 築炉作業の段取り及び作業方法についてよ けること。		4 れんがの加工及び組積ができること。
	5 炉体に生ずる損傷の原因及び修理方法について 知っていること。		5 目地押し及び目地仕上げができること。
	6 れんが及び築炉用材料について知っていること。		
	7 セメント、モルタル及びコンクリートについて知 っていること。		
	8 燃料及び燃焼について知っていること。		
	9 製図について知っていること		

技能照査の基準の細目

訓練科		建築仕上系ブロック施工科	
学科		実技	
系基礎	1 建築生産について知っていること。	系基礎	1 建築仕上用各種 機械及び器工具の取扱いがよ けること。
	2 建築構造について知っていること。		2 モルタル及びコンクリートの 材料 の調合及び練り混 ぜができること。
	3 建築設備について知っていること。		3 足場作業ができること。
	4 建築製図について知っていること。		4 安全衛生作業がよ けること。
	5 仕様及び積算について知っていること。		
	6 関係法規について知っていること。		
	7 安全衛生についてよ けること。		
専攻	1 ブロック構造についてよ けること。	専攻	1 ブロック工事用機械及び器工具の取扱いがよ けること。
	2 ブロック工事の施工法についてよ けること。		2 コンクリートブロックの加工がよ けること。
	3 ブロック工事用機械及び器工具の種類、構造及び 使用法についてよ けること。		3 鉄筋の加工がよ けること。
	4 ブロック工事の施工計画について知っていること。		4 水盛り、やりかた及び墨出しがよ けること。
	5 ブロック工事に使用する材料の種類、性質及び用途 についてよ けること。		5 ブロックの補強、組積工事がよ けること。
	6 測量について知っていること。		6 養生ができること。
	7 仕様及び積算について知っていること。		

技能照査の基準の細目

訓練科		設備施工系冷凍空調設備科	
		学科	実技
系基礎	1 機械工学について知っていること。	系基礎	1 機器及び工具の取扱いがよいこと。
	2 電気工学について知っていること。		2 配管及び機器類の取り付けができること。
	3 生産工学について知っていること。		3 ガス溶接・アーク溶接及びろう付けができること。
	4 建築構造及び建築設備及び機器についてよく知っていること。		4 安全衛生作業がよいこと。
	5 ガス溶接及び電気溶接について知っていること。		
	6 燃焼と換気建築構造についてよく知っていること。		
	7 建築設備機器環境工学について知っていること。		
	8 建築製図について知っていること。		
	9 仕様及び積算について知っていること。		
	10 安全衛生についてよく知っていること。		
専攻	1 冷凍理論及び空気調和理論について知っていること。	専攻	1 整備用機械の取扱いがよいこと。
	2 冷凍機器及び空気調和機器の種類、構造及び用途について知っていること。		2 整備用機械及び器具の取扱いがよいこと。
	3 整備用機械及び器具の種類、構造及び使用方法について知っていること。		3 冷凍機器の取り付け及び調整がよいこと。
	4 冷凍機器及び空気調和機器の設備工法について知っていること。		4 空気調和機器の取り付け、配管及び調整がよいこと。
	5 冷凍機器及び空気調和機器の修理及び調整について知っていること。		5 測定器による測定ができること。
	6 冷媒の種類及び性質について知っていること。		6 性能検査ができること。
	7 制御理論について知っていること。		7 安全衛生作業がよいこと。
	8 計測器の種類、構造及び使用方法についてよく知っていること。		
	9 測定法及び試験法についてよく知っていること。		
	10 関係法規について知っていること。		

技能照査の基準の細目

訓練科		設備施工系配管科	
		学科	実技
系基礎	1 機械工学について知っていること。	系基礎	1 機器及び工具の取扱いがよいこと。
	2 電気工学について知っていること。		2 配管及び機器類の取り付けができること。
	3 生産工学について知っていること。		3 ガス溶接・アーク溶接及びろう付けができること。
	4 建築構造及び建築設備及び機器についてよく知っていること。		4 安全衛生作業がよいこと。
	5 ガス溶接及び電気溶接について知っていること。		
	6 燃焼と換気建築構造についてよく知っていること。		
	7 建築設備機器環境工学について知っていること。		
	8 建築製図について知っていること。		
	9 仕様及び積算について知っていること。		
	10 安全衛生についてよく知っていること。		
専攻	1 配管用機械及び器具の種類、構造及び使用方法について知っていること。	専攻	1 配管用機械及び器具の取扱いがよいこと。
	2 管工作及び接合の方法についてよく知っていること。		2 管の切断、接合及び曲げがよいこと。
	3 配管施工法及び機器類の取り付け施工法についてよく知っていること。		3 ガス溶接・アーク溶接及びろう付けができること。
	4 管施設の配管設備における機能試験の方法について知っていること。		4 施工図の作成がよいこと。
	5 管の被覆保温及び塗装の方法について知っていること。		5 配管図及び管工作図により材料取り、加工及び組立てができること。
	6 配管材料の種類、性質及び用途についてよく知っていること。		6 安全衛生作業がよいこと。
	7 水、蒸気及びガスの性質について知っていること。		
	8 配管図についてよく知っていること。		
	9 配管関係法規について知っていること。		

技能照査の基準の細目

訓練科		設備施工系住宅設備機器科			
		学科	実技		
系基礎	1	機械工学について知っていること。	系基礎	1	機器及び工具の取扱いがよいこと。
	2	電気工学について知っていること。		2	配管及び機器類の取り付けができること。
	3	生産工学について知っていること。		3	ガス溶接・アーク溶接及びろう付けができること。
	4	建築構造及び建築設備及び機器についてよく知っていること。		4	安全衛生作業がよいこと。
	5	ガス溶接及び電気溶接について知っていること。			
	6	燃焼と換気建築構造についてよく知っていること。			
	7	建築設備機器環境工学について知っていること。			
	8	建築製図について知っていること。			
	9	仕様及び積算について知っていること。			
	10	安全衛生についてよく知っていること。			
専攻	1	住宅用設備及び機器について知っていること。	専攻	1	住宅用設備機器及び空気調和機器設備工事に使用する機械及び器工具の取扱いがよいこと。
	2	住宅用設備機器及び空気調和機器設備工事に使用する機械及び器工具の種類、構造及び使用法についてよく知っていること。		2	住宅用設備機器及び空気調和機器の分解、調整、組立て及び設備工事がよいこと。
	3	住宅用設備機器及び空気調和機器設備工事の施工法についてよく知っていること。		3	住宅用設備機器及び空気調和機器設備工事に伴う各種検査ができること。
	4	住宅用設備機器及び空気調和機器設備工事に使用する材料の種類、性質及び用途について知っていること。		4	安全衛生作業がよいこと。
	5	空気調和機器の修理及び調整について知っていること。			
	6	冷媒の種類及び性質についてよく知っていること。			
	7	計測器の種類、構造及び使用法についてよく知っていること。			
	8	測定法及び試験法についてよく知っていること。			
	9	関係法規について知っていること。			

技能照査の基準の細目

訓練科		土木系土木施工科			
		学科	実技		
系基礎	1	土木工学の内容、国土の開発、水工、道路・構造、都市と環境について知っていること。	系基礎	1	簡単な測量ができること。
	2	測量について知っていること。		2	安全衛生作業がよいこと。
	3	地質の構造、工学、力学について知っていること。			
	4	土木製図について知っていること。			
	5	土木工事における建築生産の過程、施工管理について知っていること。			
	6	安全衛生についてよく知っていること。			
専攻	1	土木施工法についてよく知っていること。	専攻	1	土木施工用機械の取扱いがよいこと。
	2	土木機械の種類、構造及び使用法についてよく知っていること。		2	土木施工作業の段取りがよいこと。
	3	土木材料の種類、性質及び用途についてよく知っていること。		3	土木施工作業ができること。
	4	関係法規について知っていること。		4	読図ができること。
	5	材料試験について知っていること。		5	測量ができること。
	6	土木設計図及び土木施工図について知っていること。			

技能照査の基準の細目

訓練科		設備管理・運転系ボイラー運転科			
		学科	実技		
系基礎	1	生産工学についてよく知っていること。	系基礎	1	熱源設備及びこれらの付属装置の運転がよいこと。
	2	制御理論についてよく知っていること。		2	熱源設備及びこれらの付属装置の定期点検及び調整作業がよいこと。
	3	熱収支及び熱管理について知っていること。		3	安全作業、衛生作業ができること。
	4	熱源設備の種類、構造及び機能についてよく知っていること。			
	5	安全衛生について知っていること。			
専攻	1	ボイラーの種類及び型式について知っていること。	専攻	1	異常の発見及び対策がよいこと。
	2	附付属設備及び附付属品の構造について知っていること。		2	ボイラー水の処理がよいこと。
	3	自動制御装置について知っていること。		3	ボイラー及びボイラー附付属装置の整備及び検査ができること。
	4	燃料の種類について知っていること。			
	5	燃焼理論、燃焼方式及び燃焼装置について知っていること。			
	6	熱及び蒸気について知っていること。			
	7	給水及びボイラー水の処理についてよく知っていること。			
	8	ボイラー及び附付属品の整備及び検査について知っていること。			
	9	金属材料の種類、性質及び用途について知っていること。			
	10	ボイラー関係法規について知っていること。			

10. アンケート調査

訓練基準見直しアンケート調査票

調査票（参考）

施設名：（ ） 科名：（ ）科
氏名：（ ）

1. 現在の職業訓練基準で、具体的な変更について提案がある場合については、添付資料1の「教科の細目シート」と添付資料2の「設備の細目シート」に変更点とその理由を赤字でご記入ください。

2. 最近の技術進歩や技術革新に伴い、貴施設での職業訓練にあたり、最も重点を置いている教科目（実習を含む）があれば、ご記入願います。

教科目名：（ ）
内容：（ ）
（ ）
（ ）

3. 当該科の基準の見直しを行うにあたり、影響を与えると思われる環境の変化について、下記の①～⑦の中から選び○印をご記入願います。（複数回答可）

選択肢)

- ① 技能・技術の変化 ② 関係法令の改正 ③ 設備や機材の変化 ④ 新しい技能・技術の台頭
⑤ 技能・技術の衰退 ⑥ その他（ ） ⑦ 特になし

4. 貴施設において、職業訓練基準に追加し独自に行っている訓練内容で、他校にも紹介のできる内容、あるいは、基準に相応しい内容等ありましたらご記入願います。

5. 現在、担当されている科の専門分野で、新設科の提案がありましたら、ご記入願います。

新設科名：（ ）
理由)

6. その他、普通職業訓練又は、訓練基準についてご意見、ご要望等ありましたら自由にご記入願います。

なお、ソフトコピーでの回答をご希望の方は、nisiguti@uitech.ac.jpに空メールをお送りくだされば、ソフトコピーを送付致します。また、添付資料1及び添付資料2に変更がない場合も、本調査票についてはご返送の程お願い致します。

** ご協力、ありがとうございました。 **

添付資料1

「系科目の見直し概要」(どのような観点から見直しの必要があるか記述してください。)

系	31 建築施工系	75 木造建築科	1年	1400H
訓練期間	1年			
総時間	1400H			
一 系基礎科目	[科目別の見直しポイント](教科ごとの見直し理由を具体的に記述してください。)			
訓練の対象となる技能及び知識の範囲	中小規模建築物における建築一般、設計製図、施工管理及び建築施工における基礎的な技能及びこれに関する知識			
教科	教科の細目			
1. 系基礎学科	250			
① 建築概論	10 建築の概要、建築物の種類、建築史			
② 構造力学概論	30 力の釣合、荷重と外力、断面の性質、基礎と地盤			
③ 建築構造概論	60 木造建築、プレハブ建築、枠組壁建築、鉄筋コンクリート建築、鉄骨造建築			
④ 建築計画概論	40 全体計画、各部の計画、計画の進め方			
⑤ 建築生産概論	20 機械、工程管理、資材管理、生産管理、契約事務			
⑥ 建築設備	20 給排水設備、電気設備、空調設備、その他の設備			
⑦ 測量	10 測量一般、測量機器、敷地測量、図面及び計算			
⑧ 建築製図	20 製図用具及び用紙、製図通則、建築物製図の概要			
⑨ 安全衛生	20 安全衛生管理、安全衛生関係法規、安全作業法			
⑩ 関係法規	20 建築基準法、建設業法、建築士法			
2. 系基礎実技	150			
① 機械操作基本実習	70 建築機械使用実習、CAD操作、OA機器操作			
② 測量基本実習	50 平板測量、水準測量、トランジット測量、測量図			
③ 安全衛生作業法	30 安全作業法、衛生作業法			
二 専攻科目				
訓練の対象となる技能及び知識の範囲	木造建築物の建築施工及び施工管理における技能及びこれに関する知識			
教科	教科の細目			
1. 専攻学科	150			
① 木質構造	20 デザインと構造、荷重と構造計画、木質構造用材料、木質構造の接合部、各部構造の設計			
② 材料	20 金属系材料、木質系材料、セメント系材料、プラスチック系材料、その他の材料			
③ 規く術	30 図板・尺杖等の作成方法、さがね目盛り、勾配、勾・玄等の名称及び長さの計算、四方転び、棒隅			
④ 工作法	30 構造材の墨付け及び切組、内部造作材の木ごしらえ及び取付け、外部造作材の木ごしらえ及び取付け			
⑤ 木造建築施工法	30 墨付け、仕口と継ぎ手、造作、防腐及び断熱、結露防止、防音			
⑥ 仕様及び積算	20 仕様書、積算			
2. 専攻実技	300			
① 器具使用方法	50 木工機械の取扱い、電動工具の取扱い、木材加工用工具の使用法			
② 工作実習	100 木工機械及び手工具による加工実習			
③ 木造建築施工実習	150 木造建築物の施工、詳細図、施工図等作成			
計	850			
教科設定時間の割合	60.7%			
	%			

現行の「カリキュラム表」(別表2+教科の細目表)

系	31 建築施工系	75 木造建築科	1年	1400H
訓練期間	1年			
総時間	1400H			
一 系基礎科目	[科目別の見直しポイント](教科ごとの見直し理由を具体的に記述してください。)			
訓練の対象となる技能及び知識の範囲	中小規模建築物における建築一般、設計製図、施工管理及び建築施工における基礎的な技能及びこれに関する知識			
教科	教科の細目			
1. 系基礎学科	250			
① 建築概論	10 建築の概要、建築物の種類、建築史			
② 構造力学概論	30 力の釣合、荷重と外力、断面の性質、基礎と地盤			
③ 建築構造概論	60 木造建築、プレハブ建築、枠組壁建築、鉄筋コンクリート建築、鉄骨造建築			
④ 建築計画概論	40 全体計画、各部の計画、計画の進め方			
⑤ 建築生産概論	20 機械、工程管理、資材管理、生産管理、契約事務			
⑥ 建築設備	20 給排水設備、電気設備、空調設備、その他の設備			
⑦ 測量	10 測量一般、測量機器、敷地測量、図面及び計算			
⑧ 建築製図	20 製図用具及び用紙、製図通則、建築物製図の概要			
⑨ 安全衛生	20 安全衛生管理、安全衛生関係法規、安全作業法			
⑩ 関係法規	20 建築基準法、建設業法、建築士法			
2. 系基礎実技	150			
① 機械操作基本実習	70 建築機械使用実習、CAD操作、OA機器操作			
② 測量基本実習	50 平板測量、水準測量、トランジット測量、測量図			
③ 安全衛生作業法	30 安全作業法、衛生作業法			
二 専攻科目				
訓練の対象となる技能及び知識の範囲	木造建築物の建築施工及び施工管理における技能及びこれに関する知識			
教科	教科の細目			
1. 専攻学科	150			
① 木質構造	20 デザインと構造、荷重と構造計画、木質構造用材料、木質構造の接合部、各部構造の設計			
② 材料	20 金属系材料、木質系材料、セメント系材料、プラスチック系材料、その他の材料			
③ 規く術	30 図板・尺杖等の作成方法、さがね目盛り、勾配、勾・玄等の名称及び長さの計算、四方転び、棒隅			
④ 工作法	30 構造材の墨付け及び切組、内部造作材の木ごしらえ及び取付け、外部造作材の木ごしらえ及び取付け			
⑤ 木造建築施工法	30 墨付け、仕口と継ぎ手、造作、防腐及び断熱、結露防止、防音			
⑥ 仕様及び積算	20 仕様書、積算			
2. 専攻実技	300			
① 器具使用方法	50 木工機械の取扱い、電動工具の取扱い、木材加工用工具の使用法			
② 工作実習	100 木工機械及び手工具による加工実習			
③ 木造建築施工実習	150 木造建築物の施工、詳細図、施工図等作成			
計	850			
教科設定時間の割合	60.7%			
	%			

添付資料2

75 木造建築資料

種別	名称	概要	高等学校卒業生 訓練員位 50人	中学校卒業生 訓練員位 30人	変更理由又は提案理由	
建築物その他 の工作物	教室		60㎡	100㎡		
	製図室		135㎡	220㎡		
機械	実習場		330㎡	480㎡		
	工具室		7㎡	15㎡		
	更衣室		15㎡	25㎡		
	倉庫		50㎡	83㎡		
	船舶排気装置	木工機械用(フード、ダクト、サイクロン、フワシ、モータ、焼却装置等を含む。)		1式	1式	
	どき場	手押しかんなん盤		1式	1式	
	その他	自動一面かんなん盤	加工幅300mm	1台	1台	
		自動多面かんなん盤	加工幅300～1500mm三面以上	1台	1台	
		超仕上げかんなん盤	加工幅300～450mm	1台	1台	
		丸のこ盤	のこ車径400mm	1台	1台	
		角のみ盤	のみ寸法30mm	1台	1台	
		昇降傾斜器	のこ車径400～450mm	1台	1台	
		倍ぞ取り盤	加工最大長さ1000mm	1台	1台	
		ハネルソー	切断可能寸法約2,000mm	1台	1台	
		リブソー	最大厚さ120mm	1台	1台	
シグソー		0.2～0.4kW	1台	1台		
携帯用電気かんなん		0.4～1.2kW	5台	10台		
携帯用電気みぞかん		0.4～1.5kW	5台	8台		
携帯用電気丸のこ		0.4～1.5kW	6台	10台		
携帯用電気角のみ		0.4～1.5kW	5台	8台		
携帯用ルーター		0.4～1.5kW	2台	3台		
携帯用自動かんなん	1.5kW	1台	1台			
集じん機	可搬形	1台	1台			
大人れ加工機	移動式	2台	3台			
電気ドリル	0.2～0.4kW	5台	8台			
くぎ打ち機	エア式	2台	3台			
面張クラインダ	とじし車径200～300mm	1台	2台			
刃物研削盤	研削長さ500mm	1台	1台			
コンクリートミキサ	0.05～0.12m³	1台	1台			
ランマ	重量50～60kg	3台	5台			
自動製図機械(GAD)	2次元	3台	5台			
トランシット	標準形	2台	3台			
レベリ	標準形	2台	3台			
平板測量器	中測板、アリゲードの曲率半径1.0～1.5m	3台	5台			
万能試験機	標準形	1台	1台			
空気圧縮機	1.5～2.2kW	1台	2台			
運輸用小形自動車	1～2t	1台	1台			
(工具及び用具類)						
作業用工具類		必要数	必要数	必要数		
木工用工具類		必要数	必要数	必要数		
測量用工具類	(針測器類)	必要数	必要数	必要数		
計測器類		必要数	必要数	必要数		
(製図用具類)		必要数	必要数	必要数		
製図器及び製図用具類		必要数	必要数	必要数		
(被材料)						
模型、掛図等		必要数	必要数	必要数		

1 1 . モデルカリキュラム

モデルカリキュラムについてのご注意

カリキュラムは、一般に指導者の指導内容のガイドラインを示すもので、受講者の学習能力や習得段階を順序立てて編成した計画を指すものである。職業能力開発促進法施行規則で定められた「別表第2」には、訓練の対象となる技能及び知識の範囲、科目毎の時間数等が設定されているが、「職業訓練基準」として示されているのは、総訓練時間の6割程度であり、実際のカリキュラム作成については、残る4割が訓練実施機関の裁量に任されている。

本モデルカリキュラムは、「職業訓練基準の分野別見直しに係る基礎研究（普通課程）—平成24年度 建築・土木分野—」の成果物として、「職業訓練基準」の見直し提案に沿ったカリキュラムの一例を示したものであり、訓練の実施運用を拘束するものではない。

なお、本研究で検討された普通課程のモデルカリキュラムについては、平成24年4月より、下記の職業能力開発総合大学校の職業能力開発ステーションサポートシステム「普通課程・普通職業訓練情報検索」に掲載中である。

(<http://www.tetras.uitec.jeed.or.jp/index.html>)

モデルカリキュラム目次

1. 教科の時間表	280
2. 建築施工系	287
2. 1 木造建築科	294
2. 2 建築設計科	299
3. 建築内装系	303
3. 1 インテリア・サービス科	309
4. 建築仕上系	313
4. 1 左官・タイル施工科	320
5. 建築施工系	325
5. 1 冷凍空調設備科	333
5. 2 配管科	339

1. 教科の時間表

普通課程：建築施工系 木造建築科の教科目及び時間表

区分	教科の科目	授業科目	時間数	備考
系基礎学科	建築概論	建築概論	10	
	構造力学概論	構造力学概論	30	
	建築構造概論	建築構造概論	60	
	建築計画概論	建築計画概論	40	
	建築生産概論	建築生産概論	20	
	建築設備	建築設備	20	
	測量	測量	10	
	建築製図	建築製図	20	
	安全衛生	安全衛生	20	
	関係法規	関係法規	20	
系基礎学科計			250	
系基礎実技	機械操作基本実習	機械操作基本実習	70	
	測量基本実習	測量基本実習	50	
	安全衛生作業法	安全衛生作業法	30	
	系基礎実技計			150
専攻学科	木質構造	木質構造	20	
	材料	材料	20	
	規く術	規く術	30	
	工作法	工作法	30	
	木造建築施工法	木造建築施工法	30	
	仕様及び積算	仕様及び積算	20	
	専攻学科計			150
専攻実技	器工具使用法	器工具使用法	50	
	工作実習	工作実習	100	
	木造建築施工実習	木造建築施工実習	150	
	専攻実技計			300
系基礎＋科専攻時間合計			850	61.0%
標準外時間			550	39.0%
合計			1400	

普通課程： 建築施工系 建築設計科の教科目及び時間表

区分	教科の科目	授業科目	時間数	備考
系基礎学科	建築概論	建築概論	10	
	構造力学概論	構造力学概論	30	
	建築構造概論	建築構造概論	60	
	建築計画概論	建築計画概論	40	
	建築生産概論	建築生産概論	20	
	建築設備	建築設備	20	
	測量	測量	10	
	建築製図	建築製図	20	
	安全衛生	安全衛生	20	
	関係法規	関係法規	20	
	系基礎学科計			250
系基礎実技	機械操作基本実習	機械操作基本実習	70	
	測量基本実習	測量基本実習	50	
	安全衛生作業法	安全衛生作業法	30	
	系基礎実技計			150
専攻学科	構造力学	構造力学	50	
	建築構造	建築構造	90	
	建築計画	建築計画	50	
	建築設計	建築設計	50	
	建築施工法	建築施工法	60	
	専攻学科計			300
専攻実技	木造建築設計実習	木造建築設計実習	130	
	鉄骨造建築設計実習	鉄骨造建築設計実習	70	
	鉄筋コンクリート造建築設計実習	鉄筋コンクリート造建築設計実習	100	
	専攻実技計			300
系基礎＋科専攻時間合計			1000	71.4%
標準外時間			400	28.6%
合計			1400	

普通課程： 建築内装系 インテリア・サービス科の教科目及び時間表

区分	教科の科目	授業科目	時間数	備考
系基礎学科	建築概論	建築概論	30	
	室内装飾概論	室内装飾概論	40	
	建築生産概論	建築生産概論	20	
	建築構造	建築構造	40	
	建築製図	建築製図	30	
	安全衛生	安全衛生	20	
	関係法規	関係法規	20	
	系基礎学科計			200
系基礎実技	測定基本実習	測定基本実習	30	
	機械操作基本実習	機械操作基本実習	35	
	製図基本実習	製図基本実習	35	
	安全衛生作業法	安全衛生作業法	20	
	系基礎実技計			120
専攻学科	インテリア計画	インテリア計画	20	
	材料	材料	30	
	施工法	施工法	50	
	仕様及び積算	仕様及び積算	20	
	専攻学科計			120
専攻実技	器工具使用法	器工具使用法	40	
	インテリア製図実習	インテリア製図実習	80	
	施工実習	施工実習	260	
	専攻実技計			380

系基礎＋科専攻時間合計	820	58.6%
標準外時間	580	41.4%
合計	1400	

普通課程：建築仕上系 左官・タイル施工科の教科目及び時間表

区分	教科の科目	授業科目	時間数	備考
系基礎学科	建築概論	建築概論	20	
	建築生産概論	建築生産概論	20	
	建築構造	建築構造	20	
	建築設備	建築設備	20	
	建築製図	建築製図	30	
	建築仕上法	建築仕上法	50	
	安全衛生	安全衛生	20	
	関係法規	関係法規	20	
系基礎学科計			200	
系基礎実技	機械操作基本実習	機械操作基本実習	50	
	調合実習	調合実習	50	
	足場実習	足場実習	30	
	安全衛生作業法	安全衛生作業法	20	
	系基礎実技計			150
専攻学科	造型	造型	20	
	材料	材料	20	
	左官施工法	左官施工法	40	
	タイル施工法	タイル施工法	40	
	仕様及び積算	仕様及び積算	30	
	専攻学科計			150
専攻実技	測定及び墨出し実習	測定及び墨出し実習	50	
	下地施工実習	下地施工実習	60	
	左官施工実習	左官施工実習	110	
	タイル施工実習	タイル施工実習	110	
	養生	養生	20	
	専攻実技計			350
系基礎＋科専攻時間合計			850	60.7%
標準外時間			550	39.3%
合計			1400	

普通課程：設備施工系 冷凍空調設備科の教科目及び時間表

区分	教科の科目	授業科目	時間数	備考
系基礎学科	機械工学概論	機械工学概論	40	40
	電気工学概論	電気工学概論	40	40
	建築設備及び機器概論	建築設備及び機器概論	40	40
	環境工学概論	環境工学概論	20	20
	生産工学概論	生産工学概論	20	20
	建築構造	建築構造	20	20
	建築製図	建築製図	30	30
	溶接法	溶接法	20	20
	安全衛生	安全衛生	20	20
	仕様及び積算	仕様及び積算	20	20
	系基礎学科計			270
系基礎実技	器工具使用法	器工具使用法	50	50
	溶接及びろう付け基本実習	溶接及びろう付け基本実習	60	60
	配管基本実習	配管基本実習	70	70
	安全衛生作業法	安全衛生作業法	20	20
	系基礎実技計			200
専攻学科	自動制御	自動制御	30	30
	冷凍空調設備	冷凍空調設備	50	50
	設備製図	設備製図	40	40
	冷凍空調法	冷凍空調法	50	50
	施工法	施工法	30	30
	専攻学科計			200
専攻実技	冷媒配管実習	冷媒配管実習	50	50
	制御配線実習	制御配線実習	60	60
	設備施工実習	設備施工実習	70	70
	運転及び調整実習	運転及び調整実習	40	40
	整備実習	整備実習	40	40
	検査実習	検査実習	50	50
	専攻実技計			310
系基礎＋科専攻時間合計			980	70.0%
標準外時間			420	30.0%
合計			1400	

普通課程：設備施工系 配管科の教科目及び時間表

区分	教科の科目	授業科目	時間数	備考
系基礎学科	機械工学概論	機械工学概論	40	
	電気工学概論	電気工学概論	40	
	建築設備及び機器概論	建築設備及び機器概論	40	
	環境工学概論	環境工学概論	20	
	生産工学概論	生産工学概論	20	
	建築構造	建築構造	20	
	建築製図	建築製図	30	
	溶接法	溶接法	20	
	安全衛生	安全衛生	20	
	仕様及び積算	仕様及び積算	20	
	系基礎学科計			270
系基礎実技	器工具使用法	器工具使用法	50	
	溶接及びろう付け基本実習	溶接及びろう付け基本実習	60	
	配管基本実習	配管基本実習	70	
	安全衛生作業法	安全衛生作業法	20	
	系基礎実技計			200
専攻学科	配管概論	配管概論	50	
	給排水設備	給排水設備	40	
	空調設備	空調設備	30	
	設備製図	設備製図	30	
	配管施工法	配管施工法	50	
	専攻学科計			200
専攻実技	配管施工実習	配管施工実習	260	
	検査実習	検査実習	50	
	専攻実技計			310

系基礎＋科専攻時間合計	980	70.0%
標準外時間	320	30.0%
合計	1400	

訓練科目カリキュラム表

系名	建築施工系	教科の区分	系基礎学科
教科	建築概論		
訓練科目	建築概論	時間	10H
訓練目標	建築の概要と種類・建築史等について学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容		
1. 建築の概要	(1)建築物の定義 (2)建築基礎法 (3)建築生産と技能・技術		2H
2. 建築物の種類	(1)建築物の用途と種類 (2)建築物の構造と種類 (3)その他の分類と種類		6H
3. 建築史	(1)日本建築史の概要 (2)西洋建築史の概要		2H
使用する 機械器具等			合計10H

2. 建築施工系 系基礎科目（学科、実技）

普通課程：建築施工系の教科目及び時間表

区分	教科の科目	授業科目	時間数	備考	
系基礎学科	建築概論	建築概論	10		
	構造力学概論	構造力学概論	30		
	建築構造概論	建築構造概論	60		
	建築計画概論	建築計画概論	40		
	建築生産概論	建築生産概論	20		
	建築設備	建築設備	20		
	測量	測量	10		
	建築製図	建築製図	20		
	安全衛生	安全衛生	20		
	関係法規	関係法規	20		
	系基礎学科計				250
	系基礎実技	機械操作基本実習	機械操作基本実習	70	
		測量基本実習	測量基本実習	50	
安全衛生作業法		安全衛生作業法	30		
系基礎実技計				150	

訓練科目カリキュラム表

系名	建築施工系	教科の区分	系基礎学科
教科	構造力学概論	時間	30H
訓練科目	構造力学概論	時間	30H
訓練目標	建築物をつくる上で必要な構造力学の概要について学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容(*)	訓練時間	
1. 荷重と外力	(1) 固定荷重と積載荷重 (2) 地震力と風圧力 (3) 雪荷重	2H	
2. 力の釣り合い	(1) 力の釣り合い条件 (2) 荷重外力と反力 (3) 荷重と応力	2H	
3. 断面の性質	(1) 軸力 (2) せん断力 (3) 曲げモーメント (4) 中心軸力と応力度 (5) せん断応力度 (6) 曲げ応力度 (7) 断面1次モーメントと図心 (8) 断面2次モーメントと断面係数 (9) 断面2次半径と細長比	24H	
4. 基礎と地盤	(1) 地盤の種類 (2) 基礎の種類 (3) 地耐力 (4) 支持力	2H	
使用する 機械器具等			合計30H

訓練科目カリキュラム表

系名	建築施工系	教科の区分	系基礎学科
教科	建築構造概論	時間	60H
訓練科目	建築構造概論	時間	60H
訓練目標	建築物をつくる上で必要となる建築構造の概要について学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容(*)	訓練時間	
1. 木造建築	(1) 木質構造の種類 (2) 在来軸組構法の特徴 (3) 在来軸組構法の部材名称 (4) 在来軸組構法の構造 (5) 各部材役割と法令	44H	
2. プレハブ建築	(1) プレハブ建築の種類 (2) プレハブ建築の構造概要	2H	
3. 枠組壁建築	(1) 枠組壁建築の特徴 (2) 枠組壁建築の構造概要	4H	
4. 鉄筋コンクリート 造建築	(1) 鉄筋コンクリート造建築の特徴 (2) 鉄筋コンクリート造建築の構造 (3) 各鉄筋の役割	5H	
5. 鉄骨造建築	(1) 鉄骨造建築の特徴 (2) 鉄骨造建築の構造 (3) 各部材の役割	5H	
使用する 機械器具等			合計60H

訓練科目カリキュラム表

系名	建築施工系	教科の区分	系基礎学科
教科	建築生産概論		
訓練科目	建築生産概論	時間	20H
訓練目標	建築物を生産する上で必要な機械や一連の管理と契約の概要について学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容(*)		
1. 機械	(1)建築生産機械の種類 (2)建築生産機械の用途		2H
2. 工程管理	(1)工程管理の種類 (2)工程表 (3)ネットワーク工程表		3H
3. 資材管理	(1)材料の受入れと保管 (2)在庫管理		2H
4. 生産管理	(1)原価管理・品質管理・安全管理 (2)労務管理 (3)危険物の保管 (4)安全管理と組織 (5)安全衛生管理者		10H
5. 契約事務	(1)建築契約の種類 (2)請負契約 (3)労務契約 (4)各契約の事務		3H
使用する 機械器具等			合計20H

訓練科目カリキュラム表

系名	建築施工系	教科の区分	系基礎学科
教科	建築計画概論		
訓練科目	建築計画概論	時間	40H
訓練目標	建築物の全体計画・各部計画・計画の進め方等の概要について学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容(*)		
1. 全体計画	(1)建築物の全体計画 (2)建物に要求される機能 (3)敷地計画 (4)所要室の大きさ (5)配置計画 (6)ゾーニングとグリッド (7)選定計画 (8)平面の全体計画・立面の全体計画		10H
2. 各部の計画	(1)各部に要求される機能 (2)各部屋に要求される機能 (3)人体寸法 (4)各部寸法 (5)日照・断熱・遮音 (6)各部の平面計画・立面計画 (7)各部屋の平面計画・立面計画 (8)設備計画		22H
3. 計画の進め方	(1)グリッドプラン (2)ゾーニング計画 (3)各部屋の機能と建物の機能 (4)ライフサイクル (5)リフォーム・リニューアル (6)維持管理		8H
使用する 機械器具等			合計40H

訓練科目カリキュラム表

系名	建築施工系	教科の区分	系基礎学科
教科	建築設備		
訓練科目	建築設備	時間	20H
訓練目標	建築物の設備の目的と種類・機能について学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容(*)		訓練時間
1.給排水設備	(1)給水設備 (2)排水設備		5H
2.電気設備	(1)電気設備 (2)照明設備 (3)昇降設備		5H
3.空調設備	(1)空調・換気設備 (2)暖房設備・冷房設備		5H
4.その他の設備	(1)消火設備 (2)防災設備 (3)その他の設備		5H
使用する 機械器具等			合計20H

訓練科目カリキュラム表

系名	建築施工系	教科の区分	系基礎学科
教科	測量		
訓練科目	測量	時間	10H
訓練目標	建築測量の目的と種類及び測量機器等について学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容(*)		訓練時間
1.測量一般	(1)測量の目的		1H
2.測量機器	(1)測量の種類 (2)測量に用いる機器		1H
3.敷地測量	(1)敷地の距離測量 (2)敷地の面積測量 (3)敷地の水準測量		2H
4.図面及び計算	(1)測量の精度と誤差 (2)角度の単位 (3)三角関数 (4)面積計算 (5)測量図面作成		6H
使用する 機械器具等			合計10H

訓練科目カリキュラム表

系名	建築施工系	教科の区分	系基礎学科
教科	安全衛生		
訓練科目	安全衛生	時間	20H
訓練目標	安全衛生管理・安全作業の目的と進め方について学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容(*)		
1.安全衛生関係法規	(1)労働安全衛生法の目的 (2)労働安全衛生法の概要		2H
2.安全衛生管理	(1)安全管理 (2)建設機械と安全管理 (3)各工事における安全管理 (4)労働安全衛生法の諸規定 (5)安全衛生管理者 (6)職場の安全衛生		8H
3.安全作業法	(1)安全な服装 (2)安全用具 (3)KYT活動 (4)安全管理ミーティング (5)安全作業		10H
使用する 機械器具等	合計20H		

訓練科目カリキュラム表

系名	建築施工系	教科の区分	系基礎学科
教科	建築製図		
訓練科目	建築製図	時間	20H
訓練目標	建築製図の目的と種類及び製図規約について学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容(*)		
1.製図用具及び用紙	(1)製図の目的 (2)図面の種類 (3)製図用具 (4)製図用紙		2H
2.製図通則	(1)製図規約と通則 (2)尺度と線 (3)破断線・断面線・かくれ線・寸法線 (4)組立基準線と位置の表示 (5)平面表示記号 (6)材料構造平面表示記号 (7)開閉方法別記号 (8)構成種類別記号		8H
3.建築物製図の概要	(1)配置図 (2)平面図・立面図 (3)断面図・矩計図 (4)群細図 (5)伏図 (6)展開図 (7)軸組図 (8)建具表 (9)仕上げ表 (10)設備図		10H
使用する 機械器具等	合計20H		

訓練科目カリキュラム表

系名	建築施工系	教科の区分	系基礎実技
教科	機械操作基本実習		
訓練科目	機械操作基本実習	時間	70H
訓練目標	建築物を生産する上で必要となる機械・機器の基本的な操作方法を習得する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容	訓練時間	
1. 製図機械使用実習	(1)製図機械使用法 (2)製図機械使用実習	16H	
2. O/A機器操作実習	(1)パーソナルコンピュータの操作 (2)カラープリンタの操作 (3)文書作成実習	24H	
3. CAD操作実習	(1)ソフトウェアの特徴 (2)コマンドの機能と操作 (3)レイヤー・割り付け・配置 (4)CAD操作実習 (5)ファイル変換実習 (6)図面作成実習	30H	
使用する 機器器具等	製図機械、パーソナルコンピュータ、カラープリンタ、ソフトウェア、CAD		合計70H

訓練科目カリキュラム表

系名	建築施工系	教科の区分	系基礎学科
教科	関係法規		
訓練科目	関係法規	時間	20H
訓練目標	建築基準法・建設業法・建築士法の目的と概要について学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容	訓練時間	
1. 建築基準法の目的と概要	(1)建築基準法の目的と構成 (2)面積・高さの算定 (3)採光・換気 (4)階段 (5)建ぺい率・容積率 (6)構造の技術基準 (7)道路 (8)耐火構造・防火構造・防火区画 (9)内装制限 (10)用途地域	16H	
2. 建設業法	(1)建設業法の目的と構成 (2)建設業の法的な区分 (3)建設業の届出と許認可	2H	
3. 建築士法	(1)建築士法の目的と構成 (2)建築士の法的な区分 (3)罰則	2H	
使用する 機器器具等			合計20H

訓練科目カリキュラム表

系名	建築施工系	教科の区分	系基礎実技
教科	測量基本実習	時間	50H
訓練科目	測量基本実習	時間	50H
訓練目標	距離・角度・高低差を測量機器を用いて実測し、誤差を考慮した測量図にまとめる技能を習得する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容	訓練時間	
1. 平板測量	(1) 平板測量に用いる機器 (2) 平板の標定 (3) 距離測量 (3) 面積測量	8H	
2. 水準測量	(1) レベルと標尺の使い方 (2) 高低差測量 (3) 水準測量実習	16H	
3. トランシット測量	(1) トランシットの使い方 (2) 角度の読み取り (3) 水平角の測定 (4) 鉛直角の測定 (5) トラバース測定	16H	
4. 測量図	(1) 許容角誤差 (2) 閉合誤差 (3) 緯距・経距 (4) 測量図の作成	10H	
使用する 機器器具等	トランシット、レベル、標尺、平板測量器、パーソナルコンピュータ、カラープリンタ、ソフトウェア、CAD		合計50H

訓練科目カリキュラム表

系名	建築施工系	教科の区分	系基礎実技
教科	安全衛生作業法	時間	30H
訓練科目	安全衛生作業法	時間	30H
訓練目標	建築物を安全につくり上げるための必要な安全衛生作業方法を習得する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容(※)	訓練時間	
1. 衛生作業法	(1) 安全な服装 (2) 安全用具の装着 (3) 管理項目の扱い出し	10H	
2. 安全作業法	(1) 作業と労働安全衛生法 (2) 管理項目の扱い出し (3) 安全管理ミーティング (4) 労働安全衛生法に基づく安全作業実習 (5) 作業日誌の作成 (6) KYTで実施した管理項目 (7) 安全作業報告書	20H	
使用する 機器器具等	トランシット、レベル、標尺、平板測量器、パーソナルコンピュータ、カラープリンタ、ソフトウェア、CAD		合計30H

2. 1 建築施工系木造建築科 専門科目（学科、実技）

普通課程：建築施工系 木造建築科の教科目及び時間表

区分	教科の科目	授業科目	時間数	備考	
専攻学科	木質構造	木質構造	20		
	材料	材料	20		
	図く術	図く術	30		
	工作法	工作法	30		
	木造建築施工法	木造建築施工法	30		
専攻実技	仕様及び積算	仕様及び積算	20		
	専攻学科計			150	
	器具使用法	器具使用法	50		
	工作実習	工作実習	100		
	木造建築施工実習	木造建築施工実習	150		
専攻実技計			300		

訓練科目カリキュラム表

科名	木造建築科		専攻学科
	教科の区分		
教科	木質構造		20 H
訓練科目	時間		
訓練目標	木質構造の種類、それぞれの構法(工法)・構造について詳しく学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容		
1. デザインと構造	(1)在来軸組構法 (2)枠組壁工法(ツーバイフォー工法) (3)フレハブ構法 (4)丸太組構法 (5)大断面集成材構造		10 H
2. 荷重と構造計画	(1)柱の小径 (2)筋かいの計算と補強金物の選定 (3)火打ばり (4)胴差し (5)小屋組の部材と間隔 (6)床組の部材と間隔		4 H
3. 木質構造用材料	(1)木材の種類と特長 (2)材料の特質		2 H
4. 木質構造の接合部	(1)継手・仕口・金物・土台・柱と横架材 (2)胴差し、桁、梁の継手と仕口 (3)床組・小屋組		2 H
5. 各部構造の設計	(1)軒先まわり・屋根・床・壁・天井・階段 (2)床の間・床脇・書院・欄間		2 H
使用する機械器具等	構造模型、木材標本、継手・仕口模型		
			合計 20 H

訓練科目カリキュラム表

科名	木造建築科	教科の区分	専攻学科
教科	材料	時間	20 H
訓練科目	材料	時間	20 H
訓練目標	建築材料として用いられる様々な材料についての特徴などとともにシックハウス及び建築材料のリサイクルについて学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容		
1. 木質系材料	(1)木材の樹種・組織、製材、性質、乾燥、防菌・防虫害・防火 (2)合板、集成材、繊維板、パーティクルボード、 その他の木材加工材料 (3)竹材	訓練時間	6 H
2. セメント系材料	(1)セメント、骨材、コンクリート (2)セメント製品・コンクリート製品		3 H
3. 金属系材料	(1)鉄類、鉄類以外の金属 (2)くぎ類、かすがい類、ボルト類、板状金物類、 ホールダウン金物		4 H
4. プラスチック系材料	(1)プラスチック、塗料、アスファルト及びその製品 接着剤及びシーリング材		2 H
5. その他の材料	(1)石材 (2)ガラス、粘土及び粘土製品 (3)左官下地、セメントモルタル、せこうプラスチック、 ドロマイトプラスチック、しっくい、土壁、繊維壁、仕上塗材 (4)断熱・防音材料、防火・耐火材料、量、じゅうたん、壁紙材料 カーテン・ブラインド		5 H
使用する 機器器具等	合計 20 H		

訓練科目カリキュラム表

科名	木造建築科	教科の区分	専攻学科
教科	規く術	時間	30 H
訓練科目	規く術	時間	30 H
訓練目標	規く術を基本とするさしがね使いの技術について学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容		
1. 図板・尺杖等の作成方法、さしがね目盛り	(1)表目と裏目の関係 (2)丸目と円周の関係	訓練時間	2 H
2. 勾配、勾・玄等の名称及び長さの計算	(1)勾配基本図 (2)勾・玄等の名称と長さ (3)勾配の種類と勾配の出し方 (4)各勾配の使用箇所 (5)基本図の各辺の長さ		8 H
3. 四方転び	(1)朝顔型箱(じょうご墨) (2)柱建て四方転び (3)作図演習		8 H
4. 棒隅	(1)広小舞・鼻隠しの墨付けに必要な勾配 (2)配付け垂木の墨付けに必要な勾配 (3)隅木の墨付けに必要な勾配 (4)桁の墨付けに必要な勾配 (5)作図演習 (6)入隅木、振れ垂木、反り隅木		12 H
使用する 機器器具等	さしがね、三角定規、直定規、コンパス 合計 30 H		

訓練科目カリキュラム表

科名	木造建築科	教科の区分	専攻学科
教科	工作法	時間	30 H
訓練科目	工作法	時間	30 H
訓練目標	工具類の構造・使い方・手入れ、木材の切り組み、造作材の取り付けなどについて学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容	訓練時間	
1. 構造材の墨付け及び切組	(1) 図板・原寸図・尺杖・審付け (2) 木材の選別・配材、継手・仕口の選定 (3) 墨付け、切り組み	14 H	
2. 内部造作材の木こしらえ及び取付け	(1) 木こしらえ (2) 取付け	9 H	
3. 外部造作材の木こしらえ及び取付け	(1) 木こしらえ (2) 取付け	7 H	
使用する機械器具等	器具類、手工具類、電動工具類、木材加工用機械類		合計 30 H

訓練科目カリキュラム表

科名	木造建築科	教科の区分	専攻学科
教科	木造建築施工法	時間	30 H
訓練科目	木造建築施工法	時間	30 H
訓練目標	木造建築の計画と関連工事を含めた施工全般について学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容	訓練時間	
1. 墨付け	(1) 墨付け	7 H	
2. 仕口と継ぎ手	(1) 仕口と継ぎ手	7 H	
3. 造作	(1) 造作	8 H	
4. 防蟻及び断熱	(1) 防蟻及び断熱	4 H	
5. 結露防止	(1) 結露防止	2 H	
6. 防音	(1) 防音	2 H	
使用する機械器具等	構造模型、製品サンプル等		合計 30 H

訓練科目カリキュラム表

科名	木造建築科	教科の区分	専攻学科
教科	仕様及び積算		
訓練科目	仕様及び積算	時間	20 H
訓練目標	仕様と積算について学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容		
1.仕様書	(1)種類と形式 (2)内容と作成方法		2 H
2.積算	(1)意義、種類 (2)概算積算 (3)明細積算 (4)各工事の積算見積		18 H
使用する 機械器具等			合計 20 H

訓練科目カリキュラム表

科名	木造建築科	教科の区分	専攻実技
教科	器具使用方法		
訓練科目	器具使用方法	時間	50 H
訓練目標	手工具、木材加工用手工具、木工機械、電動工具、刃物研削用機械の使用法、取扱いについて習得する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容		
1.木材加工用手工具の使用法	(1)のこぎり・のみ・かんざね・けんぼうの種類の使用法 (2)さしがね・墨番・墨差しの使用法 (3)砥石の種類の使用法 (4)かんざねのみ、その他手工具の手入れ・調整・安全保管		15 H
2.木工機械の取扱い	(1)使用前の点検と注意 (2)手押しかんざね・自動かんざね・超仕上げかんざねの使用法 (3)丸のこ盤・帯のこ盤・昇降盤の使用法 (4)角のみ盤・ほぞ取り盤その他の使用法		15 H
3.電動工具の取扱い	(1)使用前の点検と注意 (2)電動まるのこ・電動溝切り等の使用法 (3)電動かんざねの使用法 (4)電動角のみ・電動チェーンのみ等の使用法 (5)電動ドリル・釘打ち機の使用法		20 H
使用する 機械器具等	器具類、手工具類、電動工具類、木材加工用機械類、刃物研削用機械		合計 50 H

訓練科目カリキュラム表

科名	木造建築科	教科の区分	専攻実技
教科	工作実習		
訓練科目	工作実習	時間	100 H
訓練目標	手工具と木工機械による加工実習について習得する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容(*)		
1.木工機械及び手工具による加工	(1)図板、尺杖製作 (2)墨付けの基本と応用 (3)継手・仕口の墨付けと切り組み (4)構造部材の墨付けと切り組み (5)下地材、造作材及び仕上げ材の木取りと下ごしらえ (6)規く術による墨付け		
使用する機械器具等	器具類、手工具類、電動工具類、木材加工用機械類、刃物研削用機械		
合計	100 H		

訓練科目カリキュラム表

科名	木造建築科	教科の区分	専攻実技
教科	木造建築施工実習		
訓練科目	木造建築施工実習	時間	150 H
訓練目標	木造建築物の施工について習得する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容		
1.工事計画	(1)工事計画 (2)仮設工事 (3)土工事と基礎工事 (4)足場の組立と解体 (5)建て方作業 (6)下地材と造作材の取り付け (7)仕上げ工事 (8)付帯設備と雑工事 (9)竣工検査		
2.詳細図	(1)詳細図		
3.施工図等作成	(1)施工図等作成		
使用する機械器具等	器具類、手工具類、電動工具類、木材加工用機械類、刃物研削用機械		
合計	150 H		

2. 2 建築施工系建築設計科 専門科目（学科、実技）

普通課程：建築施工系建築設計科の教科目及び時間表

区分	教科の科目	授業科目	時間数	備考
専攻学科	構造力学	構造力学	50	
	建築構造	建築構造	90	
	建築計画	建築計画	50	
	建築設計	建築設計	50	
	建築施工法	建築施工法	60	
専攻実技	専攻学科計		300	
	木造建築設計実習	木造建築設計実習	130	
	鉄骨造建築設計実習	鉄骨造建築設計実習	70	
	鉄筋コンクリート造建築設計実習	鉄筋コンクリート造建築設計実習	100	
	専攻実技計		300	

訓練科目カリキュラム表

科名	建築設計科	教科の区分	専攻学科
教科	構造力学	時間	50
訓練科目	構造力学	時間	50
訓練目標	建築構造設計に必要な構造力学、材利用力学を学び構造物の設計の基礎を学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容		
1. 精定構造物	(1) 構造物・荷重・骨組の種類・反力 (2) 応力 (3) 単純ばり (4) 片持ばり (5) 静定ラーメン (6) 静定トラス		15H
2. 応力と変形	(1) 材料の性質 (2) 断面の諸係数 (3) 部材断面の算定		15H
3. 構造物の変形	(1) 梁の変形		5H
4. 不静定構造物	(1) 不静定ばり (2) 不静定ラーメン (3) たわみ角 (4) 固定モーメント法		15H
使用する 機械器具等			合計50H

訓練科目カリキュラム表

科名	建築設計科	教科の区分	専攻学科
教科	建築計画	時間	50H
訓練科目	建築計画	時間	50H
訓練目標	建築空間の形及び規模、空間の繋がりを理解し、建築計画について学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容		
1.建築計画の進め方	(1)建築計画の概念と調査 (2)機能寸法と生産寸法 (3)寸法計画の表現		12H
2.建築環境調整	(1)環境工学 (2)給排水設備 (3)空気調和設備 (4)電気設備 (5)その他の設備		25H
3.各種建築物の建築計画	(1)集合住宅等の計画 (2)教育施設計画 (3)事務所建築計画 (4)コミュニティ施設計画 (5)規模計画		13H
使用する 機械器具等			合計50H

訓練科目カリキュラム表

科名	建築設計科	教科の区分	専攻学科
教科	建築構造	時間	90H
訓練科目	建築構造	時間	90H
訓練目標	建築物の概要を把握し、建築物の構成、使用材料、組立方などについて学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容(※)		
1.鉄筋コンクリート構造	(1)構造形式材料の性質 (2)基礎 (3)主体構造(計画・配筋) (4)仕上げ		20H
2.鉄骨構造	(1)構造形式材料の性質 (2)基礎 (3)主体構造(計画・配筋) (4)仕上げ		15H
3.木構造	(1)構造形式材料の性質 (2)基礎 (3)軸組 (4)小屋組 (5)床組 (6)階段 (7)開口部 (8)外部仕上 (9)内部仕上		50H
4.プレキャスト構造	(1)プレキャスト鉄筋コンクリート構造 (2)その他のト構造		3H
5.組構造	(1)コンクリートブロック造 (2)その他の組構造		2H
使用する 機械器具等			合計90H

訓練科目カリキュラム表

科名	建築設計科	教科の区分	専攻学科
教科	建築設計		
訓練科目	建築設計	時間	50H
訓練目標	建築物の設計プロセス及び手法を学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容(*)		
1.建築製図の表現	(1) 造形の基礎 (2) 投影法		10H
2.建築設計図・設備関係図の種類及び内容	(1) 組織図・ブロックプラン・動線の流れ (2) 配置・平面・立面の設計 (3) 構造設計 (4) 給排水設備設計 (5) 空気調和設備設計 (6) 電気設備設計		30H
3.CAD・CG	(1) CAD・CGシステムの概要 (2) CAD・CGシステムの基礎知識 (3) CADによる製図 (4) CAD・CGによる表現方法		10H
使用する 機器器具等	合計50H		

訓練科目カリキュラム表

科名	建築設計科	教科の区分	専攻学科
教科	建築施工法		
訓練科目	建築施工法	時間	60H
訓練目標	建築の生産過程について学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容(*)		
1.仮設工事	(1) 建築物の生産過程 (2) 仮設工事 (3) ベンチマーク・網張り・やり方 (4) 仮囲い・仮設建築物 (5) 足場 (6) 用水・電気設備		15H
2.土工事	(1) 基礎地業・土工事		5H
3.鉄筋コンクリート工事	(1) 型枠工事 (2) 鉄筋の加工・組立 (3) コンクリート工事		15H
4.鉄骨工事	(1) 製作工事作業 (2) 工事現場作業 (3) 軽量形鋼構造工事 (4) 耐火被覆工事		15H
5.仕上げ工事	(1) 屋根工事 (2) 造作工事 (3) 左官工事 (4) タイル・張石工事 (5) 金属工事 (6) 建具・ガラス工事 (7) 塗装工事 (8) 内装工事		10H
使用する 機器器具等	合計60H		

訓練科目カリキュラム表

科名	建築設計科	教科の区分	専攻実技
教科	鉄骨造建築設計実習	時間	70H
訓練科目	鉄骨造建築設計実習	時間	70H
訓練目標	鉄骨造建築物の設計製図を習得する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容		
1.鉄骨造建築物の設計・製図	(1)配置・各階平面図 (2)立面図・断面図 (3)各伏図・軸組図 (4)柱・梁断面リスト (5)部分詳細図 (6)矩計図		
使用する 機械器具等	製図機械・CAD		合計70H

訓練科目カリキュラム表

科名	建築設計科	教科の区分	専攻実技
教科	木造建築設計実習	時間	130H
訓練科目	木造建築設計実習	時間	130H
訓練目標	木造建築物の設計製図を習得する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容		
1.木造建築物の設計・製図	(1)配置・平面・面積表 (2)立面図・断面図 (3)各伏図・軸組図 (4)断面詳細図 (5)展開図 (6)建具表 (7)給排水設備 (8)冷暖房設備図 (9)電灯配線図・分電盤接続図		
使用する 機械器具等	製図機械・CAD		合計130H

3. 建築内装系 系基礎科目（学科、実技）

訓練科目カリキュラム表

科名	建築設計科	学科の区分	専攻実技
教科	鉄筋コンクリート造建築設計実習	時間	100H
訓練科目	鉄筋コンクリート造建築設計実習		
訓練目標	鉄筋コンクリート造建築物の設計製図を習得する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容	訓練時間	
1. 鉄筋コンクリート造建築物の設計製図	(1)配置・各階平面図 (2)立面図・断面図 (3)部分詳細図 (4)矩計図 (5)配筋断面図 (6)各伏図・軸組図 (7)ラーメン配筋図	100H	
使用する 機械器具等	製図機械・CAD		合計100H

普通課程：建築内装系の教科目及び時間表

区分	教科の科目	授業科目	時間数	備考	
系基礎学科	建築概論	建築概論	30		
	室内装飾概論	室内装飾概論	40		
	建築生産概論	建築生産概論	20		
	建築構造	建築構造	40		
	建築製図	建築製図	30		
	安全衛生	安全衛生	20		
	関係法規	関係法規	20		
		系基礎学科計	200		
	系基礎実技	測定基本実習	測定基本実習	30	
		機械操作基本実習	機械操作基本実習	35	
製図基本実習		製図基本実習	35		
安全衛生作業法		安全衛生作業法	20		
		系基礎実技計	120		

訓練科目カリキュラム表

系名	建築内装系	教科の区分	系基礎学科
教科	建築概論		
訓練科目	建築概論	時間	30H
訓練目標	建築技術者として必要な建築物の種類及び歴史について学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容	訓練時間	
1. 建築の概要	(1)総論	5H	
2. 建築の種類	(1)用途による種類 (2)構造による種類 (3)形状による種類	10H	
3. 建築史	(1)西洋建築史 (2)日本建築史 (3)近代建築史	15H	
使用する 機械器具等			合計30H

訓練科目カリキュラム表

系名	建築内装系	教科の区分	系基礎学科
教科	室内装飾概論		
訓練科目	室内装飾概論	時間	40H
訓練目標	室内装飾の種類、そのはたらきについて学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容	訓練時間	
1. 室内環境	(1)人間と環境 (2)室内環境 (3)物理的要素と環境(音・光・熱など) (4)化学的要素と環境(空気・風・化学物質など)	10H	
2. 色彩概論	(1)色のはたらき (2)色の表示 (3)色彩調和 (4)インテリアと色彩	10H	
3. 内装の分類	(1)インテリアオーナメント (2)ウインドー・トリートメント (3)照明・家具	10H	
4. インテリア史	(1)日本のインテリア史 (2)西洋のインテリア史	10H	
使用する 機械器具等			合計40H

訓練科目カリキュラム表

系名	建築内装系	教科の区分	系基礎学科
教科	建築生産概論		
訓練科目	建築生産概論	時間	20H
訓練目標	建築生産における各種管理手法について学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容		
1. 工程管理	(1) 工程管理の目的 (2) 工程表の種類		8H
2. 資材管理	(1) 資材管理の目的 (2) 原価管理 (3) 算目別計算		6H
3. 生産管理	(1) 生産管理の目的 (2) 生産計画・統制 (3) 品質管理の目的 (4) 品質管理手法		6H
使用する 機械器具等	合計20H		

訓練科目カリキュラム表

系名	建築内装系	教科の区分	系基礎学科
教科	建築構造		
訓練科目	建築構造	時間	40H
訓練目標	建築物の構造、さらには内装の下地から仕上までの構成について学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容		
1. 木構造	(1) 在来軸組構法 (2) 枠組壁工法		10H
2. 内装構造	(1) 床・壁・天井の下地と仕上の構成 (2) 開口部の種類と構造 (3) 造作の種類と構造		10H
3. その他の構造	(1) 鉄筋コンクリート構造 (2) 鉄骨構造 (3) 鉄骨鉄筋コンクリート構造 (4) その他の構造		8H
4. 構造力学	(1) 力の合成・分解 (2) 力のつり合い (3) 荷重 (4) 支点と反力		12H
使用する 機械器具等	合計40H		

訓練科目カリキュラム表

系名	建築内装系	教科の区分	系基礎学科
教科	建築製図		
訓練科目	建築製図	時間	30H
訓練目標	建築の製図について器具から通則・読図法を学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容	訓練時間	
1.製図用機械	(1)鉛筆 (2)定規 (3)機械器具	5H	
2.JIS製図通則	(1)製図用紙の種類・サイズ (2)図面の様式 (3)線の基本原則 (4)文字・数字・各種記号 (5)寸法・尺度	10H	
3.建築物製図	(1)配置図・平面図 (2)立面図・断面図 (3)炬計図 (4)その他の図面	15H	
使用する 機械器具等			合計30H

訓練科目カリキュラム表

系名	建築内装系	教科の区分	系基礎学科
教科	安全衛生		
訓練科目	安全衛生	時間	20H
訓練目標	実習等における安全について学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容	訓練時間	
1.安全衛生管理	(1)労働安全作業とは (2)健康管理 (3)環境管理 (4)作業管理	6H	
2.安全衛生関係法	(1)労働安全衛生法 (2)その他関係法規	6H	
3.安全作業法	(1)危険回避 (2)事故予防 (3)災害防止	8H	
使用する 機械器具等			合計20H

訓練科目カリキュラム表

系名	建築内装系	教科の区分	系基礎学科
教科	関係法規	時間	20H
訓練科目	関係法規	時間	20H
訓練目標	建築に関連する法規を内装部分を含め学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容		
1.建築基準法	(1)法の目的と構成 (2)基本事項 (3)各種規定		10H
2.消防法	(1)法の目的と構成 (2)防火規制・防火対象物		5H
3.消費者保護・物品等関係法規	(1)消費者保護の概要 (2)規格・品質表示の適正化に関する法律 (3)その他の法律		5H
使用する 機器器具等	合計20H		

訓練科目カリキュラム表

系名	建築内装系	教科の区分	系基礎実技
教科	測定基本実習	時間	30H
訓練科目	測定基本実習	時間	30H
訓練目標	内装作業に必要な測定方法及び墨出し手法について習得する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容		
1.角度の測定	(1)角度の測定方法 (2)計器による測定		5H
2.水準測定	(1)水準測定の方法 (2)水平度の測定 (3)垂直度の測定		10H
3.距離及び長さの測定	(1)距離・長さの測定方法 (2)測量・計測		5H
4.引通し及び表示	(1)墨出し用器工具の取扱い (2)墨出し・水糸張り		10H
使用する 機器器具等	合計30H レベル、トランジット、計測器類 等		

訓練科目カリキュラム表

系名	建築内装系	教科の区分	系基礎実技
教科	機械操作基本実習		
訓練科目	機械操作基本実習	時間	35H
訓練目標	建築内装作業を行う上で必要な各種器工具について、その取扱い及び整備について習得する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容	訓練時間	
1. 建築内装用機械の取扱い及び整備	(1)木工用器工具 (2)壁装用器工具 (3)床用器工具 (4)下地施工用器工具	35H	
使用する 機械器具等	木工用、内装用各種器工具等		合計35H

訓練科目カリキュラム表

系名	建築内装系	教科の区分	系基礎実技
教科	製図基本実習		
訓練科目	製図基本実習	時間	35H
訓練目標	製図における器工具の取扱い、使用方法を学び、さらには図面の描き方について習得する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容	訓練時間	
1. 製図一般	(1)各種製図用具の取扱い (2)文字、線の練習	10H	
2. 図法	(1)投影法 (2)透視図法 (3)用器画法—直線の等分、多角形	10H	
3. 建築製図	(1)木造図面 (2)その他の図面	15H	
使用する 機械器具等	製図器及び製図用具類等		合計35H

訓練科目カリキュラム表

系名	建築内装系	教科の区分	系基礎実技
教科	安全衛生作業法		
訓練科目	安全衛生作業法	時間	20H
訓練目標	安全に作業を行うための手法及びその作業環境の作り方、緊急時の対処法について習得する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容		
1.安全衛生作業法	(1)安全作業法 (2)整理整頓と清潔の保持 (3)緊急時の対応		20H 訓練時間
使用する 機器器具等	安全保護具等		合計20H

3. 1 建築内装系 インテリア・サービ斯科 専門科目
(学科、実技)

普通課程：建築内装系 インテリア・サービ斯科の教科目及び時間表

区分	教科の科目	授業科目	時間数	備考
専攻学科	インテリア計画	インテリア計画	20	
	材料	材料	30	
	施工法	施工法	50	
	仕様及び積算	仕様及び積算	20	
		専攻学科計	120	
専攻実技	器具使用方法	器具使用方法	40	
	インテリア製図実習	インテリア製図実習	80	
	施工実習	施工実習	260	
		専攻実技計	380	

訓練科目カリキュラム表

科名	インテリア・サービス科	教科の区分	専攻学科
教科	インテリア計画		
訓練科目	インテリア計画	時間	20 H
訓練目標	インテリアについて、その様式及び各種計画について学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容	訓練時間	
1. インテリアの様式	(1)近代以前のインテリア様式 (2)近代のインテリア様式 (3)現代のインテリア様式	4 H	
2. 色彩計画	(1)色彩計画の手順 (2)色と材質の関係 (3)色と光の関係 (4)居室の色彩計画	4 H	
3. 寸法計画	(1)生活空間の寸法 (2)モジュールとグリッドプランニング (3)江戸間と京間	4 H	
4. 室内計画	(1)室内計画 (2)共用スペース (3)動線	4 H	
5. 設備計画	(1)給排水設備 (2)空気調和設備 (3)電気設備	4 H	
使用する 機器器具等			合計 20 H

訓練科目カリキュラム表

科名	インテリア・サービス科	教科の区分	専攻学科
教科	材料		
訓練科目	材料	時間	30 H
訓練目標	建築にて使用する材料について内装材料を中心に学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容	訓練時間	
1. 部位別材料	(1)外装材料 (2)内装材料 (3)建具材料 (4)その他の材料	15 H	
2. 内装施工用材料	(1)素材別材料 (2)機能性材料	15 H	
使用する 機器器具等			合計 30 H

訓練科目カリキュラム表

科名	インテリア・サービス科	教科の区分	専攻学科
教科	施工法		
訓練科目	施工法	時間	50 H
訓練目標	内装仕上における施工法について下地施工から仕上施工まで学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容		
1.床・壁・天井等の仕上と施工法	(1)床の構法と仕上げ (2)壁の構法と仕上げ (3)天井の構法と仕上げ (4)その他の構法		
		訓練時間	50 H
使用する 機器器具等	合計 50 H		

訓練科目カリキュラム表

科名	インテリア・サービス科	教科の区分	専攻学科
教科	仕様及び積算		
訓練科目	仕様及び積算	時間	20 H
訓練目標	建築工事における仕様書の目的及び積算の手法について学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容		
1.仕様書	(1)仕様書の概要 (2)仕様書の内容		
2.積算	(1)積算一般 (2)積算法		
		訓練時間	10 H 10 H
使用する 機器器具等	合計 20 H		

訓練科目カリキュラム表

科名	インテリア・サービス科	教科の区分	専攻実技
教科	器具使用法		
訓練科目	器具使用法	時間	40 H
訓練目標	内装施工で使用する各種機械・工具について取扱い及び調整方法について習得する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容	訓練時間	
1.木工機械の取扱い	(1)木工用工具の取扱い (2)木工用機械の取扱い	10 H	
2.金工用電動工具の取扱い	(1)金工用電動工具の取扱い (2)各種電動工具の取扱い	10 H	
3.インテリア加工用工具の取扱い及び調整方法	(1)壁装仕上げ作業用工具の取扱い及び調整方法 (2)床仕上げ作業用工具の取扱い及び調整方法 (3)天井仕上げ作業用工具の取扱い及び調整方法 (4)その他作業用工具の取扱い及び調整方法	20 H	
使用する 機械器具等	木工用機械、金工用電動工具、インテリア施工用工具 等		
		合計	40 H

訓練科目カリキュラム表

科名	インテリア・サービス科	教科の区分	専攻実技
教科	インテリア製図実習		
訓練科目	インテリア製図実習	時間	80 H
訓練目標	インテリアにおける図面作成方法及びプレゼンテーション手法について習得する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容	訓練時間	
1.各室の製図	(1)展開図 (2)家具配置図 (3)設備図	20 H	
2.建具・家具製図	(1)建具表 (2)三面図 (3)家具詳細図 (4)木製品の実測図	30 H	
3.プレゼンテーション	(1)パース (2)プレゼンテーション	30 H	
使用する 機械器具等	製図器及び製図用具類、パーソナルコンピュータ 等		
		合計	80 H

4. 建築仕上系 系基礎科目（学科、実技）

訓練科目カリキュラム表

科名	インテリア・サービス科	学科の区分	専攻実技
教科	施工実習		
訓練科目	施工実習	時間	260 H
訓練目標	内装施工について各種下地から仕上までを習得する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容	訓練時間	
1.床仕上げ	(1)床下地 (2)床仕上へ (3)巾木	60 H	
2.壁仕上げ	(1)木製下地 (2)鋼製下地 (3)窓枠 (4)ボード下地 (5)壁仕上げ	80 H	
3.天井仕上げ	(1)天井下地 (2)ボード下地 (3)廻り縁	40 H	
4.各種取付工事	(1)木工事作業 (2)家具工事作業 (3)取り付け工事	80 H	
使用する 機械器具等	木工用機械、金工用電動工具、インテリア施工用工具等		
		合計	260 H

普通課程：建築仕上系の教科目及び時間表

区分	教科の科目	授業科目	時間数	備考
系基礎学科	建築概論	建築概論	20	
	建築生産概論	建築生産概論	20	
	建築構造	建築構造	20	
	建築設備	建築設備	20	
	建築製図	建築製図	30	
	建築仕上法	建築仕上法	50	
	安全衛生	安全衛生	20	
	関係法規	関係法規	20	
		系基礎学科計	200	
系基礎実技	機械操作基本実習	機械操作基本実習	50	
	調査実習	調査実習	50	
	足場実習	足場実習	30	
	安全衛生作業法	安全衛生作業法	20	
		系基礎実技計	150	

訓練科目カリキュラム表

系名	建築仕上系	教科の区分	系基礎学科
教科	建築概論		
訓練科目	建築概論	時間	20H
訓練目標	建築技術者として必要な建築物の種類及び歴史について学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容		
1. 建築史	(1)西洋建築史 (2)日本建築史 (3)近代建築史		10H
2. 建築の概要	(1)総論		5H
3. 建築物の種類	(1)用途による種類 (2)構造による種類 (3)形状による種類		5H
使用する 機器具等	合計20H		

訓練科目カリキュラム表

系名	建築仕上系	教科の区分	系基礎学科
教科	建築生産概論		
訓練科目	建築生産概論	時間	20H
訓練目標	建築生産における各種管理手法について学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容		
1. 工程管理	(1)工程管理の目的 (2)工程表の種類		8H
2. 資材管理	(1)資材管理の目的 (2)原価管理 (3)費目別計算		6H
3. 生産管理	(1)生産管理の目的 (2)生産計画・統制 (3)品質管理の目的 (4)品質管理手法		6H
使用する 機器具等	合計20H		

訓練科目カリキュラム表

系名	建築仕上系	教科の区分	系基礎学科
教科	建築構造	時間	
訓練科目	建築構造	時間	20H
訓練目標	建築物の各種構造について学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容	訓練時間	
1.木構造	(1)在来軸組構法 (2)枠組壁工法 (3)木質プレハブ構法	5H	
2.RC構造	(1)鉄筋コンクリート構造の概要 (2)構成 (3)施工法	5H	
3.SRC構造	(1)鉄骨鉄筋コンクリート構造の概要 (2)構成 (3)施工法	5H	
4.補強ブロック構造	(1)補強ブロック構造の概要 (2)構成 (3)施工法	5H	
使用する 機器器具等		合計20H	

訓練科目カリキュラム表

系名	建築仕上系	教科の区分	系基礎学科
教科	建築設備	時間	
訓練科目	建築設備	時間	20H
訓練目標	建築設備の種類、構造などについて学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容	訓練時間	
1.給排水設備	(1)給水設備 (2)給湯設備 (3)衛生器具 (4)排水設備 (5)し尿浄化槽 (6)給水装置工事・排水設備工事	7H	
2.電気設備	(1)電気設備 (2)電気工事 (3)コンセント設備・テレビ受信設備 (4)照明設備 (5)通信設備	7H	
3.空調設備	(1)中央式空調調和装置 (2)個別式空調調和装置	6H	
使用する 機器器具等		合計20H	

訓練科目カリキュラム表

系名	建築仕上系	教科の区分	系基礎学科
教科	建築製図		
訓練科目	建築製図	時間	30H
訓練目標	建築の製図について器具から通則・読図法を学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容		
1. JIS製図通則	(1)製図用紙の種類・サイズ (2)図面の様式 (3)線の基本原則 (4)文字・数字・各種記号 (5)寸法・尺度		15H
2. 建築物の製図	(1)配置図・平面図 (2)立面図・断面図 (3)炬計図 (4)その他の図面		15H
使用する 機器器具等	合計30H		

訓練科目カリキュラム表

系名	建築仕上系	教科の区分	系基礎学科
教科	建築仕上法		
訓練科目	建築仕上法	時間	50H
訓練目標	建築の仕上法について学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容		
1. コンクリートブロック施工法	(1)コンクリートブロック施工法		17H
2. 左官施工法	(1)左官施工法		17H
3. タイル施工法	(1)タイル施工法		16H
使用する 機器器具等	合計50H		

訓練科目カリキュラム表

系名	建築仕上系	教科の区分	系基礎学科
教科	安全衛生		
訓練科目	安全衛生	時間	20H
訓練目標	実習等における安全について学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容		
1.産業安全	(1)安全関係の法規 (2)設備・機械・器具などの構造 (3)設備・機械・器具などの取り扱い		5H
2.労働衛生	(1)労働安全衛生法 (2)その他関係法規		5H
3.安全衛生管理の 実際	(1)労働安全作業とは (2)健康管理 (3)環境管理 (4)作業管理		5H
4.具体的災害防止 対策	(1)危険回避 (2)事故予防 (3)災害防止		5H
使用する 機械器具等	合計20H		

訓練科目カリキュラム表

系名	建築仕上系	教科の区分	系基礎学科
教科	関係法規		
訓練科目	関係法規	時間	20H
訓練目標	建築に関連する法規を内装部分を含め学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容		
1.建築基準法	(1)法の目的と構成 (2)基本事項 (3)各種規定		7H
2.建設業法	(1)法の目的と構成 (2)基本事項 (3)各種規定		7H
3.その他関連法規	(1)消防法 (2)高齢者、身体障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律 (3)宅地造成等規制法 (4)土地区画整理法など		6H
使用する 機械器具等	合計20H		

訓練科目カリキュラム表

系名	建築仕上系	教科の区分	系基礎実技
教科	調合実習		
訓練科目	調合実習	時間	50H
訓練目標	調合作業を行う上で必要な材料の調合・混練について習得する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容		
1.材料の調合	(1)材料の種類 (2)調合比率 (3)計量 (4)混練の目的 (5)混練方法 (6)混練量と時間 (7)混練状態		
2.混練	25H		
使用する 機械器具等	混練機等		
	合計50H		

訓練科目カリキュラム表

系名	建築仕上系	教科の区分	系基礎実技
教科	機械操作基本実習		
訓練科目	機械操作基本実習	時間	50H
訓練目標	建築内装作業を行う上で必要な各種器具について、その取扱い及び整備について習得する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容		
1.建築仕上用各種機械の取扱い及び整備	(1)墨出し用器具 (2)切断加工用器具 (3)混練用器具 (4)タイル張り用器具 (5)清掃用具・その他の器具		
	50H		
使用する 機械器具等	各種器具類等		
	合計50H		

訓練科目カリキュラム表

系名	建築仕上系	教科の区分	系基礎実技
教科	足場実習		
訓練科目	足場実習	時間	30H
訓練目標	建築仕上作業を行う上で必要な足場の組立て及び解体などについて習得する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容		
1.足場の組立て及び解体	(1)丸太足場の組立て及び解体 (2)単管足場の組立て及び解体 (3)枠組足場の組立て及び解体		25H
2.登りさん橋	(1)登りさん橋の組立て及び解体		5H
使用する 機械器具等	各種足場等		合計30H

訓練科目カリキュラム表

系名	建築仕上系	教科の区分	系基礎実技
教科	安全衛生作業法		
訓練科目	安全衛生作業法	時間	20
訓練目標	安全に作業を行うための手法及びその作業環境の作り方、緊急時の対処法について習得する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容		
1.安全衛生作業法	(1)安全作業法 (2)整理整頓と清潔の保持 (3)緊急時の対応		20H
使用する 機械器具等	安全保護具等		合計20H

訓練科目カリキュラム表

科名	左官・タイル施工科	教科の区分	専攻学科
教科	造型		
訓練科目	造型	時間	20 H
訓練目標	左官・タイル施工に関わる意匠図案および彫刻について学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容		
1.意匠図案	(1)意匠とは (2)図案とは		10 H
2.彫刻	(1)彫刻とは		10 H
使用する 機械器具等			合計 20 H

4. 1 建築仕上系 左官タイル施工科 専門科目
(学科、実技)

普通課程：建築仕上系 左官・タイル施工科の教科目及び時間表

区分	教科の科目	授業科目	時間数	備考
専攻学科	造型	造型	20	
	材料	材料	20	
	左官施工法	左官施工法	40	
	タイル施工法	タイル施工法	40	
	仕様及び積算	仕様及び積算	30	
	専攻学科計			150
専攻実技	測定及び墨出し実習	測定及び墨出し実習	50	
	下地施工実習	下地施工実習	60	
	左官施工実習	左官施工実習	110	
	タイル施工実習	タイル施工実習	110	
	養生	養生	20	
	専攻実技計			350

訓練科目カリキュラム表

科名	左官・タイル施工科	教科の区分	専攻学科
教科	材料		
訓練科目	材料	時間	20 H
訓練目標	左官・タイル施工に使用する材料について学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容		
1.左官材料	(1)仕上材 (2)下地調整材		10 H
2.タイル材料	(1)タイル (2)張付け用材料 (3)目地材料		10 H
使用する 機械器具等			合計 20 H

訓練科目カリキュラム表

科名	左官・タイル施工科	教科の区分	専攻学科
教科	左官施工法		
訓練科目	左官施工法	時間	40 H
訓練目標	左官施工の作業について作業の段取りから主な施工法まで学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容		
1.作業の段取り	(1)材料の準備 (2)他職種との調整 (3)下地のチェック (4)墨出し		10 H
2.下地調整	(1)下地調整		10 H
3.施工法	(1)こて塗りの基本作業 (2)材料別左官施工法 (3)技法別左官施工法 (4)鉄筋コンクリート造における左官施工法 (5)木造建築における左官施工法 (6)その他の工法		20 H
使用する 機械器具等			合計 40 H

訓練科目カリキュラム表

科名	左官・タイル施工科	教科の区分	専攻学科
教科	タイル施工法		
訓練科目	タイル施工法	時間	40 H
訓練目標	タイル施工の作業について段階から主な施工法まで学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容		訓練時間
1.作業の段取り	(1)タイルの準備 (2)他職種との調整 (3)下地のチェック (4)墨出し (5)目地割り、糸出し		10 H
2.内装施工	(1)施工上の注意事項 (2)工法の種類と選定		5 H
3.外装施工	(1)施工上の注意事項 (2)工法の種類と選定		5 H
4.圧着工法	(1)工法の概要 (2)長所・短所 (3)施工手順 (4)注意点		10 H
5.接着工法	(1)工法の概要 (2)長所・短所 (3)施工手順 (4)注意点		10 H
使用する 機械器具等			合計 40 H

訓練科目カリキュラム表

科名	左官・タイル施工科	教科の区分	専攻学科
教科	仕様及び積算		
訓練科目	仕様及び積算	時間	30 H
訓練目標	施工における仕様の目的及び積算の手法について学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容		訓練時間
1.仕様の目的	(1)仕様の概要 (2)仕様の種類 (3)仕様書から見積条件		5 H
2.設計書との関係	(1)設計図の種類 (2)設計図からの見積条件		5 H
3.見積りの方法	(1)見積条件 (2)積算 (3)代入 (4)見積りの種類		10 H
4.積算法	(1)積算法の概要 (2)数量拾い		10 H
使用する 機械器具等			合計 30 H

訓練科目カリキュラム表

科名	左官・タイル施工科	教科の区分	専攻実技
教科	測定及び墨出し実習		
訓練科目	測定及び墨出し実習	時間	50 H
訓練目標	施工の段取りとして、下地調整から墨出しについて習得する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容	訓練時間	
1. 下地調整	(1) 下地に必要な条件 (2) 下地のチェック	10 H	
2. 割付け	(1) 割付けの目的 (2) 割付けのための基礎知識 (3) 割付けの方法 (4) 割付け例	20 H	
3. 墨出し	(1) 墨の種類 (2) 施工上の墨の分類 (3) 水墨(陸墨)、垂直墨の出し方	20 H	
使用する 機械器具等	計測器類等	合計	50 H

訓練科目カリキュラム表

科名	左官・タイル施工科	教科の区分	専攻実技
教科	下地施工実習		
訓練科目	下地施工実習	時間	60 H
訓練目標	下地施工実習について各種施工方法を習得する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容	訓練時間	
1. コンクリート下地 施工	(1) コンクリート下地・モルタル下地の点検 (2) コンクリート下地・モルタル下地の調整 (3) 施工法の選定	20 H	
2. 木質下地施工	(1) 木質下地の点検 (2) 木質下地の調整	20 H	
3. その他の下地施	(1) 押出し成形セメント板下地の施工 (2) ALCの施工 (3) ボード下地の施工	20 H	
使用する 機械器具等	計測器類等	合計	60 H

訓練科目カリキュラム表

科名	左官・タイル施工科	教科の区分	専攻実技
教科	左官施工実習	時間	110 H
訓練科目	左官施工実習	時間	110 H
訓練目標	左官施工について各種施工方法を習得する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容		
1.材料別塗工法	(1)工法の概要 (2)長所・短所 (3)施工手順 (4)注意点		50 H
2.技法別塗工法	(1)工法の概要 (2)長所・短所 (3)施工手順 (4)注意点		60 H
使用する 機械器具等	左官用具類等		合計 110 H

訓練科目カリキュラム表

科名	左官・タイル施工科	教科の区分	専攻実技
教科	タイル施工実習	時間	110 H
訓練科目	タイル施工実習	時間	110 H
訓練目標	タイル施工について各種施工方法をタイル加工から目地仕上げまでを習得する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容		
1.タイル加工	(1)切断 (2)穴あけ (3)切り欠き		30 H
2.積上げ張り	(1)工法の概要 (2)長所・短所 (3)施工手順 (4)注意点		20 H
3.圧着張り	(1)工法の概要 (2)長所・短所 (3)施工手順 (4)注意点		20 H
4.接着張り	(1)工法の概要 (2)長所・短所 (3)施工手順 (4)注意点		20 H
5.目地仕上げ	(1)塗り目地 (2)一本目地 (3)同時仕上げ(一発押さえ)目地		20 H
使用する 機械器具等	タイル張り用具類等		合計 110 H

訓練科目カリキュラム表

科名	左官・タイル施工科	教科の区分	専攻実技
教科	養生		
訓練科目	養生	時間	20 H
訓練目標	養生の目的および養生材料の取り扱い及び養生方法について習得する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容		
1.養生材料の取扱い	10 H		
2.養生	10 H		
使用する 機械器具等	作業用工具類等		
	合計 20 H		

5. 設備施工系 系基礎科目（学科、実技）

普通課程：設備施工系共通の教科目及び時間表

区分	教科の科目	授業科目	時間数	備考
系基礎学科	機械工学概論	機械工学概論	40	
	電気工学概論	電気工学概論	40	
	建築設備及び機器概論	建築設備及び機器概論	40	
	環境工学概論	環境工学概論	20	
	生産工学概論	生産工学概論	20	
	建築構造	建築構造	20	
	建築製図	建築製図	30	
	溶接法	溶接法	20	
	安全衛生	安全衛生	20	
	仕様及び積算	仕様及び積算	20	
		系基礎学科計	270	
系基礎実技	器具使用方法	器具使用方法	50	
	溶接及びひろう付け基本実習	溶接及びひろう付け基本実習	60	
	配管基本実習	配管基本実習	70	
	安全衛生作業法	安全衛生作業法	20	
		系基礎実技計	200	

訓練科目カリキュラム表

系名	設備施工系	教科の区分	系基礎学科
教科	電気工学概論		
訓練科目	電気工学概論	時間	40H
訓練目標	電気の基礎、電気機器の関連とそれに伴う応用及び制御について学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容	訓練時間	
1. 直流及び交流回路	(1)電流、電圧、抵抗 (2)ジュールの法則 (3)フレミングの法則 (4)交流電力、皮相電力、有効電力、無効電力、力率、単層三線式回路 (5)三相交流、星型結線、三角結線、V結線、三相交流電力	12H	
2. 電流の磁気作用	(1)電動機、変圧器の原理	4H	
3. 電気機器	(2)単層誘導電動機の原理、構造、特型 (3)三相誘導電動機の原理、構造、特型	8H	
4. 各種の電気応用	(1)シーケンス制御 (2)電気設備	16H	
使用する 機械器具等			合計40H

訓練科目カリキュラム表

系名	設備施工系	教科の区分	系基礎学科
教科	機械工学概論		
訓練科目	機械工学概論	時間	40H
訓練目標	機械工学における機械要素、機械力学、及び設備施工系で関係する機械概論について学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容	訓練時間	
1. 機械要素	(1)ねじ、締結部品 (2)軸と軸受け (3)緩衝部品、歯車 (4)巻き掛け伝動部品 (5)管(パイプ)と弁(バルブ)	8H	
2. 機構と運動	(1)機構と機構 (2)リンク装置 (3)カム機構 (4)油圧機構	8H	
3. 原動機及び一般機器	(1)内燃機関 (2)蒸気原動機 (3)ポンプと空気圧 (4)空気機械 (5)物上げ・運搬機械 (6)自動化機械	12H	
4. 材料力学	(1)応力、ひずみ、安全率 (2)ばりの反力とせん断、曲げモーメント	12H	
使用する 機械器具等			合計40H

訓練科目カリキュラム表

系名	設備施工系		教科の区分	系基礎学科
	設備施工系	環境工学概論		
教科	環境工学概論		時間	20H
訓練科目	環境工学概論		時間	20H
訓練目標	現在の地球環境問題及び関連法令について理解しそれに基づき設備施工系での課題を学習する。			
訓練科目の細目	訓練科目の内容			訓練時間
1.地球環境問題	(1)地球温暖化、温室効果ガス (2)オゾン層破壊、酸性雨 (3)環境負荷の定量化、環境会計、環境配慮計画			2H
2.大気	(1)大気の組成 (2)大気環境			2H
3.水質	(1)酸性・アルカリ性 (2)硬度、濁度、色度			2H
4.廃棄物	(1)廃棄物の概要と種類 (2)廃棄物とリサイクル			2H
5.土壌	(1)土壌汚染が及ぼす被害			2H
6.臭気	(1)概要 (2)臭気強度のスケール			2H
7.騒音	(1)騒音 (2)騒音の評価 (3)騒音の許容値			2H
8.光	(1)光害、光度、照度 (2)照度計、輝度計			2H
9.環境関連法規	(1)環境基準 (2)大気汚染防止法 (3)水質汚濁防止法 (4)その他			2H
10.再生可能エネルギー利用	(1)再生可能エネルギーの利用形態と特徴及び性能			2H
使用する 機械器具等				合計20H

訓練科目カリキュラム表

系名	設備施工系		教科の区分	系基礎学科
	設備施工系	建築設備及び機器概論		
教科	建築設備及び機器概論		時間	40H
訓練科目	建築設備及び機器概論		時間	40H
訓練目標	建築設備の概要とそれに伴う各種設備の機器、器具等について学習する。			
訓練科目の細目	訓練科目の内容			訓練時間
1.給水設備	(1)給水設備 (2)排水設備			4H
2.排水通気設備	(1)通気目的 (2)通気管の材料			4H
3.衛生器具	(1)衛生器具			4H
4.給湯設備	(1)給湯設備機器			4H
5.上下水道施設	(1)上下水道施設 (2)取水・上水施設 (3)配水施設 (4)下水道設備 (5)下水処理場 (6)管路・管きよ及びポンプ場 (7)中水道の概要			2H
6.ガス設備	(1)ガスの性質 (2)ガス設備用機器			4H
7.消火設備	(3)ガス設備用器具 (1)屋内消火栓 (2)屋外消火栓 (3)水噴霧消火設備 (4)避難器具			4H
8.空気調和設備	(1)空気調和設備 (2)冷却塔 (3)送風機 (4)ダクト、吹き出し口 (5)空気清浄装置 (6)暖房設備			6H
9.換気設備	(1)有害物質 (2)換気設備機器 (3)換気方式			2H
10.集じん設備	(1)集じん設備機器			2H
11.火災報知設備	(1)受信機 (2)発信機 (3)地区音響装置 (4)各種感知器			2H
12.排煙設備	(1)排煙設備機器 (2)排煙方式			2H
使用する 機械器具等				合計40H

訓練科目カリキュラム表

系名	設備施工系	教科の区分	系基礎学科
教科	生産工学概論	時間	20H
訓練科目	生産工学概論	時間	20H
訓練目標	設備施工系で必要とされる施工管理に関する知識と管理体系について学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容	訓練時間	
1.品質管理	(1)品質管理の意義 (2)品質管理の統計的手法 (3)抜取り検査と全数検査 (4)管工事の品質管理	4H	
2.工程管理	(1)総合工程表 (2)部分工程表 (3)細部工程表 (4)ネットワーク式工程表 (5)バーチャート式工程表	4H	
3.機械・工具 資材管理	(1)資材労務管理 (2)機器材料の発注・搬入計画	4H	
4.コスト管理	(1)契約書、設計図書の検討 (2)実行予算書と予算管理	4H	
5.環境管理	(1)現場内環境管理 (2)仮設計画	4H	
使用する 機械器具等			合計20H

訓練科目カリキュラム表

系名	設備施工系	教科の区分	系基礎学科
教科	建築構造	時間	20H
訓練科目	建築構造	時間	20H
訓練目標	建築物の基本的構造と建築基準法、それに関連する設備施工系の知識を学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容	訓練時間	
1.土工事及び 基礎工事	(1)土工事の概要 (2)地業の概要	4H	
2.木構造	(1)木材の性質 (2)軸組、小屋組、床組 (3)木工事	4H	
3.組積構造	(1)補強コンクリートブロック造 (2)れんが造と石造	2H	
4.鉄骨構造	(1)構造、トラス、ラーメン (2)基礎、鋼材、骨組 (3)鉄骨工事	4H	
5.鉄筋コンクリート 構造	(1)鉄筋コンクリート (2)コンクリートの調合 (3)鉄筋と型枠 (4)施工図	4H	
6.鉄骨及び鉄筋コ ンクリート構造	(1)構造 (2)構造用材料	2H	
使用する 機械器具等			合計20H

訓練科目カリキュラム表

系名	設備施工系	教科の区分	系基礎学科
教科	建築製図		
訓練科目	建築製図	時間	30H
訓練目標	建築製図、設備製図、製図の種類や用途について学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容	訓練時間	
1.製図用機械	(1)製図機械 (2)平行定規 (3)製図台 (4)CADシステム	4H	
2.JIS製図通則	(1)尺度、表示記号、線、文字 (2)建築図 (3)配管図	4H	
3.建築製図法	(1)基礎、床、壁、屋根の施工図 (2)平面図、立面図、矩計図	10H	
4.建築設備製図法	(1)平面図、施工図 (2)立面図、断面図 (3)系統図 (4)立体図	12H	
使用する 機械器具等	合計30H		

訓練科目カリキュラム表

系名	設備施工系	教科の区分	系基礎学科
教科	溶接法		
訓練科目	溶接法	時間	20H
訓練目標	溶接の基礎知識と種類・用途、それに関連する労働安全基準法について学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容	訓練時間	
1.ガス溶接法	(1)ガス溶接の構造 (2)可燃性ガス及び酸素 (3)法令	8H	
2.アーク溶接法	(1)アーク溶接 (2)アーク溶接装置 (3)アーク溶接作業方法 (4)法令	10H	
3.ろう付け法	(1)軟ろう付け (2)硬ろう付け	2H	
使用する 機械器具等	合計20H		

訓練科目カリキュラム表

系名	設備施工系	教科の区分	系基礎学科
教科	安全衛生	時間	
訓練科目	安全衛生	時間	20H
訓練目標	設備施工系共通に必要な安全衛生と安全衛生関係法規について学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容	訓練時間	
1.安全衛生管理	(1)安全管理 (2)衛生管理	6H	
2.安全衛生関係法規	(1)労働基準法 (2)労働安全衛生法 (3)作業環境測定法 (4)じん肺法 (5)労働者災害補償保険法 (6)その他	8H	
3.安全作業法	(1)仕上作業 (2)機械作業	6H	
使用する 機械器具等	合計20H		

訓練科目カリキュラム表

系名	設備施工系	教科の区分	系基礎学科
教科	仕様及び積算	時間	
訓練科目	仕様及び積算	時間	20H
訓練目標	設備施工系共通に必要な各種仕様、積算に反映できる知識を学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容	訓練時間	
1.仕様書	(1)共通仕様書 (2)特記仕様書	4H	
2.積算	(1)請負契約 (2)工事費の構成 (3)工事費内訳明細書 (4)積算方法 (5)諸経費 (6)実行予算 (7)給排水・衛生設備の積算 (8)空調設備の積算	16H	
使用する 機械器具等	合計20H		

訓練科目カリキュラム表

系名	設備施工系	教科の区分	系基礎実技
教科	器具使用法		
訓練科目	器具使用法	時間	50H
訓練目標	設備施工に必要な工具・電動機器等の種類と安全に作業できる技能を習得する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容		訓練時間
1. 手工具	(1)各種手工具の種類 (2)手工具の用途と使用法 (3)手工具の安全及び点検		14H
2. 電動工具	(1)各種電動工具の種類 (2)各種電動工具の用途と使用法 (3)電動工具の安全及び点検		10H
3. ボール盤作業	(1)基本操作 (2)穴あけ作業		6H
4. グラインダ作業	(1)携帯用ディスクグラインダの研削作業 (2)両頭グラインダの研削作業 (3)高速砥石切断機の切断作業 (4)自由研削砥石の取付け		14H
5. はつり作業	(1)コンクリートたがねのはつり作業 (2)電動はつり工具のはつり作業 (3)振動ドリルによる穴あけ作業		6H
使用する機械器具等	卓上ボール盤、直立ボール盤、両頭グラインダ、コンクリートカッタ、ディスクサンダ、普通旋盤、電動ドリル、携帯用電気振動ドリル、電気ハンマドリル、インパクトドライバ、回転式ドライバ、移動式金属切断機、高速度とし切断機、作業用工具類、管工用工具類、冷凍空気調和機用特殊工具類、電工用工具類、計測器類 合計50H		

訓練科目カリキュラム表

系名	設備施工系	教科の区分	系基礎実技
教科	溶接及びびろう付け基本実習		
訓練科目	溶接及びびろう付け基本実習	時間	60H
訓練目標	溶接を安全に作業できる技能を習得する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容		訓練時間
1. ガス溶接	(1)ガス溶接器具の取扱い (2)ガス溶接作業 (3)溶断作業		28H
2. アーク溶接	(1)アーク溶接器具の取扱い (2)アーク溶接作業		16H
3. ろう付け	(1)軟ろう付け作業 (2)硬ろう付け作業		16H
使用する機械器具等	動力シヤワー、はぜ折り機、交流アーク溶接機、半自動溶接機、CO2/MAG溶接機、計測器類、機、ホットジェット溶接機、溶接棒乾燥機、溶接用工具類、計測器類 合計60H		

訓練科目カリキュラム表

系名	設備施工系		教科の区分	系基礎実技
	教科	安全衛生作業法		
訓練科目	安全衛生作業法		時間	20H
訓練目標	作業中の安全と衛生法について習得する。			
訓練科目の細目	訓練科目の内容			訓練時間
1.安全衛生作業法	(1)安全作業 (2)衛生作業			20H
使用する 機械器具等				合計20H

訓練科目カリキュラム表

系名	設備施工系		教科の区分	系基礎実技
	教科	配管基本実習		
訓練科目	配管基本実習		時間	70H
訓練目標	各種配管材料の施工法、安全及びそれに係わる保温工事の施工方法について習得する。			
訓練科目の細目	訓練科目の内容			訓練時間
1.銅管	(1)銅管切断作業 (2)銅管のねじ接合 (3)銅管の組立て作業			15H
2.樹脂管	(1)樹脂管切断作業 (2)樹脂管の曲げ加工 (3)樹脂管の接合 (4)樹脂管の組立て作業			10H
3.銅管	(1)銅管切断作業 (2)銅管の曲げ加工 (3)銅管の接合 (4)銅管の組立て作業			15H
4.ステンレス管	(1)ステンレス管切断作業 (2)ステンレス管の接合 (3)ステンレス管の組立て作業			5H
5.特殊管	(1)特殊管切断作業 (2)特殊管の接合 (3)特殊管の組立て作業			5H
4.保温工事	(1)保温材料の選定 (2)保温作業			20H
使用する 機械器具等	管ねじ切り機、管切断機、管穴あけ機、ポリエチレン管接合機、電動ドリル、携帯用電気振動ドリル、電気ハンマドリル、インパクトドライバー、回転式ドライバー、移動式金属切断機、ハンドシヤー、高速度丸切切断機、銼管探和機、漏水探知機、作業用工具類、水圧ポンプ、計測器類、空気圧縮機、管工作用工具類、計測器類			合計70H

5. 1 設備施工系 冷凍空調設備科 専門科目
(学科、実技)

普通課程：冷凍空調設備科の教科目及び時間表

区分	教科の科目	授業科目	時間数	備考
専攻学科	自動制御	自動制御	30	
	冷凍空調設備 設備製図	冷凍空調設備 設備製図	50	
	冷凍空調法 施工法	冷凍空調法 施工法	50	
			30	
			200	
専攻実技	冷媒配管実習	冷媒配管実習	50	
	制御配線実習	制御配線実習	60	
	設備施工実習	設備施工実習	70	
	運転及び調整実習	運転及び調整実習	40	
	整備実習	整備実習	40	
	検査実習	検査実習	50	
		専攻実技計	310	

訓練科目カリキュラム表

科名	冷凍空調設備科	教科の区分	専攻学科
教科	自動制御	時間	30H
訓練科目	自動制御		
訓練目標	制御の基本と種類・用途・各種回路、冷凍及び空調機器回りの制御システム、制御方法について学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容		
1. 制御理論	(1) 自動制御とは (2) 自動制御の用語 (3) 用語と図面の種類		2H
2. 制御機器の種類と用途	(1) スイッチ (2) リレー (3) ランプ (4) 電磁閉閉器 (5) その他		8H
3. 自動制御の各種回路	(1) シーケンスの基礎 (2) 端子間配線 (3) 電磁継電器 (4) ON・OFF・AND・OR回路 (5) 自己保持回路 (6) インタロック回路 (7) タイムチャートの描き方 (8) 順序始動回路 (9) 2方所操作回路 (10) 手動自動切替回路 (11) 整定時限後ON・OFF回路 (12) 冷凍及び空調機器回りの制御システム、制御方法		20H
使用する 機械器具等	パーソナルコンピュータ、カラープリンタ、製図器及び製図用具類、ソフトウェア 合計30H		

訓練科目カリキュラム表

科名	冷凍空調設備科	教科の区分	専攻学科
教科	設備製図		
訓練科目	設備製図	時間	40H
訓練目標	冷凍及び空調に必要な製図、手書きと機構製図について学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容		
1.空調設備の設計及び製図	(1)設備製図の基礎 (2)パソコンの基本操作 (3)文字入力 (4)表計算ソフトの基本操作 (5)表計算機能 (6)グラフ機能 (7)データベース機能 (8)CADによる製図		
使用する機械器具等	パーソナルコンピュータ、カラープリンタ、製図器及び製図用具類、ソフトウェア		
			合計40H

訓練科目カリキュラム表

科名	冷凍空調設備科	教科の区分	専攻学科
教科	冷凍空調設備		
訓練科目	冷凍空調設備	時間	50H
訓練目標	冷凍と空調の機器や装置、それに必要な線図や熱負荷等について学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容		
1.圧縮機その他機器	(1)冷凍機の基礎 (2)冷凍方式 (3)冷凍機油		
2.冷凍装置	(1)小形冷凍機、凝縮器と蒸発器 (2)冷媒制御機器と配管付属機器 (3)安全装置とフロスト装置 (4)冷蔵庫と応用製品 (5)アンモニア装置と冷凍機器設備		
3.空調装置	(1)空調の基礎と空気線図 (2)空調方式と空調装置の構成		
4.空調機器	(1)個別空調機器と中央式空調機器 (2)産業用空調機器		
5.機器の選定	(1)空調機器の機種選定		
使用する機械器具等	容積式冷凍装置、遠心式冷凍装置、吸収式冷凍装置、テラユニット、スクリュ式圧縮冷凍実験装置、水蓄熱式冷凍実験装置、冷凍空調実験装置、冷却塔、往復動式冷凍機、スクロール式冷凍機、ファンコイルユニット、スクリュ式圧縮機、スクリュ式圧縮機、パッケージ形空気調和機、エアハンドリングユニット形空気調和機、冷凍ショーケース、冷凍コンテナ、製氷機、温風暖房機、温水暖房機、送風機		
			合計50H

訓練科目カリキュラム表

科名	冷凍空調設備科	教科の区分	専攻学科
教科	冷凍空調法	時間	50H
訓練科目	冷凍空調法	時間	50H
訓練目標	冷凍サイクルと線図・空調計画と空調負荷計算について学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容	訓練時間	
1.冷凍サイクル	(1) 冷凍の定義とその方法 (2) 冷凍サイクルとP-H線図 (3) ヒートポンプ冷凍サイクルの原理 (4) 冷凍サイクルの主要機器	20H	
2.冷媒とブライン	(1) 冷媒・ブライン (2) 代替えフロン・ノンフロン冷媒 (3) 高圧ガス保安法	10H	
3.空調計画	(1) 空調の定義とその方法 (2) 空調計画・空調方式	10H	
4.負荷計算	(1) 空調負荷と冷暖房負荷 (2) 簡易空調負荷計算 (3) CADによる空調負荷計算	10H	
使用する 機械器具等	作業用工具類、管工作用工具類、冷凍空調和機用特殊工具類、計測器類、冷凍空調故障診断シミュレータ		合計50H

訓練科目カリキュラム表

科名	冷凍空調設備科	教科の区分	専攻学科
教科	施工法	時間	30H
訓練科目	施工法	時間	30H
訓練目標	冷凍及び空調機器の据付法と配管・冷媒回収、関係法令について学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容	訓練時間	
1.冷媒配管 施工法	(1) 冷媒配管の方法 (2) 濡れ検査方法 (3) 断熱方法 (4) 検査方法	8H	
2.冷凍空調装置 据付法	(1) 冷凍空調機器据付の手続き (2) 据付位置等の選定 (3) 空調機器据付 (4) 冷凍機器据付	10H	
3.配管施工法	(1) 配管材料と冷凍保安規則関係基準 (2) 配管施工方法	6H	
4.冷媒回収	(1) フロン回収破壊法 (2) フロンの回収に関する基準	6H	
使用する 機械器具等	管ねじ切り機、管切断機、卓上ポール盤、両頭グラインダ、ディスクグラインダ、電気ドリル、携帯用電気振動ドリル、電気ハンマドリル、インパクトドライバ、回転式ドライバ、作業用工具類、管工作用工具類、冷凍空調和機用特殊工具類		合計30H

訓練科目カリキュラム表

科名	冷凍空調設備科	教科の区分	専攻実技
教科	冷媒配管実習	時間	50H
訓練科目	冷媒配管実習	時間	50H
訓練目標	冷凍冷媒配管の施工法、試験検査等についての技能を習得する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容	訓練時間	
1.管加工	(1)冷媒配管の3原則に基づく基本作業 (2)銅管の切断、各種接続加工 (3)銅管の各種曲げ加工	16H	
2.配管	(1)フレア作業手順、締め付け作業 (2)銅管によるモジュール配管接続作業 (3)空冷式空調機器の配管作業	16H	
3.試験検査	(1)気密試験と真空乾燥 (2)冷媒検知装置による漏れ検査	10H	
4.断熱	(1)断熱材の仕様による工事作業	8H	
使用する 機械器具等	管ねじ切り機、管切断機、卓上ボール盤、両頭グラインダ、ディスクグラインダ、電気ドリル、携帯用電気振動ドリル、電気ハンマドリル、インパクトドライバ、回転式ドライバ、フロンガス回収機、作業用工具類、管工作用工具類、冷凍空調和機用特殊工具類、計測器類、冷凍空調故障診断シミュレータ	合計50H	

訓練科目カリキュラム表

科名	冷凍空調設備科	教科の区分	専攻実技
教科	制御配線実習	時間	60H
訓練科目	制御配線実習	時間	60H
訓練目標	各制御配線の施工と太陽光発電装置の施工方法について習得する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容	訓練時間	
1.配線工事	(1)各種冷凍空調装置の制御配線	16H	
2.シーケンス配線	(1)単純接点 (2)正逆接点 (3)自己保持回路 (4)インタロック回路 (5)動作確認	16H	
3.機器回路配線	(1)各種冷凍空調装置の配管・配線	14H	
4.太陽光発電装置	(1)瓦屋根、スレート屋根の太陽光装置の据付け及び配線工事 (2)計測検査	14H	
使用する 機械器具等	管ねじ切り機、管切断機、卓上ボール盤、両頭グラインダ、ディスクグラインダ、電気ドリル、携帯用電気振動ドリル、電気ハンマドリル、インパクトドライバ、回転式ドライバ、作業用工具類、管工作用工具類、冷凍空調和機用特殊工具類	合計60H	

訓練科目カリキュラム表

科名	冷凍空調設備科	教科の区分	専攻実技
教科	設備施工実習	時間	70H
訓練科目	設備施工実習	時間	70H
訓練目標	各種冷凍・空調機器の据付、配管、配線の施工と太陽光給湯装置の設置工事・自然冷媒ヒートポンプ給湯器の施工法を習得する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容	訓練時間	
1.各種冷凍及び空調装置の据付け	(1)空調機器据付作業 (2)冷凍機器据付作業 (3)ルームエアコン据付作業 (4)試運転作業	10H	
2.配管	(1)給水、給湯配管 (2)排水、通気配管 (3)空調ドレン配管 (4)冷媒配管	14H	
3.配線	(1)電源工事 (2)冷凍及び空調制御配線工事	8H	
4.保温工事	(1)各種配管保温工事 (2)保冷工事 (3)保温外表工事	14H	
5.太陽光給湯装置	(1)瓦屋根、スレート屋根の太陽光給湯装置の据付け及び配線工 (2)計測検査	14H	
6.ヒートポンプ給湯器	(1)ヒートポンプ給湯器据付け工事 (2)浴槽据付け工事 (3)配管、配線工事	10H	
使用する 機械器具等	管ねじ切り機、管切断機、卓上ボール盤、両頭グラインダ、ディスクグラインダ、電気ドリル、携帯用電気振動ドリル、電気ハンマドリル、インパクトドライバ、回転式ドライバ、移動式金庫切断機、両頭グラインダ、高速度といし切断機、卓上ボール盤、フロングス回収機、作業用工具類、管工作用工具類、冷凍空調和機用特殊工具類、計測器類、冷凍空調故障診断シミュレータ、交流アーク溶接機、半自動溶接機ホットジェット溶接機、溶接棒乾燥機、動力シヤワー、はぜ折り機、貯水装置		
合計70H			

訓練科目カリキュラム表

科名	冷凍空調設備科	教科の区分	専攻実技
教科	運転及び調整実習	時間	40H
訓練科目	運転及び調整実習	時間	40H
訓練目標	冷凍及び空調の運転調整と故障診断・修理、それに伴う計測機器の使い方について習得する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容	訓練時間	
1.計測器の使用法	(1)度量衡の計測 (2)熱の計測 (3)電気の計測 (4)圧力の計測 (5)流体の計測	12H	
2.各種冷凍及び空調装置の運転	(1)ルームエアコンの運転調整 (2)パッケージエアコンの運転調整 (3)チリングユニットの運転調整 (4)吸気式冷凍機の運転調整 (5)各種計測の使用法 (6)調整及び修理 (7)故障箇所の発見	16H	
3.調整及び修理	(1)冷凍機及び冷凍装置の故障診断と修理 (2)空調機器、ルームエアコンの故障診断と修理	12H	
使用する 機械器具等	管ねじ切り機、管切断機、卓上ボール盤、両頭グラインダ、ディスクグラインダ、電気ドリル、携帯用電気振動ドリル、電気ハンマドリル、インパクトドライバ、回転式ドライバ、フロングス回収機、作業用工具類、管工作用工具類、冷凍空調和機用特殊工具類、計測器類、冷凍空調故障診断シミュレータ、電気集じん機		
合計40H			

訓練科目カリキュラム表

科名	冷凍空調設備科	教科の区分	専攻実技
教科	整備実習	時間	40H
訓練科目	冷凍及び空調機器・搬送機器などの構造を分解組立作業を通して理解を深めると同時に、冷媒回収方法と法規について習得する。	時間	40H
訓練科目の細目	訓練科目の内容	訓練時間	
1.各種冷凍及び空調装置の分解、組立	(1) 圧縮機の分解組立治具と工具 圧縮機の分解組立(半密閉形・往復動) (2) 全密閉形の分解組立要領(モデル) (3) 各種装置の冷媒機油の流れ	16H	
2.ポンプ・送風機の分解、組立	(1) ラインポンプの分解組立 (2) ラインポンプの据付	8H	
3.冷媒回収	(1) 冷媒回収機器の特徴と接続方法	16H	
使用する 機械器具等	管ねじ切り機、管切断機、卓上ボール盤、両頭グラインダ、ディスクグラインダ、電気ドリル、携帯用電気振動ドリル、電気ハンマドリル、インパクトドライバ、回転式ドライバ、フロンガス回収機、作業用工具類、管工作用工具類、冷凍空気調和機用特殊工具類、計測器類、冷凍空調故障診断シミュレータ、電気集じん機、ポンプ	合計40H	

訓練科目カリキュラム表

科名	冷凍空調設備科	教科の区分	専攻実技
教科	検査実習	時間	50H
訓練科目	検査実習	時間	50H
訓練目標	工事及び完成検査記録の作成法・保守サービスなどについて習得する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容	訓練時間	
1.冷凍及び空調装置の工事検査	(1) 工事検査点検記録表 (2) 試運転 (3) 環境測定検査 (4) 引渡 (5) 故障箇所の発見	50H	
使用する 機械器具等	管ねじ切り機、管切断機、卓上ボール盤、両頭グラインダ、ディスクグラインダ、電気ドリル、携帯用電気振動ドリル、電気ハンマドリル、インパクトドライバ、回転式ドライバ、フロンガス回収機、作業用工具類、管工作用工具類、冷凍空気調和機用特殊工具類、計測器類、冷凍空調故障診断シミュレータ、電気集じん機	合計50H	

5. 2 設備施工系 配管科 専門科目（学科、実技）

訓練科目カリキュラム表

区分	教科の科目	授業科目	時間数	備考
専攻学科	配管概論	配管概論	50	
	給排水設備	給排水設備	40	
	空調設備	空調設備	30	
	設備製図	設備製図	30	
専攻実技	配管施工法	配管施工法	50	
	配管施工実習	配管施工実習	300	
	検査実習	検査実習	260	
			50	
			専攻実技計	310

科名	配管科	教科の区分	専攻学科
教科	配管概論		
訓練科目	配管概論	時間	50H
訓練目標	水や空気的基本的特性を学ぶと同時に、配管施工に必要な工作機械、施工法、試験法等について学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容		
1. 流体力学	(1) 水及び空気の性質 (2) 流体の運動 (3) 管路の抵抗と圧力損失 (4) 管路各部の抵抗		8H
2. 熱力学	(1) 温度 (2) 熱膨張 (3) 熱重と比熱 (4) 熱による状態変化		8H
3. 配管用工作機械	(1) 動力式ねじ切り機 (2) 穿孔機 (3) のこ盤 (4) 油圧管曲げ機 (5) ボール盤 (6) 高速砥石切断機 (7) その他工作機械		10H
4. 管仕上げ及び組立て法	(1) 手仕上げ法 (2) 板金工作法 (3) 管の保温 (4) 塗装法		6H
5. 管の接合法	(1) 銅管接合法 (2) 銅管接合法 (3) 樹脂管接合法 (4) 鉛管接合法 (5) ステンレス管接合法 (6) 鋸管接合法 (7) 異種管の接合法		6H
6. 試験法	(1) 水圧試験 (2) 漏水試験 (3) 通水試験 (4) 気密試験		6H
7. 管組立法	(1) 銅管組立法 (2) 銅管組立法 (3) 樹脂管組立法 (4) 鉛管組立法 (5) ステンレス管組立法 (6) 鋸管組立法 (7) 異種管の組立法		6H
使用する機械器具等	管穴あけ機、管ねじ切り機、のこ盤、油圧管曲げ機、ボール盤、高速砥石切断機、空気圧縮機、水圧ポンプ、各種手工具等		
			合計50H

訓練科目カリキュラム表

科名	配管科	教科の区分	専攻学科
教科	給排水設備		
訓練科目	給排水設備	時間	40H
訓練目標	各種給排水設備の方式、使用する機器及び装置、設計に必要な知識等を学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容		
1.給水装置	(1) 給水装置 (2) 専用水道		2H
2.給水方式	(1) 直結方式 (2) 受水槽方式 (3) 直結・受水槽併用方式		4H
3.使用水量	(1) 使用水量の変動 (2) 建物別の使用水量 (3) 予想給水量		8H
4.給水管の管径	(1) 各種器具の必要圧、管径 (2) 給水設備の設計 (3) 均等表及び給水管径		6H
5.給湯方式	(1) 給湯温度と給湯量 (2) 給湯方式 (3) 給湯の配管方法		4H
6.ポンプ	(1) ポンプの種類・機能・構造 (2) ポンプの理論 (3) ポンプの特性		2H
7.排水管の管径	(1) 排水の種類 (2) 排水の方式 (3) 排水管の管径		6H
8.排水トラップと通気管	(1) 排水トラップ (2) 通気管		4H
9.衛生器具	(1) 衛生器具 (2) 衛生金具と付属品		2H
10.浄化槽	(1) 浄化槽の目的 (2) 浄化槽と水質 (3) 浄化槽の種類		2H
使用する 機械器具等	蒸気ボイラー装置、太陽熱給湯装置、ヒートポンプ給湯機、ポンプ 合計40H		

訓練科目カリキュラム表

科名	配管科	教科の区分	専攻学科
教科	設備製図		
訓練科目	設備製図	時間	30H
訓練目標	給排水設備及び空調に必要な製図、手書きと機械製図について学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容		
1.給排水設備製図	(1) 給排水設備設計図 (2) 申請図 (3) 施工図 (4) 図示記号		10H
2.空調設備製図	(1) 空調設備設計図 (2) 機器、ダクト図 (3) 施工図 (4) 図示記号		10H
3.配管製図	(1) 給排水配管図 (2) 空調配管図 (3) CADによる製図		10H
使用する 機械器具等	パーソナルコンピュータ、カラープリンタ、製図器及び製図用具類、ソフトウェア 合計30H		

訓練科目カリキュラム表

科名	配管科	教科の区分	専攻学科
教科	配管施工法		
訓練科目	配管施工法	時間	50H
訓練目標	各種配管作業における施工方法についての知識を学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容		訓練時間
1.給・排水設備の配管施工法	(1)給水設備の配管施工法 (2)排水設備の配管施工法 (3)土木工事		18H
2.通気及び衛生設備の配管施工法	(1)通気配管の施工法 (2)衛生設備の施工法		10H
3.給湯設備の配管施工法	(1)給湯設備の配管施工法		4H
4.ガス設備の配管施工法	(1)ガス設備の配管施工法 (2)土木工事		6H
5.冷暖房設備の配管施工法	(1)空調設備の配管施工法		8H
6.保溫施工法	(1)管の保溫		4H
使用する機器具類	空調調和装置、蒸気ボイラー装置、温風暖房装置、温水暖房装置、太陽熱給湯装置、ヒートポンプ給湯機、貯水装置、冷却塔、油圧管曲げ機、管穴あけ機、管ねじ切り機、ポリエチレン管接合機、交流アーク溶接機、溶極式溶接機、非溶極式溶接機、溶接棒乾燥機、作業用工具類、管工作用工具類		
			合計50H

訓練科目カリキュラム表

科名	配管科	教科の区分	専攻学科
教科	空調設備		
訓練科目	空調設備	時間	30H
訓練目標	各種空調設備の方式や機器及び装置、それに必要な線図、熱負荷等を学習する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容		訓練時間
1.暖房設備概要	(1)暖房設備概要		1H
2.各種暖房方式	(1)個別暖房方式 (2)中央暖房方式 (3)地域暖房方式 (4)太陽熱暖房方式 (1)暖房方式の比較		2H
3.各種暖房方式の比較	(1)自然対流・放射型放熱器		2H
4.放熱器	(2)強制対流型放熱器		2H
5.ボイラー	(1)ボイラーの構造 (2)ボイラーの種類 (3)ボイラーの付属品 (4)労働安全衛生法		2H
6.冷房設備概要	(1)冷房設備概要		4H
7.冷房方式	(2)冷房空調計画		2H
8.空調装置	(1)各種空調方式 (1)チラーユニットの構造・構成 (2)エアハンドリングユニットの構造・構成		2H
9.空調装置用機器	(2)エアハンドリングユニットの構造・構成 (1)冷凍機 (2)熱交換器 (3)冷却塔 (4)送風機・ポンプ (5)加湿器 (6)フィルタ		4H
10.冷凍機設備概要	(1)冷凍機設備の種類と容量		4H
11.冷凍機用付属機器	(2)冷凍サイクル (3)モリエル線図 (1)油分離器 (2)ドライヤ (3)リキッドストレーナ (4)液分離器 (5)受液器		1H
12.ヒートポンプ空調機	(1)ヒートポンプ空調機の種類 (2)圧縮機の種類 (3)成績係数		4H
使用する機器具等	冷凍装置、空調調和装置、蒸気ボイラー装置、温風暖房装置、温水暖房装置、冷凍空調実験装置、太陽熱給湯装置、ヒートポンプ給湯機、冷却塔		
			合計30H

訓練科目カリキュラム表

科名	配管科	教科の区分	専攻実技
教科	配管施工実習	時間	260H
訓練科目	配管施工実習	時間	260H
訓練目標	各種配管作業における施工方法についての技能を習得する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容	訓練時間	
1.給・排水設備の配管施工	(1)給水設備の配管施工 (2)排水設備の配管施工 (3)土木工事	90H	
2.通気及び衛生設備の配管施工	(1)通気配管の施工 (2)衛生設備の施工	50H	
3.給湯設備の配管施工	(1)給湯設備の配管施工	20H	
4.ガス設備の配管施工	(1)ガス設備の配管施工 (2)土木工事	40H	
5.冷暖房設備の配管施工	(1)空気調和設備の配管施工	40H	
6.保温工事	(1)管の保温	20H	
使用する機械器具等	空気調和装置、蒸気ボイラー装置、温風暖房装置、温水暖房装置、太陽熱給湯装置、ヒートポンプ給湯機、貯水装置、冷却塔、油圧管曲げ機、管穴あけ機、管ねじ切り機、ポリエチレン管接合機、交流アーク溶接機、溶接式溶接機、非溶接式溶接機、溶接棒乾燥機、作業用工具類、管工作用工具類 合計260H		

訓練科目カリキュラム表

科名	配管科	教科の区分	専攻実技
教科	検査実習	時間	50H
訓練科目	検査実習	時間	50H
訓練目標	配管施工後に実施する検査方法について習得する。		
訓練科目の細目	訓練科目の内容	訓練時間	
1.水圧検査	(1)検査器具の取扱い (2)水圧検査 (3)適切な水圧と圧力保持時間 (4)漏水箇所の把握と改善		
2.滴水及び通水検査	(1)滴水及び通水検査 (2)水量と保持時間 (3)漏水箇所の把握と改善		
3.空気圧及び気密検査	(1)検査器具の取扱い (2)空気圧及び気密検査 (3)適切な空気圧と圧力保持時間 (4)漏洩箇所の把握と改善		
使用する機械器具等	水圧ポンプ、漏水探知機、作業用工具類、管工作用工具類 合計50H		

1 2. 参考文献

参考文献

1. 職業訓練施設の動向

- (1)「全国職業能力開発施設ガイドブック平成20年度
／全国公共訓練施設及び認定訓練施設ガイド」 (中央職業能力開発協会、
2008.3)

2. 人材、能力開発ニーズ

- (1)「第9次職業能力開発基本計画」 (厚生労働省)
(2)「企業の求める職業能力・人材に関するニーズ調査
結果について—ものづくり分野を中心に」調査研
究資料 No.128 (職業能力開発総合大学
校 能力開発研究センタ
ー、2011.3)

3. 業界の動向

- (1)「職業能力開発ニーズの把握とカリキュラムモデル
の構築—建設分野—」調査研究報告書 No.136 (職業能力開発総合大学
校 能力開発研究センタ
ー、2006.3)
(2)「建設業ハンドブック2012」 (日本建設業連合会、
2012年7月)
(3)「木のまち・木のいえ担い手育成拠点事業—成果報
告書—」 (林野庁・国土交通省連
携プロジェクト、2012年
3月)

4. その他、雑誌等

- (1)「職業訓練基準の分野別見直しに係る基礎研究—平
成19年度建築・土木、非金属加工分野—」調査研
究資料 No.143 (職業能力開発総合大学
校 能力開発研究センタ
ー、2009.3)
(2)「実践教育ジャーナル建築・デザイン系ジャーナル」
特集1. シンポジウム『建設業界の職育（職業教
育）を考える』 Vol.27, No.3 (実践教育訓練研究協会、
2012年9月)
(3)「復興の現場からみた雇用動向—宮城県で瓦礫処理
にあたる建設労働者を中心に」, Business Labor
Trend 2012.6 (労働政策研究・研修機
構)

アンケート調査へのご協力をお願い

調査研究報告書No.156

今後、基盤整備センターがより良い調査・研究を行うために、本書のご活用事例のアンケート調査へのご協力をお願い申し上げます。

以下のフォームに直接ご記入いただくか、ホームページ (<http://www.tetras.uitec.jeed.or.jp/>) からダウンロードしていただき、FAXまたはメールで下記までお送りください。

1) 活用した内容 (いつ、何のために、活用したページ、 どのように、複製の有無)	
2) 本書に対するご意見、ご要望、今後期待するテーマ	
3) 連絡先 (施設名、役職、電話番号)	

宛先 基盤整備センター普及促進室

FAX 0422-38-5228

メール fukyu@uitec.ac.jp

その他、お問い合わせは基盤整備センター普及促進室 (TEL 0422-38-5225) にご連絡下さい。

本報告書等は、基盤整備センターホームページ「職業能力開発ステーションサポートシステム（TETRAS）」の「基盤整備センター刊行物検索」から閲覧、ダウンロードができます。

URL : <http://www.tetras.uitec.jeed.or.jp/>

調査研究報告書 No. 156

「職業訓練基準の分野別見直しに係る基礎研究（普通課程）—平成24年度 建築・土木分野—」

発行 2013年3月
発行者 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
職業能力開発総合大学校 基盤整備センター
所長 長谷川 健治
〒180-0006 東京都武蔵野市中町1-19-18 武蔵野センタービル4F
電話 0422-38-5225（普及促進室）
印刷 株式会社旭クリエイト
〒220-0023 神奈川県横浜市西区平沼1-3-17 宮方ビル4F
電話 045-620-8890

本書の著作権は独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構が有しております。

ISSN 1340-2412

調査研究報告書 No.156
2013

THE INSTITUTE OF RESEARCH AND DEVELOPMENT
POLYTECHNIC UNIVERSITY